

授 業 計 画

平成 25 年度

Syllabus 2013

健康科学部 健康システム学科

健康科学部

健康システム学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

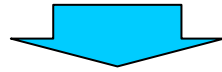
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

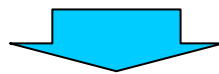


兵庫大学

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

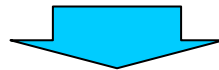


健康科学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



健康システム学科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

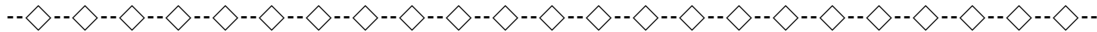
APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

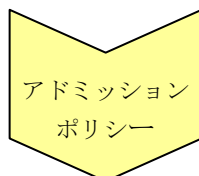
DPに定められた能力を身につけて卒業します。

健康科学部ポリシー

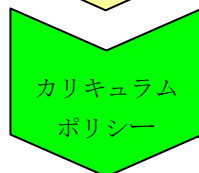
アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・健康科学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲や学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力を惜しまず、向上心を忘れない、柔軟な姿勢をもつ学生を受け入れます。</p>	<p>・健康科学部では、専門知識と技術の習得に向けて、基礎となる知識と社会人としての基礎学力を培います。また、学科の専門性に基づいて、健康課題を科学的に解明していく力を養うと共に、実践力を身につけることを目指して、カリキュラムを編成します。</p>	<p>・健康科学部では、生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



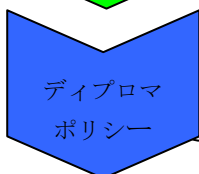
3つの方針（ポリシー）について



・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。



・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。



・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

健康システム学科ポリシー

健康システム学科は、学部ポリシーに基づき、学生の心と体の健康な発達を支援するとともに、学生が健康を科学的に捉えるための基礎的学力と、健康づくりに関する実践的指導力を身につけ、社会に貢献できる人となることを目指します。

アドミッション ポリシー

・健康科学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. 健康の保持増進に関心をもち、健康な生活を科学的に探究しようとする強い熱意のある人
2. 健康づくりの実践者として、あらゆる人々の健康と生活の質の向上に貢献しようとする人
3. 自主的に勉学に取り組む強い意志や学業に対する強い意欲のある人

カリキュラム ポリシー

・健康システム学科のディプロマポリシーに示された3つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 高校までの教育から大学での教育に円滑に移行できるよう、大学教育における学習の方法を身につける
2. 幅広い学問分野の基礎的知識を習得し、運動やスポーツ、養護や保健に関する高度の知識やすぐれた技術を身につける
3. 健康に関する課題の発見や情報収集の力をつけ、科学的な根拠に基づく実践力と応用力を身につける
4. 健康教育の指導者として、課題解決力や情報発信力を養うとともに、総合的に判断する力を身につける
5. 学内外における体験的学習を通して実践力を養うとともに、社会とのかかわりの中で学習を継続していく力を身につける

ディプロマ ポリシー

・健康科学部のポリシーに基づき、卒業までに、次の力を身につけた人に学士(健康科学)の学位を授与します。

1. 社会における健康課題を的確にとらえ、健康な社会の推進に取り組む力
2. 運動やスポーツ、あるいは養護や保健の専門家として、生涯にわたって、その知識と技術を研鑽し、健康科学の発展に貢献できる力
3. 幼児から高齢者まで、発達段階に応じた健康のあり方に関心をもち、自らの社会的役割を自覚してリーダー性を磨くとともに、協働して人々の健康増進に役立てる力

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

カリキュラムマップ

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活気に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○											
		健康システム学科ディプロマポリシー											
		1			2					3			
		社会における健康課題を的確にとらえ、健康な社会の推進に取り組む力			運動やスポーツ、あるいは養護や保健の専門家として、生涯にわたって、その知識と技術を研鑽し、健康科学の発展に貢献できる力					幼児から高齢者まで、発達段階に応じた健康のあり方に関心を持ち、自らの社会的役割を自覚してリーダー性を磨くとともに、協働して人々の健康増進に役立てる力			
	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	
基礎科目	日本語(読解と表現)	◎								○	○		
	英語	○	○					○			◎		
基礎科目	コンピュータ演習	○	○	◎							○		
	生物基礎	◎	○			○							
基礎科目	化学基礎	◎	○			○							
	宗教と人生	○				◎		○		○			
教養科目	生命倫理学	○	○			◎				○			
	哲学	○	○			○	○	○		◎			
教養科目	文学	○				○		○		◎			
	芸術	◎	○			○				○			
教養科目	色彩とデザイン	○	○			◎							
	心理学		○			○		○		◎		○	
教養科目	仏教と現代社会	○				◎			○	○			
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)	◎	○	○				○		○			
教養科目	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)	◎	○	○				○		○			
	法と社会	◎				○			○	○		○	
教養科目	日本国憲法	◎				○		○		○			
	人権の歴史	◎		○		○				○		○	
教養科目	政治学	○				○		○		◎			
	社会学	○	○			◎		○		○			
教養科目	経済学	○	○			◎				○			
	化学	◎	○			○		○		○			
教養科目	生物学	◎	○			○		○		○			
	食と健康	○			◎	○		○		○			
教養科目	常用英語(初級)	○						○		○	◎		
	常用英語(中級)	○						○		○	◎		
教養科目	中国語(初級)	○						○		○	◎		
	中国語(中級)	○						○		○	◎		
教養科目	韓国語(初級)	○						○		○	◎		
	韓国語(中級)	○						○		○	◎		
教養科目	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	◎	○		○				○	○			
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	◎			○			○		○			
教養科目	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	◎			○			○		○			
	私のためのキャリア設計	○	◎	○					○				○
専門科目	基礎ゼミⅠ	◎	○		○					○	○		
	基礎ゼミⅡ	○	○	◎				○					
専門科目	健康科学序論	◎	○		○	○	○						
	健康科学	◎	○		○	○	○						
専門科目	情報科学	○		◎					○				
	基礎生物学	○				◎				○			
専門科目	解剖学	◎	○	○	○	○							
	生理学	◎	○	○	○	○							
専門科目	微生物学	◎		○					○				○
	生化学	◎	○			○			○				
専門科目	栄養学			○		◎			○				
	食品学	◎				○							
専門科目	栄養指導論	○	○		◎			○					
	衛生学	◎						○					
専門科目	公衆衛生学	◎			○	○				○			
	医学概論	◎				○			○	○			
専門科目	認知心理学	◎	○			○							
	健康心理学	◎	○		○			○					
専門科目	生涯発達心理学	○							○	◎			
	臨床心理学							○	○	◎	○		○
専門科目	人間関係論					○		○			○	◎	
	外書購読Ⅰ	◎	○							○			
専門科目	外書購読Ⅱ	◎	○							○			
	教育特論Ⅰ	○						◎	○		○		
専門科目	教育特論Ⅱ	○				○		○		◎	○		
	教育特論Ⅲ			○		○	◎			○	○		
専門科目	地域活動演習Ⅰ							◎	○	○	○		
	地域活動演習Ⅱ							◎	○	○	○		

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○											
		健康システム学科ディプロマポリシー											
授業科目の区分	授業科目名	1			2					3			
		社会における健康課題を的確にとらえ、健康な社会の推進に取り組む力			運動やスポーツ、あるいは養護や保健の専門家として、生涯にわたって、その知識と技術を研鑽し、健康科学の発展に貢献できる力					幼児から高齢者まで、発達段階に応じた健康のあり方に関心を持ち、自らの社会的役割を自覚してリーダー性を磨くとともに、協働して人々の健康増進に役立てる力			
		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4
	社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解)	科学的根拠となるデータ・情報を収集する(情報収集力)	問題解決に向けて効果的な情報提供ができる(情報発信力)	健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する(専門的技術力)	複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合)	構築された理論に基づき判断し、行動する(総合的判断力・実践力)	自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う(応用力)	新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度(生涯学習力)	人間を理解し、適切な指導ができる(専門的知識)	効果的な意思疎通ができる(コミュニケーション力)	人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる(リーダーシップ)	課題解決のためのプログラムを構築する(統合的技術力)	
専門教育に連なる科目目	I 群 (運動・体育)	体育原理		◎		○	○		○				
	運動の基礎	◎	○		○	○			○				
	運動生理学				◎	○	○	○	○				
	運動生理学演習		○		○		◎	○	○				
	運動栄養学				◎	○	○	○	○				
	子ども運動学	○	◎		○	○						○	
	子ども運動学演習	○					◎		○			○	○
	スポーツ医学概論			○			◎	○	○				
	スポーツ心理学		○		◎	○				○	○		
	障害者スポーツ論				◎		○			○		○	
	スポーツ史(体育史を含む)		○		○	◎		○					
	スポーツ科学 I				◎	○	○			○			○
	スポーツ科学 II				◎	○	○			○			○
	トレーニング科学 I				○	○	○			○			◎
	トレーニング科学 II				○	○	○			○			◎
	体力測定と評価		◎	○	○					○			
	スポーツ実践 I	○			◎	○	○			○			
	スポーツ実践 II	○			○		◎	○			○		
	健康・体力づくり実践 I	○				○		◎	○			○	
	健康・体力づくり実践 II	○	○					○	◎				○
	スポーツ指導法 I			○		○			○	○			◎
	スポーツ指導法 II			○			○		○	○			◎
	健康・体力づくり指導法 I						○	○	○		○		◎
	健康・体力づくり指導法 II						○	○	○			○	◎
	運動処方論				○	◎	○		○				○
運動処方演習		◎	○		○		○	○					
レクリエーション(野外活動を含む)						○		◎	○	○	○		
専門教育に連なる科目目	II 群 (養護・保健)	病理学概論		○		○	◎	○					
	薬理学	○					○	◎	○				
	養護概説 I		○		○	○		◎		○			
	養護概説 II			○	○	○		○		◎			
	養護活動演習		○		○	◎			○	○			
	養護活動実習			○			◎	○			○	○	
	学校保健 I(小児保健・学校安全を含む)	◎	○						○	○			
	学校保健 II				○	○		◎		○	○		
	学校保健 III				○			○		◎		○	
	精神保健		○			○			○	◎			
	健康行動論				○		◎	○		○			
	健康統計学		◎		○		○			○			
	健康相談活動の理論と実践					○		◎		○	○	○	
	基礎看護学	○	◎		○	○					○		
	看護学 I			○		○	○			◎		○	
看護学 II			○		○	○			◎		○		
臨床看護実習	○						○		○	◎	○		
救急看護(救急処置を含む)		○	○	○			◎		○				
卒業研究		◎			○				○			○	
			◎		○			○	○			○	

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」(下表 1-1...、2-2...など)の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1					2					3				
自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力					経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」(マップ上部 1-1...、2-1...など)をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

健康科学部健康システム学科

【卒業要件単位数】

平成 25(2013)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	10 単位	5 科目
専門教育科目	専門基礎科目群	20 単位	10 単位	5 科目
	群（運動・体育に関連する科目）	6 単位	6 単位	3 科目
	群（養護・保健に関連する科目）	6 単位	4 単位	2 科目
	卒業研究	6 単位	6 単位	2 科目
その他上記の科目区分のいずれかから		60 単位		
合計		124 単位	36 単位	17 科目

平成 24(2012)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	10 単位	5 科目
専門教育科目	専門基礎科目群	20 単位	8 単位	4 科目
	群（運動・体育に関連する科目）	6 単位		
	群（養護・保健に関連する科目）	6 単位		
	卒業研究	6 単位	6 単位	2 科目
その他上記の科目区分のいずれかから		60 単位		
合計		124 単位	24 単位	11 科目

平成 23～22(2011～2010)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		30 単位	10 単位	5 科目
専門教育科目	専門基礎科目群	8 単位	8 単位	4 科目
	群（運動・体育に関連する科目）	6 単位		
	群（養護・保健に関連する科目）	6 単位		
	卒業研究	6 単位	6 単位	2 科目
その他上記の科目区分のいずれかから		68 単位		
合計		124 単位	24 単位	11 科目

平成 25 ~ 24 (2013 ~ 2012) 年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成25年度（2013年度）入学者対象
 （ ）は兼任、 []は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		健康運動指導士	健康運動実践指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成25年度の担当者	ページ	
			必修	選択			養護	保健体育	保健	1年	2年	3年	4年			
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2							2					[安井]・[辻本]・[野田]	14
	英語	演習	2							2					平本 幸治	15
	英語	演習	2							2					[小泉 毅]	16
	英語	演習	2							2					[Michael. H. FOX]	17
	コンピュータ演習	演習	2							2					河野 稔	18
	生物基礎	講義		2						2					[谷口]・[橋本]・[大藤]	19
	化学基礎	講義		2						2					[市村]・[立谷]・[田中]・[田村]	20
教養科目	宗教と人生	講義	2							2					(本多 彩)	21
	生命倫理学	講義		2											[浅沼 光樹]	22
	哲学	講義		2											[三浦 摩美]	23
	文学	講義		2											(安井 重雄)	24
	芸術	講義		2											柳楽 節子	25
	芸術	講義		2											[岩見 健二]	26
	心理学	講義		2											(北島 律之)	27
	仏教と現代社会	講義		2											(本多 彩)	28
	国際理解と宗教（キリスト教）	講義		2											[塚本 潤一]	29
	国際理解と宗教（イスラム教）	講義		2											重親 知左子	30
	色彩とデザイン	講義		2											[浜島 成嘉]・[稲富 恭]	31
	法と社会	講義		2											[國友 順市]	32
	日本国憲法	講義		2											[笹田 哲男]	33
	人権の歴史	講義		2											[西脇 修]	34
	政治学	講義		2											(斎藤 正寿)	35
	社会学	講義		2											(吉原 恵子)	36
	経済学	講義		2											(石原 敬子)	37
	化学	講義		2											[薬師寺 大二]	38
	生物学	講義		2											[石井 禎基]	39
	食と健康	講義		2											(亀谷 小枝)	40
	実用英語（初級）	演習		2											[加藤 恭子]	41
	実用英語（中級）	演習		2												
	中国語（初級）	演習		2											[修 暁寧]	43
	中国語（中級）	演習		2											[修 暁寧]	44
	韓国語（初級）	演習		2											[高 秀美]	45
	韓国語（中級）	演習		2											[高 秀美]	46
	健康・スポーツ科学（講義）	講義		2											三宅 一郎	47
	健康・スポーツ科学（講義）	講義		2											徳田 泰伸	48
	健康・スポーツ科学（演習）	演習		2											三宅・徳田・矢野	49
	健康・スポーツ科学（演習）	演習		2											三宅・徳田・橋本・矢野	50
	私のためのキャリア設計	講義		2											[森本 次郎]	51

- は健康運動指導士養成科目
- は健康運動実践指導者養成科目
- は養護教諭免許必修科目
- は保健体育免許必修科目
- は保健免許必修科目

基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成24年度（2012年度）入学者対象
 （ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		健康運動指導士	健康運動実践指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成25年度の担当者	ページ
			必修	選択			養護	保健体育	保健	1年	2年	3年	4年		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2							2					
	英語	演習	2							2					
	コンピュータ演習	演習	2							2					
	生物基礎	講義		2						2					
	化学基礎	講義		2						2					
教養科目	宗教と人生	講義	2							2					
	生命倫理学	講義		2										[浅沼 光樹]	22
	哲学	講義		2										[三浦 摩美]	23
	文学	講義		2										(安井 重雄)	24
	芸術	講義		2										[柳楽 節子]	25
	芸術	講義		2										[若見 健二]	26
	心理学	講義		2										[北島 律之]	27
	仏教と現代社会	講義		2										(本多 彩)	28
	国際理解と宗教（キリスト教）	講義		2										[塚本 潤一]	29
	国際理解と宗教（イスラム教）	講義		2										[重親 知左子]	30
	色彩とデザイン	講義		2										[浜島 成嘉]・[稲富 恭]	31
	法と社会	講義		2										[國友 順市]	32
	日本国憲法	講義		2										[笹田 哲男]	33
	人権の歴史	講義		2										[西脇 修]	34
	政治学	講義		2										(斎藤 正寿)	35
	社会学	講義		2										(吉原 恵子)	36
	経済学	講義		2										(石原 敬子)	37
	化学	講義		2										[薬師寺 大二]	38
	生物学	講義		2										[石井 禎基]	39
	食と健康	講義		2										(亀谷 小枝)	40
	実用英語（初級）	演習		2										[加藤 恭子]	41
	実用英語（中級）	演習		2										[加藤 恭子]	42
	中国語（初級）	演習		2										[佟 曉寧]	43
	中国語（中級）	演習		2										[佟 曉寧]	44
	韓国語（初級）	演習		2										[高 秀美]	45
	韓国語（中級）	演習		2										[高 秀美]	46
	健康・スポーツ科学（講義）	講義		2										三宅 一郎	47
健康・スポーツ科学（講義）	講義		2										徳田 泰伸	48	
健康・スポーツ科学（演習）	演習		2										三宅・徳田・矢野	49	
健康・スポーツ科学（演習）	演習		2										三宅・徳田・梅本・矢野	50	
私のためのキャリア設計	講義		2											[森本 次郎]	51

は健康運動指導士養成科目

は健康運動実践指導者養成科目

は養護教諭免許必修科目

は保健体育免許必修科目

は保健免許必修科目

基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	日本語(読解と表現)				
担当者氏名	安井 重雄、野田 直恵、辻本 恭子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解) 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる(専門的知識) 3-2 効果的な意思疎通ができる(コミュニケーション力)				

《授業の概要》

大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現を身につける。それによって、コミュニケーション能力を高める。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する小テスト(30%)と定期試験(70%)によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くので、国語辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	同音異義語・同訓異義語	音読み・訓読みにおける、同じ発音の漢字の熟語を書き分ける。
3	四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれど、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある(ない)などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語・、丁寧語、美化語という敬語の5分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『TOEIC Test Fundamentals』クリストファー・ブルスミス他（南雲堂）

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際のコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

今回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テキストを精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《テキスト》

プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。〔Enjoy English〕（長崎出版）

《授業の到達目標》

英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《参考図書》

NHKラジオの「新基礎英語」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表（40%）、宿題（30%）、小テスト（30%）

《授業時間外学習》

毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までです。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《備考》

1.出席重視です。2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3.恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4.授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会うありがとう	小テスト、会話（挨拶）、P honics (A lphabet) 英検5級リスニングテスト
3	場所を聞くいつ練習するの？	小テスト、会話、P honics (A lphabet) 英検5級リスニングテスト
4	何時ですか？	小テスト、会話、P honics (子音) 英検4級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、P honics (子音) 英検4級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、P honics (母音) 英検3級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、P honics (母音) 英検3級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、P honicsを使った読解練習 英検5級（全体）
9	許しを得る	小テスト、会話、P honicsを使った読解練習 英検5級（全体）
10	～しましょうか？～しませんか？	小テスト、会話、P honics (s i l e n t E) 英検4級（全体）
11	値段を聞く	小テスト、会話、P honics (s i l e n t E) 英検3級（全体）
12	～はいかがですか？と物をすすめる	小テスト、会話、P honics (p o l i t e v o w e l s) 英検準2級（全体）
13	乗り物で行き先を尋ねる・道を尋ねる	小テスト、会話、P honics (p o l i t e v o w e l s) 英検5、4級の総復習
14	いい考えねと自分の考えをいう	小テスト、会話総復習、P honics総復習 英検3級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、P honics総復習 英検準2級総復習

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 効果的な意思疎通ができる(コミュニケーション力)				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 2』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction/Orientation	教員紹介・自己紹介。
2	U.1: Jobs Topic Talk: "Numbers"	仕事・数字を説明。
3	U.1: Daily Activities Topic Talk: "Time"	日常活動・時間を表現する
4	U.2: Current Activities Topic Talk: "Work"	日常活動・時間を表現 Part 2
5	U.2: Feelings Topic Talk: "Dating"	感情やデートの話し
6	U.3: People We Admire Topic Talk: "Movies"	尊敬される人々・映画を語る
7	U.3: Cities Topic Talk: "Travel"	都会・旅行を描写する
8	U.4: On the Weekend Topic Talk:	週末の活動を語る
9	U.4: On Vacation Topic Talk: "Vacation"	Vacationの経験を喋る
10	U.5: Entertainment Topic Talk: "TV"	娯楽・テレビを話す。
11	U.5: Music Topic Talk: "Music"	好みのMusicを語る
12	U.6: A City Square Topic Talk: "Sports"	方向を聞く・スポーツの話し。
13	U.6: Public Transportation	公共交通を喋る
14	大復習	大復習
15	まとめor自己評価	まとめor自己評価

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力の修得を目指します。
 ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報倫理など、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》

パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
 目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
 ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》

実習での提出課題（70%）と情報倫理および総合的な演習での提出物（30%）で評価します。

《テキスト》

毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考図書》

矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社。
 情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2012)『インターネット社会を生きるための情報倫理 2012』実教出版。
 その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介いたします。

《授業時間外学習》

この科目では復習が重要です。操作や利用方法を次の授業で生かせるように、日ごろからパソコンを利用して練習しておきましょう。
 とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では『まとめ課題』と『総合的な演習』があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》

学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明 / コンピュータ実習室の利用手続き / 授業前アンケートの実施
2	学内ネットワークシステムの利用	学内システムの利用 / Webメールの利用 / eラーニングの利用
3	インターネット(1)	電子メールによるコミュニケーション
4	インターネット(2)	インターネット上の情報の検索
5	インターネット(3)	ウェブの最新トピック、情報倫理
6	文書作成(1)	レポート形式の文書の作成
7	文書作成(2)	文書のデザインとレイアウト / 文書作成のまとめ課題
8	プレゼンテーション(1)	文字による基本的なプレゼンテーションの作成
9	プレゼンテーション(2)	図やアニメーションを利用したスライドの作成
10	データ処理(1)	表形式データの簡単な処理とグラフ作成
11	データ処理(2)	関数を利用した処理とグラフの活用 / データ処理のまとめ課題
12	総合的な演習(1)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成
13	総合的な演習(2)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成および提出・公開
14	総合的な演習(3)	プレゼンテーションの相互評価、演習問題の作成
15	総合的な演習(4) / まとめ	相互評価の結果の集計 / 授業全体のふり返り

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	化学基礎				
担当者氏名	谷口 武、橋本 陽江、大藤 隆彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

授業期間の2/3を用いて、原子の構造や化学結合、化学反応や分子の状態などについて学び、物質への理解を深めます。その後の

1/3の期間で、生命に関連の深い有機化学の基礎について学び、健康・医療・栄養科学を学ぶための導入となる講義を行います。

《授業の到達目標》

大学で健康・医療・栄養の関連分野を学ぶためには、化学の基礎知識が必要となります。化学的な知識があつてこそ、これらの学問の理解を速やかに進め、応用することができると考えます。本講義では、高校で履修する化学と同程度の基本的な知識を、生体成分や栄養成分の知識と密に関連して授業を進めることによって、健康・医療・栄養という各専門分野での勉強が確かな土台の上でおこなえるようにします。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び受講態度を含めた平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	物質を構成する原子と、原子を構成する陽子・電子・中性子
2	原子の結合	いろいろな結合 イオン・共有・配位・水素結合
3	化学反応式	$\text{CH}_4 + 2\text{O}_2 \rightarrow \text{CO}_2 + 2\text{H}_2\text{O}$ の意味
4	熱化学反応式	ガスコンロ・・・都市ガスを燃やすと熱が出るのは？
5	酸化・還元	物質が電子を得ること・失うこと
6	水の三態	氷・水・水蒸気、違いはなにか？
7	溶解・浸透圧	ナメクジに塩をかけると・・・
8	酸と塩基	酸味の原因
9	コロイド	豆腐、ゼリー、人体・・・コロイドとはなにか？
10	有機化学 有機化合物	炭素を中心とする化学
11	有機化学 官能基の働き	良い匂い・悪い臭い
12	有機化学 糖質・脂質	人間の活動をもたらすエネルギー源
13	有機化学 タンパク質	酵素の働き
14	ビタミン・ミネラル	化学と栄養 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《テキスト》

「食を中心とした化学」 北原・塚本・野中・水崎著
(東京化学社)

《参考図書》

上記のテキストで十分ですが、さらに進んだ化学の学習を望む者には次の書籍を推薦します。
「化学の基礎 化学入門コース1」 竹内敬人著(岩波書店)

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

食品や健康について専門的に学ぶためには化学の基礎知識は不可欠です。この化学基礎講義で、専門分野の勉強の基礎をしっかり築きましょう。化学の予備知識は不要です。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	生物基礎				
担当者氏名	市村 豊、立谷 正樹、田中 貞之、田村 淳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の生態系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《テキスト》

「新課程版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能	細胞は生物の基本単位
2	細胞をつくる物質・細胞膜の性質	細胞膜は半透膜・・・半透膜ってどんな膜？
3	酵素の機能と性質・体細胞分裂	酵素は働き者
4	呼吸と光合成	好気呼吸と嫌気呼吸・・・酸素がいない呼吸もある？
5	小テスト 生殖・減数分裂	生物はどうやって増えるのか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで
7	遺伝 メンデルの遺伝の法則	あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
8	遺伝 連鎖と組換え	遺伝子はシャッフルされて遺伝する
9	核酸の構造とタンパク質合成のしくみ	遺伝子からタンパク質へ
10	小テスト 神経伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク
11	血液・腎臓・肝臓の働き	体の中の道路と工場
12	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ
13	免疫系	細胞性免疫と体液性免疫 体を外敵から守るしくみ
14	小テスト 人間と自然	炭素の循環からみた環境問題 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	宗教と人生				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に自ら取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を、宗教やスピリチュアル・ケアという視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約20%
 定期テスト 約50%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
5	イスラームを知る	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
6	キリスト教を知る	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る	キリスト教が政治や福祉に与えた影響について学ぶ
8	建学の精神	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
9	建学の精神：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
10	仏教を知る	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
11	仏教を知る	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の宗教を知る	身近にあるさまざまな宗教を取りあげて日本宗教の特性を理解することを目指す
14	日本の宗教を知る	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝
 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちが医療技術の進歩に合わせて考え方を変えざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考図書》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011
 『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で視聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

(1) 毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。(80%)
 (内訳：記述形式 40%、記述内容40%) (2) 定期試験 (20%)

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

哲学の主要テーマである「真理」と「知識」の問題についてどのような哲学的議論があるか概説し、哲学的思考の特徴を理解できるようにする。それを基に、哲学上の自然主義と反自然主義の各立場が知識と言語、言語と行為、意志と行為、心身問題といったテーマにおいてどのように展開されているかについて考察する。併せて個人と社会（社会哲学）、実存の問題についても若干の考察を試みたい。

《テキスト》

門脇俊介著『現代哲学』産業図書

《参考図書》

授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

「哲学」とはどのような営みであるかについて理解できるようにする。人間が持ち得る「知識」の成り立ちについて、分析的に把握できるようにする。心身問題について理解できるようにする。個人と社会、公共の利益と社会契約という視座について理解できるようにする。個人の実存とコミュニケーションの成立に関して、客観的な視座を持てるようになる。

《授業時間外学習》

- ・テキストの予習と復習を通して、哲学論文の要旨を読解できるよう練習する。
- ・授業で紹介する哲学者の思想について復習するとともに、参考図書や各哲学者の著作に触れてみることで理解を深めるように努める。

《成績評価の方法》

平常の課題レポート（60%）および学期末のレポート（40%）で評価する。

《備考》

- ・提出するレポートは必ずホッチキス止めをすること。
- ・その他受講上必要な注意事項については、最初の授業およびその都度授業内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	～哲学への誘い～ 哲学とは何か	授業進行のためのガイダンス 「哲学」の開始、古代自然哲学から近代の知識論へ
2	「知識」に関する自然主義と反自然主義の問題	人間が何かについて「知る」ということについての2つの異なる態度について
3	「知識」とは何か	「知識」とは何であり、どのようにして成立するのかについて
4	「知識」の2つのあり方	ア・プリオリな知識とア・ポステリオリな知識について
5	「信念」の正当化と知識	「信念」の正当化に関する異なる立場、心理主義と規約主義について
6	「知識」はどこに成立するのか	実在論と観念論の対立
7	「信念」はいかにして正当化されるのか	基礎づけ主義と整合説の対立
8	「知識」と「言語」の問題	「真理」と「知識」の基盤としての言葉の意味の由来、要素還元主義について
9	「言語」と「行為」の問題	言語規則と言語行為論について
10	「知識」はどこに成立するのか	知識論と心身問題
11	心身問題の異なる立場	随伴現象説、同一説および機能主義について
12	「意志」と「行為」の問題	行為の因果説と反因果説について
13	社会と哲学の問題	自由意志と一般意志について
14	社会と哲学の問題	一般意志と社会契約説について
15	個人の実存の問題 まとめ	コミュニケーションと正当化の問題および人間の現実存在（実存）の問題について

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、事実を超えてさまざまな世界を構築し、そこに触れる人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学及び現代小説を取り上げるが、各作品における言葉の持つ面白さや意味について考え、また作品のテーマについても考察する。

《テキスト》

毎回、作品の一部をコピーして配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

さまざまな文学作品に接して、それらの言葉を読み解き、作品のテーマについて考えることで、言葉というものについての理解を深める。またそのことにより、現代社会を生きていく上で参考となる、言葉によって表現された多様な価値観について自ら考える力を身につける。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業時の意見文やレポートなどを提出することによる平常点（30%）、及び、定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方とその生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	源氏の武将たちの戦い方と生き方について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らの生き方と死に方について考え、また『平家物語』のテーマである無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
6	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてふりかえり、言葉について考える。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

日本の美術を知ること、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物の資料をはじめ、視聴覚資料を多く提示し、受講生がこれまで気付かなかった日本美術の面白さを発見する手がかりとなる授業をめざします。

《授業の到達目標》

日常生活にある行事や習慣のなかに日本の美を見出すことができる。日本の文化について広く関心を持ち、自ら学ぶことができる。芸術全般を楽しむことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの提出（100%）により評価します。

《テキスト》

なし。

《参考図書》

『日本美術の特質』矢代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示します。

《備考》

レポートの作成と提出の要領については、12月中旬の授業時に連絡する予定です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介 授業内容説明	教員の版画制作の経験と日本美術との関連性について聞くとともに、講義の今後のありかたについての説明を理解する。
2	現代の美術作家紹介-1	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
3	現代の美術作家紹介-2	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
4	現代の美術作家紹介-3	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
5	現代の美術作家紹介-4	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
6	日本の信仰	自然崇拜 神道 仏教が美術に及ぼした影響を知り、日常生活にあるしきたりや習慣のなかにある日本の美を発見することができる。
7	仏教美術-1	仏教伝来から天平時代までの仏像を中心に鑑賞し、中国から朝鮮を経て日本に伝えられた仏像が、日本に定着していく過程の変化と魅力を感じ取ることができる。
8	仏教美術-2	平安時代の密教と鎌倉時代の禅宗について知り、それぞれに大きく異なる仏教信仰のありかたと、美術への表れを、鑑賞から感じ取ることができる。
9	日本の美術-1	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。曼陀羅 倭絵 水墨画
10	日本の美術-2	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。画卷
11	日本の美術-3	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。狩野派 等伯
12	日本の美術-4	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。琳派
13	日本の美術-5	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。奇想の絵師
14	日本の美術-6	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。浮世絵
15	日本の美術-7	日本美術の特質について、そのいくつかをイメージすることができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

・課題レポート（100%）

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し客死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代 ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス 印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派 現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%レポート・小テストなど10%受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
 (とても詳しく、心理学全般の内容が記載されています)

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
 ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章 §1～9》
2	情報, 入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第1章 §1～2, §6～7》
3	覚えているって, どういうこと?(記憶)	記憶のプロセス, 記憶にまつわるいくつかの事象。《第3章 §4》
4	どうやって, 学んでいくのだろう?(学習)	学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第2章 §5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	私たちが欲するものを分類。《第2章 §1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第2章 §2～4》
8	君って, どんな人?(性格)	性格についての心理学の見方。《第4章 §1, 第5章》
9	君って, どんな人?(性格)	質問紙による性格検査の実施。《第4章 §1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観。《第4章 §2～3》
11	あの人が, きつこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質。《第6章 §1～2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果。《第6章 §4》
13	無意識って何だろう?(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第5章 §4, 第8章》
14	これまで何を学んだか?(振りかえり)	これまでの内容の振りかえり。
15	心理学はどんな学問か?(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	仏教と現代社会				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
 現代仏教についての理解をめざす
 仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
 浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約30%
 定期テスト 約40%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加

定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー

宗教ツアー
 花まつり法要 など
《備考》

科目名	国際理解と宗教（キリスト教）				
担当者氏名	塚本 潤一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

なぜ人間は対立するのか、なぜ国際社会は緊張状態が続くのか。それはこの世界が多様な価値観に満ちているにも関わらず、それを知らず、受け止めようとしなからである。まず多様な価値観を理解し、相手を受け入れるところから、共存関係は始まる。本講義では、キリスト教について学ぶ。そしてキリスト教が本来内包していたはずの、異なった価値観の人々を受け入れる視点を、講義を通して身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

- *キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。
- *キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に配布するレポート用紙を用いて、次回の講義に提出する復習レポート（60%）、および期末レポート（40%）を合算して評価する。
- *授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切です。

《テキスト》

プリント（毎授業ごとに配布する）

《参考図書》

- 『よくわかるキリスト教』土井かおる著（PHP研究所）2004、
- 『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011、
- 『キリスト教との出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、
- 『旧約聖書に強くなる本改訂新版』浅見定雄著（日本キリスト教団出版局）2010

《授業時間外学習》

- *その日の復習レポートをまとめ、次回の授業に提出する。（レポート用紙は授業ごとに配布する）
- *日頃からキリスト教の正典である聖書を読んでおく。
- *配布する資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。ビデオを使って、世界の諸問題およびキリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	世界の「今」を知る	この世界にはさまざまな問題がひしめいている。人口問題、環境問題、水・食糧問題、貧困と格差、民族間・宗教観対立など、世界の「今」を知る。
3	中東問題をひもとく	一向に解決のきざしの見えてこない中東問題。特に、パレスチナ・イスラエル問題を三千年以上にわたる歴史をひもときながら解決の糸口を探る。
4	旧約聖書を学ぶ（1）	奴隷で始まり、奴隷に終わってしまった旧約聖書の悲しみの歴史を学ぶ。力と富による繁栄は一瞬で過ぎ去り、すべてを失ってしまったことを学ぶ。
5	旧約聖書を学ぶ（2）	力と富をひたすら求めてきた旧約聖書の民は、すべてを失った時に、大きな価値観の転換を迫られる。自分たちが本当に求めるべきものはなにであったのか？
6	旧約聖書を学ぶ（3）	力と富ではなく、神の言葉が必要であると気づいた民に、神は「救い主」を送ることを約束する。「救い主」とは何なのか、その驚きのイメージを学ぶ。
7	新約聖書を学ぶ（1）	今から二千年前に一人の人が生まれた。その名は「イエス」。30年あまりの短い生涯であったが、その存在は世界を動かすことになった。その生涯を学ぶ。
8	新約聖書を学ぶ（2）	イエスの言葉、行い、他者との関わりについて学び、その独創性に触れる。そしてイエスの伝えなかった「愛」「罪の赦し」について考える。
9	新約聖書を学ぶ（3）	イエスはたった一年の活動で、逮捕され、無実であったにもかかわらず、十字架刑という死刑で息を引き取る。なぜイエスは殺されなければならなかったのかを探る。
10	キリスト教の成立	十字架の上で死んだイエスは復活し、その愛は時を越え普遍的なものとなった。こうして、旧約聖書の「救い主」とは、イエスであったと受け止めるキリスト教が成立する。
11	ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の関係を知る	現代において対立関係にあるように見えるユダヤ教、イスラム教、キリスト教が、実は同じ旧約聖書を正典とする親戚関係にあることを学ぶ。
12	キリスト教の諸教派について学ぶ	キリスト教の成立以降、ローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタント教会と様々な教派が生まれてきた。それらを見渡し、整理していく。
13	キリスト教の歴史の光と影	キリスト教の二千年間の歴史は、素晴らしい光の側面があり、同時に世界に様々な影を落としてきた。その功罪を歴史的に振り返る。
14	対立を乗り越えるために	文明は衝突したままなのか、諸宗教は対立を続け、常に国際関係は緊張状態が続けるのか。対立を乗り越え、世界が共存関係を築くためには何が必要なのか、共に考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であることを整理する。また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。

科目名	国際理解と宗教 (イスラム教)				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解) 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う(応用力) 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる(専門的知識)				

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラーム教徒)の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク(イスラームの礼拝所)も増加している。この授業を通してイスラームに関心を持ち、激動期に入ったイスラームをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラームをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラームに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	結婚、葬礼におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面からイスラームと民主主義の関係について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の交流を歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考図書》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/ 河田尚子『イスラームと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラームを知る12 イスラーム銀行金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003/ レザー・アスラン『変わるイスラーム 源流・進展・未来』藤原書店、2009

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラームとの接点を持つ(例：モスクの見学)。

《備考》

- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	色彩とデザイン				
担当者氏名	浜島 成嘉、稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野に関する一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業後は授業内容に従い、授業ノートを作成する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、カラーリング課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出は単位認定の必要条件になる。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、欠席となる。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス、デザインの基礎(1):色 色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
2	デザインの基礎(2):色 色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明する。(担当:浜島)
3	デザインの基礎(3):色 配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによって配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
4	デザインの基礎(4):かたち	デザインのかたちについて、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。(担当:稲富)
5	デザインの基礎(5):素材	デザインの素材について、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。(担当:稲富)
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	近代以降のデザインの歴史について概観し、7回目以降の講義の流れを理解する。(担当:稲富)
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。(担当:浜島)
8	デザインの各分野(2):家具	家具のデザインについて、歴史的な変遷に従い解説する。(担当:稲富)
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「もの」のデザイン、「空間」のデザインについて解説する。(担当:稲富)
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、歴史的な変遷と社会の関わりについて解説する。(担当:浜島)
11	デザインの各分野(5):プロダクト	プロダクトデザインについて、主として携帯電話を例に、プロダクトデザインとマーケティングについて解説する(担当:稲富)
12	デザインの各分野(6):工業デザイン	工業デザイン分野について、主として産業革命以降のデザインと自動車デザインの変遷から解説する。(担当:稲富)
13	デザインの各分野(7):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について考察する。(担当:稲富)
14	デザインの各分野(8):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。(担当:稲富)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲富)

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考図書》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

授業態度（40%）および定期試験による評価（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道德、法の適用
2	基本的人権	プライバシー権
3	基本的人権	表現の自由
4	基本的人権	生存権
5	基本的人権	自己決定権
6	基本的人権	信教の自由
7	基本的人権	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法	結婚・離婚、内縁
11	家族と法	親子、親権
12	家族と法	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

定期試験期間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
 差別を見抜く力を身につけましょう。
 人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
 人権感覚を豊かにしましょう。いのちとは何かを総括します。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

共生教育のすすめ 仲田 直
 これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聡
 これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聡

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます。
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考えます。
5	日本近世の身分制について	土農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	性差別の歴史	「元始女性は太陽であった」にも関わらず、女性差別はいつからつくられ、固定概念しての男女の様々な性差別を考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実には起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

（1）予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。（2）復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、分かった社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜き理論的道具を使えるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2007, 有斐閣アルマ）

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000, 日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配ります。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。
 (配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
 定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。
 (配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析(1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、..と他者
3	行為の分析(2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析(3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析(4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類 社会的カテゴリー
6	行為の分析(5)予言の..成就	予言の..成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析(6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレーム
8	社会集団と秩序(1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序(2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序(3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序(4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる(1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる(2)国家と..民社会	個人と社会、..由と連帯、..民社会、共同体、私的領域と公共領域 公的領域、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	(適宜指示を行う)
15	学習の総まとめ(2)	(適宜指示を行う)

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争の市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	化学				
担当者氏名	薬師寺 大二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

原子や分子の構造、化学結合、物質の状態、有機化学など、化学の基礎から応用までをパワーポイントを使って、視覚的にわかりやすく解説します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

- ・「新・物質科学ライブラリ1 基礎 化学」 梶原篤・金折賢二 共著（サイエンス社）
- ・「一般化学」 長島弘三・富田功 共著（裳華房）

《授業の到達目標》

生活に必要な衣服や日用品、医薬品など、我々は化学の恩恵を受けています。本講義では、化学が我々にとって必要かつ身近なものだと感じてもらい、また化学の理解を通じて科学的思考を養います。

《授業時間外学習》

授業で配布されたプリントを必ず見直し、分からなかったところは参考書を見るなどして確認してください。

《成績評価の方法》

定期試験により評価(100%)します。

《備考》

積極的な授業参加を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	化学の歴史的背景を踏まえ、化学の基本法則や原子の構成について解説する。
2	原子軌道	原子軌道のエネルギー準位や多電子原子の構成原理について解説する。
3	元素と周期律	元素の周期性、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度などについて解説する。
4	共有結合と分子軌道	共有結合の形成、分子軌道のエネルギー、結合と結合などについて解説する。
5	分子の形と混成軌道	メタン、エチレン、アセチレンの形と混成軌道について解説する。
6	種々の化学結合（1）	ファンデルワールス力、配位結合、水素結合などについて解説する。
7	種々の化学結合（2）	金属結合と金属結晶、イオン結合とイオン結晶などについて解説する。
8	物質の三態	理想気体の状態方程式、実在気体、蒸気圧曲線などについて解説する。
9	混合物の状態変化	濃度、ドルトンの分圧の法則、蒸気圧降下、浸透圧などについて解説する。
10	化学反応（1）	酸・塩基反応について解説する。
11	化学反応（2）	酸化還元反応について解説する。
12	有機化学の基礎	飽和炭化水素、不飽和炭化水素、IUPAC命名法などについて解説する。
13	立体化学	立体構造の表示法、構造異性体、立体異性体などについて解説する。
14	低分子有機化合物	官能基、アルコール化合物、カルボン酸化合物などについて解説する。
15	学習のまとめ	これまで学習してきた内容の総括を行う。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生物学				
担当者氏名	石井 禎基				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

講義全体をとおして、生物に共通する原理や生命活動を支えるしくみを理解できるように、「エネルギー」、「情報伝達」、「システム」をキーワードにして概説していく。

《授業の到達目標》

この生物学の講義の各テーマを自分なりに自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。また、生物学はただ単に生物に関する学問でなく、現代の社会背景を考える一助となる学問である。そのため、この講義が新聞記事やテレビ番組などのさまざまな内容をより深く理解する手助けとなることを期待する。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト（70%）と平常点（30%）により評価する。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 南雲保 編集（羊土社）
 フォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

《参考図書》

ケイン生物学 石川統 監訳（東京化学同人）
 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田勝 著（羊土社）
 理系総合のための生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 編集（羊土社）
 エッセンシャル細胞生物学 中山桂子・松原謙一 監訳（南江堂）
 ヒューマン・イマジネーション 坂井建雄・岡田隆夫 監訳（医学書院）

《授業時間外学習》

生物学の用語とその定義を理解し、その用語を利用しながら生物学の事象を自分の言葉で説明できるように復習をする。

《備考》

常に考えながら講義を聴くこと。大切だと思うところはメモをとること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物学について	生物学におけるものの考え方と生物学の階層構造について。
2	生物とは	生命の歴史の概観、生物の分類体系、生物の共通する特徴など。
3	生命系の化学的構成部品	生物は、共通する基本的な物質からできている。
4	細胞膜と浸透圧	生命の基本単位である細胞をを形作る細胞膜の特性と細胞に作用する物理的現象について。
5	細胞内外への物質の出入り	細胞は、細胞膜を通して必要な物質を取り入れ不必要なものを排出する。また、産生した物質を分泌する。
6	生物・環境間のエネルギーの流れ	生態系においてエネルギーと物質は循環している。
7	代謝・酵素・共役反応	生命活動におけるエネルギーの受け渡しはどうやって行われるのか。
8	細胞内のエネルギーの流れ	細胞内でエネルギーはどのような形で利用されるのか。
9	細胞間の情報伝達	多細胞生物は、細胞どうし互いに連絡をとっている。
10	細胞内の情報伝達	他の細胞から送られた情報が細胞内でどのように伝達されるのか。
11	遺伝情報	子孫に伝えられる特徴の情報とは何か。
12	遺伝情報の伝達	遺伝情報はどのように伝達されるのか。
13	運動のシステム	運動は、骨・関節と神経と筋肉の働きで起こる。
14	生体内環境維持のシステム	ヒトの内部環境の変動は小さい。
15	身体を守るシステム	生物は、外からの侵入者や自分でないものに対して防御する。

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明：食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《テキスト》

「食生活論 第3版」福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考図書》

「食生活論」遠藤金次他編（南江堂）「健康と食生活 改訂版」吉田勉編（学文社）「私たちの食と健康」吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（初級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

ビジネスシーンや日常生活に即した各テーマに応じた内容のリスニング問題、リーディング問題を解く。全ての基本である文法事項に関しては毎回学習し、必要に応じて英語における音声変化も確認しながら、実用的な英語運用に結びつく知識や技術を身につけたい。

《テキスト》

妻鳥千鶴子（他）著、First Time Trainer for the TOEIC TEST
(Cengage Learning)

《参考図書》

《授業の到達目標》

TOEICの問題形式に慣れること、スコア400を取ることを目標とする

《授業時間外学習》

次回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《成績評価の方法》

平常点30%、毎回の講義後に実施する小テスト30%、定期試験40%

《備考》

毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	Pre-Test
2	UNIT 1 : Shopping	Part 1, Part 5, Part 6 の演習
3	UNIT 2 : Office Routine	Part 2, Part 5, Part 7 (Single passage)の 演習
4	UNIT 3 : Eating out	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
5	UNIT 4 : Conferences	Part 4, Part 5, Part 6 の演習
6	UNIT 5 : Travel	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
7	UNIT 6 : Personnel	Part 2, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
8	Review	UNIT 1～UNIT 6 の復習
9	UNIT 7 : Customer Service	Part 3, Part 5, Part 6 の演習
10	UNIT 8 : Education	Part 4, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
11	UNIT 9 : Finances	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
12	UNIT 10:Household Routine	Part 2, Part 5, Part 6 の演習
13	UNIT 11:Office Management	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
14	UNIT 12 : Health	Part 4, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
15	Review	Post-Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（中級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

ビジネスシーンや日常生活など、身近な話題に即した各テーマを取り上げ、その内容に応じたリスニング問題、リーディング問題の演習・解説を行うことによって、各パートの問題へのアプローチの仕方、各パートの効率的な解き方を身につける。実用英語（初級）での学習内容、または、それに相当する知識を基に、さらに進んだ語彙力の増強、文法事項の理解の定着をはかる。

《授業の到達目標》

TOEICの問題形式に慣れ、授業で身につけた語彙力・文法力をベースに、スコア500～600を取ることを目標にする

《成績評価の方法》

平常点30%、毎回の講義後に提出する提出物30%、定期試験40%

《テキスト》

吉田佳代（他）著、実生活で役立つTOEIC® テストリスニング（成美堂） 数越知子/Braven Smillie 著、TOEIC® テスト・リーディング集中演習（金星堂）

《参考図書》

《授業時間外学習》

今回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《備考》

毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Listening / Reading対策	Listening対策 (Unit 1) / Reading (Unit 1:短文穴埋め問題の攻略 語彙の問題に慣れよう)
2	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 2) / Reading (Unit 2 & 15:短文穴埋め問題の攻略 品詞 & 読解問題の攻略 タイトルと設問を先読みしてポイントをおさえよう)
3	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 3 & 4) / Reading (Unit 3 & 16:短文穴埋め問題の攻略 主語と一致する動詞 & 読解問題の攻略 設問の種類を分析しよう)
4	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 5) / Reading (Unit 4 & 17:短文穴埋め問題の攻略 時制や仮定法の問題に慣れよう & 読解問題の攻略 語句の言い換えに注意して答えを選ぼう)
5	Listening / Reading (Part 6対策)	Listening (Unit 6 & 7) / Reading (Unit 11: 長文穴埋め問題の攻略 文章の流れを理解しよう (1) 時制)
6	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 8) / Reading (Unit 5 & 18:短文穴埋め問題の攻略 自動詞・他動詞・使役動詞 & 読解問題の攻略 背景知識を使って答えを探そうEメール・手紙)
7	Listening / Reading (Part 6対策)	Listening (Unit 9 & 10) / Reading (Unit 12:長文穴埋め問題の攻略 文章の流れを理解しよう (2) 代名詞)
8	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 11) / Reading (Unit 6 & 19:短文穴埋め問題の攻略 不定詞・動名詞・分詞に慣れよう & 読解問題の攻略 背景知識を使って答えを探そう 求人広告)
9	Listening / Reading (Part 7 対策)	Listening (Unit 12 & 13) / Reading (Unit 20:読解問題の攻略 まとめ)
10	Listening / Reading (Part 5 & 6対策)	Listening (Unit 14) / Reading (Unit 7 & 13:短文穴埋め問題の攻略 比較・関係詞の問題 & 長文穴埋め問題の攻略 文章の流れを理解しよう(3)つなぎ言葉)
11	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 15 & 16) / Reading (Unit 8 & 21:短文穴埋め問題の攻略 前置詞・接続詞の問題 & 読解問題の攻略 2つの文書のトピックと関連性を把握しよう(1))
12	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 17) / Reading (Unit 9 & 22:短文穴埋め問題の攻略 名詞・冠詞・数量詞の問題 & 読解問題の攻略 2つの文書のトピックと関連性を把握しよう(2))
13	Listening / Reading (Part 7 対策)	Listening (Unit 18 & 19) / Reading (Unit 23:読解問題の攻略 2つの文書のトピックと関連性を把握しよう(3))
14	Listening / Reading (Part 5,6 & 7 対策)	Listening (Unit 20) / Reading (Unit 10, 14 & 24 短文穴埋め問題の攻略まとめ、長文穴埋め問題の攻略まとめ & 読解問題の攻略まとめ)
15	Review	Review Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（初級）				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（中級）				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語 の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
会話 簡単な日常会話ができる。
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度20%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）				
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・ 期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利 他編著 小学館、2004年
- 『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
- 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音 基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音 子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音 子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音 二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音 子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えろと意味)について勉強する。
6	文化項目(1)：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(합니체)、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	～です・ですかの(해요체)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。 自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	韓国語（中級）				
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
- 『パスポート朝鮮語小事典』 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
- 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞)について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。
 健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《授業時間外学習》

<予習方法>
 下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法>
 学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) 『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) 『からだの「仕組み」のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
 小テスト（20%）各分野の学習後に課すレポート課題（60%）平常点（20%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	1年 期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自1日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	10週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しよう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
15	学習	学習のまとめ

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》

<予習方法> シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法>
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	森本 次郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら体験的に「キャリアデザイン」を学ぶ。

《テキスト》

寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房、2012年

《参考図書》

講義中適宜指示する

《授業の到達目標》

自分自身やキャリアについて様々なワークを通じて学ぶことにより、有意義な大学生活を過ごすための力や、将来のキャリアを考える力を身につける。

《授業時間外学習》

予習については、テキストのねらい・予備知識の部分をシラバスの進行に合わせて事前に読んでおく。
 復習については、毎回の授業の課題等を整理し、文書化して自身のキャリアデザイン・就職活動に活用できるようにまとめる。

《成績評価の方法》

平常点（受講態度等） 50%、毎回実施するレポート 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のねらい
2	自分のキャリアを考える	大学時代のキャリア形成
3	自分のキャリアを考える	かなえたい夢について考える
4	自己理解を深める	現在の自己の全体像を知る
5	自己理解を深める	自我状態を知る
6	自己理解を深める	自分の性格を知る
7	自己理解を深める	歩んできた道を振り返る
8	自己理解を深める	将来像を考える
9	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
10	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
11	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
12	社会人基礎力を身につける	社会で求められる能力を知る
13	社会人基礎力を身につける	論理的思考（ロジカルシンキング）を身につける
14	社会人基礎力を身につける	創造的思考（クリエイティブシンキング）を身につける
15	まとめ	自己理解をまとめる

平成 23 ~ 22 (2011 ~ 2010) 年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成23年度(2011年度)入学者対象

()は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		健康運動実践指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成25年度の担当者	ページ	
			必修	選択		養護	保健体育	保健	1年	2年	3年	4年			
基礎科目	日本語(読解と表現)	演習	2						2						
	英語	演習	2						2						
	コンピュータ演習	演習	2						2						
	生物基礎	講義		2					2						
	化学基礎	講義		2					2						
人文系	宗教と人生	講義	2						2						
	生命倫理学	講義	2										[浅沼 光樹]	56	
	生涯発達心理学	講義	2										森田 義宏	57	
	哲学	講義	2										[三浦 摩美]	58	
	文学	講義	2										(安井 重雄)	59	
	芸術	講義	2										[柳楽 節子]	60	
	芸術	講義	2										[岩見 健二]	61	
	心理学	講義	2										(北島 律之)	62	
	宗教と文化(仏教)	講義	2										(本多 彩)	63	
	宗教と文化(キリスト教)	講義	2										[塚本 潤一]	64	
	宗教と文化(イスラム教)	講義	2										[重親 知左子]	65	
	生活とデザイン	講義	2										(稲富 恭)	66	
	色彩学	講義	2										[浜島 成嘉]	67	
	音楽表現	演習	2										未定	68	
	アメリカ文学	講義	2										平本 幸治	69	
	論説と評論	講義	2										(安井 重雄)	70	
	歴史学	講義	2										(金子 哲)	71	
	日本語表現法	演習	2										[野田 直恵]	72	
	社会系	法と社会	講義	2										[國友 順市]	73
日本国憲法		講義	2										[笹田 哲男]	74	
人権の歴史		講義	2										[西脇 修]	75	
政治学		講義	2										(斎藤 正寿)	76	
国際関係論		講義	2										(斎藤 正寿)	77	
社会学		講義	2										(吉原 恵子)	78	
ジェンダー論		講義	2										(吉原 恵子)	79	
経済学		講義	2										(石原 敬子)	80	
自然科学系	数学	講義	2										不開講		
	物理学	講義	2										(湯瀬 晶文)	81	
	化学	講義	2										[薬師寺 大二]	82	
	生物学	講義	2										[石井 禎基]	83	
	食と健康	講義	2										(亀谷 小枝)	84	
言語学系	英語	演習	2										[Michael. H. FOX]	85	
	英語	演習	2										[Michael. H. FOX]	86	
	英語	演習	2										[Michael. H. FOX]	87	
	フランス語	演習	2										[本多 雄一郎]	88	
	フランス語	演習	2										[本多 雄一郎]	89	
	ドイツ語	演習	2										[竹内 節]	90	
	ドイツ語	演習	2										[竹内 節]	91	
	中国語	演習	2										[佟 曉寧]	92	
	中国語	演習	2										[佟 曉寧]	93	
	韓国語	演習	2										[高 秀美]	94	
韓国語	演習	2										[高 秀美]	95		
体育系	健康・スポーツ科学(講義)	講義	2										三宅 一郎	96	
	健康・スポーツ科学(講義)	講義	2										徳田 泰伸	97	
	健康・スポーツ科学(演習)	演習	2										三宅一・徳田・矢野	98	
	健康・スポーツ科学(演習)	演習	2										三宅一・徳田・樽本・矢野	99	
キャリア系	特別講義	講義	2												
	私のためのキャリア設計	講義	2										[森本 次郎]	100	
	就職基礎能力	講義	2										不開講		
	就職基礎能力	講義	2										不開講		

は健康運動実践指導者養成科目

は養護教諭免許必修科目

は保健体育免許必修科目

は保健免許必修科目

基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修(卒業要件)

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

業 科 目 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		健康 運動 実践 指導者	教員免許関係			学年配当 (数字は週当たり授業時間)				平成25年度の 担 当 者	ペー ジ	
			必修	選択		養護	保健 体育	保健	1年	2年	3年	4年			
基 礎 科 目	日本語（読解と表現）	演習	2						2						
	英語	演習	2						2						
	コンピュータ演習	演習	2						2						
	生物基礎	講義		2					2						
	化学基礎	講義		2					2						
教 育 系	宗教と人生	講義	2						2						
	生命倫理学	講義	2										[浅沼 光樹]	56	
	哲学	講義	2										[三浦 摩美]	58	
	文学	講義	2										(安井 重雄)	59	
	芸術	講義	2										[柳楽 節子]	60	
	芸術	講義	2										[岩見 健二]	61	
	心理学	講義	2										(北島 律之)	62	
	宗教と文化（仏教）	講義	2										(本多彩)	63	
	宗教と文化（キリスト教）	講義	2										[塚本 潤一]	64	
	宗教と文化（イスラム教）	講義	2										[重親 知左子]	65	
	生活とデザイン	講義	2										(稲富 恭)	66	
	色彩学	講義	2										[浜島 成嘉]	67	
	音楽表現	演習	2										未定	68	
	アメリカ文学	講義	2										平本 幸治	69	
	論説と評論	講義	2										(安井 重雄)	70	
	歴史学	講義	2										(金子 哲)	71	
	日本語表現法	演習	2										[野田 直恵]	72	
	社 会 系	法と社会	講義	2										[國友 順市]	73
		日本国憲法	講義	2										[笹田 哲男]	74
		人権の歴史	講義	2										[西脇 修]	75
政治学		講義	2										(斎藤 正寿)	76	
国際関係論		講義	2										(斎藤 正寿)	77	
社会学		講義	2										(吉原 恵子)	78	
ジェンダー論		講義	2										(吉原 恵子)	79	
経済学		講義	2										(石原 敬子)	80	
自 然 科 学 系		数学	講義	2										不開講	
		物理学	講義	2										(湯瀬 晶文)	81
	化学	講義	2										[薬師寺 大二]	82	
	生物学	講義	2										[石井 禎基]	83	
	食と健康	講義	2										(亀谷 小枝)	84	
語 学 系	英語	演習	2										[Michael. H. FOX]	85	
	英語	演習	2										[Michael. H. FOX]	86	
	英語	演習	2										[Michael. H. FOX]	87	
	フランス語	演習	2										[本多 雄一郎]	88	
	フランス語	演習	2										[本多 雄一郎]	89	
	ドイツ語	演習	2										[竹内 節]	90	
	ドイツ語	演習	2										[竹内 節]	91	
	中国語	演習	2										[佟 曉寧]	92	
	中国語	演習	2										[佟 曉寧]	93	
	韓国語	演習	2										[高 秀美]	94	
韓国語	演習	2										[高 秀美]	95		
体 育 系	健康・スポーツ科学（講義）	講義	2										三宅 一郎	96	
	健康・スポーツ科学（講義）	講義	2										徳田 泰伸	97	
	健康・スポーツ科学（演習）	演習	2										三宅一・徳田・矢野	98	
	健康・スポーツ科学（演習）	演習	2										三宅一・徳田・樽本・矢野	99	
キ ャ リ ア 系	特別講義	講義	2												
	私のためのキャリア設計	講義	2										[森本 次郎]	100	
	就職基礎能力	講義	2										不開講		
	就職基礎能力	講義	2										不開講		

は健康運動実践指導者養成科目

は養護教諭免許必修科目

は保健体育免許必修科目

は保健免許必修科目

基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方をえざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考図書》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011
 『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で視聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

(1) 毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。(80%)
 (内訳：記述形式 40%、記述内容40%) (2) 定期試験 (20%)

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

科目名	生涯発達心理学				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

発達とは何か、生涯発達とは何かについて考える。発達に及ぼす生得性と環境に影響やその重要性について学ぶ。乳児期から老年期までの各発達段階ごとの認知的・社会的特徴や発達課題や段階特有の問題やその対処などについて学ぶ

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

- * 発達・生涯発達とはなにか、について説明できる
- * 発達心理学で用いられる基礎的な用語や概念について説明できる
- * 発達におよぼす遺伝や環境の要因について説明できる

《授業時間外学習》

授業内容を復習しておく・・・次回授業での内容・用語についての質問に答えられるようにしておく

《成績評価の方法》

試験 100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション生涯発達心理学とは	オリエンテーション 発達の概念 発達の原理 発達観の変遷
2	発達と環境が発達に及ぼす影響	遺伝と環境 野生児の記録 家系研究 双生児研究 親の養育態度
3	乳児期の心理 1	乳児期の認知 感覚運動的知能 脱馴化 愛着 基本的信頼感/不信
4	幼児期の心理 1	幼児の認知 前概念思考期 直観的思考期 象徴機能 3項関係 心の理論ことばの獲得
5	幼児期の心理 2	社会性の発達 遊びの発達 自律性/恥・疑惑 主導性/罪悪感
6	児童期の心理 1	児童期の認知発達 具体操作期 クラスの概念 脱中心化 勤勉性/.等感
7	児童期の心理 2	ギャング集団 道徳性の発達 向社会的行動の発達 学校ストレス 心身症
8	青年期の心理 1	過渡期 文化相対論 自我の覚醒 自主自律の要求 異議申し立て 精神的離乳
9	青年期の心理 2	第 2 反抗期 脱衛星化 感情の論理 理想主義 自己主張・自己顕示
10	青年期の心理 3 成人期の心理 1	自我・一性の確立 再衛星化 職業への準備 恋愛と結婚 青年から成人へ仕事と家庭
11	成人期の心理 2	一家を構える 親意識 仕事における自己拡大 仕事と家庭 親密性/孤立 愛
12	中年期の心理 1	個性化 第 2 の人生 生活の再構造化 体力・性的能力・人間関係・思考の危機
13	中年期の心理 2	生殖性/停滞 世話 更年期 自殺 夫婦の危機 子どもの成長と独立
14	老年期の心理 1	加齢と老化 統.性/絶望 英知 高齢者のパーソナリティ
15	老年期の心理 2 まとめ	引退の危機 健康の危機 死の危機 サクセスフルエイジング

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

哲学の主要テーマである「真理」と「知識」の問題についてどのような哲学的議論があるか概説し、哲学的思考の特徴を理解できるようにする。それを基に、哲学上の自然主義と反自然主義の各立場が知識と言語、言語と行為、意志と行為、心身問題といったテーマにおいてどのように展開されているかについて考察する。併せて個人と社会（社会哲学）、実存の問題についても若干の考察を試みたい。

《授業の到達目標》

「哲学」とはどのような営みであるかについて理解できるようにする。人間が持ち得る「知識」の成り立ちについて、分析的に把握できるようにする。心身問題について理解できるようにする。個人と社会、公共の利益と社会契約という視座について理解できるようにする。個人の実存とコミュニケーションの成立に関して、客観的な視座を持てるようになる。

《成績評価の方法》

平常の課題レポート（60%）および学期末のレポート（40%）で評価する。

《テキスト》

門脇俊介著『現代哲学』産業図書

《参考図書》

授業中に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・テキストの予習と復習を通して、哲学論文の要旨を読解できるよう練習する。
- ・授業で紹介する哲学者の思想について復習するとともに、参考図書や各哲学者の著作に触れてみることで理解を深めるように努める。

《備考》

- ・提出するレポートは必ずホッチキス止めをすること。
- ・その他受講上必要な注意事項については、最初の授業およびその都度授業内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	～哲学への誘い～ 哲学とは何か	授業進行のためのガイダンス 「哲学」の開始、古代自然哲学から近代の知識論へ
2	「知識」に関する自然主義と反自然主義の問題	人間が何かについて「知る」ということについての2つの異なる態度について
3	「知識」とは何か	「知識」とは何であり、どのようにして成立するのかについて
4	「知識」の2つのあり方	ア・プリオリな知識とア・ポステリオリな知識について
5	「信念」の正当化と知識	「信念」の正当化に関する異なる立場、心理主義と規約主義について
6	「知識」はどこに成立するのか	実在論と観念論の対立
7	「信念」はいかにして正当化されるのか	基礎づけ主義と整合説の対立
8	「知識」と「言語」の問題	「真理」と「知識」の基盤としての言葉の意味の由来、要素還元主義について
9	「言語」と「行為」の問題	言語規則と言語行為論について
10	「知識」はどこに成立するのか	知識論と心身問題
11	心身問題の異なる立場	随伴現象説、同一説および機能主義について
12	「意志」と「行為」の問題	行為の因果説と反因果説について
13	社会と哲学の問題	自由意志と一般意志について
14	社会と哲学の問題	一般意志と社会契約説について
15	個人の実存の問題 まとめ	コミュニケーションと正当化の問題および人間の現実存在（実存）の問題について

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、事実を超えてさまざまな世界を構築し、そこに触れる人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学及び現代小説を取り上げるが、各作品における言葉の持つ面白さや意味について考え、また作品のテーマについても考察する。

《テキスト》

毎回、作品の一部をコピーして配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

さまざまな文学作品に接して、それらの言葉を読み解き、作品のテーマについて考えることで、言葉というものについての理解を深める。またそのことにより、現代社会を生きていく上で参考となる、言葉によって表現された多様な価値観について自ら考える力を身につける。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業時の意見文やレポートなどを提出することによる平常点（30%）、及び、定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方とその生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	源氏の武将たちの戦い方と生き方について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らの生き方と死に方について考え、また『平家物語』のテーマである無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
6	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてふりかえり、言葉について考える。

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物の資料をはじめ、視聴覚資料を多く提示し、受講生がこれまで気付かなかった日本美術の面白さを発見する手がかりとなる授業をめざします。

《授業の到達目標》

日常生活にある行事や習慣のなかに日本の美を見出すことができる。日本の文化について広く関心を持ち、自ら学ぶことができる。芸術全般を楽しむことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの提出（100%）により評価します。

《テキスト》

なし。

《参考図書》

『日本美術の特質』矢代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示します。

《備考》

レポートの作成と提出の要領については、12月中旬の授業時に連絡する予定です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介 授業内容説明	教員の版画制作の経験と日本美術との関連性について聞くとともに、講義の今後のありかたについての説明を理解する。
2	現代の美術作家紹介-1	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
3	現代の美術作家紹介-2	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
4	現代の美術作家紹介-3	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
5	現代の美術作家紹介-4	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
6	日本の信仰	自然崇拜 神道 仏教が美術に及ぼした影響を知り、日常生活にあるしきたりや習慣のなかにある日本の美を発見することができる。
7	仏教美術-1	仏教伝来から天平時代までの仏像を中心に鑑賞し、中国から朝鮮を経て日本に伝えられた仏像が、日本に定着していく過程の変化と魅力を感じ取ることができる。
8	仏教美術-2	平安時代の密教と鎌倉時代の禅宗について知り、それぞれに大きく異なる仏教信仰のありかたと、美術への表れを、鑑賞から感じ取ることができる。
9	日本の美術-1	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。曼陀羅 倭絵 水墨画
10	日本の美術-2	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。画卷
11	日本の美術-3	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。狩野派 等伯
12	日本の美術-4	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。琳派
13	日本の美術-5	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。奇想の絵師
14	日本の美術-6	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。浮世絵
15	日本の美術-7	日本美術の特質について、そのいくつかをイメージすることができる。

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

・課題レポート（100%）

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し客死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代 ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス 印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派 現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%レポート・小テストなど10%受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
 (とても詳しく、心理学全般の内容が記載されています)

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
 ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章 §1～9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第1章 §1～2, §6～7》
3	覚えているって、どういつこと？(記憶)	記憶のプロセス、記憶にまつわるいくつかの事象。《第3章 §4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第2章 §5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	私たちが欲するものを分類。《第2章 §1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第2章 §2～4》
8	君って、どんな人？(性格)	性格についての心理学の見方。《第4章 §1, 第5章》
9	君って、どんな人？(性格)	質問紙による性格検査の実施。《第4章 §1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観。《第4章 §2～3》
11	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質。《第6章 §1～2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果。《第6章 §4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第5章 §4, 第8章》
14	これまで何を学んだか？(振りかえり)	これまでの内容の振りかえり。
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

科目名	宗教と文化 (仏教)				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解) 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合) 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度(生涯学習力) 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる(専門的知識)				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
 現代仏教についての理解をめざす
 仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
 浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約30%
 定期テスト 約40%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

科目名	宗教と文化（キリスト教）				
担当者氏名	塚本 潤一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《授業の概要》

なぜ人間は対立するのか、なぜ国際社会は緊張状態が続くのか。それはこの世界が多様な価値観に満ちているにも関わらず、それを知らず、受け止めようとしなからである。まず多様な価値観を理解し、相手を受け入れるところから、共存関係は始まる。本講義では、キリスト教について学ぶ。そしてキリスト教が本来内包していたはずの、異なった価値観の人々を受け入れる視点を、講義を通して身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

- *キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。
- *キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に配布するレポート用紙を用いて、次回の講義に提出する復習レポート（60%）、および期末レポート（40%）を合算して評価する。
- *授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切です。

《テキスト》

プリント（毎授業ごとに配布する）

《参考図書》

- 『よくわかるキリスト教』土井かおる著（PHP研究所）2004、
- 『不思議なキリスト教』橋爪大三郎×大澤真幸（講談社現代新書）2011、
- 『キリスト教との出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、
- 『旧約聖書に強くなる本改訂新版』浅見定雄著（日本キリスト教団出版局）2010

《授業時間外学習》

- *その日の復習レポートをまとめ、次回の授業に提出する。（レポート用紙は授業ごとに配布する）
- *日頃からキリスト教の正典である聖書を読んでおく。
- *配布する資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。ビデオを使って、世界の諸問題およびキリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	世界の「今」を知る	この世界にはさまざまな問題がひしめいている。人口問題、環境問題、水・食糧問題、貧困と格差、民族間・宗教観対立など、世界の「今」を知る。
3	中東問題をひもとく	一向に解決のきざしの見えてこない中東問題。特に、パレスチナ・イスラエル問題を三千年以上にわたる歴史をひもときながら解決の糸口を探る。
4	旧約聖書を学ぶ（1）	奴隷で始まり、奴隷に終わってしまった旧約聖書の悲しみの歴史を学ぶ。力と富による繁栄は一瞬で過ぎ去り、すべてを失ってしまったことを学ぶ。
5	旧約聖書を学ぶ（2）	力と富をひたすら求めてきた旧約聖書の民は、すべてを失った時に、大きな価値観の転換を迫られる。自分たちが本当に求めるべきものはなにであったのか？
6	旧約聖書を学ぶ（3）	力と富ではなく、神の言葉が必要であると気づいた民に、神は「救い主」を送ることを約束する。「救い主」とは何なのか、その驚きのイメージを学ぶ。
7	新約聖書を学ぶ（1）	今から二千年前に一人の人が生まれた。その名は「イエス」。30年あまりの短い生涯であったが、その存在は世界を動かすことになった。その生涯を学ぶ。
8	新約聖書を学ぶ（2）	イエスの言葉、行い、他者との関わりについて学び、その独創性に触れる。そしてイエスの伝えなかった「愛」「罪の赦し」について考える。
9	新約聖書を学ぶ（3）	イエスはたった一年の活動で、逮捕され、無実であったにもかかわらず、十字架刑という死刑で息を引き取る。なぜイエスは殺されなければならなかったのかを探る。
10	キリスト教の成立	十字架の上で死んだイエスは復活し、その愛は時を越え普遍的なものとなった。こうして、旧約聖書の「救い主」とは、イエスであったと受け止めるキリスト教が成立する。
11	ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の関係を知る	現代において対立関係にあるように見えるユダヤ教、イスラム教、キリスト教が、実は同じ旧約聖書を正典とする親戚関係にあることを学ぶ。
12	キリスト教の諸教派について学ぶ	キリスト教の成立以降、ローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタント教会と様々な教派が生まれてきた。それらを見渡し、整理していく。
13	キリスト教の歴史の光と影	キリスト教の二千年間の歴史は、素晴らしい光の側面があり、同時に世界に様々な影を落としてきた。その功罪を歴史的に振り返る。
14	対立を乗り越えるために	文明は衝突したままなのか、諸宗教は対立を続け、常に国際関係は緊張状態を続けるのか。対立を乗り越え、世界が共存関係を築くためには何が必要なのか、共に考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。また国際理解をどのように深めていけばよいのか整理する。

科目名	宗教と文化（イスラム教）				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

世界におけるムスリム（イスラム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラムの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラムに関心を持ち、激動期に入ったイスラムをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラムに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面からイスラムと民主主義の関係について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の交流を歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考図書》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/
 河田尚子『イスラムと女性』国書刊行会、2011/
 小杉泰・長岡慎介『イスラムを知る12 イスラム銀行金融と国際経済』山川出版社、2010/
 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003/
 レザー・アスラン『変わるイスラム 源流・進展・未来』藤原書店、2009

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムとの接点を持つ（例：モスクの見学）。

《備考》

- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	生活とデザイン				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

我々の生活は携帯電話から超高層ビルに至るまで、たくさんの「もの」に取り囲まれています。それらは実用的価値を満たすだけでなく、社会的価値、美的価値が反映された、価値観の総体として捉える事ができます。本講義では、このような身の回りのデザインと価値との関連について多面的に考察します。

《授業の到達目標》

デザイン一般に関する基礎知識を身につける。
 デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。
 デザインが生活における価値観の反映である事を理解する。

《成績評価の方法》

授業中に毎回実施するレポート(70%)、及び、学期末に実施する学期末レポート(30%)によって評価します。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になります。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考図書》

- ・ 以下のような文献が授業の理解を深めます。
- ・ 『世界デザイン史』阿部 公正、美術出版社,1995
- ・ 『近代椅子学事始』島崎 信、ワールドフォトプレス,2002
- ・ 『20世紀ファッションの文化史』成実 弘至、河出書房新社,2007

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査しておいてください。
- ・ 復習の方法:授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作して下さい。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めません。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デザインとは何か	実用品と贅沢品と芸術作品について(ガイダンス)
2	建築のかたちは何によって決まるか	住宅と家族の生活の関わり
3	携帯電話デザインの変遷	携帯電話のデザインにみるマーケティング手法
4	材料と椅子のデザイン	椅子のデザインを通じて考える材料・技術の発展
5	デザインと地域性	北欧デザインにみるデザインと社会体制の関連
6	デザインの歴史(1)	クラシックなデザインの系譜(ギリシア・ローマ期からゴシックの様式)
7	デザインの歴史(2)	科学技術の発展を背景としたデザインの変化(ルネサンスから新古典様式)
8	デザインの歴史(3)	社会の変化とデザインの関わり(アーツ・アンド・クラフツからモダニズム)
9	映像の構成方法	映画・ドラマにみる映像作品の構造と文法
10	自動車の発展とデザイン	自動車デザインの歴史とパラダイムシフト
11	近代以降のファッションの歴史	20世紀ファッションの系譜と大衆化現象
12	都市のデザインと思想	世界の都市における都市形態の決定要因
13	和風デザインの系譜	懐石料理と茶室の背景
14	授業のまとめ	デザインと価値観の関わりについて
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーションと講評

科目名	色彩学				
担当者氏名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解)				

《授業の概要》

私達の生活は色に囲まれた色彩化の時代となり、衣・食・住など生活環境はカラフルになっている。色は用い方を間違えると視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどのような影響を与えるのか解説する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『生活と色彩』(朝倉書店)

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を理論だけでなく「色」でも理解しなければ、色彩学を理解した事にはならない。色彩理論の理解だけでなく、色で活用し応用する事ができなければ、その理論の知識は全く意味の無いものになってしまいます。理論を色でも理解することがポイントです。

《授業時間外学習》

「非常出口」の表示はベース(地色)のが白と緑色の2種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛らしい色はどのような色が注意して見ておくこと。

《成績評価の方法》

小テスト(50点)、カラーリング課題(50点)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。
3	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。
4	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
5	「衣」(ファッション)の色彩	各シーズン(春、夏、秋、冬)に発表される流行色はどのようにつくられるのかについて解説する。
6	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
7	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
8	配色調和(2)	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
9	配色調和(1)	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故そのような現象が起こるのか考える。
11	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どのような色調がどのようなイメージ表現できるのかを学ぶ。
12	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
13	色彩体系(カラーシステム)	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
14	色の感情効果(2)	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
15	色の感情効果(1)	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相がもっている、色の感情効果について。

科目名	音楽表現				
担当者氏名	田中 敬子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

音楽の3大要素のリズム・メロディー・ハーモニーのうち、まず音符が読めなくてもできるリズムから授業を始めます。リズムアンサンブル、ボディパーカッション、ボイスパーカッションでリズムで表現できる様々な音楽活動を行います。単旋律の活動としてハンドベル、カウベル、トーンチャイムなどのアンサンブルをします。最終的にはハーモニーをつけてのアンサンブルを行います。

《授業の到達目標》

さまざまなリズムが理解できるようになる。
共同活動を通して、自分の役割を理解できるようになる。
アンサンブルを行うことで、より深く音を聞くようになる。
アンサンブルの音楽活動の楽しさを知る。
自らアレンジすることができるようになる。

《成績評価の方法》

授業態度30%（座席指定。積極的な授業参加を評価）。
授業中に実施の学期末発表50%（定期試験は実施しない）。学期末発表は全員の前での実技発表（個人発表、グループ発表など任意）
レポート20%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽表現』授業内容の説明と実践	シラバスを用いての詳細説明。リズムについての説明と簡易なアンケート調査。
2	リズムでアンサンブル	2グループによるリズムアンサンブル。リズム打ち+リズム打ち、ピアノとリズム打ち、歌唱とリズム打ち、等
3	リズムでアンサンブル	3～4グループによるリズムアンサンブル。「釣られたら負けよ」勝ち抜き合戦。
4	ボディパーカッション	初級ボディパーカッション～中級ボディパーカッション
5	ボディパーカッション	上級ボディパーカッション。創作してみよう。
6	ボイスパーカッション	ボイスパーカッションのみのアンサンブル。ボイスパーカッション+ボディパーカッション。
7	アルプスの楽器	カウベル、木のスプーンの楽器紹介。カウベルアンサンブル。カウベル1人演奏。アルプスの曲を演奏しよう。
8	ハンドベル	ハンドベルの楽器紹介。ハンドベルで楽曲を演奏するまでの準備について。ハンドベルアンサンブル。
9	ハンドベルの復習 トーンチャイム	ハンドベルの復習。トーンチャイムの楽器紹介。トーンチャイムを鳴らしてみよう。
10	トーンチャイム	トーンチャイムで楽曲を演奏するまでの準備について。トーンチャイムアンサンブル。
11	トーンチャイムの復習、 学期末発表について	トーンチャイムの復習。学期末発表の構想。
12	学期末発表の練習	個人またはグループで練習。
13	学期末発表の練習	個人またはグループで練習。
14	学期末発表	全員の前で個人またはグループで実技発表。
15	総合復習とレポート提出	総まとめとレポート作成・提出。

《テキスト》

適宜プリントを配布

《参考図書》

《授業時間外学習》

原則的に予習の必要はない（必要な時のみ事前に指示する）。
毎回の授業時の実践が一番大切である。
復習については毎回の授業内容を再確認して不明な点があれば質問して下さい。

《備考》

1. 授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。2. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、特に室内は飲食厳禁、携帯電話の使用厳禁（発覚時は減点）。

科目名	アメリカ文学				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

19世紀半ば、アメリカ合衆国が文化的にも物質的にもイギリス本国やヨーロッパから独立し、新興国として世界に台頭し始めた時代、アメリカ・ルネサンス期（1830 - 60）の文学に関して考察します。この時代の思潮や文化的背景のイメージをつかむために、作家・思想家の紹介ビデオや解説を参考にしながら、実際に英文テキストを精読しアメリカ文学作品を味わってみたいと思います。

《授業の到達目標》

アメリカ・ルネサンス期に輩出した思想家・作家並びにその作品群を紹介し、異文化的なアメリカ合衆国の文化・社会の基底をなす精神性を主体的に解することができるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》

配布されるプリントの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	アメリカ文学史の概要	1776年に独立を宣言をしたアメリカ合衆国の文学史を概観します。
2	アメリカ・ルネサンスの概要	1800年代半ば多くの思想家や作家を輩出したアメリカ・ルネサンス期を概観します。
3	思想家 Emerson	Ralph Waldo Emerson (1803 - 82) の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
4	EmersonのNature	EmersonのNatureの基底をなす思想を紹介・解説します。
5	EmersonのEssays	EmersonのEssaysの中心となる概念を紹介・解説します。
6	思想家 Thoreau	Henry David Thoreau (1817 - 62) の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
7	ThoreauのWalden	ThoreauのWaldenの基底をなす思想を紹介・解説します。
8	ThoreauのCivil Disobedience	ThoreauのCivil Disobedienceの中心となる概念を紹介・解説します。
9	作家 Hawthorne	Nthaniel Hawthorne (1804 - 64) の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
10	HawthorneのThe Scarlet Letter (1)	HawthorneのThe Scarlet Letterの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
11	HawthorneのThe Scarlet Letter (2)	HawthorneのThe Scarlet Letterの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
12	作家 Melville	Herman Melville (1819 - 91) の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
13	MelvilleのMoby-Dick (1)	MelvilleのMoby-Dickの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
14	MelvilleのMoby-Dick (2)	MelvilleのMoby-Dickの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、具体的な成果を説明することができるように総括します。

科目名	論説と評論				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解）				

《授業の概要》

この授業では、新書などを中心に、現代社会におけるさまざまな問題を論じた文章を扱う。そこで述べられている多様な意見を読み、その内容を論者の立場に立って理解し、それに対して、自分たちの意見を持つように心懸ける。

《テキスト》

毎回、コピーを配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

論説文の読解力を身につけ、できるだけ論理的に物事を考え、自らの意見を持てるようにする。

《授業時間外学習》

配布したプリントを熟読し、分からない言葉は辞書を引いておくこと。

《成績評価の方法》

授業中に提出する意見文（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業方法の説明	15回の授業で取り上げる文章や、授業の流れについて説明する。
2	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、日本の伝統文化などについての評論を読む。
3	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、日本の伝統文化などについての評論を読む。
4	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、日本の伝統文化などについての評論を読む。
5	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困、競争、市場経済についての評論を読む。
6	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困、競争、市場経済についての評論を読む。
7	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困、競争、市場経済についての評論を読む。
8	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化社会についての評論を読む。
9	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化社会についての評論を読む。
10	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化社会についての評論を読む。
11	人間の身体についての評論を読む	日本人の身体とはどのようなものか、についての評論を読む。
12	人間の身体についての評論を読む	日本人の身体とはどのようなものか、についての評論を読む。
13	近代とは何かについての評論を読む	明治時代に西欧から導入された近代のさまざまな仕組みのゆがみが指摘されているが、そのことについての評論を読む。
14	近代とは何かについての評論を読む	明治時代に西欧から導入された近代のさまざまな仕組みのゆがみが指摘されているが、そのことについての評論を読む。
15	授業のまとめ	これまで読んできた評論の内容について振り返り、まとめる。

科目名	歴史学				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

歴史って、嫌だよな。奇々怪々な暗記にウンザリしたよな。あの、年表ってヤツもヤナ奴だよな。でも、安心して！ この講義じゃ、「物知り歴史」や「暗記物の歴史」は扱わないからね。覚えるんじゃないなくて、感じて欲しいんだ、「人間の変らない思考方法」を。扱う主な事象は、人間の感性が最も鮮やかになる「自由＝非日常・反秩序のアヤシゲな時空間」です。日本の前近代を多く取り扱います。

《授業の到達目標》

1. 時代・地域・文化が異なれば、全く異なる異なる思考・価値観が存在することを納得できる。2. 現代人の魂の根に、そのような思考・価値観との共通項が潜んでいることに気づき、共感することができる。3. 人間の価値感の根にある「自由」について一生をかけて考え続けて行く「シード（種）」を獲得できる。

《成績評価の方法》

学期の最後に行うペーパーテストで評価します。自筆ノート（ワープロ書き不可、コピー不可）と直接配布したレジュメ（コピー不可）の持ち込みのみ可とします。

《テキスト》

なし

《参考図書》

勝俣鎮夫『戦国時代論』 学術書だけど、読みやすくブツ飛んだ内容。ノ網野善彦『増補 無縁・公界・楽』 必読教養書。危険な内容。ノ橋爪大三郎『はじめての構造主義』 「柔らかく頭」のための基本書。ノ今村仁司『排除の構造』 頭痛に襲われたいという方へ。ノ『週間朝日百科 日本の歴史』 前衛的な内容を平易でグラフィカルに読みやすく。

《授業時間外学習》

この講義に出席するにあたっては、常識を一度捨て、柔軟な思考ができる状態になるよう、頭の柔軟運動をしてください。その際には、前回の講義をよく思い出し、反芻してください。そして、参考文献を一読してみることをお奨めします。格段に講義が理解しやすくなります。

《備考》

常識と衝突します。常識的価値観・思考で十分という方には不向きです。大学教員の責務として、最新の研究成果を反映させます。故に授業計画とは完全に一致しない場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	当該講義の目的
2	歴史の捉え方・時間のイメージ	「直進的な時間」と「循環する時間」、「西洋の時間」と「東洋の時間」。
3	歴史の見方	アナール歴史学＝社会史における、見方・考え方。
4	反秩序の場 1	「市」「盛り場」「遊郭」「悪所」「アジール（避難所）」と「聖なる場」・「性なる場」
5	反秩序の場 2	荒ぶる神仏の場＝後戸空間、下級宗教者、芸能民
6	反秩序の場 3	「辺境」「マージナル・マン」「倭寇」
7	反秩序の時	「祭」「小正月」「盆」
8	中心と周縁 1	「王と乞食」「第三項排除」「排除の構造」「均質化原理」「差異化原理」
9	中心と周縁 2	「権力」「自由」
10	自由の図像学	「絵巻物」「乞食」「市」「寺社」
11	自由からの闘争	「ナチス」「大政翼賛会」「強制収容所」「監獄国家」
12	新自由主義への批判	「交換」「互酬」「再配分」「自由主義」「ロイック＝ヴァカン」「軽犯罪法」
13	歴史は終焉するか	「フランス＝フクシマ」「中国化する日本」「宋」「市場の連鎖」「均質化原理」「差異化原理」
14	総括 1	全体を振り返る
15	総括 2	全体を振り返る

科目名	日本語表現法				
担当者氏名	野田 直恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

論文やレポートの基本的な書き方を、実践を通して身につけることが目標である。具体的には、さまざまな論文に接しながら、文体や様式・資料の収集法・資料に基づく問題の発見の仕方・論旨の展開法といったことを学び、各自でもテーマに沿った文献調査や発表という段階を踏んで論文の完成を目指す。そのほか、言語知識を深めるための課題演習も行う。本講義は「日本語（読解と表現）」の応用発展編にあたる。

《授業の到達目標》

論文やレポートの一般的なスタイルについて説明できる。
 状況に応じて用語を使い分けできる。
 基本的な手順にそって論文やレポートを作成できる。
 資料調査を通じて問題点を発見できる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内における発表等（質疑応答も含む）の内容および姿勢30%
- (2) 課題等の提出状況およびその内容20%
- (3) 定期試験（レポート試験）50%

《テキスト》

『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）小笠原喜康、講談社、2009
 その他、必要に応じてプリントも配布する。

《参考図書》

『国語表現ハンドブック 新訂版』長谷川泉他（編著）、明治書院、1986
 『ゼミ・論文発表のためのPowerPoint』富士通オフィス機器株式会社、FOM出版、2006

《授業時間外学習》

- (1) 授業時に配布する課題プリント等を指定時までには仕上げる。こと。（提出または提示を求める。）
- (2) 教科書の指定箇所や配付資料等を指定時までに通読しておくこと。（理解度確認のための小テストを課すことがある。）

《備考》

授業内容をふりかえって不明な点が出てきた場合は、遠慮なく質問してください。（授業時以外も可。メールでの質問も受け付けます。）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	論文の種類	さまざまな分野における論文のスタイルの共通点と相違点を理解する。
2	論文の鉄則	論文を書くにあたって守らねばならないことを理解する。
3	論文の構造	「第1回」で扱った論文の共通点から、それらの基本的な構造を理解する。
4	論者の視点	「第1回」で扱った論文の論者の立場で論者が問題意識を持った経緯を考え、論者が問題を把握するまでの過程を理解する。
5	論者の工夫	「第1回」で扱った論文の論者がどのように問題を論じているかを読みとり、その論者なりの問題を論じ方を理解する。
6	論文の善し悪し	さまざまな論文を読み、わかりやすい論文の特徴について理解する。
7	テーマの模索	「第5回」までの学習内容に基づき、各自の論文のテーマを模索する。
8	資料の収集	各自のテーマに基づいて必要と思われる資料を想定し、それらの入手方法を検討する。
9	資料の取捨	各自で集めた資料の要素を類別し、論の構成に必要なものと参照にとどめるものを選択吟味する。
10	構想を立てる	「第3回」・「第4回」の学習内容をふまえ、論のおおまかな展開を考えて構想を立てる。
11	全容の確認	構想に基づいて下書きを結論部分まで仕上げ、論の全体の流れを確認する。
12	論点の整理	「第5回」・「第6回」の学習内容をふまえ、論点をさらに明確にするための工夫を試みる。
13	客観性の獲得	下書きに基づいて発表を行い、質疑応答を通じて客観的に論の整合性を検討する。
14	文の推敲	下書きをいったん清書し、最終的な修正に取り組む。
15	まとめ	完成した論文を提出し、これまでの学習内容を再確認する。

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考図書》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

授業態度（40%）および定期試験による評価（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道德、法の適用
2	基本的人権	プライバシー権
3	基本的人権	表現の自由
4	基本的人権	生存権
5	基本的人権	自己決定権
6	基本的人権	信教の自由
7	基本的人権	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法	結婚・離婚、内縁
11	家族と法	親子、親権
12	家族と法	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

定期試験期間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
 差別を見抜く力を身につけましょう。
 人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
 人権感覚を豊かにしましょう。いのちとは何かを総括します。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

共生教育のすすめ 仲田 直
 これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聰
 これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聰

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます。
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考えます。
5	日本近世の身分制について	士農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられ、固定概念しての男女の様々な性差別を考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実には起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年他の参考文献は講義をすすめるながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

（1）予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。（2）復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 <small>小さな政治と大きな政治</small>	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 <small>様々なアクター・利益</small>	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 <small>政党と選挙</small>	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	国際関係論				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。

20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史 - 世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、分かった社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。
 (配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。
 (配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵(2007,有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000,日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析(1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、..と他者
3	行為の分析(2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析(3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析(4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類 社会的カテゴリー
6	行為の分析(5)予言の..成就	予言の..成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析(6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレーム
8	社会集団と秩序(1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序(2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序(3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序(4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる(1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる(2)国家と..民社会	個人と社会、..由と連帯、..民社会、共同体、私的領域と公共領域 公的領域、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	(適宜指示を行う)
15	学習の総まとめ(2)	(適宜指示を行う)

科目名	ジェンダー論				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること/男であること」の文化的・社会的側面について多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点をういながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

- (1) ジェンダーについて社会的に語るができるようになる。
- (2) 日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。
- (3) 講義のなかから、分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス/ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ/男らしさ」の形成
3	結婚・家族はどう変わったか(1)	少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
4	結婚・家族はどう変わったか(2)	男の子育て/女の子育て：ケアとジェンダー
5	結婚・家族はどう変わったか(3)	高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
6	学習のまとめとワークショップ	(適宜、学習内容を提示します)
7	女の時間/男の時間(1)	アンペイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
8	女の時間/男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
9	学習のまとめとワークショップ	(適宜、学習内容を提示します)
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
12	マスメディアとジェンダー(1)	メディアのなかの女性像/男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
13	学習のまとめとワークショップ	(適宜、学習内容を提示します)
14	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
15	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編

《参考図書》

- 『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）
- 『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編（世界思想社）
- 『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）
- 『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）
- 『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子（有斐閣）

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。(2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。(3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争の市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	物理学				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

シラバスを登録するシステムに問題があるため、詳細な内容については初回授業時に説明するが、概要は以下のとおり。

この授業では物理の考え方を知るために、簡単な例とともに、「物理学はどのようにものを見るのか」から始まり、「物理学とは何か」・「物理学の考え方とはどのようなものか」に向かって話を進める。なお、受講生の状態により内容あるいは進行方法を多少変更することもある。

《授業の到達目標》

この授業では物理学の考え方の基本を身に付け、一見複雑な現象あるいはお互いに何の関係もないように見える複数の現象の影に隠されている真理や共通性を見抜こうという姿勢を身に付けることを目標とする。とりわけいくつかの具体例において、物理学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取り組み（20%）、レポート及びペーパーテスト等（80%）により評価する予定であるが、詳細はオリエンテーションにおける履修者の意見も交えて決定する。

なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

未定

《参考図書》

シラバスを登録するシステムに問題があり、正確に登録できないため、詳細な内容については初回授業時に説明する。

《授業時間外学習》

シラバスを登録するシステムに問題があるため、詳細な内容については初回授業時に説明する。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、その中でも物理的世界観・考え方は最も幅広く強力なものの一つであり、自然科学分野の基礎となっています。ぜひ挑戦してみてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明と履修者の意見の確認、及び、評価方法の決定（大切なので履修希望者は必ず出席のこと 単位に関する意見の確認も行います）
2	物理の考え方（1）	物理学の考え方と数学の簡単な復習（1） 教学システムに問題があるため、詳細な内容については授業時に説明（以下同様）
3	総合演習（2）	これまでのまとめ
4	総合演習（1）	問題演習と実験
5	身のまわりの物理学	統計力学・熱力学、非平衡系の物理学
6	相対論	時空間4次元の世界
7	電磁気学（2）	光や波の性質について（2）
8	電磁気学（1）	光や波の性質について（1）
9	力学の初歩と基本定理（6）	簡単な例を少し数式で考える
10	力学の初歩と基本定理（5）	運動量とその保存
11	力学の初歩と基本定理（4）	加速度と運動方程式（2）
12	力学の初歩と基本定理（3）	加速度と運動方程式（1）
13	力学の初歩と基本定理（2）	力の釣り合いと慣性の法則および作用反作用の法則
14	力学の初歩と基本定理（1）	静止状態と力の計算
15	物理の考え方（2）	物理学の考え方と数学の簡単な復習（2）

科目名	化学				
担当者氏名	薬師寺 大二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

原子や分子の構造、化学結合、物質の状態、有機化学など、化学の基礎から応用までをパワーポイントを使って、視覚的にわかりやすく解説します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

- ・「新・物質科学ライブラリ1 基礎 化学」 梶原篤・金折賢二 共著（サイエンス社）
- ・「一般化学」 長島弘三・富田功 共著（裳華房）

《授業の到達目標》

生活に必要な衣服や日用品、医薬品など、我々は化学の恩恵を受けています。本講義では、化学が我々にとって必要かつ身近なものだと感じてもらい、また化学の理解を通じて科学的思考を養います。

《授業時間外学習》

授業で配布されたプリントを必ず見直し、分からなかったところは参考書を見るなどして確認してください。

《成績評価の方法》

定期試験により評価(100%)します。

《備考》

積極的な授業参加を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	化学の歴史的背景を踏まえ、化学の基本法則や原子の構成について解説する。
2	原子軌道	原子軌道のエネルギー準位や多電子原子の構成原理について解説する。
3	元素と周期律	元素の周期性、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度などについて解説する。
4	共有結合と分子軌道	共有結合の形成、分子軌道のエネルギー、結合と結合などについて解説する。
5	分子の形と混成軌道	メタン、エチレン、アセチレンの形と混成軌道について解説する。
6	種々の化学結合（1）	ファンデルワールス力、配位結合、水素結合などについて解説する。
7	種々の化学結合（2）	金属結合と金属結晶、イオン結合とイオン結晶などについて解説する。
8	物質の三態	理想気体の状態方程式、実在気体、蒸気圧曲線などについて解説する。
9	混合物の状態変化	濃度、ドルトンの分圧の法則、蒸気圧降下、浸透圧などについて解説する。
10	化学反応（1）	酸・塩基反応について解説する。
11	化学反応（2）	酸化還元反応について解説する。
12	有機化学の基礎	飽和炭化水素、不飽和炭化水素、IUPAC命名法などについて解説する。
13	立体化学	立体構造の表示法、構造異性体、立体異性体などについて解説する。
14	低分子有機化合物	官能基、アルコール化合物、カルボン酸化合物などについて解説する。
15	学習のまとめ	これまで学習してきた内容の総括を行う。

科目名	生物学				
担当者氏名	石井 禎基				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

講義全体をとおして、生物に共通する原理や生命活動を支えるしくみを理解できるように、「エネルギー」、「情報伝達」、「システム」をキーワードにして概説していく。

《授業の到達目標》

この生物学の講義の各テーマを自分なりに自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。また、生物学はただ単に生物に関する学問でなく、現代の社会背景を考える一助となる学問である。そのため、この講義が新聞記事やテレビ番組などのさまざまな内容をより深く理解する手助けとなることを期待する。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト（70%）と平常点（30%）により評価する。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 南雲保 編集（羊土社）
 フォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

《参考図書》

ケイン生物学 石川統 監訳（東京化学同人）
 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田勝 著（羊土社）
 理系総合のための生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 編集（羊土社）
 エッセンシャル細胞生物学 中山桂子・松原謙一 監訳（南江堂）
 ヒューマン・イマジネーション 坂井建雄・岡田隆夫 監訳（医学書院）

《授業時間外学習》

生物学の用語とその定義を理解し、その用語を利用しながら生物学の事象を自分の言葉で説明できるように復習をする。

《備考》

常に考えながら講義を聴くこと。大切だと思うところはメモをとること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物学について	生物学におけるものの考え方と生物学の階層構造について。
2	生物とは	生命の歴史の概観、生物の分類体系、生物の共通する特徴など。
3	生命系の化学的構成部品	生物は、共通する基本的な物質からできている。
4	細胞膜と浸透圧	生命の基本単位である細胞をを形作る細胞膜の特性と細胞に作用する物理的現象について。
5	細胞内外への物質の出入り	細胞は、細胞膜を通して必要な物質を取り入れ不必要なものを排出する。また、産生した物質を分泌する。
6	生物・環境間のエネルギーの流れ	生態系においてエネルギーと物質は循環している。
7	代謝・酵素・共役反応	生命活動におけるエネルギーの受け渡しはどうやって行われるのか。
8	細胞内のエネルギーの流れ	細胞内でエネルギーはどのような形で利用されるのか。
9	細胞間の情報伝達	多細胞生物は、細胞どうし互いに連絡をとっている。
10	細胞内の情報伝達	他の細胞から送られた情報が細胞内でどのように伝達されるのか。
11	遺伝情報	子孫に伝えられる特徴の情報とは何か。
12	遺伝情報の伝達	遺伝情報はどのように伝達されるのか。
13	運動のシステム	運動は、骨・関節と神経と筋肉の働きで起こる。
14	生体内環境維持のシステム	ヒトの内部環境の変動は小さい。
15	身体を守るシステム	生物は、外からの侵入者や自分でないものに対して防御する。

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明：食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《テキスト》

「食生活論 第3版」福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考図書》

「食生活論」遠藤金次他編（南江堂）「健康と食生活 改訂版」吉田勉編（学文社）「私たちの食と健康」吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切的な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 2』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction/Orientation	教員紹介・自己紹介。
2	Unit 7: At a supermarket	スーパーで買い物。
3	Unit 7: Clothes & colors	洋服とファッションの話。
4	Unit 8: Shops and Stores	海外で買い物のHow To.
5	Unit 8: Places in Town	方向を説明すること。
6	Unit 9 Hobbies	趣味の話し。
7	Unit 9: Indoor Exercise	Sportsについての話。
8	Unit 10: Travel Plans	旅行をすること。
9	Unit 10: Trip Preparations	旅行の計画・準備。
10	Unit 11 Quantities	数量・分量を述べること。
11	Unit 11: Cooking	料理を作る等。
12	Unit 12: Job Skills	仕事に重大な能力・手腕。
13	New Year's Holidays	お正月の話。
14	Unit 12: Artistic Talents	芸術の世界。
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 効果的な意思疎通ができる(コミュニケーション力)				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	Are you a Student ?	仕事を聞くこと。
3	Names and Jobs	仕事を聞くこと。Part 2
4	People and Places	国籍・住所を訪ねること
5	Phone Numbers and Email	電話番号・メールアドレスを聞くこと
6	Family	家族を説明すること。
7	Family and Friends	家族を説明すること。Part 2
8	Clothing	洋服を語る
9	Favorite Things	大切なものを喋る。
10	Getting Around	日常交通を語る。
11	What time is it?	時間を指示すること。
12	My Routine	日常癖を述べる事。
13	My Weekend	週末の話。
14	Online Habits	オンラインの生活
15	Review and Survey	復習・アンケートを実施。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切に指導し、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	My Interests	興味・興味を述べる
3	Talking About Sports	暇と活動
4	Geography	地理学を語る
5	Weather	気候や天気を述べる
6	Everyday Activities	日常活動を喋る
7	Life Experiences	人生の主な体験を語る
8	School Subjects	学内の教科・科目について語る
9	At School	大学にて。。話し合い
10	Phone Messages	電話で英語を
11	Favors and Requests	依頼とお願いを述べる
12	Wishes	将来の希望
13	Opinions	意見を述べる事
14	Getting Away	海外へ旅行
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価

科目名	フランス語				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。そのために、まずフランス語の発音の特徴や単語の読み方を習得し、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行うことで自己紹介や日常の会話表現を覚えていきながらフランス語の運用能力を養成していきます。

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考図書》

《授業の到達目標》

普段のあいさつができる。自分の紹介や人の紹介をしたり、簡単な質疑応答ができる。

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《成績評価の方法》

(1) 授業中に会話の応答が出来ているか、筆記問題が出来ているかという授業中の参加度(50%) (2) 定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発音とあいさつ	アルファベットの紹介、 日常のあいさつを覚える。
2	発音とつづり字	つづり字の読み方
3	名前・職業について	自分や相手の名前・仕事を言ったり、たずねる。
4	国籍をめぐる表現	自分や相手の国籍をたずねたり、答える。
5	言葉をめぐる表現	話せる言葉をたずねたり、自分の話す言葉をいう。
6	勉強について	何を学んでいるかを言ったり、相手にたずねる。
7	親族について	家族構成について言ったり、相手にたずねる。
8	年齢について	年齢をたずねたり、自分の年齢を言う。
9	食事をめぐる表現	食べる、飲む表現、レストランでの注文。
10	趣味をめぐる表現	趣味や好き嫌いを言ったり、相手にたずねる
11	疑問詞の用法（誰）	たずねる（あなたは誰ですか？）
12	形容詞の用法	人や物の姿・形を描写する。
13	疑問詞の用法（何）	たずねる（それは何ですか？）
14	疑問詞の用法（どんな）	たずねる（その人はどんな人ですか？）
15	まとめ	自己表現の総括

科目名	フランス語				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。この授業では、 期に引き続き、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行いながら、日常生活の表現や自分の願望や考えを述べる表現を習得してフランス語の運用能力をさらに養成していきます。

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考図書》

《授業の到達目標》

普段の生活の様々な状況において必要な表現を身につけ、日本についてフランス人に説明したりできる表現力を養う。

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《成績評価の方法》

(1)授業中に会話の応答が出来るか、筆記問題が出来るかという授業中の参加度(50%) (2)定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	普段の行動の表現	様々な場所へ行く表現
2	時刻の表現	いつどんなことをするかを言う。
3	時刻をめぐる疑問	何時にどうするかたずねる。
4	簡単な過去の表現	近い過去（～したばかりです）
5	簡単な未来の表現	近い未来（～するつもりです）
6	理由をめぐる表現	理由を尋ねたり、答える。
7	自分の生活の表現	自分の日常の暮しを言ったり、相手にたずねる。
8	天候の表現	時候のあいさつ
9	道案内をめぐる表現	フランスや日本での乗り物の乗り方や道順をたずねたり、答える。
10	命令・依頼の表現	様々な状況でひとに命令・依頼する表現を覚える。
11	比較の表現	日本とフランスの比較を表現する。
12	過去の表現	過去の様々な経験を言う。
13	過去の具体的な表現	過去の旅行について語る。
14	未来の表現	これからの希望を語る。
15	まとめ	日常生活の表現の総括

科目名	ドイツ語				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって、さまざまな文化に触れることができるでしょう。

《テキスト》

在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考図書》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《授業時間外学習》

必ず予習をして聴講すること

《成績評価の方法》

事前に告知して小テスト（20％）を行うほか、ノートの提出（30％）、それに期末試験（50％）によって評価する。

《備考》

教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってこること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音	アルファベット、母音と子音の発音。
2	つづりの読み方と発音、動詞と文章	動詞の人称変化、文の作り方。
3	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞	名詞の文法上の性と定冠詞、不定冠詞。
4	つづりの読み方と発音、格の用法	名詞と冠詞の格変化。
5	つづりの読み方と発音、前置詞	前置詞の格支配。
6	つづりの読み方と発音、名詞の複数形	名詞の複数形の作り方と格変化
7	つづりの読み方と発音、冠詞の仲間	冠詞類の格変化。所有冠詞と否定冠詞。
8	つづりの読み方と発音、補足準備編 1	不規則変化動詞と命令形。
9	つづりの読み方と発音、話法の助動詞	話法の助動詞の人称変化、文の作り方。
10	つづりの読み方と発音、未来形	未来形の作り方と用法。
11	つづりの読み方と発音、複合動詞	分離動詞と非分離動詞、文の作り方。不定詞句。
12	つづりの読み方と発音、人称代名詞、再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞の格変化。再帰動詞。
13	つづりの読み方と発音、形容詞	形容詞の用法と格変化。
14	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する変化	名詞、冠詞などと格変化の復習。
15	つづりの読み方と発音、動詞に関する変化	動詞の人称変化、話法の助動詞、命令形などの復習。

科目名	ドイツ語				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって英語にはない新しい次元が開けます。

《テキスト》

在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考図書》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《授業時間外学習》

必ず予習をして聴講すること

《成績評価の方法》

事前に告知して小テスト（20％）を行うほか、ノートの提出（30％）、それに期末試験（50％）によって評価する。

《備考》

教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってこること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する復習	名詞の性、定冠詞と不定冠詞。格変化。
2	つづりの読み方と発音、動詞に関する復習	規則変化動詞、不規則変化動詞の人称変化。
3	つづりの読み方と発音、動詞の三基本形	過去形の作り方、過去人称変化。
4	つづりの読み方と発音、過去分詞	過去分詞の作り方と用法。
5	つづりの読み方と発音、現在完了形	現在完了形の人称変化、完了の助動詞。文の作り方。
6	つづりの読み方と発音、受動形	受動形の人称変化、受動文の作り方。
7	つづりの読み方と発音、補足準備編 2	副文と接続詞。並列の接続詞、従属の接続詞。副文の作り方。
8	つづりの読み方と発音、接続法 1	接続法第一式の人称変化と用法。
9	つづりの読み方と発音、接続法 2	接続法第二式の人称変化と用法。
10	つづりの読み方と発音、発展編 1	zu 不定詞句とその用法。
11	つづりの読み方と発音、発展編 2	形容詞の比較変化とその用法。
12	つづりの読み方と発音、発展編 3	関係代名詞。副文の復習。
13	つづりの読み方と発音、発展編 4	接続法に関する復習。
14	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習 1	名詞と冠詞、冠詞類の格変化。
15	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習 2	動詞の人称変化。

科目名	中国語				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

科目名	中国語				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語 の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
会話 簡単な日常会話ができる。
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度20%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語				
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語(文法編)』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利 他編著 小学館、2004年
- 『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
- 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音 基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音(10個)について説明する。
2	文字と発音 子音(平音)	韓国語の基本母音を復習後、基本子音(10個)を学ぶ。
3	文字と発音 子音(激音・濃音)	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音 二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音 子音(終声子音)・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えると意味)について勉強する。
6	文化項目(1): 韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(합니체)、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	～です・ですかの(해요체)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字: 日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語				
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語(文法編)』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
- 『パスポート朝鮮語小事典』 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
- 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞)について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2): 韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字: 日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。
 健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《授業時間外学習》

<予習方法>
 下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法>
 学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) 『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) 『からだの「仕組み」のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
 小テスト（20％）各分野の学習後に課すレポート課題（60％）平常点（20％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	1年 期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自1日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	10週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しよう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
15	学習	学習のまとめ

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていきながら、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》

<予習方法> シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《基礎・教養科目 教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法>
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	森本 次郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら体験的に「キャリアデザイン」を学ぶ。

《テキスト》

寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房、2012年

《参考図書》

講義中適宜指示する

《授業の到達目標》

自分自身やキャリアについて様々なワークを通じて学ぶことにより、有意義な大学生活を過ごすための力や、将来のキャリアを考える力を身につける。

《授業時間外学習》

予習については、テキストのねらい・予備知識の部分をシラバスの進行に合わせて事前に読んでおく。
 復習については、毎回の授業の課題等を整理し、文書化して自身のキャリアデザイン・就職活動に活用できるようにまとめる。

《成績評価の方法》

平常点（受講態度等） 50%、毎回実施するレポート 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のねらい
2	自分のキャリアを考える	大学時代のキャリア形成
3	自分のキャリアを考える	かなえたい夢について考える
4	自己理解を深める	現在の自己の全体像を知る
5	自己理解を深める	自我状態を知る
6	自己理解を深める	自分の性格を知る
7	自己理解を深める	歩んできた道を振り返る
8	自己理解を深める	将来像を考える
9	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
10	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
11	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
12	社会人基礎力を身につける	社会で求められる能力を知る
13	社会人基礎力を身につける	論理的思考（ロジカルシンキング）を身につける
14	社会人基礎力を身につける	創造的思考（クリエイティブシンキング）を身につける
15	まとめ	自己理解をまとめる

平成 25 (2013) 年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		健康 運動 指導士	運動 実践 指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ		
			必修	選択			養護	保健 体育	保健	1年	2年	3年	4年				
専	基礎ゼミ	演習	2							2					平本 幸治 他	105	
	基礎ゼミ	演習	2							2					平本 幸治	106	
	基礎ゼミ	演習	2							2					河野 稔	107	
	基礎ゼミ	演習	2							2					加藤 和代	108	
	基礎ゼミ	演習	2							2					矢野 琢也	109	
	基礎ゼミ	演習	2							2					樽本 つぐみ	110	
門	健康科学序論	講義	2							2					多田 章夫	111	
	健康科学	講義	2							2							
基 礎 育 科 目	情報科学	講義	2							2					河野 稔	112	
	解剖学	講義	2							2					多田 章夫	113	
	生理学	講義	2							2					多田 章夫	114	
	微生物学	講義	2								2						
	生化学	講義	2								2						
	栄養学	講義	2							2					(真鍋 祐之)	115	
	食品学	講義	2							2					[島田 邦夫]	116	
	栄養指導論	演習	2								2						
	衛生学	講義	2							2						[島田 邦夫]	117
	公衆衛生学	講義	2								2						
	医学概論	講義	2									2					
	生活習慣病(成人病)	講義	2										2				
	認知心理学	講義	2								2						
	健康心理学	講義	2								2						
	生涯発達心理学	講義	2									2					
	臨床心理学	講義	2									2					
	人間関係論	講義	2										2				
目 群	外書購読	講義	2									2					
	外書購読	講義	2										2				
	教育特論	講義	2									2					
	教育特論	講義	2										2				
	教育特論	講義	2											2			
	地域活動演習	演習	2											2			
地域活動演習	演習	2												2			

は健康運動指導士養成科目

は健康運動実践指導者養成科目

は養護教諭免許必修科目、 は養護教諭免許選択科目

は保健体育免許必修科目、 は保健体育免許選択科目

は保健免許必修科目、 は保健免許選択科目

「スポーツ実践」、「スポーツ実践」、「健康・体力づくり実践」、「健康・体力づくり実践」、

「専門施設実習」は、定期授業の他に学外実習を行う。

「レクリエーション(野外活動を含む)」は、4時間のうち3時間を学外実習にあてる。

健康運動実践指導者養成講座科目として、表中の科目以外に集中講義として「運動障害と予防」と「救急処置」を2年 期に、

「運動の基礎」の中で「発育・発達と老化」を履修する。

公認ジュニアスポーツ指導員養成科目として、「子ども運動学」、「子ども運動学演習」、「スポーツ実践」、

「スポーツ実践」、「スポーツ指導法」を履修する。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

業 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		健康 運 動 指 導 士	運 動 実 践 指 導 者	教 員 免 許 関 係			学 年 配 当 (数字は週当たり授業時間)				平 成 2 5 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択			養 護	保 健 体 育	保 健	1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 に 関 連 す る 科 目 群 （ 運 動 ・ 体 育 に 関 連 す る 科 目 ）	体育原理	講義	2	2						2					徳田 泰伸	118
	運動の基礎	講義	2							2					樽本 つぐみ	119
	運動生理学	講義	2								2					
	運動生理学演習	演習	2									2				
	運動栄養学	講義	2									2				
	子ども運動学	講義	2									2				
	子ども運動学演習	演習	2										2			
	スポーツ医学概論	講義	2											2		
	スポーツ心理学	講義	2										2			
	障害者スポーツ論	講義	2											2		
	スポーツ史（体育史を含む）	講義	2								2				徳田 泰伸	120
	スポーツ科学	演習	2										2			
	スポーツ科学	演習	2											2		
	トレーニング科学	演習	2									2				
	トレーニング科学	演習	2										2			
	体力測定と評価	講義	2								2				徳田 泰伸	121
	スポーツ実践	演習	3								4				三宅・徳田・樽本	122
	スポーツ実践	演習	3								4				三宅・徳田・樽本	123
	健康・体力づくり実践	演習	3									4				
	健康・体力づくり実践	演習	3									4				
	スポーツ指導法	演習	2										2			
	スポーツ指導法	演習	2											2		
	健康・体力づくり指導法	演習	2										2			
	健康・体力づくり指導法	演習	2											2		
	運動処方論	講義	2										2			
	運動処方演習	演習	2											2		
運動負荷試験実習	実習	1											2			
レクリエーション（野外活動を含む）	実習	2										4				
科 目 群 （ 養 護 ・ 保 健 に 関 連 す る 科 目 ）	病理学概論	講義	2									2				
	薬理学	講義	2										2			
	養護概説	講義	2							2					加藤 和代	124
	養護概説	講義	2							2					大平 曜子	125
	養護活動演習	演習	2									2				
	養護活動実習	実習	2										2			
	学校保健（小児保健・学校安全を含む）	講義	2								2				[増尾 禮二]	126
	学校保健	講義	2								2					
	学校保健	講義	2									2				
	精神保健	講義	2										2			
	健康行動論	講義	2									2				
	健康統計学	講義	2										2			
	健康相談活動の理論と実践	講義	2											2		
	基礎看護学	演習	2								2				大平・[細井]	127
	看護学	演習	3									3				
	看護学	演習	3										3			
臨床看護実習	実習	2										4				
救急看護（救急処置を含む）	演習	2											2			
卒 業 研 究	卒業研究	演習	3											3		
	卒業研究	演習	3											3		

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		健康運動指導士	運動実践指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成25年度の担当者	ページ		
			必修	選択			養護	保健体育	保健	1年	2年	3年	4年				
教職に関する科目	教職概論	講義		2							2					[砂子 滋美]	128
	教育原理	講義		2							2					廣岡 義之	129
	教育史	講義		2									2				
	教育心理学	講義		2								2					
	教育制度論	講義		2							2					廣岡 義之	130
	教育課程論	講義		2								2					
	保健・保健体育科教育法（保健教育内容研究）	講義		2								2					
	保健・保健体育科教育法（保健教育法研究）	講義		2									2				
	保健科教育法（保健科教育教材研究）	講義		2									2				
	保健科教育法（保健科教育法演習）	講義		2										2			
	保健体育科教育法（保健体育科教育研究）	講義		2									2				
	保健体育科教育法（保健体育科教育法研究）	講義		2										2			
	道徳教育論	講義		2										2			
	特別活動論	講義		2									2				
	教育方法・技術論	講義		2									2				
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2								2					
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2							2					(原 志津)	131
	中学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		5										5			
高等学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		3										3				
養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5										5				
教育実践演習（中・高）	演習		2											2			
教育実践演習（養護教諭）	演習		2											2			

は健康運動指導士養成科目

は健康運動実践指導者養成科目

は養護教諭免許必修科目、 は養護教諭免許選択科目

は保健体育免許必修科目、 は保健体育免許選択科目

は保健免許必修科目、 は保健免許選択科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	基礎ゼミ				
担当者氏名	平本 幸治、河野 稔、加藤 和代、矢野 琢也、樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

知的活動への動機づけを高め、科学研究のためのオリエンテーション機能を果たします。均等に配当された学生（10名程度）を1人の教員が担当し、大学教養の範囲を超えない共通基礎領域の教材を用い、担当教員の専門性を通して学習へのモチベーションを高め、ゼミナール形式の授業の利点を活かし、学生と担当教員がコミュニケーションを取り合い、相互に尊重し合い、高め合う効果も期待されます。

《授業の到達目標》

情報収集、ノートテキング、文章表現、レポート・論文・レジュメの書き方、口頭での報告・プレゼンテーション、文献検索（図書館の利用方法）、議論・ディベートなど、専門領域の枠を超えて、大学での学習方法の基礎的知識と学習のスキルの習得を目標とします。

《成績評価の方法》

レポートの提出など（学習成果の発表）（60%）、授業時の提出物・参加意欲・学習態度など（40%）

《テキスト》

各担当教員が指示します。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》

自らの学習課題を明確にし、授業に主体的に臨めるように、その課題を克服するように努力して下さい。

《備考》

授業計画は目安です。担当教員によって進行が異なる場合があります。図書館を利用する授業や学習支援センターとの連携は時間が変更される場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ゼミの進め方などを説明し、メンバーの紹介を行います。
2	学習のスキル	学習活動における基本的な知識と学習のスキルに関して説明します。
3	資料の収集	図書館の利用方法や文献の検索の方法を説明します。
4	学習活動の基礎的知識	問題意識から研究課題へ発展させて行く過程の指導を行います。
5	文章の書き方	基本的な文章の書き方の指導を行い、実際に文書を作成し、添削します。（学習支援センターとの連携・60分）
6	学習活動の基礎的知識	情報収集の方法を具体例を挙げながら説明します。
7	学習活動の基礎的スキル	ノートテキングの技術を習得します。
8	文章の書き方	基本的な文章の書き方の指導を行い、実際に文書を作成し、添削します。（学習支援センターとの連携・60分）
9	学習活動の基礎的スキル	ノートテキングの技術を習得した後、資料として整理する方法を指導します。
10	演習課題への取り組み	それぞれの担当教員と相談し、各自の課題を決め、研究に取り組みます。
11	演習課題への取り組み	それぞれの担当教員と相談し、各自の課題を決め、研究に取り組みます。
12	学習成果の表現方法	学習の成果の表現の方法を具体例を用いて説明します。
13	成果の発表	口頭による学習成果のプレゼンテーションの方法を指導します。
14	成果の発表	文書による学習成果の報告の方法を指導します。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	基礎ゼミ				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

最新の健康科学に関する基本的な英語論説文を用いて情報を収集し、知識として活用する練習を行います。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、慣用句、発音などを確認します。CDを利用して音声面の練成を行います。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

適宜プリントを配布します。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

将来の研究や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、健康や科学に関するコミュニケーションに必要な実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

プリントの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Potassium and Strokes	カリウムと脳卒中に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
2	AIDS	エイズに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
3	Moon's Influence	月の影響に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
4	Hypnosis	催眠術に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
5	Sleep	睡眠に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
6	Environment	環境問題に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
7	Artists and Sickness	芸術家と病気に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
8	Hiccups	しゃっくりに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
9	Water and Health	水と健康に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
10	Life Expectancy	平均寿命に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
11	Dyslexia	失読症に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
12	CPR	心肺機能回復法に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
13	Age and Memory	年齢と記憶に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
14	Dental Care	歯の治療に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	基礎ゼミ				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

「基礎ゼミ」の学習成果をもとに、実践的な学習を通じて、大学での主体的・能動的な学びに必要な「スタディスキル」の定着を目指します。

テーマとして「情報倫理」を扱います。ICT（情報通信技術）が社会や生活に役立つ側面とトラブルや犯罪などの問題となる側面に着目し、技術的な知識だけでなく倫理的・法規的な知識も深め、情報社会の問題点を指摘し、その解決策を考えます。

《授業の到達目標》

自ら設定したテーマについて、多様な情報源を調査できる。収集した情報をもとに、レポート等の資料をまとめられる。発表や意見交換を通じて、新たな問題や課題を発見できる。情報倫理に関する諸問題を、幅広い視点から考察できる。

《成績評価の方法》

提出物（40%）、口頭発表の内容（40%）、ディスカッションなどへの参加態度（20%）で評価します。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じて、プリントを資料として配布します。

《参考図書》

情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2010)『インターネットの光と影 Ver.4』北大路書房。

石村貞夫・加藤千恵子・劉晨(2009)『やさしく学ぶ統計学 Excelによるアンケート処理』東京書籍。

その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》

予習では、ゼミで指示された文献・資料について調査し、その成果と自分の意見をまとめます。また、質問紙調査の実施のために、先行研究を調査します。

復習では、他の受講生の発表に対する感想や意見を、レポートにまとめます。また、質問紙調査の実施のために、先行研究やゼミでの討論をもとに、質問項目を検討します。

《備考》

ゼミ形式の授業は、参加者間のコミュニケーションをお互いの学びあいに発展させる、大学での学習の基礎になるものです。意欲的に学習する態度を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ゼミの進め方について
2	情報倫理の概説(1)	インターネットの光と影/スタディスキルとは?
3	情報倫理の概説(2)	情報社会での最新事情と諸問題
4	情報倫理に関する調査の準備(1)	質問紙調査とは
5	情報倫理に関する調査の準備(2)	テーマの検討、調査対象の検討
6	情報倫理に関する調査の準備(3)	先行研究や統計資料の調査(1) 調査の実施
7	情報倫理に関する調査の準備(4)	先行研究や統計資料の調査(2) 結果の発表
8	情報倫理に関する調査の準備(5)	リサーチクエストの検討
9	情報倫理に関する調査の準備(6)	フェイスシートと質問項目の検討、調査票の作成
10	情報倫理に関する調査の準備(7)	予備調査の実施、調査票の調整、調査の依頼
11	情報倫理に関する調査	調査の実施、回答の回収
12	情報倫理に関する調査の分析(1)	調査結果の集計
13	情報倫理に関する調査の分析(2)	調査結果の分析・考察/報告書の作成
14	情報倫理に関する調査の分析(3)	報告書の作成、相互評価
15	授業全体のまとめ	報告書の提出/学習の振り返り

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	基礎ゼミ				
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

深刻化しているいじめ・不登校・虐待などのメンタルヘルスの問題、飲酒・喫煙・薬物乱用、10代に広がる性感染症など身近な健康問題をテーマに、情報を収集し、課題に対する自分の意見や提言をまとめていくことで心と体の健康への関心を高め、適切な行動化へつなげることをねらいとする。また提言を伝えるプレゼンテーション、意見交換の方法等も身につける。

《授業の到達目標》

資料検索方法ならびに適切な資料を丁寧に読み取ることができる。
 レポート作成、発表、意見交換により健康をより科学的に捉える。
 「自らの健康上の問題や課題」も明らかにし改善することができる。

《成績評価の方法》

発表（50%）レポート（50%）で総合的に判断する。

《テキスト》

知へのステップ（くろしお出版）
 必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

「学校保健の動向」平成23年度版（財団法人日本学校保健会）その他随時紹介する。

《授業時間外学習》

示されたテーマについて、文献や資料をもとに自分の意見や提言をまとめ、意見交換の場に活かす。

《備考》

発表時の質疑・意見。指導講評をもとに修正した最終レポートを提出する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 現代的健康課題	現代的健康課題、ヘルスプロモーション、
2	情報収集	情報収集 リーディング 情報整理
3	レポートの書き方（1）	レポートの目的、課題（テーマ）の明確化、レポートの構成（序論・本論・結論）、文章スタイル
4	レポートの書き方（2）	例文 概要 文体、章立て、キーワード
5	健康課題の予備知識（1）	薬物乱用 薬物依存 覚せい剤 大麻 幻覚 禁断症状
6	健康課題の予備知識（2）	性感染症 10代に広がるクラミジア
7	健康課題の予備知識（3）	喫煙 肺がん 副流煙 たばこ人形実験
8	健康課題の予備知識（4）	飲酒、急性アルコール中毒、アルコールパッチテスト
9	健康課題の予備知識（5）	虐待 ネグレクト マルトリートメント
10	健康課題の予備知識（6）	不登校 引きこもり 登校支援
11	プレゼンテーションの仕方	プレゼンテーションとは 発表の構成 発表原稿（ノート） リハーサル
12	発表（1）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
13	発表（2）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
14	発表（3）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
15	まとめ	学修内容の確認 レポート修正

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	基礎ゼミ				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

基礎ゼミ で学んだこと、身につけたことを土台に、スポーツに関する専門的なテーマでそれらの能力をより向上させることを目的として展開します。新聞、雑誌、TVなどあらゆる情報からスポーツに関するトピックスを選出し、その内容を理解すると共にそれらをより深く理解するために必要な事項について学びます。その上でプレゼンテーションやレポート等でそれらの理解度を確認します。

《授業の到達目標》

指導者として必要なプレゼンテーション能力（聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く、発表する）とそのための情報収集の力を身につけることを目標とします。運動生理学やトレーニング論等の基礎知識を学びながら、それらの重要性や学ぶことの重要性を理解することも目標とします。

《成績評価の方法》

レポートと授業における発表で評価します(100%)。レポートの提出は期日厳守です。原則遅れは受け取りません。

《テキスト》

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「入門運動生理学第3版」杏林書院、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「ストレンクス&コンディショニング」ブックハウスHD、「スポーツ・健康科学」放送大学

《授業時間外学習》

新聞や雑誌等で積極的に情報を収集するようにしてください。また、実際にスポーツをしたり、観戦するなどスポーツに関わる行動を積極的に行ってください。

《備考》

トレーニング指導者を目指す人のための授業を行います。真剣に学びたい人が、より多く学べるように積極的に展開しますので、皆さんの積極的な姿勢を望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法を説明する。
2	指導論	スポーツ指導者としてのあるべき姿について討論する。
3	コンディショニング	コンディショニングについてその構成要素等を考える。
4	トレーニング計画	トレーニング計画についてその内容や重要性等を考える。
5	スポーツ障害	スポーツ障害、特にオーバーユースに関して考える。
6	成長期のトレーニング	成長期におけるトレーニングの在り方を考える。
7	スポーツイベント	オリンピックやW杯などからトレーニング計画等について考える。
8	運動生理学（筋）	筋組成（速筋、遅筋）の特性を理解する。
9	運動生理学（パワー）	パワーについてその概念を理解する。
10	運動生理学（筋持久力）	筋持久力に関する基礎知識を理解する。
11	運動生理学（全身持久力）	全身持久力に関する基礎知識を理解する。
12	運動生理学（エネルギー）	エネルギーに関する基礎知識を理解する。
13	運動生理学（性別、エイジング）	女性、高齢者に対するトレーニング効果について理解する。
14	運動生理学（ディ・トレーニング）	ディ・トレーニングに関する基礎知識を理解する。
15	まとめ	これまでの内容をまとめる。必要に応じて情報等を補足する。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	基礎ゼミ				
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解) 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する(情報収集力) 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる(情報発信力) 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う(応用力)				

《授業の概要》

近年、健康志向の高まりによりジョギングやマラソンは人気のスポーツであるが学校体育では苦手なスポーツでもある。本講義では長距離を走るための生理的特性を理解するとともに、トレーニングの効果を自分の身体で体得する。それら長距離走の必要性をレポート作成および発表、表現する(加古川マラソン大会出場)ことが目標である。基礎ゼミ で学んだ内容をより深めていくことが必要である。

《授業の到達目標》

(1)長距離走に必要なテーマを挙げ、それぞれについて情報を収集できる。(2)調べた内容を発表し、自分の考えを表現できる。(3)協力して実験を行い、レポートを作成できる。(4)その成果をマラソン大会において発揮する。(5)本講義で学んだ内容を自らの生活に振り返ることで、競技力(パフォーマンス)の向上や生活習慣病改善のための知識を身につけることができる。

《成績評価の方法》

(1)(3)(4)についてはレポート提出、(2)(3)(5)は発表の内容で評価する。評価の割合は、レポート50%、発表50%とし100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「長距離走者の生理科学」平木場浩二(杏林書院)「スポーツトレーニング理論」伊藤マモル(日本文芸社)「ランニング解剖学」ジョー・プレオ著(ベースボール・マガジン社)

《授業時間外学習》

授業終了時に次回のプリントを配付するので読んでおくこと。長距離走に関する新聞や雑誌の記事を切り抜き要点をまとめて提出し発表する。12/23に開催される加古川マラソン大会に出場するとともに、大会を支えているボランティア活動を体験する。そこで「走る、支える、見る」側面からマラソンについて理解し発表する。

《備考》

遅刻(10分以上)2回で1回欠席とする

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業担当者を決定し、授業の流れを説明する
2	長距離走とは	長距離を走るための身体の構造を理解する(体組成、脳、肉、骨、ホルモンなど)自分の身体を理解する(体組成測定)
3	トレーニング計画作成	グループに分かれ、12/23の大会にむけて ~ を考えトレーニング計画作成する(ジョギング・ペース走 インターバル練習 全力走)
4	ジョギング、ペース走の効果	個人にあったペースを算出し、ジョギング、ペース走の効果を理解し行う
5	栄養・水分補給の効果	長距離走のための栄養や水分補給の効果について理解する
6	インターバルトレーニングの効果	個人にあったペースを算出し、インターバルトレーニングの効果を理解し行う
7	カトレニングの効果	長距離走のためのカトレニングの効果について理解する
8	スプリントトレーニングの効果	スプリントトレーニングの効果を理解し行う
9	休養の効果	長距離走のための休養の取り方や心理的な効果を理解する
10	全力走の効果	全力走の効果を理解し行う
11	環境への適応	環境に適応するためウェアの効果等について理解する
12	ピーキング	大会にピークを合わせるための方法を理解する
13	加古川マラソン大会出場	大会に出場する、ボランティア活動を経験する、応援するこれら3つの側面から調査しまとめる
14	発表	大会で調査した内容を発表する
15	長距離走についてまとめ	長距離走について理解したことをまとめる

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	健康科学序論				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）				

《授業の概要》

健康と疾病は連続性を持っている。普段は当たり前のように考えがちな「健康状態」は、実は壮大かつ精巧な生体メカニズムによって維持されている。健康科学序論の授業においては、健康状態およびその維持についてのメカニズムを理解することで「健康であること」の大切さを再認識し、疾病予防や健康づくりに役立てる。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 生体が健康を維持するためのメカニズム（恒常性の維持、生体防御機構等）を理解する
- 2 生体において発達や生命維持に関するメカニズム（エネルギー代謝、遺伝子発現等）を理解する
- 3 生体の健康維持機能の破綻によって疾患が発生するメカニズムを理解する

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握する
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解する
- 3 日頃から、健康状態について関心を持つよう心掛ける

《成績評価の方法》

- 1 定期試験 85%、小テスト 15% の割合で評価する
- 2 遅刻は欠席扱いとする
- 3 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の定義	健康状態とはどのような状態であるかを、生物学的、肉体的、精神的、社会的観点から考える。
2	個体の調節機構	生体の内部環境の恒常性を保つホメオスタシスの概念を説明でき、血圧、体温、血糖値の恒常性について概略を理解する。
3	生体リズム	生体リズム（概日リズム）の概念を理解し、人間のもつ体内時計や生体リズムを調節するメカニズムを説明できる。
4	組織の再生	組織・臓器の再生及び医学において用いられる幹細胞（胚性幹細胞や体性幹細胞）の利点・欠点が説明できる。
5	酵素と健康	酵素の持つ性質や機能を説明でき、さらに、日常生活において酵素が活用されている例を挙げることができる。
6	遺伝子発現と健康	遺伝の概念、遺伝子（特にDNA）の構造、遺伝情報の概念、遺伝子の転写機構、mRNAから蛋白質への翻訳機構が説明できる。
7	骨の生化学	骨の成分や形成経路、成長期の骨の形成、成長期の女性ホルモンと骨代謝、成熟期や高齢期の骨の変化について説明できる。
8	生体防御（自然免疫）	免疫の概念、自然免疫の概念、主な自然免疫機構について説明できる。
9	生体防御（獲得免疫）	自然免疫との相違、獲得免疫の樹立のメカニズム、獲得免疫を担う細胞について説明できる。
10	生体防御（常在菌）	常在菌の概念、腸内や口腔内における常在菌叢の年齢的な変化、常在菌の持つ意義（特に病原菌感染予防）を説明できる。
11	食物摂取とエネルギー代謝	代謝、異化、同化の定義を説明でき、かつ、エネルギー代謝やエネルギー源としてのATPの役割を説明できる。
12	血糖値の調節	生体内において血糖値を調節するホルモンの種類や、自律神経によるホルモン分泌調節機構を説明できる。
13	記憶	スクワイアの記憶分類、長期記憶の分類、長期記憶の忘却、原因、記憶の過程、学習について説明できる。
14	社会と健康	社会要因が健康に与える影響、仕事と健康との関連、経済と健康との関連について説明できる。
15	科学技術と健康	化学物質による健康被害、技術革新や交通手段の発達をもたらす健康への影響、住宅が関連する健康問題について説明できる。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	情報科学				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

ICT（情報通信技術）を活用した情報社会に適応するために必要な能力である、「情報フルーエンシー」の修得を目標とします。講義と実習を繰り返しながら、ICTを道具として使うための、実践的な知識や技能を習得します。

講義：ICTの基礎知識や情報社会での話題について学習する
 実習：文書作成・表計算・プレゼンテーションの実践的な活用を学習する

《授業の到達目標》

身のまわりにある情報システムの仕組みやその活用方法などの基礎的な内容を説明できる。

ソフトウェアやシステムについての操作・利用方法を理解し、大学での専門的な学習に活用できる。

コンピュータやネットワークの最新の話題を理解し、主体的・積極的に情報社会の参加できる。

《成績評価の方法》

講義内容の理解度確認の小テスト（30%）と実習課題の提出物（70%）で評価します。

《テキスト》

講義は、使用するプリントを授業ごとに配布します。
 実習は、eラーニングのシステムや専用のWebサイトで内容を公開します。

《参考図書》

久野靖・辰巳丈夫・佐藤義弘監修(2011)『キーワードで理解する最新情報リテラシー第4版』日経BP社。
 矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社。
 その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介いたします。

《授業時間外学習》

講義内容のスライドをeラーニング上で公開しておくので、確認用の小テストに備えて、キーワードを中心に内容を整理し理解しておいてください。
 実習では、復習が重要となります。学習した技能を次の実習で扱えるように、操作や手順を練習しておいてください。

《備考》

パソコンやインターネットを自分の道具として使いこなすために、「習うより慣れる」ことを心掛けてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価など/eラーニングの利用
2	【講義】情報社会と情報システム	情報システム、身近なコンピュータなど
3	【実習】文書作成(1)	ワープロによる文書作成の基礎
4	【実習】文書作成(2)	図を利用した文書の作成
5	【実習】文書作成(3)	表を利用した文書の作成
6	【実習】文書作成(4)	文書全体のレイアウト
7	【講義】コンピュータとインターネットの技術	コンピュータの基本要素、オペレーティングシステム、LAN・ブロードバンドなど
8	【実習】表計算(1)	表形式データの基本的な処理
9	【実習】表計算(2)	関数を利用したデータ処理
10	【実習】表計算(3)	さまざまなグラフの作成
11	【実習】表計算(4)	グラフ作成とワープロとの連携
12	【実習】表計算(5)	データベース機能
13	【講義】インターネットでのコミュニケーション	BBS、SNS、ブログ、ソーシャルメディア、ネットコミュニケーションなど
14	【実習】プレゼンテーション(1)	一般的な発表用スライドの作成
15	【実習】プレゼンテーション(2)/全体のまとめ	視覚的な効果の活用

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	解剖学				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

ヒトが正常な機能を営み、生きていくために、体の中では極めて多くの精密な構造・機能が複雑に絡み合っており、体全体としての調和をとっている。その基準となる正常な構造・機能を十分理解しなければその変化である種々の異常を知ることは不可能である。生涯にわたる人間の健康の維持増進に寄与・貢献していくために不可欠な知識を学んでいく。

《テキスト》

イラストで学ぶ解剖学 松村譲児 医学書院

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 主要な臓器・筋肉・骨格・神経・血管の位置・構造を理解する。
- 2 呼吸、循環、消化・吸収など生理現象がどの臓器を用いて行われるかを説明できる。

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し概要を把握しておく
- 2 毎回授業後、ノートを整理し重要なポイントを理解する

《成績評価の方法》

- 1 定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する
- 2 遅刻および途中退席は欠席扱いとする
- 3 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること。本科目は教員免許必須科目であるため、上記の件を遵守でき、可能な限り欠席のない学生の履修登録が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞・組織	人間の組織・臓器を構成する細胞の基本的な構造やそれぞれの構成要素の機能について説明できる。
2	骨と筋	骨や筋肉の基本的な構造が説明でき、身体における主要な骨や筋肉の名称を挙げることができる。
3	上肢の骨格や筋肉	肩関節の構成、肩甲骨・鎖骨・上腕骨の解剖学的位置、肩甲挙筋・僧帽筋・大胸筋の起始・停止部や機能について説明できる。
4	下肢の骨格や筋肉	股関節や膝関節を構成する骨、主要な腸腰筋の起始・停止部や神経支配や運動、大腿四頭筋の起始・停止部や神経支配や運動を説明できる。
5	背中の骨と筋肉	背骨の構成、脊椎の構造、広背筋・上後鋸筋・下鋸筋・回旋筋・腸肋筋の起始・停止部や神経支配や主な機能を説明できる。
6	頭部の骨と筋肉	咀嚼筋の起始・停止部、神経支配、機能、頭蓋を構成する骨、顔面を構成する骨について説明できる。
7	呼吸器系	胸郭を構成する骨、呼吸運動に働く筋肉（横隔膜、肋間筋）の機能、各呼吸器の解剖学的な関係について説明できる。
8	心臓	心臓の解剖学的な位置、構造、機能、心筋の特徴、体循環、肺循環、栄養動脈、刺激伝導系、神経支配について説明できる。
9	動脈・静脈系	動・静脈の構造・機能に関する相違、主な動脈の走行部位、栄養を与える臓器、脈拍を触れやすい動脈、主な静脈の走行について説明できる。
10	消化器系（1）	消化管、口腔、咽頭、食道、胃、小腸（十二指腸、空腸、回腸）、大腸（盲腸、結腸、直腸）についてそれぞれの解剖学的位置、構造、機能について説明できる。
11	消化器系（2）	消化管、口腔、咽頭、食道、胃、小腸（十二指腸、空腸、回腸）、大腸（盲腸、結腸、直腸）についてそれぞれの解剖学的位置、構造、機能について説明できる。
12	腹部臓器	肝臓、胆嚢、膵臓の解剖学的位置、形態、構造、栄養動脈、機能、腎臓の形態、構造、解剖学的位置、腎小体、糸球体、ボウマン嚢、尿の生成過程について説明できる。
13	中枢神経系（1）	髄膜、脳室、脳に分布する動脈の走行、大脳皮質の各部位（前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉）それぞれの機能について説明できる。
14	中枢神経系（2）	間脳、脳幹（中脳、橋、延髄）、脊髄、小脳の解剖学的位置やそれぞれの機能について説明できる。
15	末梢神経系	下行性伝導路、錐体路、錐体外路の解剖学的位置、上行性伝導路、脳神経や脊髄神経と感覚神経・運動神経との関連について説明できる。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	生理学				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

生理学は、生命維持に必要な人体の仕組み、あるいは、身体運動を含む生命活動を維持している人体の基本的な機能を追及する学問領域である。これらの仕組みと機能について体系的な知識を習得するとともに、運動、呼吸、循環などの生命維持に不可欠な機能の統合的な制御を学習する。

《テキスト》

「人体生理学ノート」松根幹朗、岡田隆史 金芳堂

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 神経興奮メカニズム、中枢神経による運動制御機構を説明できる
- 2 呼吸、循環、消化・吸収、体温調節、内分泌など生体のホメオスタシスの維持に必須の機能を説明できる

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し概要を把握しておく
- 2 毎回授業後、ノートを整理し重要なポイントを理解する
- 3 人体の生理現象を身近な問題として捉えるよう日頃から心がける

《成績評価の方法》

- 1 定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する
- 2 遅刻および途中退席は欠席扱いとする
- 3 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる。

《備考》

他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守る。
 本科目は教員免許必須科目であるため、上記の件を遵守でき、可能な限り欠席のない学生の履修登録が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生命現象	生物が生命を維持する上で必要な生理現象として循環、呼吸、代謝、神経伝達、消化・吸収等の概念を理解する。
2	細胞膜の興奮	静止状態にある細胞の膜電位及びそれを形成する細胞内外のNa ⁺ 、K ⁺ 濃度及び、刺激を受けた細胞膜に流れるイオン電流と電位変化を説明できる。
3	神経の伝達	細胞、特に神経細胞に発生した細胞膜の興奮が隣接する細胞や筋肉にどのような機序で伝達するかを説明できる。さらに、興奮伝達の三原則を説明できる。
4	骨格筋の収縮	神経細胞から伝達された興奮は神経・筋接合部でどのように伝達されるか、筋細胞に伝達された興奮により筋肉が収縮する仕組みを説明できる。
5	末梢神経	末梢神経には体性神経（運動神経、感覚神経）と自律神経があることを理解し、自律神経の特徴や自律神経における興奮伝達物質について説明できる。
6	中枢神経（脊髄、下部脳幹、視床下部、小脳）	脊髄反射、中脳、延髄それぞれが司る生命維持に重要な機能、視床下部が調節するホメオスタシス機構、小脳の司る知覚・運動統合機能を説明できる。
7	中枢神経（大脳）	大脳皮質の古皮質・新皮質が司る高次脳機能（知覚、随意運動、思考、記憶等）や一次運動野の分布、そして錐体路と錐体外路との相違について説明できる。
8	血液	それぞれの血球（赤血球、白血球、血小板）の有する機能について説明できる。
9	心臓	心臓の有する機能、体循環、肺循環経路、刺激伝導系、心筋の活動電位、心臓のポンプ作用、心拍量について説明できる。
10	血液循環	最大（収縮期）血圧、最小（拡張期）血圧の概念、血管神経による血圧の調節機構及び体循環量による血圧調節機構について説明できる。
11	呼吸	呼吸の概念（外呼吸と内呼吸）、呼吸運動に関与する臓器・組織、呼吸器量、呼吸の化学的調節や神経性調節について説明できる。
12	消化・吸収（口腔、食道、胃）	口腔内消化における咀嚼筋、3大唾液腺、唾液の役割、嚥下運動、胃内消化における胃液の性状、胃液中に分泌されるホルモンや消化酵素について説明できる。
13	消化・吸収（小腸、大腸）	小腸での消化において分泌される膵液、胆汁、腸液に含まれるホルモンや消化酵素やそれらの生理活性、小腸における栄養素吸収、大腸内消化について説明できる。
14	内分泌	体内に分泌される調節性ホルモン及び機能性ホルモンの概念を理解し、主要なホルモンの生理作用を説明できる。
15	尿排泄	尿が生成・排泄されるまでの機構及び、尿排泄を調節するホルモンについて説明できる。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	栄養学				
担当者氏名	眞鍋 祐之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる(情報発信力) 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合) 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度(生涯学習力)				

《授業の概要》

人が食物を摂取し、生命を維持し、成長・発達する一連の営みが「栄養」であり、食物に含まれる成分が「栄養素」である。我々がより健康で豊かな充実した生活をおくるためには、栄養が不可欠であり、日常の活動や運動にも大きく影響する。そこで本講義では、日常的に摂取する栄養素に関する基本的事項を理解し、さらに体内での働きや健康の維持・増進、あるいは疾病との関わりについても理解を深めることを目指す。

《授業の到達目標》

栄養素の消化・吸収、体内での機能を知り、健康の維持・増進に栄養が深く関わっていることを説明できる。
 「不適切な栄養状態」と「人生(ライフステージ)の各段階で起こる疾病」の関係を関連づけて説明できる。
 より良い人生をおくるためのツールである健康を効果的に向上させる食生活について、適切な情報を提起できる。

《成績評価の方法》

(1) 定期試験の結果により成績評価を行う(なお、試験は教科書・ノート等の「持ち込み不可」として実施する)。
 (2) 受験資格は試験規定通りとする。

《テキスト》

『コンパクト栄養学』脊山洋右・廣野治子編、南江堂、2010

《参考図書》

『日本人の食事摂取基準(2010年版)』厚生労働省、第一出版、2010
 その他、必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握しておくこと。
 (2) 復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

健康を考える上で、栄養学に関心を持つことは大切です。日常の食生活の中で「?」と感じてください。開始30分までを「遅刻」、30分以上は「欠席」。「遅刻」3回で「欠席」1回。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養素と栄養	栄養はどのような概念であるかを理解し、栄養素と栄養の意味の違いを説明することができる。
2	上部消化器における消化・吸収	口腔・食道・胃が摂取した食物の消化・吸収のために果たす機能と、その基になる構造を関連づけて理解する。
3	下部消化器における消化・吸収	十二指腸・空腸・回腸・大腸・膵臓・肝臓等が消化・吸収で果たす機能と、その構造を関連づけて理解する。
4	炭水化物(糖質)の代謝と機能	糖質の構造と機能、消化・吸収、エネルギー源としての体内代謝の流れや調節機構について理解する。
5	脂質の代謝と機能	脂質の種類・分類、消化・吸収を理解し、体内での役割やその代謝の重要性を説明することができる。
6	たんぱく質の代謝と機能	たんぱく質及びアミノ酸の構造と機能、消化・吸収の流れを学び、体全体の中でたんぱく質が果たす役割を説明することができる。
7	ビタミン・ミネラル・食物繊維の機能	糖質、脂質、たんぱく質の消化・吸収、代謝に種々のビタミンやミネラルが関わっているかを理解する。
8	妊娠・授乳期の栄養	妊娠期あるいは授乳期における母体の栄養状態が胎児や乳児の発育に及ぼす影響について理解する。
9	新生児・乳児期の栄養	新生児期を含む乳児期の栄養素摂取、とくに離乳食の重要性と進め方、さらにその役割について理解する。
10	幼児・学童・思春期の栄養	幼児・学童・思春期の発育のために必要な栄養管理の基本と不適切な栄養状態が発育に及ぼす影響について理解する。
11	成人・高齢期の栄養	加齢にともない成人・高齢期の生理的機能は低下し、これにともなって栄養素の代謝も変化することを理解する。
12	栄養状態の評価	ライフステージごとの適切な栄養状態とその評価基準の関係について学び、これら指標から栄養状態の概要を把握することができる。
13	栄養と治療食	疾病治療に用いられる治療食の意義や種類・形態、さらに効果について学び、その概要を説明することができる。
14	消化器系疾患と食事治療	消化器系疾患のうち、胃腸疾患・肝疾患等の原因と治療のための食事療法の基本的内容を正確に理解する。
15	生活習慣病と食事治療	肥満・糖尿病・メタボリックシンドローム等の生活習慣病の改善・治療のための食事療法の原則について理解する。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	食品学				
担当者氏名	島田 邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）				

《授業の概要》

生命を維持し、活動していくためには、食品や水などを必要とする。本科目では食品に含まれる主要な成分の化学的性質と特徴について解説する。また加工・貯蔵などによる変化及び成分間の反応、食品の安全と衛生に関する知識を身につけ、併せて豊かな食品を育むための地球環境やグローバルな食料事情について理解を深める。

《テキスト》

『食品学講義1 改訂 食品学総論』
金田尚志・五十嵐脩 編集（光生館）

《参考図書》

授業時に適時紹介する。

《授業の到達目標》

食品中に含まれる成分について理解・説明できる。
食品の安全性確保のためのシステムを理解・説明できる。

《授業時間外学習》

予習：テキストに目を通しておく。復習：授業内容を再確認、質問事項を列記しておき授業時に質問する。または自分で調べ、整理してまとめる。

《成績評価の方法》

(1) 受講態度、学習意欲 20%（小試験、またはレポート提出により評価、レポート提出期限を守らない場合は減点とする）
(2) 定期試験 80%

《備考》

本科目履修上の留意点：化学的知識が必要なため、有機化学の基礎を学習しておくことが望ましい。積極的な受講態度を望む。質問大歓迎！

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「食品学」を学ぶ意義、ヒトと食物史、食べることはヒトを含め動物の本能的な行為である。
2	食品から食物へ	米は食品、ご飯は食物、プロジェクター（映像）を使い「食品学」の全体像を把握・理解する
3	食品の分類	食品の成分、食品の働き、食品成分表
4	食品中の主要成分	炭水化物の化学的性質と特徴、脂質の化学的性質と特徴
5	食品中の主要成分	タンパク質の化学的性質と特徴、ビタミンの化学的性質と特徴、ミネラルの化学的性質と特徴
6	食品中の微量成分の役割	色素成分の化学的性質と特徴、香気成分の化学的性質と特徴
7	食品中の微量成分の役割	呈味成分の化学的性質と特徴
8	食品中の機能性成分	体調調節のための機能食品
9	食品の理化学的特性	食品の物性・テクスチャー（舌触り）、レオロジー
10	食品の美味しさを評価	官能検査とその応用
11	食品の貯蔵・加工	食品の変質とその要因、食品の貯蔵・加工法
12	食品の安全と衛生	細菌・ウイルス性食中毒、自然毒食中毒（動物、植物）、カビ毒
13	食品の安全と衛生	化学性物質食中毒、寄生虫、消費期限と賞味期限の違いは？
14	食品衛生行政と関連衛生法規	食品の安全性確保、総合衛生管理製造過程（HACCP）、食品衛生法や食品安全基本法、健康増進法など関連の法律
15	まとめ	食生活と健康

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	衛生学				
担当者氏名	島田 邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

衛生とは「生命」を衛（まもる）ことに由来する。健康をまもることであり、健康の増進をも意味している。19世紀の住環境の悪化などにより生まれた言葉、健康の神“ハイジーン”に基づいている。水は生物にとって必要なもの、空気は当たり前前の存在で意識することがない。我々ヒトにとっては重要である。衛生学を衣食住の科学ととらえ、生活環境の変遷を科学的な観点から学習し理解を深める。

《授業の到達目標》

ゴミの分別排出の理由が理解でき、説明できる。地球環境を考える力を養い、地球温暖化現象の理解とその防止対策を提言できる。持続可能な循環型社会形成の意義が理解できる。

《成績評価の方法》

(1) 受講態度、学習意欲 20%（小試験、またはレポート提出により評価する。レポート提出期限を守らない場合は減点とする） (2) 定期試験 80%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	衛生学で何を学ぶの・・・？ 生活に密着した衣食住の科学を考える。
2	日常生活の衛生学	プロジェクター（映像）を用いて、視覚的に衛生学の全体像を把握・理解する。
3	人間と環境	環境とは・・・？ 生物と環境（生態系の物質循環）、人間活動と環境、環境汚染
4	生活と環境	食環境、水環境、衣住環境
5	生活環境と危害	ダニと生活環境（プロジェクター使用）
6	日本の環境問題	環境の都市化、大気汚染、水質汚濁、ごみ・廃棄物問題
7	都市化の進展と環境	交通公害（騒音と振動、排ガス）、近隣騒音（楽器やテレビ、ペットの鳴き声などの生活音）
8	地球規模の環境問題	オゾン層の破壊、グローバル・ウォーミング（地球温暖化）、酸性雨、森林の減少と砂漠化
9	資源開発と環境保全	人口増加と食糧問題、エネルギー資源問題、種の絶滅と野生生物保護
10	快適環境と人間の生活	住居環境とカビ（プロジェクター使用）
11	環境保全のためのエネルギー資源	持続可能な循環型社会とは・・・？
12	環境保全のための法制度	環境基本法、公害規制の諸法律と条例、環境影響評価法、リサイクルの法制度
13	技術と健康問題	技術の役割、生産系と環境、テクノストレスとテクノ依存症、パソコンの視覚表示端末（VDT）装置作業の健康問題
14	アスリートの衛生	運動性貧血、高山病と運動選手の高地トレーニング、エコノミークラス症候群、熱中症、サーカディアン・リズム
15	災害と衛生、まとめ	地震・津波・竜巻・洪水など自然災害と精神障害、総括

《テキスト》

『生活と環境』藤城敏幸 著（東京教学社）

《参考図書》

講義の中で適時指示する。

《授業時間外学習》

(1) 予習：授業に参加する前にあらかじめテキストに目を通しておく。不明点は質問する。(2) 復習：授業内容を再確認する。不明な点は授業時に質問する。または自分で調べ、整理してまとめる。

《備考》

最近の局地型洪水などの異常気象は地球温暖化現象のあらわれではないかと考えられている。日々の出来事に目を向け、私達の地球環境（特に原発問題）について考えてみよう。

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体育原理				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

体育原理という言葉は、PrincipleまたはFoundationに由来するものである。Principleには原理、原則。Foundationには、基礎、土台、根拠、出発点などの意味がある。体育原理は、体育はどのような原理・原則に基づいて、えられ、実践されなければならないか、正しい体育のあり方を学習する。

《テキスト》

資料配布および授業において紹介する。

《参考図書》

授業において適宜紹介する。

《授業の到達目標》

体育原理という講義を通じて体育（教育）の目標内容・方法の一貫性を原理として学んでいき、現代の健康スポーツに関する問題点を、察し説明ができる。

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題小テスト（20%）、各分野の学習後に課すレポート課題（60%）、平常点（20%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	身体の哲学的・察	身体の哲学的・察、身体の構造的把握、社会的身体
3	身体と体育	身体と体育、現代教育における身体的問題
4	体育の定義	体育の定義、体育という語の由来、体育とは身体活動の意義、体育の分野
5	体育の分野別課題	体育の分野別課題、幼児期の体育、少年期の体育、青年期の体育、壮年期の体育、老年期の体育
6	体育の必要性	体育の必要性（科学的原理の根拠）、社会学的側面、運動生活的側面（生物学的）、社会の中のスポーツについて学ぶ
7	体育の成立	体育の成立、体育の成立事情、体育の成立事例、体育の成立の発展、体育の成立条件、体育の指導者、体育の可能性と限界、我が国のスポーツ振興政策についても学ぶ
8	体育の目標	体育の目標、発達の目標、生活的目標、民主的人間：我が国のスポーツ振興政策に関連して学ぶ
9	学校体育の内容	学校体育の内容、学校における教育活動、学校体育の内容：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
10	体育の内容と学習活動	体育の内容と学習活動、体育内容の編成（カリキュラム）：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
11	体育の方法	体育の方法、教育方法の原理、生理学的原理、トレーニングの生理学的原理、具体的トレーニング
12	スポーツと人権	心理学的原理、社会的な原理、内容に即した方法原理、体育の実践形態、スポーツと人権
13	学習の指導段階	学習の指導段階（週2～12までのまとめと課題）
14	スポーツの大衆化	スポーツの大衆化、子供の運動遊び、スポーツと人権について、える
15	学習	学習のまとめ

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動の基礎				
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

運動とは、1つには「運動不足」や学校体育における「運動領域」といった、生物学的・教育的目的を達成するために何かを反復的に行う身体活動のことである。2つには、学習指導要領に見られる「体づくり運動」など体育における学習活動のある特定の領域やスポーツ種目が運動と表現される。これら運動の役割について理解することを目標とする。本講義は、保健体育免許必修科目であり、健康運動実践指導者養成科目である。

《授業の到達目標》

(1)保健体育の教員を目指すための基礎・基本の知識を理解する。(2)運動を行うことにより、身体諸器官がどのように変化するか理解する。(3)慢性的に身体活動を行うと生体はどのように適応するのか理解する。(4)運動と健康との係わりについて理解する。(5)自らの競技力(パフォーマンス)向上や生活習慣病改善のための知識を身につけることができる。

《成績評価の方法》

毎時間行う小テストと中間テスト、定期試験で評価する。評価の割合は、小テスト20%、中間テスト30%、定期試験50%とし100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」 健康・体力づくり、業財団

《参考図書》

「運動生理学20講 第2版」勝田茂（朝倉書店）「トレーニング・メソッド」石井直方（ベースボール・マガジン社）「スポーツトレーニング理論」伊藤マモル（日本文芸社）

《授業時間外学習》

毎回授業の最初に、前回の授業で学んだ内容について小テストを行うため復習をしておくこと 授業終了時に次回の内容の課題を説明するので、習をしておくこと

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する
2	学習指導要領	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領について理解する
3	体育分野（1）	体づくり運動、器械運動の目標と内容を理解し要点をまとめる
4	体育分野（2）	陸上競技、水泳の目標と内奥を理解し要点をまとめる
5	体育分野（3）	球技、武道、ダンスの目標と内容を理解し要点をまとめる
6	体育分野（4）	体育理論の目標と内容を理解し要点をまとめる
7	保健分野	中学校、高等学校保健分野の目標を理解し要点をまとめる
8	スポーツ指導者とは	スポーツ指導者について理解する
9	指導者の心構え・視点	指導者としての考え方を理解する
10	競技者育成プログラムの理念	競技者を養成するためのプログラムについて理解する
11	運動と骨格、呼吸循環	運動を行うための骨格の働きや呼吸循環について理解する
12	運動と栄養・水分補給	栄養と水分摂取の重要性について理解する
13	運動と発育・発達	どの時期に身体諸器官が発達するか理解し運動と関連づけることができる
14	トレーニング	トレーニング内容について理解する
15	運動と加齢、生活習慣病、運動処方	加齢や生活習慣病について理解し、運動を継続していくための運動処方を理解し実践していく

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ史（体育史を含む）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

古代から現代にいたるスポーツと教育の関係を、社会的・文化的・技術的・理論的視点から学習する。

《テキスト》

特に指定はしない。講義中に参考資料の配布および参考図書の紹介をする。

《参考図書》

必要に応じて参考資料を配布する。

《授業の到達目標》

運動・スポーツの歴史的研究の意義と方法を通じて、体育・スポーツの成り立ちや歩みを理解することができる。

《授業時間外学習》

スポーツ史に登場する遺跡や人物等の展示会があれば見学することまたテレビ等で取り上げられる番組があれば視聴するようにする

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出物、レポート課題小テスト（20%）各分野の学習後に課すレポート課題（60%）平常点（20%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	人類文明と身体的技能職の成立	資料・文献を通じて学習していく、文化としてのスポーツについて学ぶ
3	古代文明のスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
4	中世におけるスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
5	近世におけるスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
6	近代体育理論の成立と展開	資料・文献を通じて学習していく
7	近代スポーツの展開	資料・文献を通じて学習していく
8	近代オリンピックの成立過程	資料・文献を通じて学習していく
9	学校体育の制度化とスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
10	体育の科学的発展	資料・文献を通じて学習していく
11	生涯スポーツの歴史的展望	資料・文献を通じて学習していく
12	スポーツの概念	スポーツの概念と歴史について学ぶ
13	ディスカッション	各グループ別によるディスカッション（課題提供）
14	レポート	レポートによる小テスト
15	学習	学習のまとめ

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体力測定と評価				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

文部科学省は、国民の体力・運動能力の現状を明らかにするとともに、体育・スポーツの指導と行政上の基礎資料を得ることを目的として、毎年「体力・運動能力調査」が行われている。そこで、新体力テストの測定方法を熟知し、測定を行う。またその他の測定法についても学び、それぞれの基準値と総的に判断し、運動を処方できる正しいデータの測定および評価ができることを学びます。

《授業の到達目標》

体力には健康関連体力と競技能力関連の体力がある。体力を評価するには、単純に平均値を上回っているから健康である。また競技力が高いとは限らない。個人の活動状況や危険因子の有無、既往歴など総的に判断しなければならない。そのために現在の体力を正確に測定し、測定したデータを運動処方やトレーニング等に活用させるための基本的な評価方法を学ぶことができる。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出物、レポート課題小テスト（20％）各分野の学習後に課すレポート課題（60％）平常点（20％）

《テキスト》

特に指定はしません。資料等は必要に応じて配布します。

《参考図書》

「運動処方の指針 第7版」南光堂「健康運動実践指導者用テキスト」健康・体力づくり事業財団「健康運動指導士用テキスト」健康・体力づくり事業財団「体力テストの方法と活用」財団法人・本体育協会

《授業時間外学習》

授業で学んだ測定を実際に学外で実施してみる年齢差、性差を踏まえ取り組んでみる

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	体力・運動能力調査	握力・上体起こし・長座位体前屈・反復横とび・20mシャトルラン
3	体力・運動能力調査	立ち幅跳び・ハンドボール投げ・50m走
4	体力・運動能力調査	フィールドテストの実習 中高年（1）
5	体力・運動能力調査	フィールドテストの実習 中高年（2）
6	高齢者	高齢者の体力測定（1）
7	高齢者	高齢者の体力測定（2）
8	介護予防	介護予防に関する体力測定法とその評価（1）
9	介護予防	介護予防に関する体力測定法とその評価（2）
10	身体組成	身体組成の測定（1）
11	身体組成	身体組成の測定（2）
12	体育統計	資料のまとめ方（1）
13	体育統計	資料のまとめ方（2）データ処理
14	体育統計	測定結果の発表
15	学習	学習のまとめ（レポート）

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ実践				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。この授業を通して体得したものが、開講のスポーツ実践に有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

主として体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールの理解及び審判方法を体得すると共に、学校体育における実施種目の実践を通して段階的な指導方法を学ぶ。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50％）。随時課題に対するレポート（30％）。学期末に理解度を確認するテスト（20％）。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ポーレット著『中学校学習指導要領解説（体育編）』

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	体づくり運動の考え方と実践（1）	青少年期における動きの発達とスキルの獲得のための方法青少年期の静的レジスタンストレーニング
3	体づくり運動の考え方と実践（2）	青少年期における専門スポーツのスキル獲得のための方法青少年期の動的レジスタンストレーニング
4	器械運動の考え方と実践（1）	マット運動における特性の理解と実践（その1）
5	器械運動の考え方と実践（2）	マット運動における特性の理解と実践（その2）
6	球技の考え方と実践（1）	バスケットボールにおける特性・ルールの理解と実践（その1）
7	球技の考え方と実践（2）	バスケットボールにおける特性・ルールの理解と実践（その2）
8	球技の考え方と実践（3）	バレーボールにおける特性・ルールの理解と実践（その1）
9	球技の考え方と実践（4）	バレーボールにおける特性・ルールの理解と実践（その2）
10	水泳の考え方と実践	水泳及び水中運動における種目特性の理解と実践（青少年期における専門スポーツのスキル獲得のための方法）
11	陸上競技の考え方と実践（1）	短距離における種目特性の理解と実践
12	陸上競技の考え方と実践（2）	リレーにおける種目特性の理解と実践
13	格技の考え方と実践（1）	剣道における特性の理解と実践（その1）
14	格技の考え方と実践（2）	剣道における特性の理解と実践（その2）
15	まとめ	授業のまとめをする

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ実践				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を体験する。各自がこの授業を通して体得したものが、期開講のスポーツ実践 に有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

主として体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールの理解及び審判方法を体得すると共に、学校体育における実施種目の実践を通して段階的な指導方法を学ぶ。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ポーレット著『中学校学習指導要領解説（体育編）』

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	器械運動（1）	跳び箱運動における特性の理解と実践（その1）
3	器械運動（2）	跳び箱運動における特性の理解と実践（その2）
4	器械運動（3）	鉄棒運動における特性の理解と実践（その1）
5	器械運動（4）	鉄棒運動における特性の理解と実践（その2）
6	球技（1）	テニス・バドミントンにおける特性・ルールの理解と実践（その1）スポーツスキルの獲得（コーディネーショントレーニングを含む）
7	球技（2）	テニス・バドミントンにおける特性・ルールの理解と実践（その2）スポーツスキルの獲得（コーディネーショントレーニングを含む）
8	水泳	水泳・水中運動における種目特性の理解と実践
9	陸上競技（1）	走り幅跳び・走り高跳びにおける種目特性の理解と実践
10	陸上競技（2）	正しいウォーキング・ジョギング長距離走における種目特性の理解と実践
11	球技（1）	サッカーにおける特性・ルールの理解と実践（その1）スポーツスキルの獲得
12	球技（2）	サッカーにおける特性・ルールの理解と実践（その2）スポーツスキルの獲得
13	格技（1）	柔道における特性の理解と実践（その1）スポーツスキルの獲得
14	格技（2）	柔道における特性の理解と実践（その2）スポーツスキルの獲得
15	まとめ	まとめを行う

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護概説				
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

「学校教育とは」を問いながら、これまで児童生徒側からとらえてきた養護教諭像、保健室のイメージを、教師性と専門性の視点から再構築することを目指す。また、日々の健康情報の中から教育課題や児童生徒の健康課題に関心を持ち、解決策を考えることで健康観、教育観、児童生徒観を育てることができるようグループレアリングを取り入れ授業理解を図る

《授業の到達目標》

学校教育の視点に立って、養護教諭の職務、保健室の機能の概観を説明することができる
 児童生徒を取りまく健康課題に関心を持ち、現状や対応策を主体的に考えることができる
 授業をとおして再構築した養護教諭の職務や保健室の機能を具体的に表現できる

《成績評価の方法》

レポート（50%）定期試験（50%）で総合的に判断する。

《テキスト》

「新養護概説（第7版）」采女智津江編集代表 少年写真新聞社

《参考図書》

「新版養護教諭の執務の手引き」第6版 植田誠治監修 石川県養護教育研究会編 東山書房
 「養護教諭の専門性と保健室の機能を生かした保健室経営の進め方」財団法人日本学校保健会
 「児童生徒の健康診断マニュアル」財団法人日本学校保健会

《授業時間外学習》

授業のはじめに小テストを実施するので、前回のポイントを整理、理解しておく

《備考》

養護教諭免許の取得を目指す人の積極的な受講を望む

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の進め方、学習方法
2	学校教育と学校保健 学校保健と養護教諭	教育基本法 学校教育法 学校保健安全法 養護教諭の職務
3	養護教諭制度の変遷 養護教諭に関する法律等	学校看護婦、養護訓導、中央教育審議会答申、教育職員免許法 養護教諭複数配置
4	養護教諭の専門性とその職務	教育職員としての職務、養護教諭の専門領域における職務、養護教諭の職業倫理
5	学校保健関係職員とその役割	保健主事制度、学校医・学校歯科医・学校薬剤師 栄養教諭、スクールカウンセラー
6	子どもの発育発達とその現状	児童期・青年前期・青年後期、子どもの健康問題の推移、子どもの現代的健康課題
7	保健室の機能	保健室の法的根拠、保健室の役割、保健室の機能、保健室経営
8	保健管理（1）	健康実態の把握、健康観察、保健調査、健康診断
9	保健管理（2）	健康診断、保健管理としての健康診断、保健教育としての健康診断、
10	保健管理（3）	救急処置、疾病管理、学校保健組織活動
11	保健管理（4）	健康相談、メンタルヘルス、児童生徒の多様な健康課題、心のケア、PTSD
12	保健教育（1）	教科保健（保健学習） 小学校「体育」保健領域、中学校「保健体育」保健分野
13	保健教育（2）	保健指導 特別活動における学級活動、総合的な学習の時間
14	特別支援教育と養護教諭	児童生徒の障害、発達障害、特別支援教育コーディネーター
15	まとめ	養護教諭の職務、保健室の機能

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護概説				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

養護概説 で学んだ内容をさらに発展させ、養護教諭の役割と活動に対する認識を深め、養護の専門性を形成する人間観と科学性を再確認し、実践の学門としての位置づけを明確にする。教育職員としての養護教諭が捉えておくべき学校教育の基本的項目と養護教諭として培ってきた専門性を整理し、養護教諭の職務としてその役割を明確にしていく。

《テキスト》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社

《参考図書》

『新版・養護教諭執務のてびき』 第6版 植田誠治監修 石川県養護教育研究会編 東山書房
 その他、適宜紹介する

《授業の到達目標》

養護教諭の役割と活動に対する理解を深め、自らの描く養護教諭像を表現できる。保健教育について整理し、養護教諭の役割や内容を説明できる。課題研究に取り組み、その成果をプレゼンテーションできる。科学的根拠をもって理解し、レポートにまとめることができる。

《授業時間外学習》

健康問題、教育問題の情報を収集するため、新聞には必ず目を通しておく。テキストを通読し、関係の図書に目を通す。科学的レポートの書き方について学び、レポート課題に利用する。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出と発表 20%、定期試験 60%、小テスト 20%

《備考》

免許選択科目です。養護教諭免許の取得を目指す人の意欲的・積極的受講を望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、養護教諭の職務とは
2	養護教諭の活動の展開（1）	法的根拠、包括的全体像と個性
3	養護教諭の活動の展開（2）	活動の指針、方法、評価について
4	研究とプレゼンテーション	養護教諭の実践的研究の方法、研究の進め方とプレゼンテーションの仕方
5	養護教諭の職務（1）	知識と技能の確認グループワーク（12回目に続く取り組み）
6	養護教諭の職務（2）	実践の計画グループワーク
7	養護教諭の職務（3）	実践グループワーク
8	養護教諭の職務の評価について	実践の評価、再び、養護教諭の職務とはを考える。レポート課題
9	学校保健と組織活動	組織活動の実際、連携、学校保健委員会
10	安全管理と危機管理	安全管理と教育、危機管理の進め方、養護教諭の役割
11	養成と研修	免許と法的根拠、現職研修
12	具体的養護活動の展開	グループワーク、養護教諭の職務からの継続（分析）
13	展開	グループワーク（分析、まとめ）
14	発表	グループワーク、プレゼンテーション、相互評価
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健（小児保健・学校安全を含む）				
担当者氏名	増尾 禮二				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

「学校保健」は、子供たちが生涯にわたって健康な心身を維持増進させるのに必要な基礎的知識や能力を培う上で、極めて重要なものである。わが国では「豊かさ」を追求するあまり、心身や自然環境を危機的な状況にさせしまっている。その結果健康問題は多発し、かつ低年齢化が進む中、学校教育における保健教育の使命は重大になってきた。それを指導する保健体育科教諭・養護教諭の基本的知識から具体的実践法について学ぶ。

《授業の到達目標》

1 学校保健の意義と概要について理解することができる。2 保健学習と保健指導のあり方、指導内容、指導方法について理解することができる。3 児童生徒の心身の健康課題、更には問題行動の実態を理解し、対応方法を理論化することができる。4 保健管理と保健組織活動の概要について理解することができる。5 教育時事問題に興味を持ち、自ら調査し、まとめることができる。

《成績評価の方法》

レポート20%、授業参加態度10%、定期試験70%とし、100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

「学校保健ハンドブック」第5次改訂 教員養成系大学保健協議会編 びょうせい

《参考図書》

《授業時間外学習》

1 新聞等のマスメディアで教育問題に注意を払い、情報を収集するとともに整理する。2 レポートの作成方法について学び、習熟する。3 ノートや配布プリントを授業後確認し、整理しておく。

《備考》

教員資格の取得を目指すものにとっては不可欠な科目です。また、この講義では教員採用試験に向けての情報や教育現場での事象を紹介するなど、教員を目指す人をサポートしています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 学校保健の概要と重要性	授業のねらい、授業の進め方、提出物・出欠・試験など評価に関する事。学校保健の目的と内容
2	学校保健の歴史の変遷と法的な位置づけ	学校保健の歴史の変遷についてと法律・制度の変遷について
3	学校保健組織活動と学校保健計画と安全計画	学校保健関係職員の業務と責任、学校保健委員会と学校保健計画と学校安全計画の意義・内容について
4	保健学習の指導と評価	保健学習のねらいと実践、学習指導要領に基づく保健学習、保健学習の指導と評価
5	性教育と非社会的行動防止教育	性教育の必要性とあり方と工夫、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育について
6	健康診断と健康管理	健康の観察・相談・診断・調査・評価・情報活用について
7	児童生徒の発育発達(身体の発達と体力について)	児童生徒の身体の発育発達の実態について、体力の現状と課題
8	児童生徒の発育発達(精神の発達とその特徴)	乳幼児から後期高齢者に至るまでの精神の発達と変化とその特徴について
9	健康障害とその指導	児童生徒に見られる疾病異常と学校における感染症の予防とその対応
10	精神の健康	児童生徒の精神的健康に関わる問題の実態と精神的健康の維持と促進とその対応について
11	障害のある児童生徒とその指導	特別支援教育の変遷と障害のある児童生徒への健康上の支援について
12	学校環境衛生	学校環境の重要性と学校環境衛生基準について
13	学校安全	学校事故・災害の発生要因とその実態と防止について
14	応急手当	急病・けがの応急手当と心肺蘇生法
15	学校給食と食育	学校給食に求められるものと課題について、学校における食育について

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	基礎看護学				
担当者氏名	大平 曜子、細井 八千代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

看護の理念を確認しつつ、看護の対象、歴史、機能と役割、看護過程等について学びます。受講者は、基礎看護技術に触れながら、看護実践の基本を習得します。幅広い人間理解と科学的思考、健康生活の理解など、確固たる人間観や基礎的学習能力を養い、看護学への理解を深めます。看護の「人間と健康に対するまなざし」「相手の立場」の理解などを通して、看護の心を考えていきます。

《授業の到達目標》

看護の概念を理解し、説明できる。
 健康レベルからみた看護について説明ができる。
 基礎技術を理解し、説明できる。
 看護行為の基本を理解し、実践し、評価することができる。
 看護過程を理解し、科学的・論理的に展開することができる。

《成績評価の方法》

最終試験(60%)、演習の課題(40%)。100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）

《参考図書》

『養護教諭のための看護学』（三訂版）藤井寿美子、山口昭子、佐藤紀久榮、采女智津江 編（大修館書店）
 『実践基礎看護学』中西監修（建帛社）
 『基礎看護技術』（医学書院）

その他適宜紹介する

《授業時間外学習》

課題レポートのため、関係図書に目を通しておく。復習をしっかりおこない、正確な知識の習得に努める。医療的側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習しておく。技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習をおこなう。

《備考》

教員免許取得希望者の必須科目です。演習科目のため、出席重視であり、主体的取り組みを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について
2	看護の概念	看護とは、健康とは
3	看護の対象	看護の対象（疾病の成り立ちと回復）
4	看護の歴史	看護の概念とその歴史
5	看護の機能と養護教諭	学校で必要とする看護能力、養護教諭の専門性と看護
6	看護の基本となるもの	看護理論
7	看護の基礎技術 1 . 環境整備	ベッドの整備、ベッドの条件
8	看護技術の基礎 2 . 姿勢と体位	姿勢の保持、基本的な体位、
9	看護技術の基礎 3 . バイタル測定	バイタルサインの意味、測定方法
10	看護技術の基礎 4 . バイタル測定その2	バイタルサインの測定
11	看護技術の基礎 5 . コミュニケーション	コミュニケーションの概念、構成要素、方法
12	看護技術の基礎 6 . 観察	観察の目的、視点
13	看護過程 1	看護理論と看護過程、構成要素、情報、アセスメント、判断、計画立案、実施と評価
14	看護過程 2	看護活動、記録
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教職概論				
担当者氏名	砂子 滋美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教員になりたい人、教職課程を歩むことを考えている人、教員になることを迷っている人にとって、最終的に教員になることを決意するための動機づけがこの授業である。その時々教育という営みがいかに大きな影響力を子どもたちに与えているか考える必要がある。教員になるための基礎的なものを身につける。

《授業の到達目標》

教員に必要な資質、知識、能力を身につけ、教師としてそれらを幅広く活用する人間を育成する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい教職概論・教育原理』
関西学院大学出版会 2008年

《参考図書》

小・中・高等学校学習指導要領（文部科学省）
解説教育六法（三省堂）
教職論（宮崎和夫編著）ミネルヴァ書房
現代教職論（土屋基規編著）学文社
教育基礎論・教職論（唐澤勇編著）学事出版

《授業時間外学習》

多くの質的体験をすることを心がける必要がある。具体的には、教育関係のボランティア活動を遂行するよう常日頃から心がけておく必要がある。

《成績評価の方法》

積極的な授業参加40%、定期試験50%、課題10%、これらの評価を総合して評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教職概論オリエンテーション	本講義の概要や目標を示し、授業の進め方について解説する。進路選択に資する各種の機会の提供等
2	教職の歴史	古代から近世までの学校と教員の起源とその展開を理解する。
3	教職観と理想の教師像	さまざまな観点から理想の教師像を探っていく。
4	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の適性と社会的使命について考察し、教師の使命を理解する。
5	進路指導の意義と課題	教員組織を理解し、キャリア教育の指導における教師力とは何かを理解する。
6	教員養成と免許制度	師範学校制度と戦後の開放性教員養成との比較を試み、現代日本において求められる教員養成とは何かを吟味し、求めるべき教員像について考えてみる。
7	教育職員の服務	教育職員の服務の根本基準、職務上の義務、身分上の義務、身分保障と分限、懲戒等について理解する。
8	教師の仕事と役割	教員の種類と階層、カリキュラムと教師の役割、学習指導について考察する。
9	教師の仕事と役割	生徒指導と生活指導、教育相談、カウンセリング、学校・学級経営について考察する。
10	初等・中等教育と教員	初等教育と中等教育の連続一貫性が強調される時代・社会の特徴を十分に理解して、それぞれの教員の役割分担を明確にする。
11	管理職・主任の役割	学校組織の改革後多くの種類の教員が設けられた。それらの役割について理解する。
12	教員の採用と研修について	教員採用に至るまでの就職活動と教員採用試験の制度について探究するとともに教員研修にはどのようなものがあるのか理解する。
13	現代の教員養成の課題と今後の発展について	教員養成の資質・能力の向上が常に望まれるが、今後取り組むべき課題について考える。
14	教育の今日的課題	道徳教育、特別活動、キャリア教育、開かれた学校づくり、家庭、地域との連携、幼・小・中間の接続等を考察する。
15	教員免許更新制及び今期のの講義を振り返る。	10年ごとの教員免許更新制について理解する。講義全体のまとめをする。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講義では、人間形成の意義と課題を教育原理的側面から論じてゆきたい。そのうえで、多くの教育問題が発生する今日的課題として、ポルノーの教育思想を中心として、様々な教育思想家の主張を援用し、学校生活を含めた人間関係の深化、生きる意味を探究する援助者としての教師論などを論ずる。

《テキスト》

『ポルノー教育学入門』 広岡 義之著（風間書房）2012年

《参考図書》

広岡義之編著、『教職をめざす人のための教育用語・法規』、ミネルヴァ書房、2012年

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析することができるようにすることを目指す。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	講義の開始に当たり、どのような姿勢で受講するべきかを理解する。
2	教育の目的と目標 1	教育を通していかにして人間形成が可能となるかを考察する。
3	教育の目的と目標 2	個人主義的な教育と集団主義的な教育のかかわりについて考察する。
4	教育における信頼について	教員に求められる教育的愛情、使命感、責任感について理解する。親と子どもの信頼関係についても説明することができる。
5	林竹二の教育実践論	林竹二の「深さのある授業」について、具体的事例を説明することができる。
6	教育における徳論の重要性について	教師の信念、謙虚さ、畏敬の念等の教育的意味を考えることができる。
7	言語と教育について	言語教育の重要性が新学習指導要領でも指摘された。それを受けて言葉の教育的課題を理解する。
8	連続的形式と非連続的形式の教育	主としてポルノーの『実存哲学と教育学』で展開される両者の特徴について考える。
9	家庭教育について	家庭教育の重要性について「私的空間」という切り口で考察する。
10	平和教育について	平和教育の重要性がこれほど問われている時代はない。そのため平和教育の土台づくりを教育学的に考察する。
11	高齢者教育について	高齢化社会に突入した現代にあって、高齢者教育のポイントがどこにあるのか理解する。
12	環境教育について	今ほど環境の大切さを考えることが求められている時代はない。特に環境倫理との関連において説明することができる。
13	生命尊重について	生命軽視の風潮が教育界においても問題となっている。人間の生死について本質的な概念が説明できる。
14	練習することの意義	問題解決学習等で、地道にコツコツと練習することの意義がやや忘れられがちになっている。改めて練習することの教育学的意義を哲学的に説明することができる。
15	総括	これまでの主題について振り返り、教職の第一歩として、どのような教育的心構えができたかについて説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

「テキスト」欄に挙げてある『教育の制度と歴史』の中から重要と思われる項目を中心に、考察を加えて行く。学校の歴史、教育制度の概念、現行の学校教育制度、学校制度（学校体系）の枠組み、学校教育の機能と性格、社会変化と学校教育などにみられる主要原理と課題を分析・検討する。

《テキスト》

『教育の制度と歴史』 広岡義之編著
ミネルヴァ書房 2007.

《参考図書》

『教育用語付教育法規』広岡義之編著
ミネルヴァ書房 2012.

《授業の到達目標》

わが国の教育の将来的な改革・再編成の方向を本質的に理解するためには、教育制度の歴史的位置についての認識が必要となる。そこで受講生は、教育制度を鳥瞰することにより、なに故必然的に現代のこうした日本の教育形態や制度が形成されるに至ったのかについて主体的に考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	本講義の進め方、受講態度等、予習の仕方について説明することができる。
2	西洋古代・中世の教育制度と教育の歴史	古代・中世の教育の変遷について詳細に理解する。
3	ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史	なぜ中世が終わると宗教改革が生じ、ルネサンスが開いたのか？ この点について教育の営みを軸に論じることができる。
4	17・18世紀の教育制度と教育の歴史	17世紀の教育思想の代表者コメニウスの教育思想を中心に理解する。18世紀は啓蒙の時代であり、近代社会の先駆的特徴を持つため、その点を説明することができる。
5	西洋近代公教育制度の発達	公教育の、無償性、就学義務、宗派的対立等の原則についての議論を理解する。
6	19・20世紀の教育制度と教育の歴史	フランス革命の自由・等思想に基づく国民の自由主義が前面に押し出されるようになる。代表的教育者フレーベルを中心に彼の教育思想を理解する。
7	西洋「新教育運動」の展開と現代教育制度の動向	新教育運動の代表として、シュタイナー、田園教育舎系の教育者の思想を理解する。また現代教育制度として欧米の教育システムを比較検討することができる。
8	日本古代・中世の教育制度と教育の歴史	大和時代、奈良時代、平安時代、中世の社会変化とそれに伴う教育制度について理解する。
9	日本近世の教育制度と教育の歴史	江戸時代の教育思想、武士の教育制度と教育機関について理解する。
10	近代国家の確立と教育	森有礼と学校令について、教育勅語について、師範学校について詳細に説明することができる。
11	大正デモクラシーと教育	大正自由教育運動について、八大教育主張について、教育制度の拡充について理解する。
12	戦時体制下の教育制度と教育	国民学校と青年学校、学徒動員、学校機能の停止等、戦時体制下の特徴を説明することができる。
13	戦後日本の教育改革および教育制度改革 1	占領軍の管理政策、アメリカ教育使節団、教育法規の制定、単線型学校体系について説明を加えることができる。
14	戦後日本の教育改革および教育制度改革 2	終戦から1940年代まで、1950年代の教育制度の状況、1960年代の教育爆発の時代、1970～80年代の特徴について理解する。
15	現代日本の教育改革	2000年以降の教育改革の諸相を理解する。特に改正教育基本法の特徴について解説することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育相談(カウンセリングを含む)				
担当者氏名	原 志津				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐり問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろうか。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
 授業内容の理解 50%

《テキスト》

指定しない。必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」滝口俊子・田中慶江編 創元社1400円＋税 「特別支援教育のための100冊」特別支援プロジェクトチーム 創元社1800円

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとり読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日まで提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	人の話しをきくということをめぐる
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライアント中心療法について
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習(ロールプレイ)
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	自分にとって役に立つ心理テスト
7	発達の臨床と教育相談	人の人生と発達課題に関して学ぶ
8	軽度発達障害に関して	学校現場で出会う子どもたちの発達障害について学ぶ
9	こころの発達理論	思春期以降の生徒のこころの問題を理解するために、関係性について学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返し、今後活かすべきことは何かを考える

平成 24 (2012) 年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成24年度（2012年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		健康運動指導士	運動実践指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成25年度の担当者	ページ	
			必修	選択			養護	保健体育	保健	1年	2年	3年	4年			
専門基礎科目群	基礎ゼミ	演習	2								2					
	基礎ゼミ	演習	2								2					
	健康科学序論	講義	2								2					
	健康科学	講義	2								2				多田 章夫	137
	情報科学	講義	2								2					
	基礎生物学	講義	2								2					
	解剖学	講義	2								2					
	生理学	講義	2								2					
	微生物学	講義	2									2			[島田 邦夫]	138
	生化学	講義	2								2				[登成 健之介]	139
	栄養学	講義	2								2					
	食品学	講義	2								2					
	栄養指導論	演習	2									2			(真鍋 祐之)	140
	衛生学	講義	2								2					
	公衆衛生学	講義	2									2			[島田 邦夫]	141
	医学概論	講義	2										2			
	生活習慣病(成人病)	講義	2										2			
	認知心理学	講義	2									2			(北島 律之)	142
	健康心理学	講義	2									2			大平 曜子	143
	生涯発達心理学	講義	2										2			
	臨床心理学	講義	2										2			
	人間関係論	講義	2											2		
	外書購読	講義	2											2		
	外書購読	講義	2											2		
	教育特論	講義	2											2		
	教育特論	講義	2											2		
	教育特論	講義	2											2		
	地域活動演習	演習	2											2		
地域活動演習	演習	2											2			

は健康運動指導士養成科目

は健康運動実践指導者養成科目

は養護教諭免許必修科目、 は養護教諭免許選択科目

は保健体育免許必修科目、 は保健体育免許選択科目

は保健免許必修科目、 は保健免許選択科目

「スポーツ実践」、「スポーツ実践」、「健康・体力づくり実践」、「健康・体力づくり実践」、

「専門施設実習」は、定期授業の他に学外実習を行う。

「レクリエーション(野外活動を含む)」は、4時間のうち3時間を学外実習にあてる。

健康運動実践指導者養成講座科目として、表中の科目以外に集中講義として「運動障害と予防」と「救急処置」を2年 期に、

「運動の基礎」の中で「発育・発達と老化」を履修する。

公認ジュニアスポーツ指導員養成科目として、「子ども運動学」、「子ども運動学演習」、「スポーツ実践」、

「スポーツ実践」、「スポーツ指導法」を履修する。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成24年度（2012年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

業 科 目 の 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		健 康 運 動 指 導 士	運 動 実 践 指 導 者	教 員 免 許 関 係			学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)				平 成 25 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択			養 護	保 健 体 育	保 健	1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 に 関 連 す る 科 目 群 （ 運 動 ・ 体 育 ・ 健 康 ・ 養 護 ・ 保 健 に 関 連 す る 科 目 ）	体育原理	講義	2							2						
	運動の基礎	講義	2							2						
	運動生理学	講義	2								2				木下 幸文	144
	運動生理学演習	演習	2								2				木下 幸文	145
	運動栄養学	講義	2								2				木下 幸文	146
	子ども運動学	講義	2								2					
	子ども運動学演習	演習	2								2				三宅 一郎	147
	スポーツ医学概論	講義	2									2			木下 幸文	148
	スポーツ心理学	講義	2									2			[堤 俊彦]	149
	障害者スポーツ論	講義	2										2			
	スポーツ史（体育史を含む）	講義	2										2			
	スポーツ科学	演習	2										2			
	スポーツ科学	演習	2										2			
	トレーニング科学	演習	2									2			矢野 琢也	150
	トレーニング科学	演習	2									2			矢野 琢也	151
	体力測定と評価	講義	2								2					
	スポーツ実践	演習	3								3					
	スポーツ実践	演習	3								3					
	健康・体力づくり実践	演習	3									3			三宅・徳田・樽本	152
	健康・体力づくり実践	演習	3									3			三宅・徳田・樽本	153
	スポーツ指導法	演習	2										2			
	スポーツ指導法	演習	2										2			
	健康・体力づくり指導法	演習	2										2			
	健康・体力づくり指導法	演習	2										2			
	運動処方論	講義	2										2			
	運動処方演習	演習	2										2			
	運動負荷試験実習	実習	1										2			
レクリエーション（野外活動を含む）	実習	2										4				
科 目 群 （ 養 護 ・ 保 健 に 関 連 す る 科 目 ）	病理学概論	講義	2									2			[北条 香織]	154
	薬理学	講義	2										2			
	養護概説	講義	2							2						
	養護概説	講義	2							2						
	養護活動演習	演習	2									2				
	養護活動実習	実習	2										2			
	学校保健（小児保健・学校安全を含む）	講義	2								2					
	学校保健	講義	2									2			加藤 和代	155
	学校保健	講義	2									2			大平・加藤	156
	精神保健	講義	2										2			
	健康行動論	講義	2									2			[植田 誠治]	157
	健康統計学	講義	2										2			
	健康相談活動の理論と実践	講義	2											2		
	基礎看護学	演習	2								2					
	看護学	演習	3									3			[細井 八千代]	158
	看護学	演習	3									3			(若井)・(澤本)・[井上]	159
	臨床看護実習	実習	2										4		大平・加藤	160
救急看護（救急処置を含む）	演習	2										2				
卒 業 研 究	卒業研究	演習	3										3			
	卒業研究	演習	3										3			

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成24年度（2012年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		健康運動指導士	運動実践指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成25年度の担当者	ページ	
			必修	選択			養護	保健体育	保健	1年	2年	3年	4年			
教職に関する科目	教職概論	講義		2						2						
	教育原理	講義		2						2						
	教育史	講義		2								2				
	教育心理学	講義		2							2				大平 曜子	161
	教育制度論	講義		2						2						
	教育課程論	講義		2							2				廣岡 義之	162
	保健・保健体育科教育法（保健教育内容研究）	講義		2							2				[荒木 勉]	163
	保健・保健体育科教育法（保健教育法研究）	講義		2								2				
	保健科教育法（保健科教育教材研究）	講義		2								2			[荒木 勉]	164
	保健科教育法（保健科教育法演習）	講義		2									2			
	保健体育科教育法（保健体育科教育研究）	講義		2								2			[後藤 幸弘]	165
	保健体育科教育法（保健体育科教育法研究）	講義		2									2			
	道徳教育論	講義		2							2				廣岡 義之	166
	特別活動論	講義		2								2			[砂子 滋美]	167
	教育方法・技術論	講義		2								2			河野 稔	168
	教育方法論	講義		2									2			
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2							2				[新井野 久男]	169
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2						2						
	中学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		5										5		
	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		3										3		
養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5										5			
教育実践演習（中・高）	演習		2												2	
教育実践演習（養護教諭）	演習		2												2	

は健康運動指導士養成科目

は健康運動実践指導者養成科目

は養護教諭免許必修科目、 は養護教諭免許選択科目

は保健体育免許必修科目、 は保健体育免許選択科目

は保健免許必修科目、 は保健免許選択科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	健康科学				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）				

《授業の概要》

健康な状態を維持するために、普段からの健康的な生活が重要である。日常生活が健康に及ぼす影響や各年代において健康を保持増進させるのに重要な因子を理解し将来に役立てることを目的とする。運動、食生活、睡眠、休養などの日常生活と健康との関連や各年代における健康に影響を及ぼす生理的な現象等を科学的な理解を深める講義を行う。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 運動、栄養などの生活習慣が健康に及ぼす影響を理解する
- 2 各年代において健康を維持する因子を理解する

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握する
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解する
- 3 日頃から、健康状態について関心を持つよう心掛ける

《成績評価の方法》

- 1 定期試験 85%、小テスト15%の割合で評価する
- 2 遅刻は欠席扱いとする
- 3 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本人の健康状態	日本人の死亡統計および疾患別患者数統計から、日本人の主な死亡原因は何か、どんな疾患の患者数が多いかが理解できる。
2	日本人の生活習慣	国民栄養健康調査結果から、日本人の生活習慣（運動、食事、休養、喫煙、飲酒等）の現状が理解できる。
3	運動と健康	運動とがん、糖尿病、循環器疾患との関連及び「健康づくりのための運動指針2006」について説明できる。
4	食事と健康	三大栄養素の単位重量当たりのエネルギー、エネルギー代謝（特に基礎代謝）、食事摂取基準量について説明できる。
5	睡眠・休養と健康	睡眠時間と健康の関連、睡眠障害の分類、不眠症の分類及び原因について説明できる。
6	喫煙と健康	喫煙による健康被害（能動喫煙および受動喫煙それぞれ）やタバコに含まれる有害物質について説明できる。
7	飲酒と健康	飲酒が及ぼす健康への効用及び悪影響について説明できる。さらに、適度な飲酒量や胎児性アルコール症候群を理解する。
8	ストレス	ストレス学説、ストレスの発生メカニズム（自律神経を中心とした）、ストレスの評価法について説明できる。
9	咀嚼と健康	咀嚼が脳の機能や肥満に及ぼす影響やその生理学的なメカニズムについて説明できる。
10	乳幼児期の健康	乳幼児期の腸内細菌叢の変化、出生直後の免疫、脳の発達、乳幼児期の睡眠、発育と発達の相違について説明できる。
11	少年期の健康	少年期の発育・発達の特徴（特に脳の発達）、遊びの必要性、ゴールデンエイジについて説明できる。
12	青年期の健康	第二次性徴及び青年期の健康問題として無理なダイエットや朝食欠食による体への悪影響について説明できる。
13	妊婦の健康	妊婦における運動の必要性、妊婦に適した運動、妊婦の喫煙や飲酒による胎児への影響について説明できる。
14	成人期の健康	内臓脂肪型肥満と運動との関連、体脂肪のエネルギー計算、減量初期の体蛋白の崩壊、原料における食事療法単独の問題点について説明できる。
15	老年期の健康	老化の定義、老化現象、老化による筋肉の減少の仕方及び筋トレ、痴呆および痴呆予防について説明できる。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	微生物学				
担当者氏名	島田 邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

「健康」は生命の根源といえる。“安全神話”は感染症に対する油断を生み、私達は病原体の格好の餌食になっている。生肉ユッケによる腸管出血性大腸菌 O111:H- やノロウイルスなど目に見えない微生物による感染症の脅威に曝されている。本科目では微生物学の基礎と共に病原微生物が疾病とヒトとどのようにかかわっているか理解を深め学習する。

《テキスト》

コンパクトシリーズ『コンパクト微生物学 改訂第3版』、小熊恵二・堀田 博 編集（南江堂）

《参考図書》

「戸田新細菌学 最新版」、吉田眞一・柳 雄介・吉岡泰信 編（南山堂）

《授業の到達目標》

微生物の種類や分類を説明できる。 主要な病原微生物による感染症の病態と特徴を理解・説明できる。 主な感染症の予防対策を提言できる。 病原体と戦う免疫現象を理解・説明できる。

《授業時間外学習》

予習： あらかじめテキストに目を通す。
 復習： 授業内容を再確認する。不明点は授業時に質問する。または自分で調べ、整理してまとめる。マスメディアで報道された感染症の切り抜きなどをファイルしてまとめる。

《成績評価の方法》

受講態度、学習意欲、討論への参加 20%（小試験、又はレポート提出で評価する：提出期限を守らない場合は減点とする）
 定期試験 80%

《備考》

微生物学を通じ、自分の健康管理に関する知識を身につけるよう心がける。話題になる感染症について、関心を高めておく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「微生物」とは・・・？ 微生物学へのいざない！
2	微生物学の概要・歴史	プロジェクター（映像）を使い、「微生物学」全体像の理解を深める。
3	微生物の分類	微生物にはどんな種類があるのか？ 病原体の侵入門戸（感染経路）は・・・？
4	細菌	形と分類、培養・増殖、変異と遺伝
5	細菌	感染と発症、感染から身をまもる機能（感染と免疫：液性免疫・細胞性免疫）
6	細菌	主要な細菌の性状と病原性、迅速診断（遺伝子診断）
7	ウイルス	形態・構造と分類、遺伝と変異
8	ウイルス	主要なウイルスの感染症、遺伝子診断
9	真菌（カビ、酵母）	形態と増殖、分類、主要な真菌感染症
10	真菌（カビ、酵母）	検査法
11	原虫と寄生虫	分類と特徴、主要な原虫・寄生虫症
12	滅菌と消毒、話題の感染症	主要な滅菌法・消毒法、新興感染症・再興感染症、人獣共通感染症
13	感染症の予防と対策	感染症の蔓延を防ぐ法規制（感染症予防法、検疫法、予防接種法）
14	臓器感染症	皮膚、呼吸器、消化器、泌尿生殖器など
15	まとめ	総括、知っておきたい世界の感染症！、バイオハザード対策

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	生化学				
担当者氏名	登成 健之介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

生化学は種々の生命現象を細胞、物質レベルで解明する基礎科目である。生命素材である糖質、脂質、タンパク質、核酸、ホルモン、ビタミン等の構造や役割を学び、それらに関する生体内での合成や代謝を学習する。

《授業の到達目標》

生体を講成する生命素材について説明でき、それらに関する生体内の合成や代謝についても説明できる。もって、栄養学や医学概論等の関連科目の基本的理解が得られる。

《成績評価の方法》

小テスト（20%）、定期試験（70%）、授業終了時の課題（10%）

《テキスト》

図説生化学 紺野邦夫他（実教出版）

《参考図書》

たくさんの成書がある。
 生化テキスト 毎田敏夫（文英堂）
 よくわかる生化学 生田 哲（日本実業出版）、他

《授業時間外学習》

授業の予習は授業満足度を高めるためにも重要で、わかりにくい所は自分でも調べてみる努力をすること。

《備考》

テキスト、プリントを持参しないもの、私語、携帯電話使用など積極的に授業に参加しないものの受講は認めない。試験はテキスト等の持込不可。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション、糖質（1）	授業概要説明他、単糖類の種類と性質
2	糖質（2）	多糖類の種類と性質
3	脂質（1）	単純脂質と講成脂肪酸
4	脂質（2）	複合脂質（リン脂質）、誘導脂質（ステロイド類）
5	タンパク質（1）	アミノ酸の種類と性質
6	タンパク質（2）	タンパク質の構造と物理・化学的性質
7	核酸の化学	DNA、RNA、ヌクレオチド、ATPと関連物質
8	生体成分の代謝	栄養素の消化と吸収、ATPの生成
9	酵素と酵素反応	酵素の性質と酵素反応速度
10	糖質の代謝	解糖、クエン酸回路、グリコーゲンの分解と生成
11	脂質の代謝	脂肪の消化と吸収、脂肪酸の酸化、コレステロールの代謝
12	タンパク質の代謝	タンパク質の消化と吸収、アミノ酸の代謝、
13	タンパク質の代謝	タンパク質の生合成
14	ビタミン	ビタミンの種類、性質、ホルモン
15	ホルモン、まとめ	ホルモン補講他、全体的まとめ

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	栄養指導論				
担当者氏名	眞鍋 祐之				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

栄養情報を伝えるべき対象者、とくに子ども達に対して、心身の健全な発育・発達に必要な情報を提供するため、栄養指導の基本的な知識と技術、さらに実践方法を理解し、対象者の健康づくりに必要な自己管理方法を学ぶ。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『最新日本食品成分表』医歯薬出版編、医歯薬出版、2011
 『日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版、2009

《授業の到達目標》

- (1) 栄養指導に必要な基本的知識や技術を理解する。
- (2) 自分自身の食生活を見直し、改善できるように自己管理能力を高める。
- (3) 正確な情報と適切な伝達能力の獲得を目指す。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法: 次回講義予定部分に目を通し、学習内容の概要を把握しておくこと。
- (2) 復習の方法: 毎回の講義内容を見直し、ノート等の不完全な部分については、資料等で補足しておくこと。
- (3) 忘れることを恐れず、一度は理解しておくこと。

《成績評価の方法》

定期試験の結果により成績評価を行う。

《備考》

遅刻(開始30分未満)または早退(開始60分以降)は、合わせて3回で欠席1回とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	栄養指導論の目的と必要性について解説する。
2	栄養指導の基礎	栄養指導に必要な栄養学の基礎知識を理解する。
3	栄養指導の基礎	栄養指導に必要な食品学の基礎知識を理解する。
4	栄養指導の基礎	栄養指導に必要な調理学の基礎知識を理解する。
5	栄養指導の基礎	栄養指導の基礎知識(栄養学、食品学、調理学)の理解度を確認する。
6	栄養指導の基礎	食事摂取基準について解説する。
7	栄養指導の基礎	食事バランスガイド、食生活指針、健康日本21について解説する。
8	基本知識と技術のまとめ	栄養指導の基礎知識(食事摂取基準、食事バランスガイド、食生活指針、健康日本21)の理解度を確認する。
9	栄養指導の各論	ライフステージ(妊娠・授乳期～思春期)の特徴と栄養指導を理解する。
10	栄養指導の各論	ライフステージ(成人期～高齢期)の特徴と栄養指導を理解する。
11	栄養指導の各論	ストレス時や運動時の栄養指導を理解を深める。
12	栄養指導の実際	食品成分表の使い方と栄養価計算の方法を理解する。
13	栄養指導の実際	食品のさまざまな側面(表示、重量、廃棄率、栄養素)を理解する。
14	栄養指導の実際	自己診断から実行可能な健康づくり案を計画する。
15	まとめ	栄養指導論のまとめ

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	公衆衛生学				
担当者氏名	島田 邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

みんなの健康はみんなで守ろう！これが公衆衛生である。人と現代の生活、健康をめぐる行動特性・メカニズムを解き明かす。社会・環境と健康との関係や、その変化が健康に与える影響、健康増進・疾病予防の考え方と取り組みを学ぶ。併せて保健・医療・福祉・介護システムなどの社会構造をも学習する。

《テキスト》

『イラスト 公衆衛生学』、石川哲也・大谷 誉・中村 亮・成田美代・吉岡義正・吉川 博 著（東京教学社）

《参考図書》

「衛生行政大要 改訂第23版」、上田 茂 編集（日本公衆衛生協会）

《授業の到達目標》

健康増進（ヘルス・プロモーション）に対応した法制度および地域保健活動の内容を理解・説明できる。生活習慣病や感染症への予防対策が提言できる。社会保障の問題について提言・説明できる。

《授業時間外学習》

予習：あらかじめテキストに目を通す。
 復習：授業内容を再確認する。不明点は授業時に質問する。または自分で調べ、整理してまとめる。

《成績評価の方法》

受講態度、学習意欲、討論への参加 20%（レポート提出でも評価する：提出期限を守らない場合は減点とする）
 定期試験 80%

《備考》

「人間社会」を取り扱うため、非常に広範囲の知識が要求される。東日本大震災に伴う津浪、原発事故も公衆衛生の範疇に含まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「公衆衛生学」へのいざない！公衆衛生学で何を学ぶか・・・？
2	「公衆衛生学」の概念	プロジェクター（映像）を使い公衆衛生の全体像を把握・理解を深める。
3	「公衆衛生学」の概要	みんなの健康を考える。病気は予防がお得！健康増進に果たす役割
4	日本の健康レベル	健康レベルの指標、人口統計、人は何年生きられるか？
5	感染症の原因を探る	疫学、感染症の最近の動向、感染症から身を守るには？ 感染症予防法、予防接種法
6	感染症以外の疾病対策	生活習慣病、精神保健（自殺など）、難病、リウマチ、アレルギー疾患
7	地域保健、衛生行政	地域保健法、衛生行政の組織、健康危機管理
8	母子保健、学校保健	母子保健対策、学童期の健康状況、保健教育・保健管理、学校感染症、養護教諭の役割
9	精神保健・福祉	地域精神保健福祉対策、精神障害者の医療、精神障害者福祉と社会復帰対策
10	障害児・障害者対策	障害者自立支援法、身体障害者、知的障害者など
11	歯科保健、労働衛生、	歯科保健の現状と対策、労働と健康その対策、メンタルヘルス、パワーハラスメント
12	国際保健	国際交流・協力、検疫法
13	社会保障	社会保障の定義、公衆衛生と社会保障、社会福祉、医療・介護保険制度
14	保健・福祉・介護等関連法規	法の概念、衛生法規など
15	まとめ	学習成果についてグループ討論

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	認知心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解) 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する(情報収集力) 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合)				

《授業の概要》

認知心理学は心理学の中で人間の知的機能全般についての基盤となる部分を担います。情報の入力(感覚)、最低限の意味の成立(知覚)、情報の処理(狭義の認知)をテーマとし、人の心の基礎過程について実験とモデルを両輪として理解します。それにより、人間の様々な心理・社会的な活動をより深く考察できるようになります。

《授業の到達目標》

「認知心理学」の心理学における位置づけを説明できる。
感覚、知覚、認知の各過程を理解し類別することができる。
実験やモデルといった科学的な視点で心をとらえることができる。
心理的または社会的な事象のいくつかについて、認知心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80% レポート・小テストなど10% 受講態度10%

《テキスト》

プリント(認知心理学講義ノート)を配布

《参考図書》

「知性と感性の心理 認知心理学入門」 行場次郎, 箱田裕治(編) 福村出版「グラフィック 認知心理学」 森敏昭・井上毅・松井孝雄 サイエンス社

《授業時間外学習》

・予習の方法 特に予習は必要としない。・復習の方法 復習には力を入れてください。授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください。まず、各用語の意味を理解し覚えてください。次に、図や表、様々なデータを参照しつつ、実験やモデルが示すことを理解するように努めてください。

《備考》

本科目は、「心理学基礎実験」を受講するために前もって修得しておく必要があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	認知心理学って何?	認知心理学の概要を説明。
2	眼からの情報は脳へどう伝わるか(視覚の基礎)	網膜の役割。光信号から電気信号への変換。
3	眼からの情報は脳へどう伝わるか(エッジの強調)	エッジの強調。
4	眼からの情報は脳へどう伝わるか(形の処理)	形の情報処理。
5	感覚の黄金法則(感覚についての3つの法則)	ウェーバーの法則、フェヒナーの法則、スティーブンスのべき法則。
6	おかしいのは世界か?自分か?(体制化と錯視)	錯視のデモやその見えの仕組み。いくつかの対象がまとまって見える性質。
7	わたしたちの世界(三次元知覚)	三次元に世界を知覚するために必要な要素。大きさの恒常性。
8	見えていても見えていない(注意)	網膜に投影されることと「見える」こととの違い。注意の空間的および時間的性質。
9	自分が自分であるために(記憶)	記憶の分類。短期記憶から長期記憶へのシフト。
10	自分が自分であるために(記憶)	ワーキングメモリ。
11	いつも言葉で考える(言語)	言葉と脳。文の理解にかかわる処理。
12	人に会うとはじめに見るところ(顔の認知)	顔を認識する能力。人種と顔。感情と顔。
13	一難去ってまた一難(問題解決)	洞察と情報処理による問題解決。
14	どちらを選ぶ?(意思決定)	期待効用。ヒューリスティクス。
15	これまで何を学んだか(まとめ)	実験とモデルによる心の理解。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	健康心理学				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）				

《授業の概要》

心理学としては異色の「身体的な健康」と「精神的な健康」とを根元的な結びつきの中で捉えようとしていることと、障害や疾病状態ではなく健康を中心課題としているところに特徴があります。心理的要因の心身の健康への影響を理解し、自他の健康アプローチに関心を払い、運動指導や生活習慣の改善・行動変容に生かす態度・能力の育成を目指します。授業では、健康への認知行動的アプローチに基づく実際を学びます。

《授業の到達目標》

健康心理学の領域を理解し、説明できる。
 健康心理学の基礎となる心理学の概念を理解し、代表的な理論について説明ができる。
 健康なパーソナリティについて、考えを述べるができる。
 健康習慣や健康行動について理解し、また、その指導ができる。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出と発表 20%、定期試験 60%、毎時、授業終了時に、本時の学習に関する小テストを行う20%。

《テキスト》

『新版 健康心理学』 野口京子著 金子書房

《参考図書》

『現代心理学シリーズ 健康心理学』島井哲志編 培風館他授業の中で適宜紹介

《授業時間外学習》

健康生活を実践し、健康習慣に関して、自分の意見をまとめておく。テキストを通読し、健康心理学の領域を理解する。課題のレポートには、必ず文献に目を通す。

《備考》

健康運動実践指導者等の資格を目指す者はいうまでもなく、意欲的な参加を主体的な学習態度を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	健康心理学の歴史と他学問領域との関係
2	健康心理学の基礎理論(1)	精神分析、学習理論、行動理論
3	健康心理学の基礎理論(2)	発達理論、認知理論、人間主義理論
4	健康行動の理解	健康行動とは 予防と治療とリハビリ
5	パーソナリティと健康行動(1)	健康なパーソナリティ
6	パーソナリティと健康行動(2)	疾病とパーソナリティ
7	生活習慣と健康	健康な生活習慣 生活習慣病の予防と健康行動
8	健康への認知行動的アプローチ(1)	認知の行動の関わり、認知行動療法
9	健康への認知行動的アプローチ(2)	社会的要因と個人的要因 健康関連行動について
10	ヘルスケアシステム	健康心理アセスメント
11	健康におけるソーシャルサポートの働き	ソーシャルサポートの測定
12	健康心理カウンセリング	基礎理論 理性感情行動療法、交流分析、自律訓練法
13	健康教育活動	禁煙、薬物防止、食行動の変容などについて
14	行動変容や習慣改善への試み	集団力学・グループダイナミクス、個人指導
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動生理学				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

身体運動が人体機能にどのような応答をもたらすのか、また継続して身体活動を行った場合にはどのような適応を示すのかなど、その生理学的な機序を学習していく。講義で学習する主な点は、（１）運動と健康との関係について（２）人が運動する場合の生理・生化学的機構について（３）運動による人体機能の応答・適応についてであり、これらの内容についてそれぞれ詳細に講述していく。

《授業の到達目標》

この講義は、運動やスポーツなどの身体活動にともなう人体の生理機能の変化やその機序についての知識を身につけることができるとともに、運動することにおいて大切な基礎的知識について説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験の結果（80％）を中心とし、毎講義ごとに行う確認テスト（レポート課題を含む）（20％）を参考にして評価する。

《テキスト》

「現代栄養科学シリーズ18 運動生理学」池上晴夫著（朝倉書店）2003年

《参考図書》

「新運動生理学（上巻）」宮村実晴編（真興交易（株）医書出版部）2001年「新運動生理学（下巻）」宮村実晴編（真興交易（株）医書出版部）2001年「身体活動と不活動の健康影響」郡司篤晃、川久保清、鈴木洋児編（第一出版）1998年「運動生理学」 Astrand, P0 and Rodahil, K.（大修館書

《授業時間外学習》

テキストの指定箇所を事前に読んでおくこと。また、毎講義ごとに前回講義の復習を兼ねて確認テストをしますので、各自で学習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康と運動	健康と体力、運動の効果について
2	運動適応のメカニズム（1）	運動時のエネルギー発生仕組みについて理解する
3	運動適応のメカニズム（2）	有酸素能力と無酸素性作業閾値について理解する
4	運動適応のメカニズム（3）	運動と呼吸について理解する
5	運動適応のメカニズム（4）	運動と循環について理解する
6	運動適応のメカニズム（5）	運動と筋・骨格系 について理解する
7	運動適応のメカニズム（6）	運動と筋・骨格系 について理解する
8	運動適応のメカニズム（7）	運動と神経系 について理解する
9	運動適応のメカニズム（8）	運動と神経系 について理解する
10	運動適応のメカニズム（9）	運動と自律神経・内分泌系について理解する
11	運動適応のメカニズム（10）	運動と体温調節について理解する
12	運動適応のメカニズム（11）	運動と環境（内部・外部）の関係について理解する
13	運動適応のメカニズム（12）	発育発達期における運動の役割について理解する
14	運動適応のメカニズム（13）	運動強度・量の表し方について理解する
15	健康のための運動処方	様々な環境下での有酸素性運動の在り方について説明できる

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動生理学演習				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

身体運動時の生理反応の基礎と本質を演習を通じて学習していくとともに、運動中の生理現象を詳細に記録や観察し、測定時に得られたデータを解析することによって身体の生理学的な適応反応の意義を理解できるようにする。主なテーマとして、(1)呼吸循環機能に及ぼす身体活動の影響(2)筋力や筋持久力に及ぼす身体活動の影響(3)運動負荷試験の実際と解釈について、評価していく。

《授業の到達目標》

運動生理学演習では、運動生理学の講義で学んだ知識について実習を通して再確認していくとともに、運動生理学の分野において用いられる基礎的な測定方法を習得することができる。また演習を通じて、身体活動時にみられる人体機能の複雑で巧妙な適応機能について説明できる。

《成績評価の方法》

演習中のレポート課題（80％）と演習の参加意欲（作業シート）（20％）により評価する。ただし、この科目は演習科目なので、特に出席率が全体の90％に満たない場合や課題提出のない場合は単位を取得することはできません。

《テキスト》

テキストは指定しない。演習では必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

「運動負荷心電図 第2版 その方法と読み方」 川久保清著（医学書院）2009年「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法」西園秀嗣著（大修館書店）2004年「改訂最大酸素摂取量の科学」山地啓司著（杏林書院）2001年「運動処方方の指針-運動負荷試験と運動プログラム-」アメリカスポーツ医学会編（南江堂）2001年

《授業時間外学習》

演習で得られた記録を整理しながら、レポート作成のための資料を収集しておくこと。また、参考図書などを参考に生理機能の仕組みについて理解しておくこと。

《備考》

身体活動を評価するための実験を行いますので、演習にふさわしい服装（靴も含む）で参加すること。演習にふさわしい服装でない場合は、出席する必要はない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方について
2	心肺運動負荷試験(1)	有酸素性作業能力の測定方法について
3	心肺運動負荷試験(2)	間接法と直説法について理解する
4	心肺運動負荷試験(3)	直接法による酸素摂取量の測定が出来るようになる
5	心肺運動負荷試験(4)	直接法による酸素摂取量の測定が出来るようになる
6	運動中の呼吸循環機能の評価(1)	換気亢進のメカニズム（運動強度の違いによる換気量の変化を評価する）
7	運動中の呼吸循環機能の評価(2)	換気亢進のメカニズム（運動強度の違いによる換気量の変化を評価する）
8	運動中の呼吸循環機能の評価(3)	運動時の心拍数の変化について理解する（運動中の心拍変動を分析する）
9	運動中の呼吸循環機能の評価(4)	運動時の血圧調節について理解する（運動中の血圧変化を分析する）
10	運動中の呼吸循環機能の評価(5)	酸素負債と酸素借について理解する
11	運動中の体温調節機構について(1)	運動と熱放散反応（運動時の体表面温を分析）
12	運動中の体温調節機構について(2)	運動と熱放散反応（運動時の体表面温を分析）
13	無酸素性作業域値の測定	血中の乳酸濃度と換気量の変化
14	運動時の筋活動機能の評価(1)	筋電図の測定（1）
15	運動時の筋活動機能の評価(2)	筋電図の測定（2）

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動栄養学				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

われわれ人類の健康を維持したり増進させたりするためには、栄養・運動・休養の三要素が必要である。特に栄養は毎日の生活の基礎である食事や食生活のあり方につながるだけに重要であり、健康やスポーツに携わる者にとり基本的な栄養知識は必須である。そこで、栄養と運動や健康の関わりを中心に、栄養学の基礎と運動時のエネルギーや栄養素摂取のあり方と問題点について述べる。

《授業の到達目標》

栄養と運動は車の両輪のようなものである。生活習慣病の数々は、運動と栄養のバランスの乱れに起因している。また、スポーツを行うにあたり、パフォーマンスを高めるための土台となる栄養素の働きについて理解できるようになることが重要である。この運動栄養学の講義を通じて、栄養学の基本的な内容を説明できるようになり、運動や身体活動時のエネルギーや栄養素摂取のあり方についての基礎的な知識を説明できる。

《成績評価の方法》

成績評価は定期試験の結果（80％）を中心とし、毎講義ごとに行う確認テスト（10％）とレポート課題（10％）を参考にして評価する。

《テキスト》

「スポーツと健康の栄養学」（第3版）下村吉治著（NAP）2010年また必要に応じて関連した資料も配付する。

《参考図書》

「健康づくりと競技力向上のためのスポーツ栄養マネジメント」鈴木志保子（日本医療企画）2011年「アスリートのための栄養・食事ガイド」小林修平、樋口満編（第一出版）2006年「実践的スポーツ栄養学」鈴木正成著（文光堂）2006年「身体運動・栄養・健康の生命科学Q&A 栄養と運動」伏木亨他著（杏林書院）2001年

《授業時間外学習》

テキストの指定箇所を事前に読んでおくとともに、「栄養学」で学んだ内容についてよく理解しておくこと。また、毎講義ごとに前回講義の復習を兼ねて確認テストをしますので、各自で学習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の概念と栄養	栄養と運動や健康の関わりについて理解する
2	栄養学の基礎(1)	運動時の炭水化物・脂質・蛋白質の働きについて理解する
3	栄養学の基礎(2)	運動時のビタミン・無機質の働きについて理解する
4	栄養学の基礎(3)	エネルギー産出と筋運動時のエネルギー
5	栄養学の基礎(4)	生活活動とエネルギー消費
6	運動時の栄養補給(1)	運動時の糖質代謝（スタミナと炭水化物ローディング）について理解する
7	運動時の栄養補給(2)	運動時の脂質代謝について理解する
8	運動時の栄養補給(3)	運動時の蛋白質代謝について理解する
9	運動時の栄養補給(4)	運動時のビタミン・無機質の代謝、生体内での役割について理解する
10	運動と栄養素の消化・吸収	運動中の栄養素の消化・吸収について理解する
11	活性酸素と運動・栄養	抗酸化剤（サプリメント）の効果について理解する
12	トレーニング期と試合期の食事	筋肉づくりのための食事タンパク質の摂取方法について説明できる
13	栄養・食事アセスメント(1)	栄養状態の判定と評価
14	栄養・食事アセスメント(2)	運動期間中の食事アセスメントの方法と実際
15	日本人の食事摂取基準（栄養所要量）	栄養素摂取量の現状と運動時の活用法について説明できる

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	子ども運動学演習				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

演習科目である為理論と実践を結びつけながら進める。幼児の理解を深め実践能力をより高める意味で附属加古川幼稚園の子どもを観察をしたり幼児と接する機会を持つ。今までの学校体育で経験した内容やスポーツ実践での考え方の枠を外してより柔軟的に運動を捕らえ、幅広く運動遊びや学校体育指導に役立つ内容を実施する。

《授業の到達目標》

幼児の運動遊び指導者並びに小学生の体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期・児童期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動の考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期・児童期に適した運動実践の在り方を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「運動発達科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）
 「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）
 「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）
 “Motor Development and Movement Experiences for YoungChildren”
 DAVID L.GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

幼児の運動遊び指導者および小学校体育指導者として必要な知識を身につけて欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	移動系運動（1）	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
3	移動系運動（2）	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
4	操作系運動（1）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
5	操作系運動（2）	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
6	操作系運動（3）	操作系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際（コーディネーション能力を含む）
7	非移動運動（1）	非移動運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
8	非移動運動（2）	非移動運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際
9	対人ゲーム	スポーツスキル獲得のための方法と実践（コーディネーション能力を含む）
10	集団ゲーム（1）	スポーツスキル獲得のための方法と実践（コーディネーション能力を含む）
11	集団ゲーム（2）	スポーツスキル獲得のための方法と実践（コーディネーション能力含む）
12	小学校体育（1）	低学年における体育指導の考え方と実践方法（スポーツスキル獲得のための方法と実践）
13	小学校体育（2）	中学年における体育指導の考え方と実践方法（コーディネーション能力含む）
14	小学校体育（3）	高学年における体育指導の考え方と実践方法（コーディネーション能力含む）
15	まとめ	全体のまとめをする

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ医学概論				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

これまでに習慣的な運動が生活習慣病の病態改善や心臓血管系疾患の発症リスクを軽減することが明らかにされている。運動指導に携わる者は対象者に運動を负荷したとき、どのようなメカニズムによってその効果が得られるのかという本質を理解しておかなければならない。本講義では原著論文の講読を通じて、生活習慣病に関連する医学的基礎知識から治療につながるような運動の効果について講述する。

《授業の到達目標》

生活習慣を改善することにより、疾病の発症や進行が予防できる疾患と定義されている生活習慣病は、「一次予防」すなわち健康を維持・促進して疾患の発症を予防することを目標としている。運動は疾患の発症を予防するだけでなく、生活習慣病に対する運動療法としても注目を集めている。本講義を通じて、主に生活習慣病に対する治療や予防に効果的な運動を類別できるようにする。

《成績評価の方法》

講義時間中に行う発表や討論等、発表で評価を行う。具体的には、必要な資料作成（60%）、口頭発表（20%）、質疑（20%）を合わせて総合的に評価する。

《テキスト》

テキストは特に指定せず、講義ごとに配付する関連した資料を使用します。

《参考図書》

「健康管理とスポーツ医学 公認アスレティックトレーナー専門科目テキストワークブック」赤間高雄編（文光堂）2011年
 「スポーツ運動科学 バイオメカニクスと生理学」W.E.ギャレット、D.T.カーケンダル編（西村書店）2010年
 「運動療法と運動処方 身体活動・運動支援を効果的に進めるための知識と技術」佐藤祐造編（文光堂）2008年

《授業時間外学習》

講義中に行う発表に関する資料について、専門用語や内容について学習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康づくりにおける運動のあり方	疾病の治療、特に生活習慣病に対する運動の効果や在り方について理解する
2	健康づくりのための運動所要量と運動指針	健康づくりのための運動指針について（その目的や意義について）説明することが出来る
3	生活習慣病の運動療法(1)	糖尿病に対する運動の意義(1) 運動とインスリン感受性の関係について理解する
4	生活習慣病の運動療法(2)	糖尿病に対する運動の意義(2) 運動と糖輸送蛋白の関係について理解する
5	生活習慣病の運動療法(3)	高血圧症に対する運動の意義(1) 運動による降圧の機序について理解する
6	生活習慣病の運動療法(4)	高血圧症に対する運動の意義(2) 運動処方として適している身体活動の種類について理解する
7	生活習慣病の運動療法(5)	高脂血症に対する運動の意義(1) 運動と脂質代謝について理解する
8	生活習慣病の運動療法(6)	高脂血症に対する運動の意義(2) 運動と脂質代謝の調節機構について理解する
9	生活習慣病の運動療法(7)	動脈硬化症に対する運動の意義(1) 運動と脂質代謝（リポタンパク質）について理解する
10	生活習慣病の運動療法(8)	動脈硬化症に対する運動の意義(2) 運動と脂質代謝の調節機構について理解する
11	生活習慣病の運動療法(9)	虚血性心疾患、肥満に対する運動の効果について理解する
12	女性とスポーツ	競技スポーツや身体活動が生体に及ぼす影響について理解する
13	運動と免疫機能	運動と炎症反応、その防御機構について理解する
14	運動と活性酸素	運動による活性酸素の消去システム機構について理解する
15	総括	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することが出来る

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ心理学				
担当者氏名	堤 俊彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

スポーツ・運動の場面の心理・行動学的な視点理解を深めるために、スポーツを通じた発達、心理とパフォーマンスとの関係、競技不安やストレスマネジメント、動機づけのメカニズムと方法、スポーツパーソナリティ、対人認知、スポーツ・運動のメンタルヘルス増強効果、などについて考究する。あわせて、スポーツ選手のパフォーマンスを支援する心理サポート、中高年者の運動行動変容の理論的背景を学習する。

《授業の到達目標》

スポーツや運動場面における心理・行動学的な基礎的な事項について説明できる。
 スポーツや運動場面における各種心理的支援の行い方について知識を得る。
 行動変容に必要なとなるカウンセリングに関する知識を学び技法を習得する。

《成績評価の方法》

ファイナルテスト（50%）、予習レポート（30%）、毎講義後の振り返り（20%）を総合して評価とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康スポーツ心理学とは	スポーツ・運動の場面に關して心理学的な意義、運動と社会、発達について概観する
2	スポーツとこころ	スポーツと心の関わりの基礎、競技不安、スポーツ関連感情、スポーツ自己有能感
3	スポーツと発達	スポーツを行うことに伴う心理的な発達と自己の確立
4	スポーツにおける動機づけ	動機づけ理論、生理・心理・社会的効果、競技を継続に必要な心理的側面
5	コーチングの心理	選手のやる気を引き出すかコーチング、意思決定及び強化随伴性
6	スポーツと感情	スポーツ・運動が及ぼす感情の変化と心の健康増進効果
7	スポーツ・運動の心理的効果	運動がもたらす心の健康増進効果、不安やうつ予防としての運動・スポーツ
8	スポーツとパーソナリティ	スポーツの競技場面に及ぼすパーソナリティの影響
9	ストレスマネジメント	競技ストレス、運動・スポーツのストレスへの効果、不安減少のメカニズム
10	スポーツと健康のカウンセリング	健康教育、カウンセリングとセラピー、依存とオーバートレーニング
11	運動とメンタルヘルス	心の発達論、中高年期における心理的变化、運動参加を妨げる要因
12	運動・スポーツと中高年期の心理	中高年期の危機、発達課題とメカニズム、適応行動とその変化
13	介護予防と健康スポーツ	加齢による心理的变化、高齢者の運動と自己効力感、リハビリテーションの心理学
14	運動行動変容	トランスセオレティカルモデル、行動変容のステージ、リラプスへの対応
15	まとめ	スポーツ・運動が及ぼす心理的効果のまとめ

《テキスト》

特定のテキストは指定しない。毎講義オリジナルな教材を使用する。

《参考図書》

健康スポーツの心理学、竹中晃二（編）、大修館書店

《授業時間外学習》

講義の前に指定箇所を必読しておくこと。
 その要約とコメントを予習レポートして提出（任意）。

《備考》

本クラスではパフォーマンスやメンタルヘルスに関し実践的な内容を習得します。それらを、実践の場で応用できるように期待しています。

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	トレーニング科学				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

トレーニング指導において必要な基礎知識（運動生理学、解剖学、トレーニング理論、方法論等）の習得をレジスタンストレーニングを中心にを行います。実際にレジスタンストレーニングを行い理解を深めます。（時間配分：理論習得に約70%、実技習得に約30%）基本はテキストを中心に解説し、必要に応じてトピックス等を追加します。数回のレポート課題があります。

《授業の到達目標》

トレーニング指導において必要なレジスタンストレーニングの基礎知識の獲得を行います。健康運動実践指導者におけるレジスタンストレーニングの基本知識ならびに基本技術を身につけることを目標とします。

《成績評価の方法》

・数回のレポートと筆記テスト(70%)、実技テスト(30%)の結果のみで評価します。
 ・レポートは期日厳守です。原則遅れは受け取りません。

《テキスト》

「健康運動実践指導者用テキスト - 健康運動指導者の手引き -」（財）健康・体力づくり事業財団

《参考図書》

「NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識」森永製菓（株）健康事業部、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「筋力をデザインする」杏林書院、「筋力トレーニングの理論と実際」大修館書店、「スポーツ・健康科学」放送大学、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

・該当する箇所はテキストを事前に読んで理解しておく事。
 ・実技に関しては、自ら時間を作って練習ならびに実践を行うことを強く希望します。

《備考》

実際にレジスタンス運動を行います。運動指導者を目指す学生が、より多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等について説明します。受講者は必ず出席すること。
2	指導者について	トレーニング指導者における必要な素養や技術等について学び理解する。
3	スポーツ障害について	スポーツ障害の発生について理解する。あわせていかに予防するかをレジスタンストレーニングの視点から考える。
4	レジスタンストレーニングとは	静的、動的筋収縮における基本的なレジスタンストレーニングについてその特徴や理論を理解する。
5	レジスタンストレーニングの種類	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングの種類とその特徴について理解する。
6	トレーニングのプログラムとは	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム作成のための計画について理解する。
7	トレーニングのプログラム評価	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム評価のための指標について理解する。
8	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-1。下腿のトレーニング種類と特徴を理解する。
9	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-2。上肢のトレーニングの種類と特徴を理解する。
10	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-3。体幹のトレーニングの種類と特徴を理解する。
11	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-4。話題性の高いレジスタンストレーニングについてその効果等を知る。
12	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-5。高齢者を対象としたレジスタンストレーニングについて理解する。
13	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮における成長期におけるレジスタンストレーニングについて理解する。
14	レジスタンストレーニング	レジスタンストレーニングと栄養に関する事項をサプリメントの活用等から理解する。
15	まとめ&実技テスト	実技のチェック（テスト）&総まとめを行う。

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	トレーニング科学				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

筋力トレーニングをテーマにその理論と実践を学びます。基本的な運動生理学、解剖学、運動栄養学の知識を取得している者を対象とし、筋力トレーニング指導において必要な基礎知識（運動生理学、解剖学、トレーニング理論、方法論等）の習得を行います。授業は、各回テキストの1章のスピードで解説を行いながら随時トピックス等を追加します。適宜レポート課題あり。

《授業の到達目標》

ストレンクスコーチの養成を目標とします。レジスタンストレーニング指導において必要な基礎知識の獲得を行います。その結果、基本的なレジスタンストレーニングのメニューや指標作り、ならびにトレーニング評価が出来るレベルを目指します。

《成績評価の方法》

レポートとテスト(100%)の結果のみで評価します。レポート提出は期日厳守です。原則遅れは受け取りません。* 加点主義です。努力した分は積極的に評価します。

《テキスト》

「筋力トレーニングの理論と実践」大修館書店
 ¥2,900 + 税
 * 必要に応じて資料も配布します

《参考図書》

「ストレンクストレーニング&コンディショニング」ブックハウスHD、「レジスタンストレーニングのプログラムデザイン」ブックハウスHD、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「スポーツ医科学」杏林書院、「パワーアップの科学」朝倉書店、「臨床スポーツ医学」医学映像教育センター、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に指定された内容の箇所のテキストを読んで、「わからない点」を明確にしておくことを求めます。そのわからないところやわかりにくい点ならびに重要箇所を中心に解説します。

《備考》

ストレンクスコーチを目指す人が、より多くのことを学べるよう積極的に授業を展開します。テキストの予習をした上での積極的な姿勢を望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業方針や評価方法等について説明します。受講者は必ず出席すること。
2	トレーニング理論について	トレーニング理論の基本概念の解説と理解を行う。
3	特異性について	運動課題に応じた特異的な筋力について学ぶ（筋力の決定要因に関する内容）
4	最大筋力について	スポーツ競技に応じた特異的な筋力について学ぶ（最大筋力に関する内容）
5	トレーニング強度について	筋力トレーニングの強度について学ぶ（トレーニング強度に関する内容）
6	トレーニング計画について	筋力トレーニングのタイミングについて学ぶ（トレーニング計画に関する内容）
7	トレーニングの種類について	筋力トレーニングの種類について学ぶ（方法の選択に関する内容）
8	障害予防について	障害の予防について学ぶ（筋力トレーニングと障害予防に関する内容）
9	目的に応じたトレーニングについて	目的に応じた筋力トレーニングについて学ぶ（筋力、パワー、持久力の向上に関する内容）
10	性差や健康増進について	女性のための筋力トレーニングについて学ぶ（性差や健康の維持増進に関して生理学的、解剖学的な面から理解する）
11	ジュニア期におけるトレーニングについて	ジュニアのための筋力トレーニングを中心に学ぶ（発育発達における適時性や特性に加えて健康づくりの促進に関する内容を学び理解する）
12	高齢者など加齢や健康について	シニアのための筋力トレーニングについて学ぶ（加齢、可塑性、健康の維持増進等に関する内容について学び理解する）
13	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ1（使用する筋の名称や位置に関する内容）
14	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ2（目的に応じた選択に関する内容）
15	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ2（目的に応じた選択に関する内容）

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	健康・体力づくり実践				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。方法として、個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。各自がこの授業を通して体得したものが、次年度以降の授業に有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

に主として運動実践を通して体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。学校体育における実施種目の実践を通して段階的な指導方法を学ぶ。また、スポーツ・運動実践時の障害や事故を未然に防ぐ為に、有効な準備運動や整理運動を知る。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) 『障害スポーツのプログラム』日本レクリエーション協会編(遊戯社) 『からだの‘仕組み’のサイエンス-運動生理学の最前線-』

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	器械運動	平均台運動における特性の理解と実践（1）
3	器械運動	平均台運動における特性の理解と実践（2）
4	球技	テニスにおける特性の理解と実践（1）
5	球技	テニスにおける特性の理解と実践（2）
6	球技	ハンドボールにおける特性の理解と実践（1）
7	球技	ハンドボールにおける特性の理解と実践（2）
8	陸上競技	やり投げにおける種目特性の理解と実践
9	陸上競技	ハードル走における種目特性の理解と実践
10	陸上競技	健康づくりの為にウォーキング・ジョギング短・長距離走における種目特性の理解と実践
11	球技	卓球における特性・ルールの理解と実践
12	球技	ソフトボールにおける特性・ルールの理解と実践
13	ダンス	表現活動における特性の理解と実践（1）
14	ダンス	表現活動における特性の理解と実践（2）
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	健康・体力づくり実践				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

日常生活において実践できる多種多様な健康体力づくりの運動を、実践を通してその方法を体得して欲しい。また、各年代や体力レベルに応じた健康体力づくりの指導時における留意点などを考える。また、体力測定の実施を通して、的確な体力レベルの把握の仕方についても考える。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

学校体育対象者を含めた様々な年代の個人の体力レベルに応じた、健康体力づくりの実践方法を考える。その実践を通して、多種多様な健康体力づくり実践時の正しい実践方法や有効な準備運動・整理運動について理解し、指導者としての能力を養うことを目標とする。最終的には、実際に個人レベルでの健康体力づくりプログラムを作成し、実践指導を体験する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) 『障害スポーツのプログラム』日本レクリエーション協会編(遊戯社) 『からだの‘仕組み’のサイエンス-運動生理学の最前線-』

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	体力測定	年代に応じた、体力測定の実施方法と意義
3	障害予防（1）	障害を防ぐストレッチングと柔軟体操の実践
4	障害予防（2）	障害を防ぐウォーミングアップとクーリングダウンの実践
5	年代に応じた健康体力づくり（1）	幼児期における健康体力づくりの実践と指導法
6	年代に応じた健康体力づくり（2）	児童期における健康体力づくりの実践と指導法
7	年代に応じた健康体力づくり（3）	青少年期における健康体力づくりの実践と指導法
8	年代に応じた健康体力づくり（4）	成人期における健康体力づくりの実践と指導法
9	年代に応じた健康体力づくり（5）	中高年期における健康体力づくりの実践と指導法
10	年代に応じた健康体力づくり（6）	高齢者における健康体力づくりの実践と指導法
11	体力レベルに応じた健康体力づくり（1）	体力の比較的高いレベルの人に対する健康体力づくりの実践と指導法
12	体力レベルに応じた健康体力づくり（2）	体力の比較的低いレベルの人に対する健康体力づくりの実践と指導法
13	スポーツ実践（1）	各年代に応じたスポーツ実践とその指導法（1）
14	スポーツ実践（2）	各年代に応じたスポーツ実践とその指導法（2）
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	病理学概論				
担当者氏名	北条 香織				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

病理学とは、病気の理由もしくは理屈を理解する学問でありませ。この講義では 病気の原因になりうる 病態（炎症、感染、腫瘍、免疫、血管障害、等）の病因学（etiology）を学び、その病気の場となる臓器（呼吸器、循環器、神経系、等）の形態・機能とそのメカニズムを理解して、それらの臓器が病気の結果、組織の構造がどのように変化していくかをみる。

《授業の到達目標》

《授業の到達目標》

- 1) 体を構成する各器官と機能を理解する。
- 2) それら臓器におこる病気の種類と病態を理解する。
- 3) 以上を理解すると、予防医学的な考えが身につけやすく、健康管理にも役立てて欲しい。
- 4) 主な疾患を網羅しているので、病院で医師から伝えられる、難解な病状説明や治療方針も理解しやすくなるでしょう。

《成績評価の方法》

定期試験 40%（試験はテキスト等の持ち込み可）

授業時の小テスト 60%

《テキスト》

新クイックマスター病理学 堤 寛 監修（医学芸術社）

《参考図書》

臨床病理・病態学、山内 豊明編（メディカ出版）
カラーで学べる病理学（ヌーベルヒロカワ）
Dr.レイの病理学講義 高橋レイ（金芳堂）
マクロ病理アトラス 西山保一著（東京文光堂）

《授業時間外学習》

授業の復習としての小テストから定期試験が実施される。配布したプリントも保存し参考にする事。

《備考》

特に理解できない項目等にリクエストあれば授業内容に取り込む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総論）炎症	急性炎症の疾患、慢性炎症の疾患とそれらをつかさどる細胞や科学因子
2	総論）感染症	いろいろな外来生物からの感染と各臓器の重要な感染症
3	総論）感染や外的から体を守る免疫	白血球やリンパ球 それから産生される抗体というものが体を守る
4	総論）アレルギーと自己免疫疾患	アレルギー反応と疾患、自己に反応して自分を侵す自己免疫疾患
5	総論）循環障害？血液異常	全身を流れる血管のしくみと、その異常。出血、梗塞、それらの基礎となる動脈硬化
6	各論）脈管系の疾患	動脈硬化や血栓症などによる各臓器の病気
7	各論）心臓・呼吸器の疾患	心臓・呼吸器の構造と機能とその病気
8	各論）腎臓の病気と高血圧	腎臓の構造とその病気
9	各論）内分泌ホルモンとその異常	ホルモンを分泌する臓器と作用する臓器とその異常から起こる病気
10	各論）肝臓・胆嚢・膵臓の働きと疾患	インシュリンを産生する膵臓の病気、糖尿病、肝・胆の病気からおこる黄疸 など
11	各論）消化器	栄養を吸収し、排泄する消化管の構造と機能。下痢や嘔吐から疾患へ
12	総論）腫瘍（新生物）	癌というものの成り立ちを理解し、病態を知る
13	各論）呼吸器系の構造と機能とその病気	インフルエンザや喘息、肺炎などなじみのある疾患から肺癌まで
14	各論）造血系・リンパ系	赤血球・白血球・血小板の病気
15	各論）脳・神経系の病気	各疾患のDVD

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健				
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

学校保健は子どもの命と健康を守るために必要な教育活動であり、学校教育にかかわる者に必要な使命である。

学校保健の学修内容をもとに学校保健活動の実際の理論と方法を学び、児童生徒の健康づくりを考えることをねらいとしている。学校安全を含めた保健管理の領域を中心に、必要な知識や技術を修得するとともに児童生徒の心身の健康について演習や実習を通して具体的に学ぶ。

《授業の到達目標》

学校保健の領域を構造的にとらえることができる
 児童生徒の健康・安全に対する教師の役割や責任について説明できる

学校保健活動の根拠となっている法律や制度を説明することができる

《テキスト》

「学校保健ハンドブック」教員養成系大学保健協議会編 東山書房

《参考図書》

学校保健の動向（平成23年度版）

《授業時間外学習》

学校教育、学校保健に関するトピックスを提示するので、「読み取る」「調べる」などして自分の意見をまとめ次回に提出する

《成績評価の方法》

レポート等（50％）定期試験（50％）で総合的に判断する

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健活動の構造及び展開	学校保健と学習指導要領、保健教育・保健管理・保健組織活動
2	学校保健活動の構造及び展開	子どもの健康問題の推移、現代的健康課題、ヘルスプロモーション
3	メンタルヘルスの理解とその対応	校内組織体制、スクールカウンセラー 心のケア サポートシステム
4	健康実態把握の方法	文部科学省学校保健統計、健康観察、保健調査、健康診断
5	児童生徒の健康診断（1）	学校行事としての健康診断、計画から事後措置
6	児童生徒の健康診断（2）	実習、技術的基準 身体測定、視力検査、聴力検査
7	感染症・食中毒の予防と管理	学校で予防すべき感染症、出席停止、臨時休業
8	学校環境衛生活動	学校環境衛生基準
9	学校環境生成活動の実際	日常の点検活動 定期検査 飲料水の検査 プール水の検査 残留塩素 照度検査
10	学校における危機管理、安全管理	学校危機管理 安全点検、危機管理マニュアル、避難訓練
11	学校管理下での事故や災害	学校事故発生状況、不審者侵入 突然死への対応 災害共済給付
12	学校給食と食育	学校給食法、食育基本法、栄養教諭
13	学校保健計画、学校安全計画	学校保健、安全計画の目的意義 作成手順・評価
14	学校保健組織活動	学校と地域社会との連携、学校保健委員会
15	まとめ	学修内容確認

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

学校では、全職員が協力して児童生徒の健康安全を推進していくことが求められている。特に保健体育教諭、養護教諭はその専門的な立場から協力して積極的な役割を担い活躍することが期待される。ここでは保健教育、安全教育の指導の場面を中心に児童生徒の健康課題の解決に向けた模擬授業等の体験、演習をとおして実践力を身につけることをねらいとしている。

《テキスト》

『学校保健ハンドブック』教員養成系大学保健協議会編（ぎょうせい）小学校学習指導要領解説文部科学省体育偏（東洋館出版）中学校学習指導要領解説保健体育偏（東山書房）

《参考図書》

これからの中学校保健学習（財団法人日本学校保健会）
 これからの小学校保健学習（財団法人日本学校保健会）

《授業の到達目標》

児童生徒の現代的な健康課題について説明することができる
 「教科保健（保健学習）」と「保健指導」の相違点を説明することができる

工夫して保健指導の指導案作成、模擬授業等をとおして役割を担う指導力、実践力を身につけることができる

《授業時間外学習》

ワークシート、資料をこまめに整理して復習するとともに、児童生徒の健康課題に関心をもって情報を収集すること

《成績評価の方法》

課題レポートの内容評価・グループワークの発表内容（50%）
 定期試験（50%）により、総合的に評価する。

《備考》

「学校保健」、「学校保健」を履修していることが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	社会の変化と児童生徒の健康課題、ヘルスプロモーションと保健教育
2	教育課程と保健教育	学習指導要領、保健学習と保健指導 特別活動、学級活動（ホームルーム活動）、学校行事
3	歯、口の健康づくり	歯・口の健康実態、指導計画、指導体制、学校歯科医、実践事例
4	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育（1）	喫煙・飲酒・薬物乱用実態、指導計画、指導体制
5	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育（2）	指導実践例
6	学校における性教育、エイズ教育（1）	性の問題行動の実態、指導計画、指導体制
7	学校における性教育。エイズ教育（2）	指導実践例、ビデオ教材
8	ライフスタイルと保健指導（1）	生活習慣の実態、指導計画、指導体制
9	ライフスタイルと保健指導（2）	指導実践例
10	学習指導案の作成	学習指導案作成の意義、形式、学習指導要領との関連、教科学習との関連
11	学習指導案の作成	保健指導学習指導案作成の実際
12	保健指導模擬授業（1）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
13	保健指導模擬授業（2）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
14	保健指導模擬授業（3）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
15	まとめ	学修内容、到達目標確認

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	健康行動論				
担当者氏名	植田 誠治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

健康行動の理論モデルを分析し、実際の健康教育場面での応用を検討する。

《テキスト》

松本千明『医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎』医歯薬出版

《参考図書》

適宜、参考図書を紹介する。

《授業の到達目標》

- それぞれの健康行動モデルの特徴を説明できる。
- 健康行動モデルの健康教育場面への応用について、思考・判断する。

《授業時間外学習》

授業中に示すテキストの指摘箇所を予習として読んでおくこと。また、宿題を課すことがあるので、指定の方法で提出すること。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への参加（30%）、(2) 小課題への取り組み（30%）、(3) 最終試験（40%）（なお、最終試験は、テキスト、資料、ノート「持ち込み可」にて実施する。）

《備考》

本授業は集中で行われる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康行動科学の発展	健康行動科学の健康科学における位置づけ、健康行動科学の歴史的発展
2	健康行動科学の応用可能性	健康行動科学の応用例
3	価値 期待モデルの理解	価値 期待モデルとは何か
4	価値 期待モデルの応用	価値 期待モデルの健康教育場面への応用例の検討
5	ヘルスピーرفモデルの理解	ヘルスピーرفモデルとは何か
6	ヘルスピーرفモデルの応用	ヘルスピーرفモデルの応用例の検討
7	自己効力感と健康行動	自己効力感とは何か
8	自己効力感と健康教育	自己効力感の健康教育への応用
9	変化のステージモデルの理解	変化のステージモデルとは何か
10	変化のステージモデルの応用	変化のステージモデルの健康教育への応用
11	ストレスコーピングの理解（1）	ストレスコーピングとは何か
12	ストレスコーピングの理解（2）	自分のストレスコーピングの特徴の把握
13	ヘルスローカスオブコントロールの理解	ヘルスローカスオブコントロールとは何か、ヘルスローカスオブコントロールの研究の検討
14	タイプA行動特性、自尊心と健康行動	タイプA行動特性とは何か、心理特性と健康行動との関係
15	まとめ	授業全体で得られた知見の再確認

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学				
担当者氏名	細井 八千代				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

基礎看護技術を習得し、よりよい看護ケアにつながる看護知識、技術、態度を学び、養護教諭としての看護実践を考えます。受講者は、健康の保持増進及び回復のために、看護は何かできるのか。病気の経過やその症状の訴えを知り、そのための看護を理解したり、治療や処置に伴う看護など、科学的根拠を持って理解するよう努めます。

《授業の到達目標》

- 看護の基礎技術を理解し、説明できる。
- 基本的な技術を習得し、実践できる。
- 看護活動について理解し、健康障害について解説できる。
- 傷病者の状態のアセスメントの方法を理解し、説明できる。

《成績評価の方法》

最終試験(60%)、演習後のレポート(40%)。100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

養護教諭のための看護学（三訂版） 藤井寿美子、山口昭子、佐藤紀久榮、采女智津江 編（大修館書店）

《参考図書》

- 『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
- 『実践基礎看護学』中西監修（建帛社）
- 『基礎看護技術』（医学書院） その他適宜紹介する

《授業時間外学習》

課題レポートのため、関係図書に目を通しておく。
 復習をしっかりとこない、正確な知識の習得に努める。
 医療的側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習しておく。
 技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習をおこなう。

《備考》

教員免許取得希望者の必須科目です。演習を随所に取り入れるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢が必要です。2コマ連続開講で11回+45分の授業となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について
2	病気の経過に伴う看護	急性疾患、慢性疾患、リハビリテーション、予後
3	治療・処置に伴う看護	安静療法、食事療法、薬物療法、運動療法、放射線療法、外科的療法
4	訴えや症状に対する理解と看護	必要な情報、訴えや症状に対する看護
5	基礎看護 1. 環境整備	看護技術とは、 ベッドの整備、ベッドの条件
6	2. 安楽な体位 3. 移送	基本的な体位、救急時の体位 車椅子、担架、松葉杖
7	4. 衣服の着脱 5. 身体の清潔	衣服の着脱方法、衣類の環境 清潔の意義、眼、耳、鼻、口腔、手指、足部、頭髮等の清潔、発汗の処置
8	6. 排泄の援助 (中間のまとめ)	便秘、下痢、尿意
9	7. 食生活の援助 8. 電法	食と生活、食事介助、 電法の目的、電法の種類と効果、冷電法と温電法、電法の実施方法
10	9. 薬についての知識 10. 感染予防	与薬の目的、薬の種類、保健室の薬、吸入 消毒と滅菌、機器の使い方、滅菌物の扱い方
11	11. バイタル測定 12. 包帯法	バイタルサインの測定 包帯の目的、包帯の種類、包帯の巻き方、解き方、三角巾の使い方、
12	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。
13		
14		
15		

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学				
担当者氏名	若井 和子、瀧本 茂子、井上 満代				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

小児期・思春期・成人期・老年期における発達段階の特徴と各期において罹りやすい疾患・病態生理・治療・看護について学習する。
 各発達段階に応じた健康の保持・増進に必要な観察方法・予防法・看護技術の演習を行う。

《テキスト》

「養護教諭のための看護学」藤井寿美子他編、大修館書房

《参考図書》

「女性のためのライフサイクルとナーシング」 編集 高橋真理他、ヌーヴェルヒロカワ

《授業の到達目標》

- 1)小児期・思春期・成人期・老年期の発達段階の特徴を理解することができる。
- 2)各発達段階にある対象の健康状態を評価するための観察ができる。
- 3)各発達段階の健康を保持・増進するための保健指導を行うことができる。

《授業時間外学習》

- ・文献検索を行い、課題レポートを作成する。
- ・演習には、事前学習を行い、留意点を把握しておく。

《成績評価の方法》

小児期（60%）、思春期（20%）、成人期・老年期（20%）筆記試験。

《備考》

演習はユニフォームに更衣して行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	小児期の発達段階の特徴	乳児期・幼児期・学童期の発達段階の特徴、発達の評価
2	乳児期の健康障害と看護	乳児期に起こりやすい健康障害（発熱・脱水・発疹など）、必要な看護
3	幼児期の健康障害と看護	幼児期に起こりやすい健康障害（事故・川崎病・けいれんなど）、必要な看護
4	学童期の健康障害と看護	学童期に起こりやすい健康障害（心臓疾患・腎臓疾患・生活習慣病・喘息など）、必要な看護
5	小児期のメンタルケア	メンタルケアの意義、PTSD,児童虐待、いじめ、必要な看護
6	学校での感染症	主な感染症、予防法、第2種感染症、第3種感染症、第4種感染症、発症時の対応
7	小児のフィジカルアセスメント まとめ	小児のフィジカルアセスメント、身体計測、まとめ（小テスト）
8	女性のライフサイクル	女性のライフサイクルと各期のヘルスケア リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
9	思春期の発達段階の特徴	思春期の特徴 第二性徴・女性の性周期・母性看護の意義
10	思春期に罹患し易い主な疾患と看護	主な疾患（STD含む）、病態生理、治療、看護
11	思春期看護に必要な看護技術 まとめ	産婦人科での看護技術、フィジカルアセスメント、まとめ（小テスト）
12	成人期の発達段階の特徴	成人期の発達段階の特徴、成人保健動向
13	老年期の発達段階の特徴	老年期の発達段階の特徴、高齢社会の現状
14	成人期・老年期の健康障害と看護	生活習慣病・心不全・呼吸不全・脳梗塞・骨折・外傷など、必要な看護
15	成人期・老年期に必要な看護技術 まとめ	成人・高齢者のフィジカルアセスメント、基礎看護看護技術、まとめ（小テスト）

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	臨床看護実習				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

看護学の最終段階として、これまで学んできた知識や技術を確認すると共に、臨床での人間関係を通して、養護教諭に必要な看護の専門性を確認します。受講者は、担当患者の看護ケアを通して看護過程の実際に触れることができます。高度医療や医療的ケアなど、現代的医療の現状や特別なケアの実際にも触れます。人間を深く理解し、科学的な視点で必要なケアを考えるなど、主体的に実習に取り組むことが求められます。

《授業の到達目標》

実習目標や内容を明確にし、その成果を報告することができる。
 対象者を理解し、心身の状況について、観察した内容を端的に報告することができる。
 看護学の専門性を理解し、.らの専門(学校看護)への応用について考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

事前指導から事後指導（実習報告会）まで、欠席は原則として認めない。実習ノートの記録(40%)、指導者による実習評価(20%)、事前指導と事後指導の活動状況(40%)、100点満点で採点。

《テキスト》

本作作成の『実習記録のノート』配布プリント類

《参考図書》

『最新看護学』 中桐・天野・岡田編著、東山書房
 『養護教諭のための看護学』 藤井・山口・佐藤編、大修館書店
 『基礎看護技術』 藤崎郁著、医学書院
 その他、適宜紹介する

《授業時間外学習》

実習に向けて、文献等での知識の確認と定着に努める。実習室等を積極的に活用し、基礎技術の習得に努める。実習期間中の生活時間帯を想定し、平素より、規則正しい生活習慣を確立する。

《備考》

事前指導から事後指導まですべてを含んで、本実習がある。実習の適否は、学科内委員会が判断する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導 1 オリエンテーション	臨床（臨地）実習の意義・目的および内容の概略について
2	事前指導 2	実習の内容を確認し、各.の目標を決める。
3	事前指導 3	実習中の注意事項、心構え等を確認する。
4	実習 1日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。オリエンテーション。
5	実習 2日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
6	実習 3日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
7	実習 4日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
8	実習 5日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
9	実習 6日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
10	実習 7日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
11	実習 8日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
12	実習 9日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
13	実習 10日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。 指導者を交えた、最終カンファレンス。
14	事後指導 1	実習内容のまとめ、プレゼンテーションの準備、
15	事後指導 2	実習報告会において、それぞれの実習で習得した内容や課題について報告する。

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育科学の一分野として、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問です。受講者は、心理学的領域の理解をめざすとともに、人間科学的な視点を養います。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などの学びを通して、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得と専門領域の教育に応用する方法を学習します。

《授業の到達目標》

教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。

自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめる。

教育効果の検証（評価）ができる。

教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30%）、定期試験（70%）

《テキスト》

テキストは使用しません。
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

「絶対役立つ教育心理学」藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、出席を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達、発達課題
5	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
6	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
7	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
8	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
9	教授過程	学習指導法、授業の最適化
10	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
11	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
12	教育評価（2）	測定と評価の実際
13	不適応行動	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害
14	教育における心理学の働き	教育相談、集団の機能と構造、人間関係
15	まとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育の目的達成のために学習指導要領に沿ってどのような教育内容をどのような手順で展開するかということを探究する授業である。教育課程は、広くは教育方法論において展開される領域であるが、教育内容の充実と選択の必要性から、教育課程の独立が成立した。以下のことを中心に授業は実施される。わが国の教育改革の歴史的展開と教育課程、教育課程の意義と目的について。

《テキスト》

広岡義之編著、『新しい教育課程論』、ミネルヴァ書房、2010年

《参考図書》

広岡義之編著、『教職をめざす人のための教育用語・法規』、ミネルヴァ書房、2012年

《授業の到達目標》

教育課程は何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態をしているのか、学習指導要領における教育課程の意義と特徴との理解等を到達目標とする。また、これらの到達目標を主体的に探究することも到達目標といえることができる。

《授業時間外学習》

課題が毎回到提示されるので、予習としてその課題に取り組む必要がある。講義では、テキストの内容をしっかりと予習し、さらに現代の教育的課題と関わることが予想されるので、平日頃新聞を読んだりする必要がある。

《成績評価の方法》

講義への積極的な参加(討議、プレゼンテーション、質疑応答など)50%、小試験50%

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人等のためにあるので、その人たちの妨げになる私語や遅刻はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育課程論オリエンテーション	教育課程論の授業に必要な基本的な視点、学習動機づけ、学習方法、評価などについて説明して、履修学生に履修決意をさせる。
2	教育課程の意義	教育課程の語源や歴史的発展を示し、教育課程成立時のその時代、その社会などについて考察し、教育課程の意義を考察し理解する。
3	学習指導要領と教育課程論	教育課程は、学習指導要領において展開されているので、両者の親密な関係をしっかりと理解する。
4	学習指導要領の変遷とそれぞれの特徴	学習指導要領の変遷は、教育課程にどのような変化と特徴をもたせているか、整理していく過程で学習指導要領が教育課程にいかにかかわるか把握させる。
5	教育課程編成の教育目的・目標	教育基本法・学校教育法・学習指導論などにある教育の目的や目標を考え、教育課程編成の教育目的・目標について探究する。
6	保育・教育課程の構成	現在求められている保育課程・教育課程を明確にして、編成において何が求められるのかまた、具体的な形態としてどのようなものが考えられ実施されているか理解する。
7	小学校教育課程の構成	小学校教育課程において、どのようなカリキュラムが組まれどのような内容が教授され、何が課題かなどを具体的に探究する。
8	中学校教育課程の編成	中学校教育課程において、カリキュラムの特徴、教育内容、テキストの採択などに関して解説することを通して、何が現在の課題であるか考察する。
9	高等学校教育課程の編成	高等学校教育課程において、どのような目的でどのような内容をどのような手順で実施されているかを客観的に考え、現代の課題を考える力を身につけさせる。
10	教育課程と教育行政(教科書の作成から採択まで)	教育課程は、教育行政と深くかかわっていることを教科書採択などの具体的事例を挙げながら、教育課程の本質を探る能力を養う。
11	総合的学習の時間と教育課程論	総合的な学習の導入のいきさつと発展について、学習指導要領とのかかわりから探究する力をつける。
12	学習指導要領改訂の要点	学習指導要領の改訂に伴ってそれぞれの改訂の特徴が教育課程にどのように反映されているか理解する能力を養成する。
13	教育課程の歴史的展開と教育方法	教育課程の語源や歴史的発展を提示し、教育課程をさらに深く理解する。
14	教育課程における教育方法の諸課題	教育課程と教育方法との関わりから教育課程をより明確に位置付けることを試みる。教育学の成立から教育課程が独立するまでを明確に理解できるようにする。
15	教育課程の現代的課題	教育課程が現代の教職課程において高く評価されることを基本に、今後の教育課程の進むべき方向を探究することを履修学生が主体的に考察できるようにする。

《教職に関する科目》

科目名	保健・保健体育科教育法（保健教育内容研究）				
担当者氏名	荒木 勉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

保健教育に限らず、授業計画は手順を追って作成される。ここでは、単元・授業計画を作成する全段階のうち、最初の「目標づくり」から「内容づくり」までの作業手順を取り扱う。また、これらの作業手順に沿って、中・高等学校教科書を参考に、実際に目標及び内容についての計画作成を試みる

《テキスト》

高等学校教科書「現代保健体育（2006）」大修館書店

《参考図書》

適宜、資料を配布する。

《授業の到達目標》

健康行動の深化・応用や習慣化の促進は、適切な学習目標とそれを支える学習内容に懸っていることを理解できるようになる。また、作成中あるいは作成後の目標や内容について評価・改善するには、計画作成の手順を辿る必要があることから、各段階における作業と段階の間の関連を理解できるようになる。

《授業時間外学習》

毎授業で理解したことが、実際の作業として活かせるかどうかを確認する。これに関する詳細については、毎授業時に指示する。

《成績評価の方法》

毎授業終了時に実施する小課題への取り組みの結果（50%）、及び最終テストの結果（50%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会における保健教育の在り方（1）	生活習慣を構成する、各種生活行動や健康行動、それらに影響する環境条件について
2	現代社会における保健教育の在り方（2）	生活習慣とそれらに影響する環境条件との関連性を効果的に操作することの重要性について
3	授業計画における目標づくりと内容づくり	単元・授業計画を作成する全段階の概略、及び「目標づくり」とそれに続く「内容づくり」について
4	健康行動の実践を促す、学習目標と学習内容	各種健康行動の深化・応用や習慣化の促進を図る、学習目標と学習内容について（躰教育等の例と対比しながら）
5	単元目標づくり（1）	生活習慣を見直せる（評価・改善）ようになるには、各種生活行動や健康行動及びそれらに影響する環境条件を対象にした、学習目標の重要性について
6	単元目標づくり（2）	各種生活行動の見直しを図る、単元目標の作成手順について（教育観に基づいた生徒の実態把握・生徒観、生徒観に基づいた指導観や教材観を用いて）
7	単元目標と単元計画（1）	履修者自身が教師及び生徒と仮定して、手順に沿って単元目標を作成し、その目標の達成に必要な課題（単元計画・授業目標）設定の手順について
8	単元目標と単元計画（2）	前回作成した単元目標の達成に必要な課題の設定手順に沿った作業の実際について
9	授業目標と学習内容づくり（1）	前回作成した各授業毎の目標をクリアーするために必要な学習素材を準備する手順について
10	授業目標と学習内容づくり（2）	学習素材を準備する手順に沿った作業の実際について
11	授業目標と学習内容づくり（3）	学習素材を基に、学習内容を措呈する手順について
12	授業目標と学習内容づくり（4）	学習内容を措定する手順に沿った作業の実際について
13	目標づくりと内容づくりの実際（1）	ここまで履修してきた手順に則って、目標づくりと内容づくりを試みる
14	目標づくりと内容づくりの実際（2）	前回は引き続いて、目標づくりと内容づくりを進める
15	目標づくりと内容づくりの振り返り	作成してきた目標と内容についての発表、作成手順に沿って評価・改善を試みる

《教職に関する科目》

科目名	保健科教育法（保健科教育教材研究）				
担当者氏名	荒木 勉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

ここでは、まず、I期で履修した「学習目標づくり」及び「学習内容づくり」につながる「方法づくり」の段階の作業手順を取り上げる。次いで、単元・授業計画の手順に沿って、実際に学習目標、内容、方法づくりを試み、これらを「学習指導案」としてまとめる。

《テキスト》

高等学校教科書「現代保健体育（2006）」大修館書店

《参考図書》

適宜、資料を配布する。

《授業の到達目標》

I期で履修した、「学習目標づくり」及び「学習内容づくり」の段階に続く、「方法づくり」の段階における作業手順を理解することによって、単元・授業計画を作成できるようになる。また、作成した計画を「学習指導案」としてまとめることができるようになる。

《授業時間外学習》

毎授業で理解したことを、実際に作業として活かせるかどうかを確かめる。これに関する詳細については、毎授業時に指示する。

《成績評価の方法》

毎授業終了時に実施する小課題への取り組みの結果（50％）と、最終テストの結果（50％）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	「方法づくり」(1)	教授活動を想定しながら、指定した学習内容を教える際に用いる、設備・用具・教具等（ものに関わる「場づくり」）について
2	「方法づくり」(2)	教授活動を想定しながら、指定した学習内容を教える際の学習集団編成等（人に関わる「場づくり」）について
3	「教材づくり」(1)	学習内容を効果的に伝えることが可能な教材の持つ条件について
4	「教材づくり」(2)	教授活動や学習集団の状況によって、教材の効果が変化することについて
5	「教材づくり」(3)	教材と教授活動の関連性について
6	「教材づくり」(4)	例として提示した学習内容を、効果的に伝える教材づくりの手順について
7	「教材研究」の実際(1)	「現代社会と健康」を単元と仮定し、教育観からの生徒観や生徒観に基づいた指導観と教材観を基に、単元目標及び単元計画の作成
8	「教材研究」の実際(2)	前回(1)に続いて、指導観、生徒観、教材観を基に、学習内容の措呈
9	「教材研究」の実際(3)	前回(2)に続いて、指導観、生徒観、教材観を基に、「方法づくり」としての設備・用具等に関わる使用計画の作成及び教材作成
10	「学習指導案」の作成(1)	「学習指導案」の具体例を用いて、作成手順に沿った記述項目と記述内容
11	「学習指導案」の作成(2)	「教材研究」の実際(1)～(3)で試みた、教材研究の結果を用いた、学習指導案の作成(単元目標と単元計画)
12	「学習指導案」の作成(3)	前回到続いて、学習指導案の作成(生徒観、指導観、教材観)
13	「学習指導案」の作成(4)	前回到続いて、学習指導案の作成(本時の計画)
14	「学習指導案」の作成(5)	シミュレーションの実際
15	「教材研究」の振り返り	実施してきた教材研究の結果の発表と、教材研究の手順に沿って、評価・改善を試みる

《教職に関する科目》

科目名	保健体育科教育法（保健体育科教育研究）				
担当者氏名	後藤 幸弘				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業では、学習指導要領を深く理解するとともに保健体育授業担当者としてふさわしい、基本的な資質や能力を身につけることを目標とする。換言すれば、スポーツは楽しければそれでよいのだという「一種の思考停止・判断停止」に支配されている状態から脱却し、「身体運動文化」の奥深さに触れ、それを教育に生かせるようになることを目標とする。

《テキスト》

後藤幸弘編著「内容学と架橋する保健体育科教育論」晃洋書房
 文部科学省「中学校学習指導要領解説（保健体育編）」
 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（保健体育編）」

《参考図書》

宇土正彦（監修）「学校体育授業事典」大修館書店
 日本体育学会（監修）「最新スポーツ科学事典」平凡社

《授業の到達目標》

保健体育科成立の文化基盤である「身体運動文化」への興味・関心、認識・理解を深め、専門知識の習得及び中・高等学校保健体育科の授業担当者として求められる資質や実践の能力を身に付ける。具体的には、教育実習に向けて指導案が書けるようになることを目標とする。

《授業時間外学習》

・ノートをまとめ復習する。また、次時の講義内容に当たるテキストの章を読んでおく。

《成績評価の方法》

・出席を重視します。
 ・授業における討議への積極的参加（20%）、レポート（20%）及び試験（持ち込み不可）（60%）を総合的に評価する。

《備考》

・質問・連絡等があればメールでも受け付けます
 (ygoto@gaia.eonet.ne.jp)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保健体育とは（払拭して欲しい5つの誤解）
2	教科の成立基盤と授業の構造	保健体育科の成立基盤と授業の構造
3	保健体育授業の目標	保健体育授業の目標とその変遷
4	学習指導要領	学習指導要領の変化と新学習指導要領について
5	運動領域	運動領域の編成と教育内容の構成について（欲求・発達・運動特性から）、競争について
6	教育内容 1	教育内容の措定の方法（陸上競技の短距離走を例に、速度曲線から）
7	教育内容 2	教育内容の措定の方法（リレーを例に）
8	陸上競技の学習指導	技術と歴史を統一した障害走の学習指導（石谷実践の紹介）
9	水泳の学習指導	水泳の科学的基礎の理解（浮く、呼吸、推力の創出）
10	指導技術	運動が上手にできる子を育てる学習過程を支える要件
11	学習指導	各種の学習指導法について
12	指導案の作成	学習指導案作成の留意点（レポート：指導案の作成）
13	作成した指導案の検討	
14	教師行動	教師の4大教授行動、望ましい心情をそだてる4条件
15	まとめと試験問題の検討	作成した試験問題の検討を通して講義のまとめを行う

《教職に関する科目》

科目名	道徳教育論				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

受講生は道徳指導案の作成および模擬授業が義務づけられる。教員と受講生は、発表者に、様々な角度からコメントを加えることにより、発表者は模擬授業での自らの不足部分を認識できる。道徳教育の理論と実践について深く理解する。実際に道徳の指導案を作成し、授業中に模擬授業を行い、教育実習においても十分対応できるようになる。道徳的な生徒との関係について配慮できるようにする。

《テキスト》

広岡義之編著、『新しい道徳教育』、ミネルヴァ書房、2009年

《参考図書》

広岡義之編著、『教職をめざす人のための教育用語・法規』、ミネルヴァ書房、2012年

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である道徳的内容の理解および実際の道徳の時間の指導法の実践力をつけることが、この授業の目標である。つまり、道徳の概念や道徳内容を学ぶことを通じて、今日の道徳教育の課題や問題について考え、実践することができるようにすることを目指す。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	本講義の進め方、評価の仕方、特に模擬授業をする際の留意点について説明することができる。
2	新学習指導要領「道徳」の改訂重要事項	今回の学習指導要領では道徳が「要」となった。どこが改訂されたか詳細に説明することができる。
3	道徳教育の基本的なあり方	心の教育として、どれだけ子どもたちに自由な意見を引き出させ得るか、またその方法を説明することができる。
4	道徳教育の目標	新学習指導要領に即して、道徳教育の目標を考察する。
5	道徳教育の全体計画と年間指導計画	実際の中学でなされる、全体計画、年間指導計画の作り方、手順を説明する。
6	道徳教育の内容と内容項目	道徳の内容項目の詳細を具体例を伴いつつ理解する。
7	道徳の時間の特性と指導方法、道徳教育の評価	週1回の道徳の時間で、何をどのように展開するのかを説明することができる。
8	道徳教育の指導案の内容	指導案の内容が、その授業の善し悪しを決定するために、中心発問等、押さえるべきポイントを詳細に説明することができる。
9	家庭・地域社会・学校における道徳教育	学校だけで道徳教育はできない。家庭と地域社会の連携がどれほど重要なものかを理解する。
10	生徒の心を開く資料を使用する授業展開例1	実際に一人15分を使用して、道徳の模擬授業をしてもらおう。その後、生徒役の学生は様々な意見、改善点等を指摘し合う。
11	生徒の心を開く資料を使用する授業展開例2	学生は道徳の模擬授業を通じて、声の大きさ、発問等の工夫を迫られ、そこから実践力が付くようにする。
12	生徒の心を開く資料を使用する授業展開例3	読み物資料の中身が、良い道徳の時間となるかどうかの分かれ道となる。良質の資料を見つける努力ができるようになる。
13	生徒の心を開く資料を使用する授業展開例4	自分では気づいていない、授業の進め方も、生徒役の学生からの指摘で、悪い癖や声の調子等の指摘を受けて、改善することができる。
14	生徒の心を開く資料を使用する授業展開例5	子どもから多様な意見がでるためには予想される生徒の答えをあらかじめ、考えておかなければならない。それらが十分に反映されている指導案の作成が求められる。
15	総括	道徳の理論と実践の両方が大切であることを再確認することができる。

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論				
担当者氏名	砂子 滋美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

新学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解する、また実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得を目的とする。そのために、わが国の特別活動の歴史と変遷について、特別活動の意義と目的について、新学習指導要領における特別活動の位置づけについて、他の教育領域との関わりについて、などを中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解する。

《成績評価の方法》

到達目標に関わる定期試験(60%)、授業態度(20%)、課題(20%)により評価する。課題は、現在問題になっている出来事を探究する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい特別活動論』 創言社 2009年

《参考図書》

文部科学省 『学習指導要領 小学校 中学校 高等学校』 2012年、『教育人間学的視座から見た「特別活動と人間形成」の研究』大学教育出版 2009年

《授業時間外学習》

受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートの整理に十分に時間をかけること。理解が十分できなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	新学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特活全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動体験	特別活動には様々なものがあることを理解し、その目的やねらいについて考える。
3	特別活動と学習指導要領の変遷	戦後特別活動が実施されたいきさつと発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。
4	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を紹介し、解説・分析し理解する。
5	特別活動と新学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容と関わって明確にする。
6	特別活動への期待	特別活動の充実は学校生活の満足度や楽しさと深くかかわっていることを理解する。
7	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)	特別活動における学級活動・ホームルームの位置づけ、内容を説明し、その特徴を明確にする。
8	児童会・生徒会活動と学習指導要領	児童会・生徒会活動の内容を解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことを理解する。
9	学校行事(儀式的行事)について	儀式的行事の内容と意義を理解し、これらの行事の課題について考える。
10	文化的行事について	文化的行事の内容と特徴を理解し、教科指導と特別活動との関連を明確にする。
11	健康安全・体育的行事について	健康安全・体育的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
12	旅行・集団宿泊的行事について	旅行・集団宿泊的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
13	勤労生産・奉仕的行事について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を理解し、これらの行事の課題について考える。
14	特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い	指導計画作成や内容の取り扱いについて理解し、入学式や卒業式などにおける国旗および国家の取り扱いを明確にする。
15	特別活動学習指導案作成	学級の生徒の様子から、題材を設定し学習指導案を作成し、本時のねらいを達成する授業展開を考える。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

現代的な教育の方法や技術について扱う。何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめるかを体験的に学習する。授業設計の体系的アプローチに基づいて教材を自作するための方法を解説し、毎回の授業で段階的に教材を作成し、受講生が相互に教材をチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善ができることを目指す。

《授業の到達目標》

教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
 授業設計の体系的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
 独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にも体系的アプローチを応用できる。

《成績評価の方法》

自作した教材、および、教材企画書・作成報告書（50%）
 小テストの結果（30%：3回実施予定）
 ワークシート作成等の作業、討論への参加態度（20%）

《テキスト》

鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル 独学を支援するために』北大路書房。

《参考図書》

稲垣忠・鈴木克明編著(2011)『授業設計マニュアル 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房。
 中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書
 その他の文献や資料は、適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。
 復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》

パソコンで教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなど各種ソフトや情報システムを日ごろから利用し、活用方法を習得しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明 / 教材をイメージする / キャロルの学校学習モデル
2	教材作りをイメージする	体系的な教材設計・開発の手順 / キャランドラのたとえ話
3	教材のアイデアを交換する	独学を支援する教材のアイデア交換 / 教材企画書の書き方
4	教材の責任範囲を明らかにする	小テスト（第3、4章） / 学習目標と3つのテスト
5	テストを作成する	学習課題の種類 / 教材企画書の作成
6	教材企画書を作成する	教材企画書の作成 / 教材企画書の相互チェック
7	教材の構造を見きわめる	小テスト（第5～7章） / 教材企画書の提出 / 課題分析
8	独学を支援する作戦をたてる	ガニエの9教授事象と指導方略表
9	教材パッケージを作成する(1)	形成的評価の7つ道具
10	教材パッケージを作成する(2)	形成的評価の7つ道具の相互チェック
11	教材パッケージを作成する(3)	7つ道具チェックリストの提出
12	形成的評価を実施する(1)	小テスト（第8、9章） / 形成的評価の方法
13	形成的評価を実施する(2)	形成的評価の実施 / 教材作成報告書の書き方
14	教材を改善する	教材の改善とその手順 / 教材作成報告書の作成
15	情報活用能力と独学を支援する教材 / まとめ	情報活用能力と独学を支援する教材 / 教材作成報告書の提出 / 学習の振り返り

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)				
担当者氏名	新井野 久男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関係する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%), レポート(40%), その他(提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等)(20%)を基本に総合的に評価する。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《参考図書》

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを提出する。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒に応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題(1)	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題(2)	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題(3)	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題(4)	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究(1)	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究(2)	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

平成 23 (2011) 年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授 業 目 の 分 区	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		運 動 実 践 指 導 者	教 員 免 許 関 係			学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)				平 成 25 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択		養 護	保 健 体 育	保 健	1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 基 礎 教 育 科 目 群	基礎ゼミ	演習	2						2						
	基礎ゼミ	演習	2						2						
	健康科学序論	講義	2						2						
	健康科学	講義	2							2					
	情報科学	講義	2						2						
	基礎生物学	講義	2						2						
	解剖学	講義	2						2						
	生理学	講義	2						2						
	微生物学	講義	2							2					
	生化学	講義	2							2					
	栄養学	講義	2						2						
	食品学	講義	2						2						
	栄養指導論	演習	2							2					
	衛生学	講義	2						2						
	公衆衛生学	講義	2							2					
	医学概論	講義	2								2			[南川 博康]	175
	認知心理学	講義	2							2					
	健康心理学	講義	2							2					
	臨床心理学	講義	2								2			(原 志津)	176
	人間関係論	講義	2									2		森田 義宏	177
	外書購読	講義	2									2		平本 幸治	178
	外書購読	講義	2										2	平本 幸治	179
	教育特論	講義	2									2		河野 稔	180
	教育特論	講義	2										2	平本 幸治	181
	教育特論	講義	2										2		
	地域活動演習	演習	2										2	徳田・河野	182
地域活動演習	演習	2										2			

は健康運動実践指導者養成科目

は養護教諭免許必修科目、 は養護教諭免許選択科目

は保健体育免許必修科目、 は保健体育免許選択科目

は保健免許必修科目、 は保健免許選択科目

「スポーツ実践」、「スポーツ実践」、「健康・体力づくり実践」、「健康・体力づくり実践」、

「専門施設実習」は、定期授業の他に学外実習を行う。

「レクリエーション(野外活動を含む)」は、4時間のうち3時間を学外実習にあてる。

健康運動実践指導者養成講座科目として、表中の科目以外に集中講義として「運動障害と予防」と「救急処置」を2年 期に、

「運動の基礎」の中で「発育・発達と老化」を履修する。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

業 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		運 動 実 践 指 導 者	教 員 免 許 関 係			学 年 配 当 (数字は適当り授業時間)				平 成 25 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ				
			必 修	選 択		養 護	保 健 体 育	保 健	1年		2年				3年		4年	
専 門 に 関 連 す る 科 目)	体育原理	講義	2						2									
	運動の基礎	講義	2						2									
	運動生理学	講義	2							2								
	運動生理学演習	演習	2								2							
	運動栄養学	講義	2							2								
	子ども運動学	講義	2						2									
	子ども運動学演習	演習	2							2								
	スポーツ医学概論	講義	2								2							
	スポーツ心理学	講義	2								2							
	障害者スポーツ論	講義	2										2					
	スポーツ史（体育史を含む）	講義	2										2		徳田 泰伸	183		
	スポーツ科学	演習	2									2			矢野 琢也	184		
	スポーツ科学	演習	2									2			矢野 琢也	185		
	トレーニング科学	演習	2								2							
	トレーニング科学	演習	2								2							
	体力測定と評価	講義	2						2									
	スポーツ実践	演習	3						3									
	スポーツ実践	演習	3							3								
	健康・体力づくり実践	演習	3								3							
	健康・体力づくり実践	演習	3								3							
	スポーツ指導法	演習	2									2			三宅・樽本	186		
	スポーツ指導法	演習	2									2			三宅・樽本	187		
	健康・体力づくり指導法	演習	2									2			木下 幸文	188		
	健康・体力づくり指導法	演習	2									2			木下 幸文	189		
	運動処方論	講義	2									2			矢野 琢也	190		
	運動処方演習	演習	2									2			樽本 つぐみ	191		
レクリエーション（野外活動を含む）	実習	2									4			樽本 つぐみ	192			
科 保 健 に 関 連 す る 科 目)	病理学概論	講義	2								2							
	薬理学	講義	2									2			[溝邊 雅一]	193		
	養護概説	講義	2					2										
	養護概説	講義	2					2										
	学校保健（小児保健・学校安全を含む）	講義	2					2										
	学校保健	講義	2							2								
	学校保健	講義	2								2							
	精神保健	講義	2								2							
	健康行動論	講義	2								2							
	健康統計学	講義	2									2			河野 稔	194		
	健康相談活動の理論と実践	講義	2										2		大平 曜子	195		
	看護学概論	講義	2						2									
	看護学	演習	3								3							
	看護学	講義	2									2						
	看護学	演習	3									3			(若井)・(瀧本)・[井上]	196		
看護学	演習	2										2		大平・加藤	197			
臨床基礎実習	実習	1								2								
臨床看護実習	実習	2										4		大平・加藤	198			
救急看護（救急処置を含む）	演習	3										3		大平・加藤・他	199			
卒 業 研 究	卒業研究	演習	3										3					
	卒業研究	演習	3										3					

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		運動実践指導者	教員免許関係			学年配当 <small>(数字は週当たり授業時間)</small>				平成25年度の担当者	ページ	
			必修	選択		養護	保健体育	保健	1年	2年	3年	4年			
										I					
教職に関する科目	教職概論	講義		2					2						
	教育原理	講義		2					2						
	教育史	講義		2								2		(岡本 洋之)	200
	教育心理学	講義		2						2					
	教育制度論	講義		2					2						
	教育課程論	講義		2						2					
	保健・保健体育科教育法（保健教育内容研究）	講義		2						2					
	保健・保健体育科教育法（保健教育法研究）	講義		2							2			[棟方 百熊]	201
	保健科教育法（保健科教育教材研究）	講義		2							2				
	保健科教育法（保健科教育法演習）	講義		2								2		[棟方 百熊]	202
	保健体育科教育法（保健体育科教育研究）	講義		2							2				
	保健体育科教育法（保健体育科教育法研究）	講義		2								2		[後藤 幸弘]	203
	道徳教育論	講義		2							2				
	特別活動論	講義		2								2			
	教育方法・技術論	講義		2								2			
	教育方法論	講義		2									2	廣岡 義之	204
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2							2				
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2					2						
	教育実践演習（中・高）	演習		2											2
	教育実践演習（養護教諭）	演習		2											2
中学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		5										5	三宅・大平・木下	205
高等学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習		3										3	三宅・大平・木下	206
養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5										5	大平・加藤	207

は健康運動実践指導者養成科目

は養護教諭免許必修科目、 は養護教諭免許選択科目

は保健体育免許必修科目、 は保健体育免許選択科目

は保健免許必修科目、 は保健免許選択科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	医学概論				
担当者氏名	南川 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

医学は臨床医学、基礎医学、社会医学に大別され、本講義では社会医学の中の予防医学、公衆衛生学について学んでゆく。疾病予防における保健統計の意義について理解し、その実践的活用を学習する。癌、高血圧、糖尿病などの生活習慣病の予防・健康教育の考え方を習得する。さらに、食中毒の予防、健康教育について学ぶ。

《テキスト》

21世紀の予防医学・公衆衛生 町田 一彦 岩井 秀明 (杏林書院) 2008

《参考図書》

実践予防医学 高島 豊 (診断と治療社) 2003

《授業の到達目標》

感染症、生活習慣病、職業病、環境汚染病といった各種の疾患について学習し、各疾患と社会との関係について理解を深める。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等をノートに整理して理解しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験 70% 平常評価 30% (レポート、受講態度など)

《備考》

予防医学は健康をマネジメントする意味において、医療、保健、福祉に従事する人に限らずすべての人に必要な知識である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生と予防医学について	1) 人の健康と科学 2) 予防レベルと保健、医療、福祉分野 3) 病気の予防と健康増進のために
2	疾病の蔓延とその克服の歴史	1) 人と病気の克服 2) 20世紀の医療と公衆衛生の発達 3) 日本の予防医学の発展
3	健康科学の研究法	1) 疫学の定義と特殊性 2) 疫学方法論 3) 健康科学と統計手技 4) 新しい疫学研究の流れ
4	人口統計と衛生統計	1) 健康指標 2) 人口静態統計 3) 人口動態統計 4) 生命表 5) 疾病統計と疾病分類
5	環境と健康	1) 生活環境と健康 2) 気象と健康 3) 公害と公害防止対策 4) 地球環境と私たちの生活・健康 5) 環境影響評価
6	私たちの健康を守るために	1) 各臓器の特徴と疾病 2) 健康管理 3) ストレスと精神衛生 4) 医原性疾患・難病
7	感染症と生体防御	1) 病原微生物と感染症 2) 病原微生物の侵入と生体反応 3) 感染拡大の防止
8	感染症と生体防御	1) 有用な微生物と食品衛生 2) 日本における感染症 3) 世界の感染症
9	生活習慣病の予防と健康増進	1) 栄養とは 2) 嗜好品 3) 運動とスポーツの効用 4) メタボリックシンドロームと特定保健指導 5) ヘルスプロモーション
10	ライフサイクルと人生	1) 出産と健やかな成長 2) 新生児・乳児期および幼児期 3) 学童期・思春期 4) 青年期
11	ライフサイクルと人生	5) 中・熟年期 6) 高齢期 7) 介護保険制度化における高齢者介護 8) 少子高齢化社会の高齢者
12	職業と健康	1) 産業保健 2) 主な職業性疾患の成因とその対策
13	職業と健康	1) 現在の産業保健の問題点と健康増進活動 2) 労働法規
14	社会と健康	1) 社会保障の変遷 2) 医療保険と介護保険 3) 21世紀の健康政策 4) 衛生行政と法律
15	総括	医学概論の総括

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	臨床心理学（含カウンセリング）				
担当者氏名	原 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

臨床心理学とは人のこころを理解しようとし人にとっての意味を理解しようとする心理学である。こころの世界の開拓者フロイトは大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の重要性を発見した。この授業の中で「こころ」の研究の歴史を辿り人と人が関わることで育まれる関係性について知り、自分自身と他者のこころを理解できるよう学んでほしい。

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る
- ・対人関係上の問題を呈する人々を理解する上で、乳幼児と母親との関係性と関連させて、より適切な関わりが実践できるよう学ぶ。

《成績評価の方法》

- 受講態度30%
- レポート20%
- 筆記テスト50%

《テキスト》

保育・教育に生きる臨床心理学 松島恭子・篠田美紀編著
 光生館 税別2200円
 必要な資料は毎回配布する

《参考図書》

スクールカウンセラーがすすめる112冊の本 滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業時間外学習》

授業初回に、上記参考図書の文献一覧を配布する。こころの世界をよく理解するための文献であるため、できるだけ多くの本を手にとって読んでほしい。そのうち1冊について、手書きで感想文を5枚書いて最終授業日までの提出すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理学とはなにか
2	フロイトの発見	無意識をめぐって
3	フロイトの精神分析	自由連想法について
4	フロイトの精神分析	フロイトの理論を用いての学習
5	乳幼児期のこころの発達	赤ちゃんの不安の源泉
6	乳幼児期の心の発達	情緒発達理論
7	乳幼児期のこころの発達	分離・個体化過程
8	ウィニコットの対象関係論	ホールディング（抱っこ）について
9	ウィニコットの対象関係論	関わり的手段としての描画療法（スクウィグル）
10	遊戯療法	子どもの心理療法
11	心理療法	ユング自身の人生とその心理学
12	箱庭療法	箱庭療法の実際
13	行動療法	行動療法の理論
14	認知行動療法	考え方や思考のくせに気づき改善していくための認知行動療法
15	臨床心理学の理解について	全体のふりかえりと確認

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	人間関係論				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

現代社会の中で人間関係はストレスの主要な原因となっている。しかし、困ったときに支えてくれるのは良好な人間関係である。人間関係の基本であるコミュニケーション、リーダーシップ、対人認知、交流分析などの理論とスキルを実践的な観点から学ぶ。

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

* 人間関係に関する専門用語について説明できる。* 自分を取り巻く人間関係について把握できる。* 自分の対人関係の在り方を理解できる。* 人間関係に起因する問題に向きあい、対処できるスキルを身につける。

《授業時間外学習》

身の回りで生じた人間関係のトラブルや問題を記録しておく

《成績評価の方法》

試験 100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション現代社会の人間関係	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト ヤマアラシのジレンマ 個室化・個人化 私事化
2	人間関係論の始まり	科学的管理 ホーソン研究 照明実験 能率の論理・心情の論理
3	集団とリーダーシップ1	集団の分類 集団の機能 集団決定 向社会性 リーダーシップ特性論
4	集団とリーダーシップ2	オハイオ研究 リーダーシップ行動論 状況理論 成熟理論
5	対人関係と自己理解1	ジョーハリーの窓 自己概念 自己概念の形成 公的自己意識 私的自己意識
6	対人関係と自己理解2	自己評価と他者評価 観的自己理解 パーソナリティ 価値観 パーソナリティの把握
7	対人関係と自己理解3	印象形成 対人魅力 ソシオメトリー 愛他的行動
8	対人関係の種類	共感性 恋愛類型 対人類型 内的作業モデル
9	対人関係とコミュニケーション1	コミュニケーションプロセス 文脈 ノイズ ことばの意味論 外延 内包
10	人間関係を円滑にするカウンセリングスキル1	アドバイス ガイダンス カウンセリング セラピー ロジャースの人間観 自己概念・現実 カウンセラーの条件
11	人間関係を円滑にするカウンセリングスキル2	カウンセリングの過程 ラポート 受容 積極的傾聴 共感的理解 沈黙 感情の反射 問題への気づき 洞察
12	対人関係の分析1	交流分析 自我機能 自我防衛機制 構造分析 3つの心 エゴグラム
13	対人関係の分析2	交流分析 交流パターン 平行的（相補）交流 交叉的交流 仮面的交流 ゲーム分析
14	対人関係の分析3	交流分析 ストローク ストローク論 脚本分析
15	対人ストレスと人間関係スキル1	Lazarus & Folkmanモデル 対人ストレスイベント ストレスコーピング パーンアウト アサーション ソーシャルスキル

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	外書購読				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

最新の健康科学に関する英語論説文を講読し解説します。英語論説文から情報を収集し、知識として活用する練習をおこないます。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、慣用句、発音などを確認します。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『Global Health & Environment』安浪誠祐他（松柏社）

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

将来の研究や職場で遭遇する英語による健康科学に関する情報を理解でき、健康や科学に関するコミュニケーションに必要な実用的な英語を身につけ、特に健康科学の英語の用語に習熟することを目標とします。

《授業時間外学習》

テキストの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Is Salt That Bad for You?	塩分と健康の関係に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
2	The Goal is Development	開発途上国の現状に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
3	Sleep: a Genetic Link?	睡眠時間と遺伝子に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
4	Saving the World's Most Holy River	聖ヨルダン川を汚染から救うことに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
5	The Healthiest Countries?	死亡率の低い国はどこかに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
6	Agricultural Emissions	農業における温室効果ガスの排出に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
7	Loneliness and Social Networks	孤独感と社会ネットワークに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
8	Crop Insurance for Small Farmers	小規模農家向け作物保険に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
9	Understanding Language and Brain	言語処理の最新研究結果に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
10	Too Many People, Not Enough Water	水不足を解消する新技術に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
11	How to Live Healthier	喫煙と肥満の関係に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
12	Gelotophobia Is No Laughing Matter	ゲロトフォビアに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
13	Genetic Engineering and Environment	遺伝子組み換え作物と環境に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
14	Protecting Children Against Pneumonia	肺炎から子供を守る方法に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	外書購読				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

「外書購読I」よりも、より高度な最新の多様な国々の健康科学に関する英語論説文を講読し解説します。英語論説文から情報を収集し、知識として活用する練習をおこないます。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、慣用句、発音などを確認します。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『The Picture of Health』小笠原真司他（南雲堂）

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

将来の研究や職場で遭遇する英語による健康科学に関する情報を理解でき、健康や科学に関するコミュニケーションに必要な実用的な英語を身につけ、特に健康科学の英語の用語に習熟することを目標とします。

《授業時間外学習》

テキストの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Huge Ocean Tuna Farm	世界的な寿司人気でマグロ激減、ハワイ沖で進む養殖計画（アメリカ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
2	Low-Fat Diet	人気のオボッサム、治療のためにダイエット（ドイツ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
3	Dutch Ban on Eel Fishing	激減したウナギの保護へ魚規制始まる（オランダ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
4	'Fat' Nightclub	肥満者のための開かれたナイトクラブ誕生（アメリカ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
5	World's Next Healthy Superfood	アンデス山脈の穀物「キヌア」、健康食として人気上昇中（ポリビア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
6	Commuting through Berlin by Bike	温暖化対策とエクササイズを兼ねて自転車通勤がブーム（ドイツ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
7	Bottled Water	ボトル詰め飲料水の販売を禁止した町（オーストラリア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
8	Swine Flue Shots	サンタに新型インフルエンザワクチンを（アメリカ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
9	Asian Obesity	アジアで肥満増加、健康食品の取扱狙う食品業界（台湾）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
10	Threat of Swine Flue	新型インフルエンザの影響でメッカ巡礼者が激減（サウジアラビア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
11	Key to Battling Diabetes	がんも糖尿病も発病しない人々、治療法の鍵にぎる可能性も（エクアドル）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
12	Deng Fever	デング熱の撲滅目指し、「遺伝子組み換え蚊」の野外放出実験、事前通告なしで非難も（マレーシア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
13	Save Tasmanian Devils	「謎のがん」で絶滅危機のタスマニアデビル、ゲノム解析で治療に光明（オーストラリア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
14	Chess Boxing	知力と体力をラウンドごとに競う究極のスポーツ、チェスボクシング（ドイツ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	教育特論				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

キャリア（生涯にわたっての仕事や社会とのかかわり方）への明確な課題意識を持ち、進路の実現に向けて自ら能力を開発することは、社会的・職業的に自立する上で重要である。そこで、教員採用試験の一般教養相当の知識や問題解答能力の習得を通じて、自己のキャリア実現への目標と課題を明確にし、その課題に取り組む力を養うことを目指す。授業はオムニバス形式（専任教員が入れ替わりで担当）である。

《授業の到達目標》

自分の進路に対する具体的な目標を持ち、その実現に向けての課題を具体的に説明できる。
 自分の進路を実現するための計画を練り、それを行動に移すことができる。
 自分の進路に必要な基礎的な知識を主体的かつ継続的に学習する態度が身についている。

《成績評価の方法》

ワークシートやレポート等の提出物（80%）、グループワークへの参加態度（20%）で評価する。

《テキスト》

オムニバス形式の授業であるため、適宜授業の中でプリントを配布する。

《参考図書》

オムニバス形式の授業であるため、参考となる文献や資料は、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

あらかじめ、自分の進路に必要な学習内容をチェックして、自主的に学習を進めておくこと。
 授業後には、配布された資料等をもとに学習内容をよく理解しておくこと。とくに、問題解答能力を養うには、受講生同士の協力から得るものが多い。学習成果や疑問点を授業に持ち寄って情報交換できるように整理をしておくこと。

《備考》

オムニバス形式の授業であるため、授業計画は目安です。担当教員の都合により進行が異なることがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、スケジュールの説明などを説明する。
2	キャリアとは	キャリアとは何か、社会人基礎力とは何かについて考える。
3	自分のキャリアデザイン	これまでの学習成果や社会経験をふり返り、将来のキャリアについて考える。
4	健康システム学科生のキャリアデザイン	自分たちを客観視するために、健康システム学科の学生のキャリアを設計する。
5	採用試験の概要	教員・公務員・民間企業等、進路ごとの採用試験に向けた取り組みについて考える。
6	一般教養の実力チェック	教員採用試験の一般教養の問題に取り組み、自分の実力を確認する。
7	一般教養の傾向と対策(1)	一般教養の人文科学分野の練習問題・過去問に取り組む。
8	一般教養の傾向と対策(2)	一般教養の社会科学分野の練習問題・過去問に取り組む。
9	一般教養の傾向と対策(3)	一般教養の自然科学分野の練習問題・過去問に取り組む。
10	一般教養のまとめ	ここまでに取り組んだ問題にあらためて取り組む。
11	一般知能の実力チェック	公務員採用試験の一般知能の問題に取り組み、自分の実力を確認する。
12	一般知能の傾向と対策(1)	一般知能の数的推理・判断推理の練習問題・過去問に取り組む。
13	一般知能の傾向と対策(2)	一般知能の空間把握・資料解釈の練習問題・過去問に取り組む。
14	一般知能のまとめ	ここまでに取り組んだ問題にあらためて取り組む。
15	将来の進路の実現に向けて/まとめ	授業全体についてふり返り、将来のキャリア実現に向けた課題を考える。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	教育特論				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

自己の表現能力開発の一環として、文章表現をはじめ、グループ・ディスカッションやディベートなどを通じて個人的課題を明確にするとともに、チームの一員として活動する上で必要な事項を学びます。授業は学科専任教員が交代で担当するオムニバス形式で進め、専門分野の特性も加味しつつ指導・助言を行います。受講者が相互に協力し合い、学びとる態度が必要になります。

《授業の到達目標》

自己の進路に必要な知識・能力を主体的かつ継続的に獲得する姿勢・態度が身についている。グループ・ディスカッションの進行などに精通し、自己の役割を果たすことができる。自己及びチームの課題を把握・分析し、解決に向けて計画的に取り組み、評価することができる。

《成績評価の方法》

レポートと課題などの提出物（100％）で評価します。

《テキスト》

適宜プリントを配布します。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》

自己の進路に必要な事項について計画的に学習を進めてください。進路に関連する情報の収集を積極的に行い、相互に有益な情報交換が可能になるように整理しておいてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の方法、到達目標などを説明します。
2	学科の専門性	健康システム学科の学習領域を説明します。
3	キャリア形成のタイムスケジュール	各自の就職活動に向けて幅広い立場・観点から、具体例をあげながら説明します。
4	論理的思考と文章表現	文章理解の練習をし、読解力・理解力を高める指導を行います。
5	論理的思考と文章表現	文章表現、特に、就職活動における自己アピールの練習を行います。
6	面接	個人面接の受け方の基本を説明し、実際に練習します。
7	面接	実際に受講者個々人が教室の前で自己紹介、自己アピールをし、事例を示しながら面接の指導を行います。
8	面接	グループ面接の方法を説明し、実際に面接の練習を試み具体的に指導します。
9	面接の総括	個人やグループでの面接に関する基本を再確認し、さらに進展させます。
10	グループワーク	グループワークの技能の習得を目指し、練習を行います。
11	グループワーク	グループワークの技能の習得を目指し、練習を行います。
12	ディベート	ディベートの基本を説明します。例として三つ論題を掲げ、賛成・反対を理由を述べながら明確に発表する練習を行います。
13	ディベート	グループに分かれて実際にディベートの練習をし、解説します。
14	グループワークのまとめ	グループワーク、グループディスカッション、ディベートに関して再確認し、技能をさらに進展させます。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	地域活動演習				
担当者氏名	徳田 泰伸、河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

地域社会における運動指導現場やボランティア現場等に参加し、実際の活動を通して、社会人としての行動を身につけ、指導者・教育者としての心構え、指導法、および、現場における課題等を体験的に学習する。実習先は、公共・民間のフィットネス施設、各種スポーツクラブおよびチーム、学校や教育施設、地方公共団体や非営利目的の諸団体等、その他、担当者が認めた施設・各種団体である。

《授業の到達目標》

地域の活動現場において、現場にいる人々と協力して行動できる。
 大学での学修成果を、現場での指導や教育などの活動に生かせる。
 現場での諸問題を理解し、その解決に向けて主体的に取り組める。

《成績評価の方法》

実習の記録（40%）、実習後の報告（40%）、平常点（20%）とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の内容について話し合う。特に実習先の検討。学生の実習先の希望等について打ち合わせる
2	実習のシミュレーション(1)	実習先でのシミュレーションを行い、実習場面で発生する問題等について議論する：スポーツ組織の運営等
3	実習のシミュレーション(2)	各施設先（実習先）を想定し、2週目で発生した諸問題について検討し、指導力を養うための講義とするスポーツ組織の運営等
4	学外実習	実習先での授業（第1回目 挨拶、打ち合わせ、仕事の内容等について現場指導者との協議に入る）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
5	学外実習	実習先での授業（第2回目 仕事の内容について具体的な指示を受ける）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
6	学外実習	実習先での授業（第3回目 仕事の実践を通して客と対応していく）対応した内容について反省と明日への対応を検討する。広域スポーツセンターについて考える
7	学外実習	実習先での授業（第4回目 第3回目と同じく仕事の内容に対して反省と自分らしさの指導力を発揮していく）あわせて広域スポーツセンターの機能と役割についても学ぶ
8	学外実習	実習先での授業（第5回目 第4回目の内容をふまえ、自分の指導力への客の反応を反省し、明日への計画に生かしていく）地域におけるスポーツ振興について考える
9	学外実習	実習先での授業（第6回目 第5回目と同じく指導力を発揮し、その内容をふまえ、何が足りないか常に、との繋がりを重視する）地域におけるスポーツ振興について考える
10	学外実習	実習先での授業（第7回目 第6回目の内容をふまえ、実習後半の指導力を反省し、理論と実践を身につけていく）
11	学外実習	実習先での授業（第8回目 第7回目をふまえ、理論と実践が片寄りのない指導になっているかを検討する）
12	学外実習	実習先での授業（第9回目 第8回目をふまえ、各自の指導力が客に対して、評価がどのようなものかを確認する）
13	実習の反省	本学での授業の中で実習先での諸問題等について報告し反省会を開く
14	実習記録の作成	実習先での実習録を作成し、全員でまとめる（各施設ごと）
15	実習報告	各自の報告を発表形式で行う

《テキスト》

授業中に資料を配布する。

《参考図書》

ヘルス&フィットネス実務マニュアル「フィットネスクラブ内秘実務業務の手引書」（現場マニュアル）

《授業時間外学習》

予習としては、配布資料をよく読み、実習に備えておくこと。
 復習としては、実習中の記録を適宜まとめておくこと。

《備考》

原則として、実習先の施設・各種団体へは自らの意思で参加すること。また、実習までに、これまでに学習した専門教育科目の内容を十分に復習しておくこと。

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ史（体育史を含む）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

古代から現代にいたるスポーツと教育の関係を、社会的・文化的・技術的・理論的視点から学習する。

《テキスト》

特に指定はしない。講義中に参考資料の配布および参考図書の紹介をする。

《参考図書》

必要に応じて参考資料を配布する。

《授業の到達目標》

運動・スポーツの歴史的研究の意義と方法を通じて、体育・スポーツの成り立ちや歩みを理解することができる。

《授業時間外学習》

スポーツ史に登場する遺跡や人物等の展示会があれば見学することまたテレビ等で取り上げられる番組があれば視聴するようにする

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出物、レポート課題小テスト（20%）各分野の学習後に課すレポート課題（60%）平常点（20%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	人類文明と身体的技能職の成立	資料・文献を通じて学習していく、文化としてのスポーツについて学ぶ
3	古代文明のスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
4	中世におけるスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
5	近世におけるスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
6	近代体育理論の成立と展開	資料・文献を通じて学習していく
7	近代スポーツの展開	資料・文献を通じて学習していく
8	近代オリンピックの成立過程	資料・文献を通じて学習していく
9	学校体育の制度化とスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
10	体育の科学的発展	資料・文献を通じて学習していく
11	生涯スポーツの歴史的展望	資料・文献を通じて学習していく
12	スポーツの概念	スポーツの概念と歴史について学ぶ
13	ディスカッション	各グループ別によるディスカッション（課題提供）
14	レポート	レポートによる小テスト
15	学習	学習のまとめ

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ科学				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

トレーニング指導において、運動生理学、解剖学、トレーニング理論等の科学的な基礎知識無しでは効果的な結果は得られません。よって、これらの知識をもとに競技力向上を目的としたトレーニング方法について学びます。1～3年生までに学んだ基礎知識をもとにその応用です。数回のレポート課題による理解力、プレゼンテーション能力の習得も行います。

《授業の到達目標》

トレーニング指導者として必要な基礎知識の獲得を目標とします。また、「聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く」といった作業を徹底して行い、指導者として必要な資質の習得も目標とします。

《成績評価の方法》

数回のレポート(50%)とテスト(50%)の結果のみで評価します。レポート等の提出物は期限厳守です。原則遅れは受理しません。

《テキスト》

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「ストレングストレーニング&コンディショニング」ブックハウスHD、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「スポーツ医科学」杏林書院、「パワーアップの科学」朝倉書店、「臨床スポーツ医学」医学映像教育センター、「スポーツ・健康科学」放送大学、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

シラバスで授業内容を確認して予習をするように。また、各自が実際に運動やトレーニングを行い、理論の確認や疑問点の発見を行うことを強く希望します。少しでも多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《備考》

トレーニング指導者養成のための授業を行いますので、その強い意思のある者の履修を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法等の説明をします。受講者は必ず出席すること。
2	トレーニングの原理原則	トレーニングの原理原則について学ぶ。
3	筋の構造とメカニズム	筋の構造とメカニズムについて学ぶ。
4	筋活動におけるエネルギー系や神経系	筋活動におけるエネルギー系や神経系のメカニズムについて学ぶ。
5	筋組成（遅筋）の特徴	筋組成（遅筋）の特徴とトレーニング効果について学ぶ。
6	筋組成（速筋）の特徴	筋組成（速筋）の特徴とトレーニング効果について学ぶ。
7	AT、LT、VT、OBLA	AT、LT、VT、OBLAについて理解する。
8	パワー	パワーに関する基礎知識および強化方法を習得する。
9	筋持久力	筋持久力に関する基礎知識および強化方法を習得する。
10	有酸素性持久力トレーニング	有酸素性持久力トレーニングに関する基礎知識および強化方法を習得する。
11	エネルギー補給と代謝	エネルギー補給と代謝に関する基礎知識および実践方法を習得する。
12	ジュニアアスリートにおけるトレーニング	ジュニアアスリートにおけるトレーニングについて障害防止の視点から学ぶ。
13	高齢者を対象としたトレーニング	高齢者を対象としたトレーニングとその効果について理解する。
14	ディ・トレーニング	ディ・トレーニングについて学ぶ。
15	まとめ	まとめ&トピックスを交えながら補足を行う。

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ科学				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

スポーツ科学 の応用編です。実技と講義を併用します。競技力向上を目的とした持続的トレーニングの基本を学びます。実際にHRモニターで心拍数の計測や乳酸値の計測を行い、理論の確認を行います。トレーニング科学を実際に活用するために必要な知識や技術の獲得を狙います。

《授業の到達目標》

競技力向上を目的とした指導者養成を目標とし、持続的トレーニングの基本的な理論の習得ならびにメニューの作成ができることを目指します。実際にHRモニターや乳酸測定機器を用いて計測やデータの分析が行えることを目指します。

《成績評価の方法》

数回のレポート(50%)とテスト(50%)の結果のみで評価します。提出物の期限は厳守です。原則遅れは受け取りません。

《テキスト》

「長距離選手の生理科学」杏林書院 ¥2,400 + 税

《参考図書》

「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「トレーニング科学ハンドブック」朝倉書店、「中長距離ランナーの科学的トレーニング」大修館書店、「高所トレーニングの科学」杏林書院、「運動生理・生化学事典」大修館書店、「スポーツ医科学」杏林書院、「乳酸をどう活かすか」杏林書院、「持久力の科学」杏林書院

《授業時間外学習》

シラバスを確認の上で予習をすること。また、各自でHRモニターの使用方法の習得のための時間を確保するように（実際に走って記録を取る）。

《備考》

トレーニング指導者を目指す学生の受講を求めます。少しでも多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等について説明します。受講者は必ず参加すること。
2	呼吸機能について	長距離走者の呼吸機能の特性
3	循環機能について	長距離走者の循環機能の特性
4	骨格筋について	長距離走者の骨格筋の特性
5	無酸素性、有酸素性能力について	長距離走者の無酸素性、有酸素性の能力の特性
6	内分泌系、血液成分について	長距離走者の内分泌系や血液成分の特性
7	水分補給、体温調整	長距離走者の体温調節機能と水分補給
8	身体組成について	長距離走者の身体組成の特徴
9	持続的トレーニング	長距離走のトレーニングと効果
10	トレーニング計画	トレーニング計画の作成（ピリオダイゼーションを含む）
11	ウォーミングアップ&クーリングダウン	ウォーミングアップ&クーリングダウンの必要性や方法
12	エネルギー補給	競技力向上のためのエネルギー補給
13	障害について	長距離走者を対象とした障害の発生とその原因、防止-1
14	障害について	長距離走者を対象とした障害の発生とその原因、防止-2
15	まとめ	全体のまとめ&補足

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ指導法				
担当者氏名	三宅 一郎、樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

運動実践を通して体育指導者としての指導能力を養うことを目標とする。1、2年次に履修した「スポーツ実践」、「健康体力づくり」においてスポーツや学校体育における正しい実践方法を再確認すると共に指導方法を身につける。具体的には、様々なスポーツや学校体育における実施種目の実践を通して段階的な指導方法やその際の指示助言等を学ぶ。

《授業の到達目標》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。方法として、基本的に個人で各種目における指導計画を作成し実際に指導経験をする。さらに反省・評価を繰り返し行うことにより指導者としての資質を高める。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。さらに、学校施設内で実施不可能な種目（水泳等）については定期時間外に集中講義を実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ポーレット著『中学校学習指導要領解説（体育編）』（明治図書）

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等で確認し、あらかじめ指導計画案を作成することによって指導方法に対してより理解が深まりかつ指導内容が広がる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認しノートにまとめる。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	スポーツ実践の方法と指導計画の立て方	指導実習（指導計画書の作成と実施）
3	スポーツ活動と安全管理	指導実習（指導計画書の作成と実施）
4	器械運動	マット運動における特性の理解と指導法（1）
5	器械運動	マット運動における特性の理解と指導法（2）
6	球技	バスケットボールにおける特性・ルール理解と指導法
7	球技	バレーボールにおける特性・ルール理解と指導法
8	球技	テニス・バドミントンにおける特性・ルール理解と指導法：指導実習（指導計画書の作成と実施）
9	陸上競技	サッカーにおける特性・ルール理解と指導法：指導実習（指導計画書の作成と実施）
10	陸上競技	短距離における種目特性の理解と指導法
11	陸上競技	リレーにおける種目特性の理解と指導法
12	陸上競技	走り幅跳びにおける種目特性の理解と指導法
13	格技	剣道における特性の理解と指導法（1）
14	格技	剣道における特性の理解と指導法（2）
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ指導法				
担当者氏名	三宅 一郎、樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

スポーツ指導法 と.様に主として運動実践を通して体育指導者としての指導能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を再確認すると共に指導方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールや学校体育における種目の実践を通して段階的な指導方法やその際の指示助言等を学ぶ。

《授業の到達目標》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。方法として、個人で各種目における指導計画を作成し指導経験を積む。さらに反省・評価 指導を繰り返すことにより指導者としての資質を高める。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を体験する。さらに、学校施設内で実施不可能な種目（水泳等）については時間外に実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) 『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ポーレット著『中学校学習指導要領解説（体育編）』（明治図書）

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等で確認し、あらかじめ指導計画案を作成することによって指導方法に対してより理解が深まりかつ指導内容が広がる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認しノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の指導者としてふさわしい能力を体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	器械運動	跳び箱運動における特性の理解と指導法（1）
3	器械運動	跳び箱運動における特性の理解と指導法（2）
4	器械運動	鉄棒運動における特性の理解と指導法（1）
5	器械運動	鉄棒運動における特性の理解と指導法（2）
6	球技	バドミントンにおける特性・ルールの理解と指導法（1）
7	球技	バドミントンにおける特性・ルールの理解と指導法（2）
8	陸上競技	走り高跳びにおける種目特性の理解と指導法
9	陸上競技	砲丸投げにおける種目特性の理解と指導法
10	陸上競技	長距離走における種目特性の理解と指導法
11	球技	サッカーにおける特性・ルールの理解と指導法（1）
12	球技	サッカーにおける特性・ルールの理解と指導法（2）
13	格技	柔道における特性の理解と指導法（1）
14	格技	柔道における特性の理解と指導法（2）
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	健康・体力づくり指導法				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

運動を効果的に指導するためには、目的のほか質や量について検討しなければならない。生活習慣病の予防や治療における運動プログラムは様々であり、個別に対応した運動プログラムを開発しなければならない。目的に応じた運動プログラムを提供していくためには、個人の生理的・心理的特性も考慮しなければならない。演習では、様々な条件下で、安全かつ効果的な健康運動プログラムの作成するための手段を学んでいく。

《授業の到達目標》

この演習では、健康づくりや生活習慣病の治療や予防に関わる運動のあり方について説明でき、日常生活や運動での健康づくり、ライフスタイルや各年代に応じた安全で効果的な運動プログラムを作成することが出来る。

《成績評価の方法》

演習中に毎回行う確認テスト(30%)とレポート(10%)、実技テスト(20%)、確認まとめテスト(40%)により総合的に判断する。ただし、演習への出席率が全体の90%以下の場合は、単位を取得することはできません。

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」財団法人健康体力づくり事業財団（南江堂）2009年「健康運動指導士養成講習会テキスト」財団法人健康体力づくり事業財団

《参考図書》

「メタボリックシンドロームに効果的な運動・スポーツ」坂本静男著（ナッパ）2011年「ACSM 健康にかかわる体力の測定と評価 その有意義な活用を旨として」アメリカスポーツ医学会編（市村出版）2010年「エビデンスと実践事例から学ぶ運動指導」金川克子（監修）（中央法規出版）2009年「メタボリックシンドローム解消ハンドブック」田畑泉著（杏林書院）

《授業時間外学習》

毎時間、テキストの各章について確認テストを行いますので事前に目を通しておくこと。確認テスト不合格の場合は再テストを実施する（レポート課題を課す場合もある）。テキストの専門用語について、事前に各自で意味を理解しておくこと。

《備考》

定期の授業時間以外に学外実習（水中運動）を行う（日時未定）。健康運動実践指導者・健康運動指導士認定試験の受験予定者は必ずテキストを購入すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習を始めるにあたり	健康増進や疾病治療のための運動の在り方について理解する
2	健康づくり運動と運動プログラム作成の理論	ライフスタイルにあった運動プログラムの作成意義や考え方について理解する
3	個別健康支援プログラムについて	国保ヘルスアップモデル事業（個別健康支援プログラム）について理解する
4	ライフスタイルに応じた運動プログラムの作成	健康づくりのための運動プログラム作成について理解する(1)
5	ライフスタイルに応じた運動プログラム	健康づくりのための運動プログラム作成について理解する(2)
6	ライフスタイルに応じた運動プログラム	各ライフスタイルに応じた運動プログラムの実際と評価(1)
7	ライフスタイルに応じた運動プログラム	各ライフスタイルに応じた運動プログラムの実際と評価(2)
8	高齢者の健康増進プログラムの作成と評価	介護予防運動の実際について理解する
9	疾病の予防・治療のための運動プログラム(1)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（1）（肥満症）
10	疾病の予防・治療のための運動プログラム(2)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（2）（糖尿病）
11	疾病の予防・治療のための運動プログラム(3)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（3）（高血圧症）
12	健康づくり運動の理論と実際(1)	健康のための水泳・水中運動の理論と実際(1)水中運動のプログラム作成と評価
13	健康づくり運動の理論と実際(2)	健康のための水泳・水中運動の理論と実際(2)アクアビクスプログラムの作成
14	健康づくり運動の理論と実際(3)	健康のための水泳・水中運動の理論と実際(3)水中ウォーキングプログラムの作成
15	総括	これまで学習してきた内容と演習を通じて得られた知見を再確認するとともに、具体的な成果を説明することが出来る

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	健康・体力づくり指導法				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

各種の有酸素性運動を実際に行うことによって、それぞれの運動の特性や効果について理解を深めるとともに、指導上の留意点、問題点を挙げながら講述していく。また、健康づくり運動だけでなく、生活習慣病に対する運動療法としての理論を講述するとともに、それぞれの目的にかなった運動プログラムの作成や実践していくための手段について検討していく。

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」財団法人健康体力づくり事業財団（南江堂）2009年「健康運動指導士養成講習会テキスト」財団法人健康体力づくり事業財団

《参考図書》

必要があれば適宜紹介していく。

《授業の到達目標》

健康体力づくりのための運動指導を行うためには、運動の特性や理論を理解することに加えて、専門能力・知識やその遂行能力だけでなく、人間関係の指導力または社会的な能力も有し、指導者としての自覚をもって行動する必要がある。「健康体力づくり指導法」に引き続いて本演習では、健康を維持増進するための適切な運動の在り方・方法論を説明でき、健康増進のほか疾病治療に必要な運動プログラムを実演できる。

《授業時間外学習》

毎時間、テキストの各章について章テストを行いますので事前に目を通しておくこと。章テスト不合格の場合は、指定された課題を提出するようにしてください。また、運動指導プログラムが実演できるように各自で練習しておくこと。

《成績評価の方法》

毎演習時に行う章テストとまとめテスト（80%）、課題レポート（20%）により総合的に判断する。ただし、演習への出席率が全体の90%以下の場合は、単位を取得することはできません。

《備考》

時間以外に学外実習を行う予定である。この演習は特に健康運動実践指導者の認定試験を受験する学生を対象としている。健康体力づくり指導法を受講しておくことが望まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習を始めるにあたり	健康増進や疾病治療のための運動の在り方について理解する
2	有酸素性運動の理論と実際 (1)	エアロビックダンスの特性と理論について理解する
3	有酸素性運動の理論と実際 (2)	エアロビックダンスの指導の要点と実際(1)
4	有酸素性運動の理論と実際 (3)	エアロビックダンスの指導の要点と実際(2)
5	有酸素性運動の理論と実際 (4)	水泳・水中運動の特性と理論について理解する
6	有酸素性運動の理論と実際 (5)	水泳・水中運動の指導の要点と実際(1)
7	有酸素性運動の理論と実際 (6)	水泳・水中運動の指導の要点と実際(2)
8	有酸素性運動の理論と実際 (7)	ウォーキング・ジョギングの特性と理論について理解する
9	有酸素性運動の理論と実際 (8)	ウォーキング・ジョギングの指導の要点と実際
10	疾病の予防・治療のための運動プログラム(1)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（1）（虚血性心疾患）
11	疾病の予防・治療のための運動プログラム(2)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（2）（腰痛症および変形性関節症）
12	疾病の予防・治療のための運動プログラム(3)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（3）（腰痛症および変形性関節症）
13	健康づくり運動の実際	ストレッチングの理論と実際について理解する
14	運動プログラム作成の理論	運動プログラム作成上の原則について説明することが出来る
15	総括	これまで学習してきた内容と演習を通じて得られた知見を再確認するとともに、具体的な成果を説明することが出来る

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動処方論				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

運動は生活習慣病の予防や改善、高齢者が健康で豊かな生活を送るための重要な事項となっています。よって、指導者は安全かつ効果的に運動を行うために必要な事項を学ぶ必要があります。授業は、運動処方の目的、方法を運動生理学の面から学びます。基本的な内容に関しては「運動処方の指針第8版 南光堂」に準拠します。

《授業の到達目標》

運動やトレーニングの指導者養成のための基礎知識の習得を目標とします。
 運動処方論の目的および方法を学ぶことで、運動の重要性や必要性を学びます。運動生理学の重要性を理解することもその目標の1つとします。

《成績評価の方法》

数回のレポート（50%）ならびに期末テスト（50%）の結果のみで評価します。提出期日は厳守です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等を説明します。また運動処方に関する情報の紹介を行います
2	トレーニングの原理原則	トレーニングの原則について理解する。中高年者とスポーツ実施における注意点等についても理解する。
3	運動処方の概要	運動処方の概要について理解する。
4	トレーニングの概要	トレーニングの概要について理解する。
5	心肺機能の運動処方	心肺系の運動処方について理解する。
6	運動とエネルギー	エネルギーの消費に関して理解する。
7	プログラムの進行	プログラムの進行についてその注意点等を理解する。
8	特異性について	トレーニングの特異性について理解する。
9	レジスタンストレーニング	レジスタンストレーニングの処方について理解する。
10	柔軟性	柔軟性に関して理解する。
11	トレーニング効果の継続	トレーニング効果の持続について理解する。
12	プログラムの監視	プログラムの監視について理解する。
13	エクササイズ習性変容	エクササイズ習性変容の方法について理解する。
14	運動処方の在り方	運動処方の在り方について理解する。
15	まとめ&補足	これまで学んだ運動処方の総まとめを行う。

《テキスト》

特に指定しません。必要に応じて資料を必配布します。

《参考図書》

「運動処方の指針 第8版」南光堂、「運動処方」朝倉書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「スポーツ医科学」杏林書院、「レジスタンストレーニングのプログラムデザイン」ブックハウスHD、「スポーツ・健康科学」放送大学、「発達運動論」放送大学、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

3年生対象の選択科目授業ですので、これまでに学んだ基本知識の応用として授業展開します。これまで学んだ運動生理学や解剖学、運動栄養学、運動の基礎等の知識を事前に確認しておいてください。積極的に参加してください。

《備考》

パワーポイントやビデオ等の映像資料を積極的に用いて授業展開します。より多くのことが学べるよう積極的に授業を展開しますので、みなさんの積極的な姿勢を望みます。

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動処方演習				
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

病気になれば病院に行き薬を処方してもらう。同様に運動をしたい人（しなければならない人）には運動処方の条件や原則を捉えた上でその人の状況にあった運動（トレーニング）を処方することが運動指導者の役割である。運動処方を行うためには、心拍数や血圧、乳酸値、心電図、最大酸素摂取量など測定するための知識や測定法を学び、その測定値を基に運動の種類や強度、頻度などを設定する。

《授業の到達目標》

(1)目標を設定する。(2)走に必要なテーマを挙げ、情報を収集できる。(3)調べた内容を発表し、自分の考えを表現できる。(4)トレーニング計画を立て実行できる。(4)協力して実験を行いレポートを作成できる。(5)その成果をマラソン大会において発揮する。(6)トレーニングが計画通りいかず内容を修正することができる(7)本講義の内容を理解し自らの生活において競技力向上や生活習慣病の改善に役立てることができる。

《成績評価の方法》

(1)(2)(4)(6)についてはレポート提出、(3)(5)(7)は発表の内容で評価する。評価の割合は、レポート50%、発表50%とし100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「運動生理学20講 第2版」勝田 茂（朝倉書店）
 「運動処方の指針 第7版」日本体力医学会体力科学編集委員会（南江堂）
 「運動療法と運動処方」佐藤祐造（文光堂）

《授業時間外学習》

授業終了時に次回のプリントを配付するので読んでおくこと。毎回運動処方に関する新聞や雑誌の記事を切り抜き要点をまとめて提出し発表する。2月に開催される「神戸バレンタインデー・ラブラン大会」に出場する。授業以外でトレーニングを行うこと。

《備考》

遅刻(10分以上)2回で1回欠席とする

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する
2	運動処方の基本	運動処方の基礎知識を理解する。自分の身体を理解する(体組成測定)
3	目標設定とトレーニング計画作成	身体活動量・運動量・減量等の目標設定と体力に応じたトレーニングプログラムの作成
4	運動と心拍数	運動をすることで心拍数がどのように変化するのか理解する
5	筋力トレーニングの効果	筋力トレーニングの必要性について理解する
6	エネルギー量について	運動とエネルギーとの関係を理解する
7	フォームの効果	トレーニングフォームについてビデオ撮影し効果的なフォームについて理解する
8	水分摂取と栄養補給の効果	運動と水分摂取・栄養補給について理解する
9	運動と乳酸の関係	乳酸について理解し自分に適したトレーニングを理解する
10	ケガについて	トレーニング時のケガについて理解し防止策等実践する
11	環境への適応	環境に適応するためウェアの効果等について理解する
12	ピーキング	大会にピークを合わせるための方法を理解し、実際に20kmを走行する
13	ストレスについて	運動時のストレスについて測定し、解消するためのトレーニングを理解する
14	発表	実行してきたトレーニング内容やその成果、大会での自分のパフォーマンスについて発表する
15	大会出場	大会に出場(21.0975kmまたは42.195km)する

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	レクリエーション(野外活動を含む)				
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	実習	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

レクリエーションの果たす役割について理解し、活動（イベント）を通して参加者の意欲を引き出し、魅力のある活動や運営の仕方を学びます。また、学外でのキャンプ実習では日常生活から離れて、自然の中で相互に協力し、自然に親しむ力を身につけ、指導者として野外活動の企画・立案・運営ができることを目指す。本講義は、保健体育免許必修科目である。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「やさしいレクリエーション実践」川村皓章（日本レクリエーション協会）「野外活動テキスト」（日本野外教育研究会）

《授業の到達目標》

(1)レクリエーション支援が、子どもから高齢者まで多様な活動の機会を提供するための働きかけであることを理解する。
 (2)ニュースポーツを中心に実践方法を習得する。(3)オリジナリティのあるレクリエーションを考え、実践する。(4)キャンプ実習では共同生活を行うための必要な知識と技能、自然に親しむ心を養う。(5)実習後のレポートを作成し発表する。

《授業時間外学習》

授業終了時に次回のプリントを配付するので読んでおくこと。毎回レクリエーションに関する課題について新聞や雑誌の記事を切り抜き要点をまとめて提出し発表する。学外でキャンプ実習（2泊3日）と集中講義でレクリエーション指導をする。

《成績評価の方法》

(1)(4)(5)についてはレポート提出、(2)(3)(4)は発表の内容、キャンプ実習の様子で評価する。評価の割合は、レポート30%、発表20%、キャンプ実習での活動50%とし100点満点で60点以上を合格とする。

《備考》

遅刻(10分以上)2回で1回欠席とする

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明し、グループ分けを行う
2	レクリエーションの基礎理論と支援の理論	レクリエーションの基礎的な知識を理解する
3	ホスピタリティーとアイスブレイキング	ホスピタリティーとアイスブレイキングについて理解し、実践する
4	ニュースポーツ(1)	ニュースポーツについて理解し、実践する
5	ニュースポーツ(2)	ニュースポーツについて理解し、実践する
6	ニュースポーツ(3)	ニュースポーツについて理解し、実践する
7	キャンプ実習(1)	事前指導
8	キャンプ実習(2)	開講式、テント設営
9	キャンプ実習(3)	オリエンテーリング、自然観測
10	キャンプ実習(4)	野外調理
11	キャンプ実習(5)	登山
12	キャンプ実習(6)	野外活動、キャンプファイヤー
13	キャンプ実習(7)	テント撤去、閉講式
14	キャンプ実習(8)	事後指導
15	まとめ	実習発表会

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	薬理学				
担当者氏名	溝邊 雅一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

「からだ」と「こころ」の両面から健康のあり方を探究し、健康の維持・増進、病気予防、児童や障害者のケアなど、健康を科学的・総合的に理解するためには、薬物に関する知識は重要である。本授業では、薬物の種類、作用のしくみ、薬理効果と副作用、薬物体内動態などを基礎的に理解したのち、感染性疾患、神経系・内臓系疾患に用いられる薬物を各論的に学習し、健康管理に必要な薬理学的知識の習得を目指します。

《授業の到達目標》

薬物の体内動態や有効性と安全性の基本的な考え方を説明できる。
 主要な薬物について、基本的な作用機序を説明できる。
 主要な薬物について、適応疾患ごとに分類できる。
 病気予防や健康管理に対する薬物治療の重要性を主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、平常評価 30%（授業における質問への対応、課題への取り組み）

《テキスト》

『薬理学 - 疾病のなりたちと回復の促進 2』 大鹿 英世、吉岡 充弘 著 医学書院

《参考図書》

『薬理学』 鈴木 正彦著 医学芸術社『やさしい薬理のメカニズム - 薬のはたらきを知る』 中原保裕著、学習研究社『クスリのしくみ事典』 野口 實、岡島 重孝著 日本実業出版社『くすりの地図帳』 伊賀 立二、小瀧 一、澤田 康文監修講談社

《授業時間外学習》

教科書・参考書及び配布レジュメによる予習・復習の自己学習を確実にし、講義に臨むこと。また、講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。課題の提出は期限を厳守すること。

《備考》

能動的に学習に取り組み、不明な事項は自ら調べ、積極的に質問すること。私語、携帯電話、飲食、出入り等の迷惑行為は厳禁であり、注意しても守れない場合は退席してもらう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	薬物の作用と薬物治療	薬物治療のめざすもの、薬物の作用・副作用のしくみ、薬物の投与経路など
2	薬物の体内動態と効果	薬物の体内のうごき、薬物耐性、薬物依存、薬効の影響因子など
3	有害作用と薬物の管理	薬物のもつ有益性と有害性、薬物管理など
4	感染症治療薬	抗菌薬各論、感染症治療の問題点など
5	抗がん薬	がん治療における問題点、抗がん薬各論など
6	免疫治療薬	免疫反応のしくみ、免疫治療薬、予防接種薬など
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬（1）	抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、非ステロイド性抗炎症薬など
8	抗アレルギー薬・抗炎症薬（2）	ステロイド性抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風治療薬など
9	末梢神経に作用する薬	交感神経作用薬、副交感神経作用薬、局所麻酔薬など
10	中枢神経に作用する薬（1）	全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗うつ薬など
11	中枢神経に作用する薬（2）	パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、鎮痛薬など
12	物質代謝に作用する薬	ホルモンおよびホルモン拮抗薬、ビタミン剤など
13	心臓・血管に作用する薬（1）	抗高血圧薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、強心薬など
14	心臓・血管に作用する薬（2）	利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物など
15	呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬	気管支喘息治療薬、鎮咳薬・去たん薬、消化性潰瘍治療薬、性ホルモン薬など

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	健康統計学				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

統計学の基礎な考え方と手法を身につけることを目指す。具体的には、基本的な統計量（平均値、分散、標準偏差など）やデータの整理、相関と回帰、確率分布、区間推定や仮説検定（カイ2乗検定、t検定、F検定など）まで、統計学の基礎全般について学習する。毎回の授業では、理解度確認のための小テストを実施する。また、表計算ソフトを利用した統計処理の演習も行う。

《授業の到達目標》

データを代表する統計量を求めたりグラフを作成して、データ全体の特徴を把握できる。

統計的手法を用いて、標本から母集団の特徴を推測したり、複数の母集団の特徴を比較できる。

表計算ソフトなどを用いて、データを整理し分析できる。

《成績評価の方法》

毎回の小テスト（20%）と課題などの提出物（20%）と中間および定期試験の結果（60%）で評価する。

《テキスト》

懸俊彦(2012)『やさしい保健統計学 改訂第5版』南江堂。

《参考図書》

菅民郎・福島隆司(2009)『Excelで学ぶ統計解析入門 - Excel2007対応版』オーム社

涌井良幸・涌井貞美(2010)『統計解析がわかる（ファーストブック）』技術評論社

高木廣文(2009)『ナースのための統計学 第2版』医学書院

小島寛之(2006)『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》

予習について教科書の授業範囲を読んでおくこと。また、グラフ作成や関数の利用など、表計算ソフトの操作や手順を練習しておくこと。

復習について中間・定期試験に向けて、用語や統計的手法を覚えるだけでなく、データの整理や手法を扱えるように練習をしておくこと。

《備考》

授業での学習だけでなく、身の回りにある「データ」に関心を持ち、学習した成果を興味のある分野に生かそうという意欲を持って、授業に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	統計の必要性、記述統計と推測統計
2	データの尺度、統計資料の整理	尺度、度数分布表、ヒストグラム
3	代表値と散布度	平均値、中央値、最頻値、標準偏差、範囲、変異係数
4	相関と回帰	相関係数、順位相関係数、回帰直線
5	確率、順列と組み合わせ	確率、順列、組み合わせ
6	中間試験	中間試験の実施（ここまでの学習の振り返り）
7	確率変数と確率分布	中間試験の解説 / 確率変数、確率分布
8	確率分布	二項分布、正規分布、カイ二乗分布、F分布など
9	母集団と標本、点推定と区間推定	母集団と標本、母平均の推定、母比率の推定、母相関係数の推定
10	仮説検定(1)	1つの母集団の統計値の検定（母平均、母比率、母相関係数）
11	仮説検定(2)	2つの母集団の統計値の検定（z検定、t検定など）
12	仮説検定(3)	クロス表の検定（適合度の検定、独立性の検定など）
13	仮説検定(4)	その他のノンパラメトリックな検定
14	分散分析	一元配置分散分析、二元配置分散分析
15	まとめ	全体の学習の振り返り

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	健康相談活動の理論と実践				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

学校教育における健康相談活動の概念や特質を踏まえて、子どものヘルスニーズに対処できる力量形成を目指す。また、人間観や健康観、対人関係など健康相談活動の基礎的理論を学び実践力をつける。養護教諭の仕事における健康相談の位置づけを理解するとともに、関係機関との有機的連携について学習する。授業では、健康相談の目標と方法、問題の捉え方、記録とプライバシー保護など、基礎から実際までを学びます。

《授業の到達目標》

健康相談活動の概念や役割について説明できる。
 健康相談活動の基礎的理論について理解し、説明できる。
 子どものヘルスニーズがわかり、健康相談活動の進め方がわかる。
 健康相談活動の実際を体験的に理解する。ロールプレイングができる。

《成績評価の方法》

毎授業終了時記入の学習内容の記録についての評価 10%、課題の実践と提出 30%（実践参加せずに課題提出だけの場合、減点）、定期試験 60%とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、.らの学習方法を確認する。健康相談活動の養護教諭位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	養護教諭と健康相談	養護教諭のもつ健康感や人間観との関わり
3	法規と健康相談	学校保健安全法を中心に、健康相談の位置づけを理解する。
4	健康相談活動の概念	定義、目的と意義
5	健康相談活動の対象	子どものヘルスニーズの理解、問題理解
6	健康相談活動に必要な力量	養護教諭の力量形成と資質
7	近接領域の相談と健康相談活動の違い	相談とは、臨床心理学とは、教育相談や生活指導、などとの関係
8	健康相談活動の実際（1）	進め方の実際、保健室の機能
9	健康相談活動の実際（2）	事例の学習、健康相談活動のプロセス保健室登校・特別支援教育と養護教諭のかかわり
10	健康相談活動の実際（3）	ロールプレイの実際
11	健康相談活動の実際（4）	グループ学習（演習）
12	記録と保管	記録の方法、書式、保管と活用
13	幼児・児童・生徒への健康相談活動	支援方法の違いと実際
14	力量形成と研究	養護教諭にとって、健康相談に関する研究の意味と方法を理解する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《テキスト》

テキストは使用しない。
 必要に応じて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

『養護教諭の行う健康相談活動』大谷・森田編著、東山書房
 『養護教諭の健康相談ハンドブック』森田著、東山書房
 『健康相談活動の理論と実際』三木・森田編著、ぎょうせい
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

関係図書にはできるだけ目を通す。課題レポートについては、文献にあたって上で作成する。授業で配布したプリントには、必ず目を通しておく。

《備考》

養護教諭をめざす者は、目的意識を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。演習の形態も含めるが、主体的に参加することが望まれる。また、演習には必ずレポート課題の提出を求める。

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学				
担当者氏名	若井 和子、瀧本 茂子、井上 満代				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

小児期・思春期・成人期・老年期における発達段階の特徴と各期において罹りやすい疾患・病態生理・治療・看護について学習する。
 各発達段階に応じた健康の保持・増進に必要な観察方法・予防法・看護技術の演習を行う。

《テキスト》

「養護教諭のための看護学」藤井寿美子他編、大修館書房

《参考図書》

「女性のためのライフサイクルとナーシング」 編集 高橋真理他、ヌーヴェルヒロカワ

《授業の到達目標》

- 1)小児期・思春期・成人期・老年期の発達段階の特徴を理解することができる。
- 2)各発達段階にある対象の健康状態を評価するための観察ができる。
- 3)各発達段階の健康を保持・増進するための保健指導を行うことができる。

《授業時間外学習》

- ・文献検索を行い、課題レポートを作成する。
- ・演習には、事前学習を行い、留意点を把握しておく。

《成績評価の方法》

小児期（60%）、思春期（20%）、成人期・老年期（20%）筆記試験。

《備考》

演習はユニフォームに更衣して行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	女性のライフサイクル	女性のライフサイクルと各期のヘルスケア リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
2	思春期の発達段階の特徴	思春期の特徴 第二性徴・女性の性周期・母性看護の意義
3	思春期に罹患し易い主な疾患と看護	主な疾患（STD含む）、病態生理、治療、看護
4	思春期看護に必要な看護技術 まとめ	産婦人科での看護技術、フィジカルアセスメント、まとめ（小テスト）
5	小児期の発達段階の特徴	乳児期・幼児期・学童期の発達段階の特徴、発達の評価
6	乳児期の健康障害と看護	乳児期に起こりやすい健康障害（発熱・脱水・発疹など）、必要な看護
7	幼児期の健康障害と看護	幼児期に起こりやすい健康障害（事故・川崎病・けいれんなど）、必要な看護
8	学童期の健康障害と看護	学童期に起こりやすい健康障害（心臓疾患・腎臓疾患・生活習慣病・喘息など）、必要な看護
9	小児期のメンタルケア	メンタルケアの意義、PTSD、児童虐待、いじめ、必要な看護
10	学校での感染症	主な感染症、予防法、第2種感染症、第3種感染症、第4種感染症、発症時の対応
11	小児のフィジカルアセスメント まとめ	小児のフィジカルアセスメント、身体計測、まとめ（小テスト）
12	成人期の発達段階の特徴	成人期の発達段階の特徴、成人保健動向
13	老年期の発達段階の特徴	老年期の発達段階の特徴、高齢社会の現状
14	成人期・老年期の健康障害と看護	生活習慣病・心不全・呼吸不全・脳梗塞・骨折・外傷など、必要な看護
15	成人期・老年期に必要な看護技術 まとめ	成人・高齢者のフィジカルアセスメント、基礎看護看護技術、まとめ（小テスト）

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

看護学の基礎的知識や技術を再確認し、さらに実践の学としての症例学習を加えることで、科学的な見方で学校看護を理解します。受講者は、看護過程の進め方を理解し、養護教諭として看護にいかに関与するかにについて学ぶことができます。続く、症例学習を含めた看護実習や養護実習の中で、学習し考えたことを実践の中で確認していくことができます。主体的な学習態度と意欲的な姿勢が必要となります。

《授業の到達目標》

看護学の知識と技術における基礎的事項を説明できる。
 対象の健康問題全般を科学的・系統的には把握することができる。
 主な治療・処置に伴う看護が理解できる。
 臨床看護実習に向けて、各自の課題を見出し、課題解決に取り組むことができる。

《成績評価の方法》

小テスト（40%）、定期試験（60%）とし、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床看護実習との関わり
2	基礎看護学の復讐	看護学の概念の確認
3	病気と手当	子どもに多い病気と手当 - 訴えや症状に対する理解と看護
4	看護過程	看護過程の実際、看護診断（判断）について
5	病気と手当	子どもに多い病気と手当 - 障害のある児童・生徒への理解と看護 小テスト(第2回)の実施
6	スクリーニングとは	スクリーニングの概念と方法
7	基礎技術	スクリーニングの技術、バイタルサインなどの基礎看護技術
8	治療と処置	治療・処置に伴う看護 小テスト(第3回)の実施
9	記録と報告	記録と報告について 意味と方法
10	安全と安楽	安全と安楽について 方法と技術
11	地域看護	地域看護とは 地域看護の推進と連携
12	看護倫理	看護倫理と教育職員の倫理観について 小テスト(第4回)の実施
13	実践とは何か	臨床看護実習の目的の確認と導入
14	記録の取り方と報告の仕方	臨床看護実習における記録と報告、内容と方法、
15	まとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、各自の課題を明らかにし説明することができる。

《テキスト》

適宜プリントを配布する

《参考図書》

- 『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
- 『実践基礎看護学』中西監修（建帛社）
- 『養護教諭のための看護学』藤井・山田・佐藤（大修館書店）
- 『基礎看護技術』（医学書院）

その他適宜紹介する

《授業時間外学習》

課題レポート作成には、必ず関係図書に目を通す。復習をしっかりおこない、正確な数値の把握に努める。常に養護教諭の専門性との関連で考える習慣をつくる。

《備考》

この授業の出席状況は、本教科の単位認定に関与するだけでなく、「臨床看護実習」の受講資格に関わってくることを認識しておく。

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	臨床看護実習				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

看護学の最終段階として、これまで学んできた知識や技術を確認すると共に、臨床での人間関係を通して、養護教諭に必要な看護の専門性を確認します。受講者は、担当患者の看護ケアを通して看護過程の実際に触れることができます。高度医療や医療的ケアなど、現代的医療の現状や特別なケアの実際にも触れます。人間を深く理解し、科学的な視点で必要なケアを考えるなど、主体的に実習に取り組むことが求められます。

《授業の到達目標》

実習目標や内容を明確にし、その成果の報告ができる。
 対象者を理解し、心身の状況について、観察した内容を端的に報告することができる。
 看護学の専門性を理解し、専門(学校看護)への応用について考えを述べる事ができる。
 基礎実習との相違点が分かり、自ら習得しなければならない学習内容が分かり、実習計画を立てることができる。

《成績評価の方法》

事前指導から事後指導（実習報告会）まで、いっさいの欠席は原則として認めない。実習ノートの記録(40%)、指導者による実習評価(20%)、事前指導と事後指導の活動状況(40%)、100点満点で採点。

《テキスト》

本学作成の『実習記録のノート』配布プリント類

《参考図書》

『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
 『養護教諭のための看護学』藤井・山口・佐藤編（大修館書店）
 『基礎看護技術』藤崎郁著、医学書院
 その他、適宜紹介する

《授業時間外学習》

実習に向けて、文献等での知識の確認と定着に努める。実習室等を積極的に活用し、基礎技術の習得に努める。実習期間中の生活時間帯を想定し、平素より、規則正しい生活習慣を確立する。

《備考》

事前指導から事後指導まですべてを含んで、本実習がある。臨床基礎実習を修了していること。実習の適否は、学科内委員会が判断する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導 1 オリエンテーション	臨床（臨地）実習の意義・目的および内容の概略について
2	事前指導 2	実習の内容を確認し、各自の目標を決める。
3	事前指導 3	実習中の注意事項、心構え等を確認する。
4	実習 1日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。オリエンテーション。
5	実習 2日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
6	実習 3日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
7	実習 4日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
8	実習 5日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
9	実習 6日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
10	実習 7日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
11	実習 8日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
12	実習 9日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。
13	実習 10日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。指導者を交えた、最終カンファレンス。
14	事後指導 1	実習内容のまとめ、プレゼンテーションの準備、
15	事後指導 2	実習報告会において、それぞれの実習で習得した内容や課題について報告する。

《専門教育科目 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	救急看護（救急処置を含む）				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

教育活動やスポーツ活動においては、予期せぬ発病や事故や外傷が起こります。その初期対応や処置の仕方、対応の良否はその後の経過に影響するとも言われます。授業は複数の担当者によるオムニバス形式で進めていきます。受講者は、救急処置に必要な知識と技術を習得します。また、具体的な場面を想定した救急処置の実践的能力を身につけ、教師としての専門性に生かせるよう主体的に取り組むことが求められます。

《授業の到達目標》

救急看護の概念と基礎知識を理解し、説明できる。
 災害救護活動について理解し、災害時の健康障害について解説できる。
 基本的な救急処置ができる（救急処置の範囲がわかる）。
 救急蘇生法について初心者に説明し、指導できる。
 傷病者の状態のアセスメントの方法を理解し、説明できる。

《成績評価の方法》

各担当者出題による最終試験(60%)、演習後のレポート(40%)。100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

適宜プリント等を配布する

《参考図書》

『救急看護論』山勢博彰編著、ヌーヴェルヒロカワ
 『初心者のためのフィジカルアセスメント-救急保健管理と保健指導-』第2版 荒木田美香子他、東山書店
 『スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・障害 改.第2版』、南江堂
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

課題レポートのため、関係図書に目を通しておく。復習をしっかりおこない、正確な知識の習得に努める。医療的側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習しておく。技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習をおこなう。

《備考》

教員免許取得希望者の必須科目です。演習を随所に取り入れるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢が必要です。2コマ連続開講で11回+45分の授業となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について、救急看護の考え方、年齢別に起こりやすい事故と病気。フィジカルアセスメントの知識
2	小児救急	子どもに多い事故と傷病、小児救急の実際と処置の基礎知識
3	整形外科的障害	整形外科的障害（突き指、骨折、捻挫、頭部外傷など）の救急処置の基本
4	小児救急	子どもに多い事故と傷病、小児救急の実際と処置の基礎知識
5	内科的障害	内科的障害（胸痛、腹痛、熱中症、過換気症候群など）の救急処置の基本
6	災害看護とトリアージ	災害の定義、災害発生の現代的課題、災害看護とトリアージ
7	救急蘇生法の理論と実習	救急蘇生法の理論と実習1（人工呼吸、胸骨圧迫心マッサージ、AED）
8	基本的応急処置	傷病者の観察と基本的応急処置法（止血法、包帯法、搬送方法）
9	救急蘇生法の理論と実習	救急蘇生法の理論と実習2（異物除去、RICE）
10	学校救急	学校救急看護
11	学校救急	学校救急看護
12	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。
13	終了	終了
14	終了	終了
15	終了	終了

《教職に関する科目》

科目名	教育史				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業では、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえ、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることをおさえる。

具体的には、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1冊以上選び、その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。

《授業の到達目標》

教育史は、文字通り教育の歴史である。しかし歴史というと、無味乾燥な暗記物というイメージが付きまとう。誤った歴史教育がそのようなイメージを生んでしまったのは残念である。

本授業では、みなさんに暗記してもらうことは一つもない。その代わりに教育史に関する文献を自分で見つけ、それについて発表することにより、教育史を身近に感じてもらうことが、本授業の目的である。

《成績評価の方法》

提出物(30%)と、発表への評価(70%)による。ただし、大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき、変更することがある。

《テキスト》

とくに定めない。

《参考図書》

妹尾河童『少年H』, さくらももこ『まる子だった』, 黒柳徹子『窓際のトットちゃん』, 司馬遼太郎『竜馬がゆく』, ヘッセ『車輪の下』, サンテグジュペリ『星の王子さま』, 童門冬二『上杉鷹山』, 乙武洋匡『五体不満足』, ほか。

《授業時間外学習》

自力で文献を読むことは言うまでもないが、その他は必要に応じて指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	発表文献選定のための個別指導(1)	文献リスト作り等
3	発表文献選定のための個別指導(2)	発表内容の詰め等
4	口頭発表(1)	文献例: 妹尾河童『少年H』
5	口頭発表(2)	文献例: さくらももこ『まる子だった』
6	口頭発表(3)	文献例: 黒柳徹子『窓際のトットちゃん』
7	口頭発表(4)	文献例: 司馬遼太郎『竜馬がゆく』
8	口頭発表(5)	文献例: H・ヘッセ『車輪の下』
9	口頭発表(6)	文献例: A・サンテグジュペリ『星の王子さま』
10	口頭発表(7)	文献例: 童門冬二『上杉鷹山』
11	口頭発表(8)	文献例: 乙武洋匡『五体不満足』
12	口頭発表(9)	文献例: E・ケストナー『エーミールと探偵たち』
13	口頭発表(10)	文献例: 東上高志『教育革命』
14	口頭発表(11)	文献例: 三好京三『子育てごっこ』
15	口頭発表(12)	文献例: 李潤福『ユンボギの日記』

《教職に関する科目》

科目名	保健・保健体育科教育法（保健教育法研究）				
担当者氏名	棟方 百熊				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

保健科教育について、学習指導要領、保健科教育研究や実践の分析・検討を通して考察し、その目標、方法、評価等について発展的な理解を深める。

《テキスト》

中学校教科書「中学保健体育」学習研究社、高等学校教科書「現代保健体育」大修館書店、中学校学習指導要領解説「保健体育」、高等学校学習指導要領解説「体育・保健体育」

《参考図書》

森昭三他「新保健の授業づくり入門」大修館書店 他
講義の際に適宜示します。

《授業の到達目標》

保健科教育の目標、内容、方法、評価についての今日的課題を説明できる。保健科教育の目標、内容、方法、評価について、学習指導要領、保健科教育研究や実践を分析・検討できる。

《授業時間外学習》

前時の学習内容の復習をするとともに、前時に示された次時の内容を予習しておいてください。
また、受講者同士で協力して以下の事項の実践を推奨します。
(1) 授業中に示された課題の検討
(2) 学習指導要領等の資料の読み込み

《成績評価の方法》

- (1) 小課題への取り組み(40%)
 - (2) 最終課題(60%)
- の2点を基本とする。

《備考》

本講義は基本的に土曜日に隔週で実施されますが、行事等により変更が有り得るため、通知等には常に留意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション及び保健科教育の歴史	オリエンテーション(授業計画, 評価の確認) 保健科教育の変遷, 保健科授業経験の検討
2	保健科における学力と保健科教育	保健科の学力と教育による学力の育成・向上に関する検討
3	保健科教育内容の検討(中学校)	中学校学習指導要領及び解説の検討
4	保健科教育内容の検討(高等学校)	高等学校学習指導要領及び解説の検討
5	保健科教育の教授 学習過程の検討	保健科教育の教授 学習過程の分析
6	保健教科書の分析(中学校)	中学校保健教科書内容の分析
7	保健教科書の分析(高等学校 単元1)	高等学校保健教科書の分析(現代社会と健康)
8	保健教科書の分析(高等学校 単元2・3)	高等学校保健教科書の分析(生涯を通じる健康, 社会生活と健康)
9	保健科教育の教材論	保健科教育教材の分析
10	保健科教育の教材づくり(計画)	保健科教育教材づくり(計画から作成)
11	保健科教育の教材づくり(作成)	保健科教育教材づくり(作成から評価)
12	保健科教育の評価	保健科教育の評価とその今日的課題
13	保健科教育における評価の観点と評価の方法	保健科教育における評価の4観点と適切な評価方法に関する検討
14	保健科教育における具体的評価	保健科教育における観点別評価に適した評価方法の適用
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見の再確認

《教職に関する科目》

科目名	保健科教育法（保健科教育法演習）				
担当者氏名	棟方 百熊				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

保健の授業では、健康に関する基礎的な内容の理解、現代的健康課題への対応、実践力の育成、学習方法の工夫等が求められている。それらをふまえて、教材研究、授業計画の作成、模擬授業の実践、カンファレンス、模擬授業改善を行う。これらを通じて保健の授業づくりの力を高める。

《テキスト》

中学校教科書「中学保健体育」学習研究社、高等学校教科書「現代保健体育」大修館書店

《参考図書》

森昭三他「新保健の授業づくり入門」大修館書店 他
講義の際に適宜示します。

《授業の到達目標》

保健の授業計画の立案、指導案の作成ができる。学生を児童・生徒にみたと、模擬授業ができる。模擬授業を批評し、そのよかつた点、改善すべき点に関する意見を述べるができる。多様な観点からの修正意見に基づき、模擬授業を改善できる。

《授業時間外学習》

受講者同士で協力して以下の事項を実践することを推奨します。

学習指導要領の関連部分を読み込む。
教材研究を多角的に行う。
課題を明確にした自主的な模擬授業を数多く行う。
多様な意見を取り入れて積極的に改善に取り組む。

《成績評価の方法》

- (1) 授業計画・指導案の作成（50%）
- (2) カンファレンスの積極的参加（30%）
- (3) レポート（20%）

《備考》

本講義は基本的に土曜日に隔週で実施されますが、行事等により変更が有り得るため、通知等には常に留意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション テーマの決定	オリエンテーション（授業計画、評価の確認） 個別のテーマ及び単元計画の検討
2	模擬授業計画立案	教材研究、指導案の作成
3	模擬授業計画の精査	指導案の評価、改善策の検討、指導案の完成
4	模擬授業の実施とカンファレンス	第4週～第14週 模擬授業の実施とカンファレンス 毎回、評価観点を示し、受講者による相互評価を行う。
5	模擬授業の実施とカンファレンス	各自による模擬授業とカンファレンスは次の手順で行う予定。
6	模擬授業の実施とカンファレンス	模擬授業の実施
7	模擬授業の実施とカンファレンス	模擬授業の評価
8	模擬授業の実施とカンファレンス	カンファレンス
9	模擬授業の実施とカンファレンス	まとめ（1）
10	模擬授業の実施とカンファレンス	修正案の作成
11	模擬授業の実施とカンファレンス	修正案の検討
12	模擬授業の実施とカンファレンス	修正後の模擬授業の実施
13	模擬授業の実施とカンファレンス	修正後の模擬授業の実施
14	模擬授業の実施とカンファレンス	まとめ（2）
15	まとめ	個別の力量の評価と課題の整理

《教職に関する科目》

科目名	保健体育科教育法（保健体育科教育法研究）				
担当者氏名	後藤 幸弘				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

「学習指導要領解説（保健体育編）」を理解するとともに、教科内容（体育分野）を理解する。特に、教育内容を押さえた「的確な判断に基づく行動力の育成」のできる先生になる力を習得する。換言すれば、高い専門性に基づき教育現場での教科指導法について創意工夫できる力を養う。

《テキスト》

後藤幸弘編著「内容学と架橋する保健体育科教育論」晃洋書房
 文部科学省「中学校学習指導要領解説（保健体育編）」
 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（保健体育編）」

《参考図書》

宇土正彦（監修）「学校体育授業事典」大修館書店
 日本体育学会（監修）「最新スポーツ科学事典」平凡社

《授業の到達目標》

保健体育科教育法 に引き続き、保健体育科成立の文化基盤である「身体運動文化」への興味・関心、認識・理解を深め、専門知識の習得及び中・高等学校保健体育科の授業担当者として求められる資質や実践的能力を身に付ける。

《授業時間外学習》

・ノートをまとめ復習する。また、次時の講義内容に当たるテキストの章を読んでおく。

《成績評価の方法》

・授業における討議への積極的参加（20%）、レポート（20%）及び試験（持ち込み不可）（60%）を総合的に評価する。

《備考》

・質問・連絡等があればメールでも受け付けます
 (ygoto@gaiia.eonet.ne.jp)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保健体育科について（体育授業の構造）
2	目標と学力	体育科の目標の変遷と考え方・体育の学力について
3	運動領域	運動領域の考え方と教育内容について
4	教育内容	普遍的教育内容について（技術、戦術、ルール、マナー、学びとり方の能力、他）
5	技術・ルール・戦術	技術・ルール・戦術の関係について
6	技術	技術について（運動技能の捉え方）
7	ルール・戦術	ルールと戦術について
8	球技分類論	球技のゲーム形式に基づく分類論と教育内容について
9	球技の指導法	球技（攻防相乱型）の学習指導法について（課題ゲームを通して）
10	球技の指導法	球技（攻防分離型）の学習指導法について（課題ゲームを通して）
11	武道の指導	武道（相撲、柔道）の学習指導について
12	体づくり運動	体力について、腕立て伏臥腕屈伸運動の負荷量を考える
13	体づくり運動	ストレッチングについて
14	評価	指導と評価の一体化、学習課題が明確になる評価について
15	試験問題の検討・まとめ	作成した試験問題の検討を通して講義のまとめを行う

《教職に関する科目》

科目名	教育方法論				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講義では、さまざまな教育思想家の教育方法について比較しながら検討していく。とくに学校教育制度が発展していく中で、どのような教育方法の変遷があるのかに注目しつつ、分析を進める。また授業で使用する資料の教育方法と指導案作成についても解説する。

《テキスト》

広岡義之著『新しい教育学概論』 創言社

《参考図書》

講義の中で紹介してゆく。

《授業の到達目標》

本講義では、それぞれの教育思想家が提言した教育方法論がどうした理由でその時代に必要とされたのかを客観的に理解してゆく。また指導案作成についても理解する。

《授業時間外学習》

毎回、予習する個所を明示するので、その領域を事前に調べておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。

《備考》

私語や遅刻はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講義のオリエンテーション
2	指導案作成	読み物資料の指導方法と指導案の作成方法
3	指導案作成	読み物資料の指導方法と指導案の作成方法
4	指導案作成	読み物資料の指導方法と指導案の作成方法
5	プラトンの教育方法論	プラトンの「洞窟の比喩」における教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
6	ソクラテスの教育方法論	ソクラテスの「助産術」的教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
7	ブーバーの教育方法論	ブーバーにおける「我と汝」の教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
8	伝統的教育学の教育方法論	伝統的教育学の連続的形式における教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
9	実存哲学の教育方法論	実存哲学の非連続的形式における教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
10	死の準備教育の教育方法論	死の準備教育における教育方法論をデーケン教授に即しつつ説明する。
11	家庭教育の教育方法論	家庭教育における教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
12	主体的な生き方・あり方の教育方法論	主体的な生き方・あり方における教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
13	人生の意味を考える教育方法論	人生の意味を考える教育方法論を فرانクル教授に即しつつ説明する。
14	「人間形成」的教育方法論	「人間形成」的教育方法論をフランクル教授に即しつつ説明する。
15	まとめと総括	まとめと総括を対話的授業の中で展開する。

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅 一郎、大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」(20%)教育実習記録(実習ノート)(40%)事前事後指導での活動(40%)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法> 兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。
<復習方法> 学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない(介護等体験は終了済のこと)。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施(指導案の作成、教材作成)
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅 一郎、大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠点は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」(20%)教育実習記録(実習ノート)(40%)事前事後指導での活動(40%)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<習方法> 兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。
<復習方法> 学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない(介護等体験は終了済のこと)。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施(指導案の作成、教材作成)
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定め、実習校に赴きます。本科目は、事前指導(本時)から事後指導まで、全過程を終了した後に評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
 養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
 定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。
 実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席はいっさい認めません。
 実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での活動(実習報告会を含む)(40%)、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護実習に向けて、心構えと注意点、勉強の進む方、実習と採用試験
2	養護実習内容について	教育職員に関する事、学校教育に関する事、学校保健の考え方、進め方に関する事、
3	養護教諭について	養護教諭とは、保健室とは、保健室経営の仕方、保健室における対応の仕方、記録の方法、
4	学校環境衛生	日常学校環境衛生検査、測定の実際
5	健康診断	定期健康診断の考え方、進め方、測定・検査の実際
6	保健指導	保健学習と保健指導、保健指導の指導案作成(課題の提示)
7	保健だより	保健だよりの意味と役割、校種別保健だよりの作成
8	学校事故の対応	学校事故と対応の仕方、記録の仕方
9	模擬授業	保健指導の実際(6週目の課題報告)
10	実習要項の確認	実習の手引きと日誌の配布、実習要項の確認と実習日誌の記入方法
11	実習手続き	実習手続きの確認、関係文書の作成
12	実習のまとめ	(実習の成果報告)
13	実習のまとめ	(実習の成果報告)
14	実習のまとめ	(実習の成果報告)
15	実習のまとめ	養護実習のまとめ

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社
 『児童・生徒の健康診断マニュアル』日本学校保健会、第一法規
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習(5単位)の内の1単位分に相当することを認識し、また、実習本番に向けて、各自が出来る限りの準備を行う。主体的参加と、自主的学習を要する。

平成 22 (2010) 年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		運動実践指導者	教員免許関係			学年配当 (数字は週当り授業時間)				平成25年度の担当者	ページ	
			必修	選択		養護	保健体育	保健	学年配当						
									1年	2年	3年	4年			
専門基礎教育科目群	基礎ゼミ	演習	2						2						
	基礎ゼミ	演習	2						2						
	健康科学序論	講義	2						2						
	健康科学	講義	2							2					
	情報科学	講義	2						2						
	基礎生物学	講義	2						2						
	解剖学	講義	2						2						
	生理学	講義	2						2						
	微生物学	講義	2								2				
	生化学(分子生物学を含む)	講義	2								2				
	分子生物学演習	演習	2								2				
	栄養学	講義	2						2						
	食品学	講義	2						2						
	栄養指導論	演習	2								2				
	衛生学	講義	2						2						
	公衆衛生学	講義	2								2				
	医学概論	講義	2									2			
	心理学研究法	講義	2								2				
	心理測定法	演習	2									2			
	心理学基礎実験	実験	2										4		
	心理学応用実験	実験	2										4	(北島 律之)	213
	認知心理学	講義	2								2				
	健康心理学	講義	2								2				
	臨床健康心理学演習	演習	2									2			
	生涯発達心理学	講義	2									2			
	臨床心理学	講義	2									2			
	教育心理学	講義	2									2			
	発達心理学	講義	2								2				
	ストレス科学論	講義	2										2		
	人間関係論	講義	2											2	
外書購読	講義	2										2			
外書購読	講義	2											2		
教育特論	講義	2										2			
教育特論	講義	2											2		
教育特論	講義	2											2	矢野 琢也	214
地域活動演習	演習	2											2		
地域活動演習	演習	2											2	徳田・河野	215

は健康運動実践指導者養成科目

は養護教諭免許必修科目、 は養護教諭免許選択科目

は保健体育免許必修科目、 は保健体育免許選択科目

は保健免許必修科目、 は保健免許選択科目

「スポーツ実践」、「スポーツ実践」、「健康・体力づくり実践」、「健康・体力づくり実践」、「専門施設実習」は、定期授業の他に学外実習を行う。

「レクリエーション(野外活動を含む)」は、4時間のうち3時間を学外実習にあてる。

健康運動実践指導者養成講座科目として、表中の科目以外に集中講義として「運動障害と予防」と「救急処置」を2年 期に、「運動の基礎」の中で「発育・発達と老化」を履修する。

認定心理士養成科目として、表中の科目以外に3年 期に「行動分析論」と「社会心理学」を履修する。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

業 目 の 分 区	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		運 動 実 践 指 導 者	教 員 免 許 関 係			学 年 配 当 <small>(数字は週当たり授業時間)</small>				平 成 25 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択		養 護	保 健 体 育	保 健	1年	2年	3年	4年			
専 門 に 関 連 す る 科 目 群 （ 運 動 ・ 体 育 ）	体育原理	講義	2					2							
	運動の基礎	講義	2					2							
	運動生理学	講義	2						2						
	運動生理学演習	演習	2						2						
	運動栄養学	講義	2						2						
	子ども運動学	講義	2					2							
	子ども運動学演習	演習	2						2						
	スポーツ医学概論	講義	2							2					
	スポーツ心理学	講義	2							2					
	障害者スポーツ論	講義	2									2		[増田]・樽本	216
	スポーツ史	講義	2									2			
	スポーツ科学	演習	2								2				
	スポーツ科学	演習	2								2				
	トレーニング科学	演習	2							2					
	トレーニング科学	演習	2							2					
	体力測定と評価	講義	2					2							
	スポーツ実践	演習	3					3							
	スポーツ実践	演習	3					3							
	健康・体力づくり実践	演習	3						3						
	健康・体力づくり実践	演習	3						3						
	スポーツ指導法	演習	2								2				
	スポーツ指導法	演習	2								2				
	健康・体力づくり指導法	演習	2								2				
	健康・体力づくり指導法	演習	2								2				
	運動処方論	講義	2								2				
	運動処方演習	演習	2								2				
レクリエーション（野外活動を含む）	実習	2								4					
科 目 群 （ 養 護 ・ 保 健 ）	病理学概論	講義	2						2						
	薬理学	講義	2							2					
	養護概説	講義	2				2								
	養護概説	講義	2				2								
	学校保健（小児保健・学校安全を含む）	講義	2				2								
	学校保健	講義	2					2							
	学校保健	講義	2						2						
	精神保健	講義	2						2						
	健康行動論	講義	2						2						
	健康統計学	講義	2							2					
	健康相談活動の理論と実践	講義	2								2				
	看護学概論	講義	2					2							
	看護学	演習	3						3						
	看護学	講義	2							2					
	看護学	演習	3							3					
看護学	演習	2								2					
臨床基礎実習	実習	1							2						
臨床看護実習	実習	2								4					
救急看護（救急処置を含む）	演習	3								3					

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		運動実践指導者	教員免許関係			学年配当 <small>(数字は週当り授業時間)</small>				平成25年度の担当者	ページ	
			必修	選択		養護	保健体育	保健	1年	2年	3年	4年			
専門 教育 研究 科目	卒業研究	演習	3										3	三宅 一郎	217
	卒業研究	演習	3										3	大平 曜子	218
	卒業研究	演習	3										3	廣岡 義之	219
	卒業研究	演習	3										3	森田 義宏	220
	卒業研究	演習	3										3	多田 章夫	221
	卒業研究	演習	3										3	徳田 泰伸	222
	卒業研究	演習	3										3	木下 幸文	223
	卒業研究	演習	3										3	加藤 和代	224
	卒業研究	演習	3										3	河野 稔	225
	卒業研究	演習	3										3	三宅 一郎	226
	卒業研究	演習	3										3	大平 曜子	227
	卒業研究	演習	3										3	廣岡 義之	228
	卒業研究	演習	3										3	森田 義宏	229
	卒業研究	演習	3										3	多田 章夫	230
	卒業研究	演習	3										3	徳田 泰伸	231
	卒業研究	演習	3										3	木下 幸文	232
	卒業研究	演習	3										3	加藤 和代	233
	卒業研究	演習	3										3	河野 稔	234
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2						2						
	教育原理	講義	2						2						
	教育史	講義	2									2			
	教育制度論	講義	2						2						
	教育課程論	講義	2							2					
	保健・保健体育科教育法（保健教育内容研究）	講義	2							2					
	保健・保健体育科教育法（保健教育法研究）	講義	2								2				
	保健科教育法（保健科教育教材研究）	講義	2								2				
	保健科教育法（保健科教育法演習）	講義	2									2			
	保健体育科教育法（保健体育科教育研究）	講義	2								2				
	保健体育科教育法（保健体育科教育法研究）	講義	2									2			
	道徳教育論	講義	2							2					
	特別活動論	講義	2								2				
	教育方法・技術論	講義	2								2				
	教育方法論	講義	2									2			
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義	2							2					
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義	2						2						
	教育実践演習（中・高）	演習	2										2	樽本 つぐみ	235
教育実践演習（養護教諭）	演習	2										2	加藤 和代	236	
中学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習	5										5	三宅・大平・木下	237～238	
高等学校教育実習（事前事後指導を含む）	実習	3										3	三宅・大平・木下	239～240	
養護実習（事前事後指導を含む）	実習	5										5	大平・加藤	241～242	

は健康運動実践指導者養成科目

は養護教諭免許必修科目、 は養護教諭免許選択科目

は保健体育免許必修科目、 は保健体育免許選択科目

は保健免許必修科目、 は保健免許選択科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	心理学応用実験				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	実験	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

これまでに学んだ心理学の様々な知識を基に、自らが研究計画に關与し、その研究を実際に行える力を養成することが目的です。いくつかのテーマでは、受講生自身が基礎となる研究計画にアイデアを加えることや、研究のための準備を行うことが求められます。また、心理学基礎実験で身につけたレポート作成力を、より洗練されたものへと高めていきます。

《授業の到達目標》

心理学の研究方法について、どのようなものがあり、それらがどういった特徴をもつか説明することができる。

心理学の各領域における研究について、自らのアイデアを加えながら実際に行うことができる。

洗練された研究レポートを作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート80% 受講態度10% 発表10%

《テキスト》

なし(適宜、プリントを配布)

《参考図書》

『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版 <授業「心理学基礎実験」のテキスト> 『認知心理学基礎実験入門』 兵藤宗吉・須藤智(編) 八千代出版 『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』 小塩真司 東京図書

《授業時間外学習》

授業時間中に完成させることができなかったレポートを仕上げてください。レポートは必ず決められた日時までにメールに添付して送信してください。送信先のメールアドレスは授業中に示します。レポートは添削し、次の授業の前半で講評を行います。

《備考》

・本科目を受講するためには、前もって「心理学基礎実験」を修得しておくことが必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	心理学基礎実験の復習、本科目における実験の概略の説明。
2	PCを刺激提示装置とした実験1：心的回転	実験の説明、実験
3	PCを刺激提示装置とした実験1：心的回転	実験のつづき、レポートの作成
4	PCを刺激提示装置とした実験2：意味記憶	レポートの講評、実験の説明、実験
5	PCを刺激提示装置とした実験2：意味記憶	実験のつづき、レポートの作成
6	PCを刺激提示装置とした実験3：IAT	潜在的連合テストの体験、実験計画の検討
7	PCを刺激提示装置とした実験3：IAT	実験準備
8	PCを刺激提示装置とした実験3：IAT	実験、レポートの作成
9	質問紙を用いた調査1：性格	質問紙調査の説明 特性論に基づく性格検査の実施(BigFive) レポートの作成
10	質問紙を用いた調査2：価値観	調査の説明 調査計画の検討 質問紙の作成
11	質問紙を用いた調査2：価値観	調査
12	質問紙を用いた調査2：価値観	データの解析
13	質問紙を用いた調査2：価値観	結果のまとめ、レポートの作成
14	プレゼンテーション	発表準備
15	プレゼンテーション	発表

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	教育特論				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

スポーツの世界においても、体力や技術と同じくらい「考える力」や「表現力」「論理的思考能力」といった『知的能力』が重要となります。これらを身につける上で教養も大切になります。4年生での進路選択や社会で活躍するためにそれら基礎能力の養成は、各自の可能性を広げることに繋がります。授業では、書籍を中心に幅広い知識の獲得およびディスカッション等を行います（複数の担当者による展開もあります）。

《授業の到達目標》

内容をしっかり理解すること、ポイントを見つけること、その内容をレポートしてまとめること、他者と意見交換できることを目標とします。それらを通して、社会人になるにあたっての基本的な考え方やスキル、教養の一部を身につけることも目標とします。

《成績評価の方法》

課題に対するレポート(70%)と発表(30%)で評価します。

《テキスト》

各授業ごとに事前に提示します。

《参考図書》

「わかりやすく伝える技術」講談社新書、「原稿用紙10枚を書く力」大和書房、「言語技術が日本サッカーを変える」光文社新書、日本経済新聞など各種一般新聞紙

《授業時間外学習》

事前に資料等を入手し熟読しておくこと。その努力の過程が大切です。その上で、自分の考えをまとめ、発表できるように資料等をしっかりと読み込むこと。あわせて新聞等の活字情報を積極的にチェックしておくこと。

《備考》

自ら積極的に授業に参加することを望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等を説明します。受講者は必ず出席すること。
2	テーマ1についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
3	テーマ2についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
4	テーマ3についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
5	テーマ4についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
6	テーマ5についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
7	テーマ6についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
8	テーマ7についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
9	テーマ8についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
10	テーマ9についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
11	テーマ10についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
12	テーマ11についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
13	テーマ12についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
14	テーマ13についての議論	指定されたテーマに関する内容やポイントの確認。またそれについての意見交換を行う。
15	まとめ	これまでのまとめ&補足。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	地域活動演習				
担当者氏名	徳田 泰伸、河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

地域社会における運動指導現場やボランティア現場等に参加し、実際の活動を通して、社会人としての行動を身につけ、指導者・教育者としての心構え、指導法、および、現場における課題等を体験的に学習する。実習先は、公共・民間のフィットネス施設、各種スポーツクラブおよびチーム、学校や教育施設、地方公共団体や非営利目的の諸団体等、その他、担当者が認めた施設・各種団体である。

《授業の到達目標》

地域の活動現場において、現場にいる人々と協同して行動できる。
 大学での学修成果を、現場での指導や教育などの活動に生かせる。
 現場での諸問題を理解し、その解決に向けて主体的に取り組める。

《成績評価の方法》

実習の記録（40%）、実習後の報告（40%）、平常点（20%）とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の内容について話し合う。特に実習先の検討。学生の実習先の希望等について打ち合わせる
2	実習のシミュレーション(1)	実習先でのシミュレーションを行い、実習場面で発生する問題等について議論する：スポーツ組織の運営等
3	実習のシミュレーション(2)	各施設先（実習先）を想定し、2週目で発生した諸問題について検討し、指導力を養うための講義とするスポーツ組織の運営等
4	学外実習	実習先での授業（第1回目 挨拶、打ち合わせ、仕事の内容等について現場指導者との協議に入る）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
5	学外実習	実習先での授業（第2回目 仕事の内容について具体的な指示を受ける）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
6	学外実習	実習先での授業（第3回目 仕事の実践を通して客と対応していく）対応した内容について反省と明日への対応を検討する。広域スポーツセンターについて考える
7	学外実習	実習先での授業（第4回目 第3回目と同じく仕事の内容に対して反省と自分らしさの指導力を発揮していく）あわせて広域スポーツセンターの機能と役割についても学ぶ
8	学外実習	実習先での授業（第5回目 第4回目の内容をふまえ、自分の指導力への客の反応を反省し、明日への計画に生かしていく）地域におけるスポーツ振興について考える
9	学外実習	実習先での授業（第6回目 第5回目と同じく指導力を発揮し、その内容をふまえ、何が足りないか常に客との繋がりを重視する）地域におけるスポーツ振興について考える
10	学外実習	実習先での授業（第7回目 第6回目の内容をふまえ、実習後半の指導力を反省し、理論と実践を身につけていく）
11	学外実習	実習先での授業（第8回目 第7回目をふまえ、理論と実践が片寄りのない指導になっているかを検討する）
12	学外実習	実習先での授業（第9回目 第8回目をふまえ、各自の指導力が客に対して、評価がどのようなものかを確認する）
13	実習の反省	本学での授業の中で実習先での諸問題等について報告し反省会を開く
14	実習記録の作成	実習先での実習録を作成し、全員でまとめる（各施設ごと）
15	実習報告	各自の報告を発表形式で行う

《テキスト》

授業中に資料を配布する。

《参考図書》

ヘルス&フィットネス実務マニュアル「フィットネスクラブ内秘実務業務の手引書」（現場マニュアル）

《授業時間外学習》

予習としては、配布資料をよく読み、実習に備えておくこと。
 復習としては、実習中の記録を適宜まとめておくこと。

《備考》

原則として、実習先の施設・各種団体へは自らの意思で参加すること。また、実習までに、これまでに学習した専門教育科目の内容を十分に復習しておくこと。

《専門教育科目 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	障害者スポーツ論				
担当者氏名	増田 和茂、樽本 つぐみ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

スポーツは健常者だけが楽しみ豊かな生活と健康維持増進のために行うものではなく、障害がある者も同等に必要であり、権利として認められるものである。障害者が安心・安全にスポーツに取り組み、また、健康維持と社会参加への推進のために、障害を理解し、理論と実技の知識と実践指導力を身につける。

《テキスト》

障害者スポーツ指導教本（初級・中級）（株）ぎょうせい
 全国障害者スポーツ大会競技規則集
 （公財）日本障害者スポーツ協会

《参考図書》

アダプテッド・スポーツの科学－障害者・高齢医者のスポーツ実践のための理論－ 市村出版 ￥3.990

《授業の到達目標》

スポーツの指導は年齢、性別、体力、技能と障害の有無など個々の対象に適応した運動の方法や運動量を指導することである。個人に応じた競技スポーツから健康維持増進のためのスポーツに対し、アダプテッドスポーツ（適応させる）の考え方で、幼児から高齢者、そして障害者への創意工夫の理論と実技指導ができる指導者を養成する。

《授業時間外学習》

別日程で障害者スポーツセンターで車いすバスケットボールや視覚障害者の卓球などを体験学習（実技）する。

《成績評価の方法》

1. 障害者スポーツに関するテーマをレポート提示し、その視点、内容を評価（25%）
2. 基本的知識を1回のテスト（持込不可）で評価（30%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害者福祉施策と障害者スポーツ	障害者の福祉施策と障害者のスポーツの基本的な知識を学び、現状と課題に触れる。
2	ボランティア論	障害者のスポーツ推進には、ボランティアの支援は欠かせない人財であり、その具体的な事例を学ぶ。
3	障害者スポーツの意義と理念	障害者がスポーツを行うことの意味と心身及び社会的な効果、具体的な事例から実際に対応できる知識を学ぶ。
4	日本障害者スポーツ協会資格認定制度	障害者スポーツの制度とその役割を知り、資格取得後の活動行動へ連動させる知識と情報を得る。
5	障害の理解とスポーツ（身体障害）	身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、内部障害）の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
6	障害者に応じたスポーツの工夫（身体障害）	身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、内部障害）のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
7	障害の理解の理解とスポーツ（知的障害）	知的障害の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
8	障害者に応じたスポーツの工夫（知的障害）	知的障害のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
9	障害の理解の理解とスポーツ（精神障害）	精神障害の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
10	障害者に応じたスポーツの工夫（精神障害）	精神障害のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
11	全国障害者スポーツ大会の概要	全国障害者スポーツ大会の概要、競技と種目、各競技規則を学び、予選ブロック大会やその選考大会となる各種大会を学ぶことで指導現場での情報を知る。
12	指導上の留意点と事例	障害、残存機能、性別、年齢、個人のスポーツ経験や目的に対応した指導上の留意点を学び事例報告から実践的な知識を身につける。
13	障害者との交流	障害のある方から具体的な生活、地域とのかかわりやスポーツに取り組むための現状と課題を聞き、社会や個人ができることを考究する。
14	安全管理と事例	スポーツの実施には、障害の有無に関わらず安全で効果的な運動が原則である。その中で障害者スポーツの事故事例などを学び、安全管理能力を習得する。
15	障害者に応じた新たなスポーツの企画	障害者スポーツの指導や事業を計画するテーマから、プラン、実施、評価を踏まえてのシミュレーションをチームで企画する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

(1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。(2)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。(3)個別指導をおこなう。

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。研究態度・分析力等（60%）中間発表・中間報告書（40%）

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「健康・スポーツ科学のための研究方法」出村慎一（杏林書院）
 「手ぎわよい科学論文の仕上げ方」田中 潔（共立出版株式会社）
 「Excelによる健康・スポーツ科学のためのデータ解析入門」（出村慎一他）

《授業時間外学習》

<予習方法> 与えられたテーマを文献研究等を通してまとめる能力を付けて欲しい。<復習方法> 学んだ内容のみならずその意味を理解し今後の研究活動を実践する能力を付けて欲しい。

《備考》

各自の研究は時間割に組まれている時間だけでなく、積極的に研究室に出向き電算機を使い研究を進めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション、卒業研究の進め方	今後の卒業研究の進め方についてオリエンテーション。
2	テーマと研究計画について話し合う。	各自で興味を持ったテーマと研究計画を考える。
3	各自が決めた研究テーマについて	指導教官と具体的な計画を含めて考える。
4	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
5	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
6	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
7	各自で研究を進める	各自文献研究を参考に具体的に研究計画をまとめる。
8	研究の途中経過発表（1）	各自の研究計画についてまとめ発表する。
9	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
10	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
11	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
12	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
13	各自で研究を進める	資料や予備実験を参考にし、研究計画を具体的にまとめる。
14	各自で研究を進める	各自の研究計画についてプレゼンテーションを行なう。
15	研究の途中経過発表（2）	各自の研究計画についてまとめ提出する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

健康科学の基礎理論をもとに、日常見過ごしている事柄を研究の視点で見直し、明らかにしたいことは何かを考えます。主に、人間を対象とする実証的研究を行うこととなりますが、基本的方法や取り組み方は心理学の研究手法を参考にします。必須科目として健康科学の集大成と位置づけ、これまでの学習内容を丁寧に見直すと共に、研究テーマや課題への接近方法には独自性も加え、自主的に研究に取り組むことが求められます。

《授業の到達目標》

研究テーマにそって、研究計画をたてることができる。
 研究方法を学び、科学的な調査・実験等の実施と結果の分析ができる。
 研究の目的や研究方法を説明できる。
 中間報告のレジュメを作成できる。
 研究内容を口頭で説明することができる。（中間報告）

《成績評価の方法》

研究状況を毎回レポートにして報告（60%）、終了時に研究の中間発表（40%）100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究の進め方、研究室の使い方などの説明と確認。研究テーマの決定方法と手順について理解する
2	問題意識と研究方法	研究のための基本的知識とスキルの確認。文献、先行研究検索の方法
3	研究テーマを見つける	先行研究検索
4	データ収集の方法	図書館において、文献検索、論文検索、入手方法などの研修
5	統計処理の方法（1）	統計手法の種類
6	統計処理の方法（2）	統計手法を用いて実際の統計処理を体験的に実習
7	結果の出力	グラフの書き方 グラフの種類
8	出力結果を読み取る	既存のデータを参考に、結果の読み方を学ぶ
9	研究計画の再考	各自の研究計画書の作成と提出
10	実験・調査の方法	各自の研究計画書に基づいて、実験や調査の計画作成、内容の決定及び作成。
11	実験・調査の実際	実験や調査の依頼にあたり、文書作成
12	レジュメの作成方法	レジュメの作成例をもとに中間報告のための各自のレジュメを作成する
13	実験・調査の結果	実験や調査の途中経過、結果の入力状況の確認、報告内容の決定
14	発表	現在までの結果から分かったこと今後の進め方等について発表する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる

《テキスト》

研究進度に応じて、適宜授業の中でプリントを配布する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業時間外学習》

自分の興味関心の対象を明確にするため、関連の文献を検索し、読んでおく。研究内容をノートに整理し、研究状況の報告書を作成する。

《備考》

研究室を有効に活用し、主体的にできるだけ早く課題に取り掛かる。主体的に取り組むことの中には、積極的に相談することも含まれる。欠席等の連絡は必須。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

教育人間学的手法の基礎を学ぶために、教育学の文献を解説する。さらに各人のテーマをゼミで発表することを通じて、卒業論文の準備の一環とする。

《テキスト》

適宜指示する。

《参考図書》

授業で紹介する。

《授業の到達目標》

幅広い教育学のテーマあるいは焦眉の教育問題のなかから、各人が興味・関心をひく題材を選び、主として文献研究を進めつつ、自ら探究し問題を解決することができる。

《授業時間外学習》

毎時間、授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

口頭発表（50％）。中間報告のレポート（50％）。

《備考》

研究テーマの決定や研究の進捗については日常的に打ち合わせをおこなう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 研究の進め方。	卒論のテーマ設定、方向性を議論する。
2	論文の書き方、文献の検索の仕方について。	具体的に先行論文等を提示して、書き方、文献の探し方を教授する。
3	論文の書き方、文献検索の仕方について。	実際に、自分のテーマを選び、論文を書き始める。
4	各自の研究を進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
5	各自の研究を進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
6	各自の研究を進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
7	各自の研究を進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
8	各自の研究を進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
9	各自の研究を進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
10	各自の研究を進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
11	各自の研究を進めて、ゼミで報告する。	書き始めたことを発表する。
12	研究成果の中間発表。	ある程度まとまった内容を中間的に発表する。
13	研究成果の中間発表。	ある程度まとまった内容を中間的に発表する。
14	今後の研究計画の作成。	期に向けて、本格的な卒論のための章立てを行う。
15	今後の研究計画の作成。	期に向けて、本格的な卒論のための章立てを行う。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

これまで学んできた専門領域の知識をもとに、自ら興味関心あるテーマを決め、卒業論文作成の可能性を探索する。テーマ確定後、研究計画を作成し、必要な文献・資料を収集する。

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中に随時紹介する

《授業の到達目標》

- * そのテーマを選定した理由について、正確な文章で表現できる。
- * テーマについて、専門的な用語を用いて表すことができる。
- * テーマに関して、図書館やコンピュータで、文献や必要な情報を検索し、収集できる。
- * 収集した資料や情報を整理し、テーマに沿ってまとめ、プレゼンテーションできる。

《授業時間外学習》

参考文献検索、資料精読、まとめ

《成績評価の方法》

研究計画を作成するための努力、着想に基づいて、提出された研究計画書で評価。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	卒論作成へのスケジュールリング 文献資料の探し方 Ciniiの検索 アイデアのまとめ方（KJ法）
2	論文の書き方	論文と感想文の相違
3	研究テーマの絞り込み1	情報の探索と収集 情報整理学 kj法
4	研究テーマの絞り込み2	情報の探索と収集 情報整理学 kj法
5	論文の書き方1	論文の構成 章立て
6	論文の書き方2	論文の構成 章立て
7	研究テーマの絞り込み1	資料収集 まとめ 構成 個別指導
8	研究テーマの絞り込み2	資料収集 まとめ 構成 個別指導
9	研究テーマの絞り込み3	資料収集 まとめ 構成 個別指導
10	研究計画の作成1	個別指導 データ処理と統計
11	研究計画の作成2	個別指導 データ処理と統計
12	研究計画の作成3	個別指導 データ処理と統計
13	報告会	研究計画の報告
14	研究計画の実施に向けて1	個別指導 質問紙・調査票作成
15	研究計画の実施に向けて2	個別指導 質問紙・調査票作成

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

研究とはいかなるものか、どのように進めていくかを理解するとともに、実践していく力を養う。研究テーマを決定し、研究目的を明らかにし、研究の円滑な推進に必要な準備を行っていく。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 疫学概念を理解する
- 2 研究の手法を理解し実践できるようになる
- 3 研究に必要な文献を渉猟し、その内容を理解する

《授業時間外学習》

- 1 研究に必要な文献、資料等を積極的に渉猟する
- 2 常に、自分の研究の論理、仮説等を考える

《成績評価の方法》

- 1 平常点（研究意欲、進捗状況）50%
- 2 中間報告50%

《備考》

卒業研究は講義と異なり、所要時間が決まっておらず、その週における目標が達成されるまでは終了しないため、少なくとも毎週講義2時間分（90分×2）は必要とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション・研究の進め方の説明	疫学的研究とはどのように行うものなのか、今後、卒業研究で何を行っていくのかを理解する。
2	研究テーマの決定	今年度行っていく卒業研究のテーマを決定し、研究の方向性の概略を示す。
3	研究目的の決定・研究の設計	研究の目的を明確にし、目的達成のために必要な研究手法を理解する。
4	研究の設計（対象者・分析内容の決定）	疫学的なデータを入手するにあたり、対象者をどのような集団に設定するか、主な調査項目は何かを考える。
5	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
6	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
7	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
8	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
9	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
10	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
11	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
12	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
13	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
14	研究の設計・資料収集	調査用紙を完成させるとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
15	中間報告レポートのまとめ	第1-14週にかけて行ってきたこと（目的、対象、方法、参考文献）を中間報告としてまとめる。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

(1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。(2)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。(3)個別指導をおこなう。

《テキスト》

その都度指示する

《参考図書》

授業で紹介する

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく

《授業時間外学習》

話し合った課題・問題等について文献資料等十分に収集し読み分析し次回までにまとめておく

《成績評価の方法》

研究態度・分析力等（60%）、中間発表・中間報告書（40%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	イントロダクション、卒業研究の進め方
2	研究計画	テーマと研究計画について話し合う
3	研究テーマ	各自が決めた研究テーマについて、指導教官と具体的な計画を話し合う
4	研究	各自で研究を進める
5	研究	各自で研究を進める
6	研究	各自で研究を進める
7	研究	各自で研究を進める
8	研究の途中経過発表（1）	研究の途中経過発表（1）
9	研究	各自で研究を進める
10	研究	各自で研究を進める
11	研究	各自で研究を進める
12	研究	各自で研究を進める
13	研究	各自で研究を進める
14	研究	各自で研究を進める
15	研究の途中経過発表（2）	研究の途中経過発表（2）

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必修	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

研究実施計画・方法等の立案
 研究実施準備（課題に関連する分野の文献調査・予備研究等）
 関連する研究論文の輪読
 予備実験の実施研究の中間報告

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

その都度、適宜紹介する

《授業の到達目標》

卒業研究では、これまで学んできた知識をもとに、運動やスポーツに関する研究活動を通じて、より専門的な知識を深める。また、自ら問題を発見してその解決法を思考し、実際にその効果を確認するために実験を行いながら基本的な研究能力と問題解決能力を培うことが出来る。

《授業時間外学習》

研究内容について日々精査すること。

《成績評価の方法》

日々の研究に望む姿勢(40%)と中間報告会（発表・抄録）の内容(60%)から総合的に判断する。

《備考》

研究の内容や進捗状況によっては時間割外に勉強会を行う。時間割に設定された時間だけ行うのではなく、日常的に研究を遂行していくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究仮説の設定	研究の進め方について
2	研究仮説の設定	研究テーマの設定
3	研究仮説の設定	研究テーマの設定
4	研究仮説の設定	研究テーマの設定
5	研究仮説の設定	研究テーマの設定
6	研究仮説の設定	研究テーマの設定
7	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
8	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
9	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
10	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
11	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
12	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
13	実験（研究）の実行	各自で研究を進める（予備実験の実施）
14	実験（研究）の実行	各自で研究を進める（予備実験の実施）
15	研究成果報告	研究報告会（中間報告会）の実施

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

これまでに学んだ心とからだの健康科学の基礎理論をもとに、自分が関心を持つ社会や教育の事象に目を向け、研究テーマや研究課題を設定する。テーマに沿った研究方法を学び、先行研究などの必要な文献や資料を収集し、計画的に自ら探求していく態度を養う。

《テキスト》

適宜指示する

《参考図書》

適宜指示する

《授業の到達目標》

研究に関する資料を作成し、研究計画を立てることができる
問題意識にもとづいて、明らかにしたいことを明確に表現できる

テーマに関する参考文献、先行研究、統計資料などから意味や問題を読み取ることができる

《授業時間外学習》

研究の進捗状況を作成し、毎授業日に提出すること

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況（50%）中間発表（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究の進め方
2	研究の理解	研究の基本的知識、研究方法等の理解
3	データ収集の方法	先行論文、文献等検索、
4	研究テーマの検討	研究テーマ、研究方法の検討
5	研究テーマの決定	研究テーマ、研究方法の決定
6	研究計画の作成	経過報告、検討
7	研究計画の作成	経過報告、検討
8	データ収集の方法	質問紙作成の実際
9	データ収集の方法	質問紙の検討、経過報告
10	データ収集の方法	質問紙の検討、経過報告、決定
11	データ処理方法	データ処理の理解
12	データ処理方法	データ処理の理解
13	中間報告書の作成	研究目的、研究概要、研究計画、先行研究論文等の経過報告、検討
14	中間報告書の作成	研究目的、研究概要、研究計画、先行研究論文等の経過報告、決定
15	中間報告	中間報告会の実施

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

これまでの学修の集大成となる卒業研究において、先行研究や文献・資料の収集、資料の作成、調査・実験などの研究活動を行う上で基盤となる、研究手法の基礎について学ぶ。具体的には、各自のテーマに沿って、ICT（情報通信技術）を活用した研究活動、さまざまなデータの統計的分析の基礎を実践的に習得する。

《授業の到達目標》

研究テーマに沿って、先行研究や各種資料を効率的に収集できる。

統計的手法を用いて、各種の調査・実験を実施し、結果を分析できる。

ICTを活用して、資料や調査・実験結果をまとめ、効果的に説明できる。

《成績評価の方法》

授業時間の提出物（50%）とレジュメ等の課題（50%）で評価する。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

参考となる文献や資料は、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

各自のテーマについて、先行・関連研究を読み込み、その研究内容や手法について理解し、疑問点などを整理しておくこと。学習内容をノートなどに記録し、自らのテーマに活用できるよう、実践的を通して習得しておくこと。

《備考》

専門分野に関係なく、卒業研究に取り組む上で共通して必要となる知識や技能の習得を目指す。主体的な取り組みを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	進め方の説明
2	文献・資料の調査(1)	アイデアの発散・収束・整理、テーマの絞り込み
3	文献・資料の調査(2)	図書館を活用した文献・資料の調査
4	文献・資料の調査(3)	学術情報データベースを活用した文献・資料の調査
5	文献・資料の調査(4)	調査した文献・資料の整理とその活用
6	統計的手法の利用(1)	記述統計（代表値と分散値）
7	統計的手法の利用(2)	記述統計（相関と回帰）
8	統計的手法の利用(3)	推測統計（区間推定、仮説検定の基礎）
9	統計的手法の利用(4)	推測統計（パラメトリックな検定手法）
10	統計的手法の利用(5)	推測統計（ノンパラメトリックな検定手法）
11	レジュメの作成(1)	レジュメ作成上の注意事項、レジュメに必要な情報の整理
12	レジュメの作成(2)	レジュメの作成
13	レジュメの作成(3)	レジュメの作成と自己添削
14	レジュメの作成(4)	レジュメの完成
15	まとめ	全体の学習の振り返り

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	演習	単位・必修	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

- (1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。
- (2)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。
- (3)個別指導をおこなう。

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。
 統計分析の基礎が身につく。発表能力を身につける。報告書作成方法を習得する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 研究態度・分析力等（60%）
 論文作成・プレゼンテーション能力（40%）

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

- 「健康・スポーツ科学のための研究方法」出村慎一（杏林書院）
- 「手ぎわよい科学論文の仕上げ方」田中 潔（共立出版株式会社）
- 「Excelによる健康・スポーツ科学のためのデータ解析入門」（出村慎一他）

《授業時間外学習》

- <予習方法>
与えられたテーマを文献研究等を通してまとめる能力を付けて欲しい。
- <復習方法>
学んだ内容のみならずその意味を理解し今後の研究活動を実践する能力を付けて欲しい。

《備考》

各自の研究は時間割に組まれている時間だけでなく、積極的に研究室に出向き電算機を使い研究を進めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の問題点について話し合い	卒業研究 でまとめた研究計画を実施する。
2	各自で研究を進める	卒業研究 でまとめた研究計画を実施する。
3	各自で研究を進める	指導教官と具体的な研究計画を最終確認する。
4	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
5	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
6	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
7	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
8	中間発表(1)、各自で研究を進める	これまでの調査、実験、集計、分析、結果を報告する。
9	中間発表(2)、各自で卒論の作成をおこなう	卒業論文を具体的にまとめる。
10	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
11	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
12	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
13	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
14	卒業研究発表会の準備と事前発表会	卒業論文発表資料作成。
15	卒業研究の発表会	卒業論文を発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	演習	単位・必修	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる(情報発信力) 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合) 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度(生涯学習力) 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる(専門的知識) 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する(統合的技術力)				

《授業の概要》

これまで収集した文献や資料を有効に利用し、仮説・分析・考察といった、知的活動を通じて、テーマの流れを学びます。ゼミ内での意見交換は研究を客観的にみるうえで有効です。心理学では一般的に実験や調査などの実証的方法を用いますが、統計的データ分析を行うとともに、科学性、公共性、倫理性など研究として成立するための諸条件について理解したうえで、論文を完成させていきます。

《授業の到達目標》

研究計画にそって、研究を進めることができる。
 科学的な研究方法をとり、調査・実験等の結果を有効に利用できる。
 研究の目的や研究方法を説明できる。
 最終報告のレジュメを作成する。
 研究の概要をプレゼンテーションできる。

《成績評価の方法》

研究状況を毎回レポートにして報告(20%)、論文の提出(40%)、最終の卒業研究発表会で発表する(40%)
 100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	卒業研究 の内容のまとめ 夏季休暇中の進捗状況の確認と今後の計画の修正
2	データの入力	データ集約
3	結果の出力	論文掲載のための結果出力
4	データの分析	論文完成までの間、データ分析を継続
5	論文作成 1章	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
6	論文作成 2章	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
7	論文作成 3章	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
8	論文作成 4章 まとめ	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
9	論文の構成の見直し	論文の全体構成を確認し、修正を加える
10	草稿提出	目次、参考文献、資料等を整理し、添付して体裁を整える
11	校正 レジュメ作成	レジュメを作成し、同時には発表原稿を作成する。
12	発表用のスライド作成	パワーポイントの操作に習熟する
13	発表	プレゼンテーションの実際を体験し、また、発表者相互に学び合う
14	発表	プレゼンテーションの実際を体験し、また、発表者相互に学び合う
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、自己の成果を具体的に説明する。

《テキスト》

研究進度に応じて、適宜授業の中でプリントを配布する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業時間外学習》

文献検索や調査・実験など各自の研究方法に基づく研究の推進。
 研究内容をノートに整理し、論文にまとめていく。

《備考》

研究室を有効に活用し、主体的にできるだけ早く課題に取り掛かる。主体的に取り組むことの中には、積極的に相談することも含まれる。欠席等の連絡は必須。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

教育人間学的手法の基礎を学ぶために、教育学の文献を解説する。さらに各人のテーマをゼミで発表することを通じて、卒業論文の準備の一環とする。また学びあうために、他者との意見交換を頻繁におこなう。

《テキスト》

適宜指示する。

《参考図書》

適宜指示する。

《授業の到達目標》

幅広い教育学的テーマあるいは焦眉の教育問題のなかから、各人が興味・関心をひく題材を選び、主として文献研究を進めつつ、自ら探究し問題を解決することができるようにする。

《授業時間外学習》

自分で取り組むテーマについて毎週、ゼミで報告するための学習が求められる。

《成績評価の方法》

口頭発表（50％）。
論文の完成（50％）。

《備考》

自己研鑽と持続性が要求される。研究テーマの決定や研究の進捗については日常的に打ち合わせをおこなう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究経過の報告 およびオリエンテーション	期で進めた研究経過を報告する。
2	各自の研究計画の作成	卒論完成までの計画を作成する。
3	各自の研究を計画的に進める	卒論完成に向けて、具体的に執筆する。
4	各自の研究を計画的に進める	卒論完成に向けて、具体的に執筆する。
5	各自の研究を計画的に進める	卒論完成に向けて、具体的に執筆する。
6	各自の研究を計画的に進める	卒論完成に向けて、具体的に執筆する。
7	各自の研究を計画的に進める	卒論完成に向けて、具体的に執筆する。
8	各自の研究を計画的に進める	卒論完成に向けて、具体的に執筆する。
9	論文の作成	全体的に完成されるために、論の統一、註の統一等、詳細をつめる。
10	論文の作成	全体的に完成されるために、論の統一、註の統一等、詳細をつめる。
11	論文の作成	全体的に完成されるために、論の統一、註の統一等、詳細をつめる。
12	研究成果の発表の準備	まとめたものを10分程度のレジюмеに要約する。
13	研究成果の発表の準備	まとめたものを10分程度のレジюмеに要約する。
14	卒業研究の発表会	プレゼンテーションの具体的準備をする。
15	卒業論文の提出と反省会	印字して期限内に提出。反省会を持つ。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	演習	単位・必修	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

らが決めたテーマに沿って、必要な文献・資料を収集し、読み解き、必要に応じて調査もおこない、資料・データを分析し、それらを総合して卒業論文へとまとめ上げる。
 授業では、研究計画に沿って、必要な文献や資料やデータを収集し、それらを分析し、関連づけ、論文としてまとめあげる。

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中に随時紹介する

《授業の到達目標》

テーマにそって集めた資料を取捨選択し、必要な情報を取り出すことができる。
 自分の考えや理論の正しさについて、データや資料を使って証明していくことができる。そのようにして調べたことを論文としてまとめることができる。

《授業時間外学習》

各自で調査・実験・論考を実施し、まとめる

《成績評価の方法》

論文内容 80%（構想、構成、分析、表現）、発表 20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	期までの卒業研究の進捗状況の報告	プレゼンテーション
2	調査票・質問紙の作成、予備調査	調査対象の選定 質問項目の選定
3	予備調査・予備実験の整理	調査対象の見直し 質問項目の見直し 実験方法・手続きの見直し
4	本調査・本実験の実施 1	調査実施 実験実施 データ入力
5	本調査・本実験の実施 2	調査実施 実験実施 データ入力
6	本調査・本実験の結果整理 1 論文作成	データ入力 グラフ化 統計処理 個別指導
7	本調査・本実験の結果整理 2 論文作成	データ入力 グラフ化 統計処理 個別指導
8	論文作成	章立てにもとずいて論文作成 序論 目的 方法 結果 考察 個別指導
9	論文作成	章立てにもとずいて論文作成 序論 目的 方法 結果 考察 個別指導
10	論文作成	章立てにもとずいて論文作成 序論 目的 方法 結果 考察 個別指導
11	論文レジメ作成	レジメ作成 パワーポイントでのスライド作成・説明準備 個別指導
12	論文レジメ作成	レジメ作成 パワーポイントでのスライド作成・説明準備 個別指導
13	卒論プレゼンテーション準備	プレゼン練習
14	卒論プレゼンテーション準備	プレゼン練習
15	卒論プレゼンテーション準備	プレゼン反省

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	演習	単位・必修	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

研究を行う上で必須である基本的な手技を身につける。研究により得られたデータを分析し、その内容からどのような所見が導き出せるか、先行研究等と比較してどのような状況にあるかな等を考察し結論を導き出す。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 研究データを正確に分析する能力を身につける
- 2 分析データと先行研究との比較を行う能力を身につける
- 3 分析データから正しい結論を導き出す能力を身につける

《授業時間外学習》

- 1 研究に必要な文献、資料等を積極的に渉猟する
- 2 常に、自分の研究の論理、仮説等を考える

《成績評価の方法》

- 1 平常点（研究意欲、進捗状況）40%
- 2 作成論文60%

《備考》

卒業研究は講義と異なり、所要時間が決まっておらず、その週における目標が達成されるまでは終了しないため、少なくとも毎週講義2時間分（90分×2）は必要とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究結果の解析	アンケート調査等により得られたデータをコンピューター（excelシート）に入力する。
2	研究結果の解析	ピボットテーブルを用いてクロス集計を行う。
3	研究結果の解析	クロス集計を基に解析した結果を示すグラフを作成する。
4	研究結果の解析	クロス集計を基に解析した結果を示すグラフを作成する。
5	研究結果の解析	SPSSを用いてカテゴリー間の頻度の差に関する有意差検定を行う。
6	研究論文作成	研究を行うに当たり、その背景となった事項や研究目的を記載する。必要な参考文献を検索する。
7	研究論文作成	研究を行うに当たり、その背景となった事項や研究目的を記載する。必要な参考文献を検索する。
8	研究論文作成	どのような対象者を用いたか、どのようにしてデータを入手し解析したかを記載する。
9	研究論文作成	研究結果を客観的に記載する。結果に対応する図表に番号を付けて、本文にも記入する。
10	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
11	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
12	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
13	卒業論文提出	卒業論文を完成させて提出する。
14	卒業研究発表の準備	卒業論文発表用の要旨を完成させるとともに、発表媒体（パワーポイント等）を完成させる。
15	卒業研究の発表	卒業論文発表用の原稿を完成させ、その内容の概要を把握する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

(1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。(2)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。(3)個別指導をおこなう。

《テキスト》

その都度指示する

《参考図書》

授業で紹介する

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく

《授業時間外学習》

話し合った課題・問題等について文献資料等十分に収集し読み分析し次回までにまとめておく

《成績評価の方法》

研究態度・分析力等（60%）、中間発表・中間報告書（40%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	イントロダクション、卒業研究の進め方
2	研究計画	テーマと研究計画について話し合う
3	研究テーマ	各自が決めた研究テーマについて、指導教官と具体的な計画を話し合う
4	研究	各自で研究を進める
5	研究	各自で研究を進める
6	研究	各自で研究を進める
7	研究	各自で研究を進める
8	研究の途中経過発表（1）	研究の途中経過発表（1）
9	研究	各自で研究を進める
10	研究	各自で研究を進める
11	研究	各自で研究を進める
12	研究	各自で研究を進める
13	研究	各自で研究を進める
14	研究	各自で研究を進める
15	研究の途中経過発表（2）	研究の途中経過発表（2）

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必修	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

各自のテーマに沿った実験の実施および各指標の測定とその分析
 卒業研究論文の作成
 最終成果報告として卒業論文発表会の実施

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

その都度、適宜紹介する

《授業の到達目標》

卒業研究では、これまで学んできた知識をもとにして、運動やスポーツに関する研究活動を通じ、より専門的な知識を深める。また、自ら問題を発見してその解決法を思考し、実際にその効果を確認するための実験を行いながら基本的な研究能力と問題解決能力を培うことができる。

《授業時間外学習》

研究内容について日々精査すること。
 日常的に研究に関する資料を収集して精読し、卒業研究活動が効率よく行えるようにしておくこと。

《成績評価の方法》

「授業の到達目標」を踏まえた上で、卒業論文と卒業研究発表会（80%）、日々の研究に望む姿勢（20%）

《備考》

研究の内容や進捗状況によって時間割外に勉強会を実施する。時間割に設定された時間だけで行うのではなく、日常的に研究を遂行していくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
2	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
3	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
4	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
5	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
6	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
7	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
8	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
9	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
10	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
11	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
12	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
13	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成（研究報告会の抄録および資料の作成）
14	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成（研究報告会の抄録および資料の作成）
15	卒業研究報告会	研究プレゼンテーションによる情報の発信と卒業研究論文の再考

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	演習	単位・必修	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

研究テーマに沿って、取り組み方を見出し検証していくなどの研究過程は、柔軟な発想と積極性があれば面白みも見いだせる。研究論文を書き上げ、発表を行うことは、大学4年間の学びの集大成であり、最も自分を成長させる場となる。併せて卒業後社会に貢献できる多面的な応用能力の養成も目指す。

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

各自の研究テーマに合わせて、必要な文献等をその都度紹介する。

《授業の到達目標》

データを統計的に分析し、先行研究と比較して論理的に考察することができる

研究成果を研究論文としてまとめることができる

研究発表会で、研究の概要をわかりやすく適切に伝えることができる

《授業時間外学習》

研究の進捗状況を毎授業日に提出すること

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況（30%）、研究論文（40%）、研究発表（30%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究計画確認、進捗状況の確認、研究のまとめ方
2	統計処理	質問紙等調査実施、データ入力
3	統計処理	質問紙等調査実施、データ入力
4	統計分析	記述統計、検定、解析、グラフ作成、
5	統計分析	記述統計、検定、解析、グラフ作成、
6	卒業論文の作成	研究のまとめ方、研究論文の構成、章立て及びその内容
7	卒業論文の作成	論文の作成と添削
8	卒業論文の作成	論文の作成と添削
9	卒業論文の作成	論文の作成と添削
10	卒業論文の作成	論文の作成と添削
11	卒業論文の提出	論文の仕上げ
12	研究発表会の準備	研究要約の作成、パワーポイントのスライド作成
13	研究発表会準備	研究要約の作成、パワーポイントのスライド作成、プレゼンテーションリハーサル
14	研究発表会	発表の振り返り、論文修正
15	まとめ	発表の振り返り、論文修正

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必修	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

これまでの学修の集大成となる卒業研究において、先行研究や文献・資料の収集、資料の作成、調査・実験などの研究活動を行う上で必要となる、研究手法の活用について学ぶ。具体的には、各自のテーマに沿って、さまざまな統計的手法とICT（情報通信技術）を適切に活用し、卒業論文をまとめ上げるための知識や技能を、実践を通じて習得する。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

参考となる文献や資料は、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

研究テーマに沿って、必要な文献や各種資料を収集できる。統計的手法とICTを用いて、調査・実験を計画・実施し、適切に分析できる。

ICTを活用して、論文や口頭発表の資料をまとめることができる。

《授業時間外学習》

先行・関連研究で用いられた情報や手法などへの理解を進め、自らの研究にどのように適用するかを検討しておくこと。研究計画に基づいて、研究活動を自主的に進め、その状況や調査・実験の結果を逐一を記録し整理しておくこと。

《成績評価の方法》

レポートなどの提出（20%）と卒業論文の提出（40%）と口頭発表の内容（40%）で評価する。

《備考》

専門分野に関係なく、卒業研究に取り組む上で共通して必要となる知識や技能の習得を目指す。主体的な取り組みを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	進め方の説明、研究経過の報告
2	調査・実験結果の活用(1)	表計算ソフトを利用した結果データの整理
3	調査・実験結果の活用(2)	表計算ソフトや統計分析ソフトを利用した結果データの分析
4	調査・実験結果の活用(3)	表計算ソフトや統計分析ソフトを利用した結果データの分析
5	調査・実験結果の活用(4)	分析結果のワープロやプレゼンテーションソフトでの利用
6	卒業論文の作成(1)	ワープロを利用した論文作成
7	卒業論文の作成(2)	卒業論文の作成
8	卒業論文の作成(3)	卒業論文の作成と添削
9	卒業論文の作成(4)	卒業論文の作成と添削
10	卒業論文の作成(5)	卒業論文の仕上げ、卒業論文の提出
11	研究成果の発表の準備(1)	抄録（レジюме）の作成と添削
12	研究成果の発表の準備(2)	口頭発表用資料（スライド）の作成と添削
13	研究成果の発表の準備(3)	口頭発表用資料（スライド）の作成と添削
14	卒業研究の発表会	卒業研究の口頭発表
15	まとめ	全体のふり返り

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（中・高）				
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

生徒の発達段階を考慮し、栄養・運動・心の観察や指導方法を含んだ模擬授業やグループ討議を行う。また学校の見学や教員勤務経験のある方を講師として招き、学校現場に即した授業内容を展開していく。

《テキスト》

適宜紹介、オリジナルプリント

《参考図書》

適宜紹介

《授業の到達目標》

学生の現状の知識や技能を把握させ、教員としての自覚を持ち家庭や地域の実態を把握し、それに即した学級経営や教科指導、生徒指導を実践するために能力を身に付け、その能力を学校で発揮できる応用力を体得することが目標である。

《授業時間外学習》

自己課題をもとに予習復習を行うこと。

《成績評価の方法》

演習等への積極的参加(50%)、課題レポート・発表(50%)で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	目的及び内容の概略について、授業の進め方・評価について
2	構成的グループ・エンカウンター実践1	学校における活用法
3	構成的グループ・エンカウンター実践2	指導者の心構えと指導技術
4	構成的グループ・エンカウンター実践3	エクササイズの実践
5	スクールカウンセラーとの連携1	制度と職務内容の理解
6	スクールカウンセラーとの連携2	事例に学ぶ
7	教育方法技術1	導入編：視聴覚メディアの種類と特徴について、映像素材の収集
8	教育方法技術2	応用編：視聴覚メディアの編集と記録方法について、映像素材の編集と記録
9	学級経営論1	地域、家庭との連携
10	学級経営論2	生徒指導の視点を生かした学級経営
11	学級経営論3	特別支援教育の視点を生かした学級経営
12	グループ討議1	保健体育科教育の校内連携について
13	グループ討議2	集団行動および学校行事での保健体育教諭の役割について
14	グループ討議3	保健体育教諭の使命について
15	まとめ	振り返りと再確認

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（養護教諭）				
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教員（養護教諭）として求められる資質である 生命を守り育てる使命感や責任感、 確かで実践的な管理能力、指導力、心と体を見つめた児童生徒理解、 保護者を含めた校内校外組織の中で連携するコーディネーター的能力の4つの視点から外部講師による演習、討論等を通して体験的に学ぶ。

《テキスト》

適宜紹介、オリジナルプリント。

《参考図書》

適宜紹介。

《授業の到達目標》

これまでに履修した理論や実践をもとに、自己の課題を明確にし、課題解決を目指して具体的、実践的な学びを通して体験的に学ぶ。

《授業時間外学習》

自己課題をもとに予習復習を行うこと。

《成績評価の方法》

演習等への積極的参加（50%）、課題レポート・発表（50%）で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	目的及び内容の概略について、授業の進め方・評価について
2	構成的グループエンカウンター実践（1）	学校における活用法
3	構成的グループエンカウンター実践（2）	指導者の心構えと指導技術
4	構成的グループエンカウンター実践（3）	エクササイズの実践
5	スクールカウンセラーとの連携（1）	制度と職務内容の理解
6	スクールカウンセラーとの連携（2）	事例に学ぶ
7	教育方法技術 1	導入編：視聴覚メディアの種類と特徴について、映像素材の収集
8	教育方法技術 2	応用編：視聴覚メディアの編集と記録方法について、映像素材の編集と記録
9	保健室経営 1	地域、家庭との連携
10	保健室経営 2	生徒指導の視点を生かした保健室経営
11	保健室経営 3	特別支援教育の視点を生かした保健室経営
12	グループ討議 1	学級担任、保健主事、学校医等との連携、
13	グループ討議 2	学校保健組織づくりについて
14	グループ討議 3	養護教諭の使命について
15	まとめ	振り返りと再確認

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅 一郎、大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」(20%)教育実習記録(実習ノート)(40%)事前事後指導での活動(40%)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法> 兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。
<復習方法> 学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない(介護等体験は終了済のこと)。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施(指導案の作成、教材作成)
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅 一郎、大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年（期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」(20%)教育実習記録(実習ノート)(40%)事前事後指導での活動(40%)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法> 兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。
<復習方法> 学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない(介護等体験は終了済のこと)。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施(指導案の作成、教材作成)
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅 一郎、大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」(20%)教育実習記録(実習ノート)(40%)事前事後指導での活動(40%)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法> 兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。
<復習方法> 学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない(介護等体験は終了済のこと)。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施(指導案の作成、教材作成)
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅 一郎、大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠点は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」(20%)教育実習記録(実習ノート)(40%)事前事後指導での活動(40%)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法> 兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。
<復習方法> 学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない(介護等体験は終了済のこと)。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施(指導案の作成、教材作成)
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定め、実習校に赴きます。本科目は、事前指導(本時)から事後指導まで、全過程を終了時に評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
 養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
 定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。
 実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席は、いっさい認めません。実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での活動(実習報告会を含む)(40%)、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護実習直前指導
2	保健指導の模擬	模擬授業、相互評価
3	保健室での実習	養護教諭の仕事内容
4	定期健康診断	進め方
5	目標に沿った事前準備	各自の目標の確認、実習校との打ち合わせ内容の確認
6	各学校の事前指導	保健指導、保健行事、担当クラス、保健室業務内容など
7	養護実習(1週目)	実習校の指導計画に則った実習
8	養護実習(1週目)	実習校の指導計画に則った実習
9	養護実習(1週目)	実習校の指導計画に則った実習
10	養護実習(1週目)	実習校の指導計画に則った実習
11	実習終了後の処置	礼状作成、実習内容の整理、異なる校種間での報告
12	実習終了後の処置	実習報告会に向けて内容の確認
13	実習成果のまとめ	法的根拠の確認
14	実習成果のまとめ	(グループ討議)
15	実習成果のまとめ	(グループ討議)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社
 『児童・生徒の健康診断マニュアル』日本学校保健会、第一法規
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習(5単位)の4単位分に相当する本実習を含む。免許取得の意志を明確にし、主体的に参加する。学生気分を退け、児童生徒の範となる言動をこころがける。

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年（期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定め、実習校に赴きます。本科目は、事前指導（本時）から事後指導まで、全過程を終了時に評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席は、いっさい認めません。実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での活動(実習報告会を含む) (40%)、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習終了の処理	成果の共有のため、グループで報告
2	実習成果のまとめ	実習内容の共有化と専門知識の確認
3	実習成果のまとめ	実習内容の共有化と専門知識の確認
4	実習報告会の準備	スライドの作成、レジュメの作成、会の運営についての話し合い
5	実習報告会の準備	各自の発表原稿の作成
6	実習報告会での発表	会の運営、各自の発表、質疑応答
7	実習の総括	成果のまとめ
8	終了	終了
9	終了	終了
10	終了	終了
11	終了	終了
12	終了	終了
13	終了	終了
14	終了	終了
15	終了	終了

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社
『児童・生徒の健康診断マニュアル』日本学校保健会、第一法規
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習(5単位)の事後指導1単位分に相当する。実習報告会に向けて4週間の内容を整理し、学校勤務の今後に備える。